

ウェルビーイングな静岡県を目指し地域の現状から描く

しずおか・地域こども未来羅針盤【客観指標編】

地域の社会経済特性による分析

令和8年3月

静岡県

目 次

I しずおか・地域こども未来羅針盤の目的と位置づけ

1. 「羅針盤」作成の経緯としずおか・地域こども未来羅針盤作成の目的	2
2. しずおか・地域こども未来羅針盤の位置づけ	3
3. しずおか・地域こども未来羅針盤の全体像	5
4. 事象の分析と住民の主観の分析	6

II 市町の人口動態に影響を及ぼす社会経済特性の分析

1. 市町の人口動態の構造分解	8
2. 人口動態に影響を及ぼすと想定される社会経済特性の選定	11

III 次世代を育む地域環境ダッシュボード

次世代を育む地域環境ダッシュボードの見方	16
----------------------	----

静岡市	18
浜松市	20
沼津市	22
熱海市	24
三島市	26
富士宮市	28
伊東市	30
島田市	32
富士市	34
磐田市	36
焼津市	38
掛川市	40
藤枝市	42
御殿場市	44
袋井市	46
下田市	48
裾野市	50
湖西市	52
伊豆市	54
御前崎市	56

菊川市	58
伊豆の国市	60
牧之原市	62
東伊豆町	64
河津町	66
南伊豆町	68
松崎町	70
西伊豆町	72
函南町	74
清水町	76
長泉町	78
小山町	80
吉田町	82
川根本町	84
森町	86

IV 市町別の主観分析の実施に向けて

1. 地域特性と幸福度に関する県民意識調査を利用した事前検証	90
2. 分析結果	91

資料編

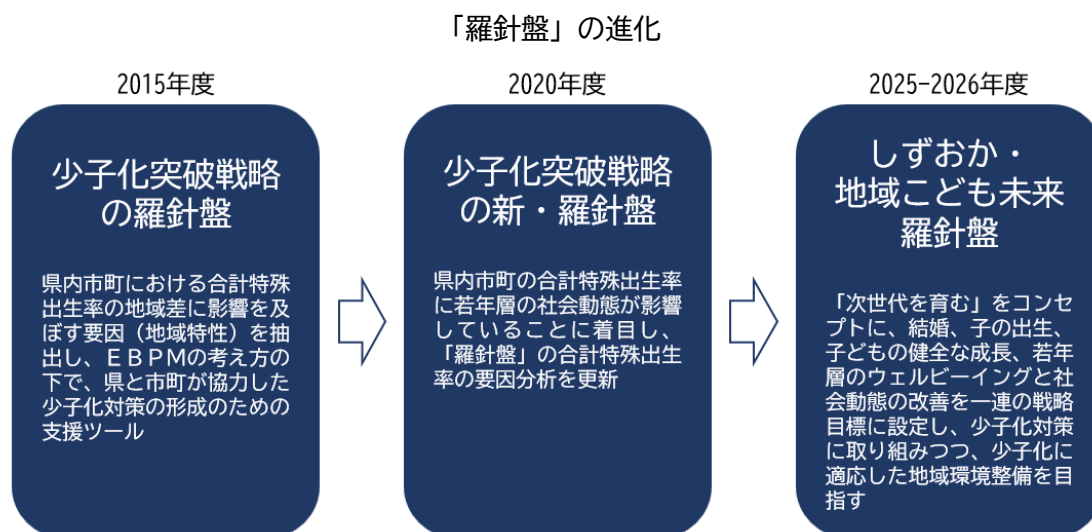
1. 人口動態関連データ	98
2. 社会経済特性の分析に用いた指標	113
3. 社会経済特性の統計分析の方法と結果	120
4. アドバイザリー	126

I しずおか・地域こども未来羅針盤の目的と位置づけ

1. 「羅針盤」作成の経緯としずおか・地域こども未来羅針盤作成の目的

—進化を続ける「羅針盤」による施策形成の支援—

- 静岡県が、最初の「羅針盤」である「少子化突破戦略の羅針盤」を作成したのは2015年度のことでした。県内市町の合計特殊出生率に差があることに着目し、地域差をもたらしている要因を市町の地域特性に求めました。統計分析を駆使して要因と考えられる地域特性を5つの「地域力」にまとめ、「市町別分析チャート」として可視化しました。県と市町が協力して地域独自の施策形成を推進するためのツールであり、少子化対策の「地域アプローチ」における先進的な取組となりました。
- 2020年度の「少子化突破戦略の新・羅針盤」は、上の「羅針盤」を時点更新したものです。しかし、単なる更新ではなく、地域の合計特殊出生率に対して若年層の社会動態が影響を及ぼしていることに注目しています。市町別分析チャートには、合計特殊出生率に影響を及ぼす「地域力」に加え、若年層の社会動態に関わる情報が追加されています。出生率と若年層の社会動態を一体的に捉えた上で、地域特性に基づく施策形成を促すという点で進歩を遂げました。
- 2025年度から2026年度にかけて作成する本羅針盤は3回目となり、「地域こども未来羅針盤」と名付けました。これは、少子化対策のための羅針盤から「次世代を育むための羅針盤」へと、大きな方針転換を行ったためです。「次世代を育む」ことには、結婚、子の出生、子どもの健全な成長、若年層のウェルビーイング、定住等が含まれます。少子化対策に取り組みつつ、現実を見据えて「少子化に適応した地域環境整備」を新たな目標に設定するなど、さらなる「進化」を目指しています。



2. しずおか・地域こども未来羅針盤の位置づけ

－何を目標に地域の人口問題に取り組むのか－

しずおか・地域こども未来羅針盤の作成に当たっては、地域の人口問題の現状を見据え、次の2つの前提条件を設けました。

- ①「少子化」は出生力が人口置換水準（合計特殊出生率換算で約2.07）を持続的に下回っている状態と定義され、出生率上昇は改善すべき重要な社会課題であるものの、現在の市町の合計特殊出生率の水準を鑑みると、少子化対策に精力的に取り組んだとしても、少子化の状態は将来も続くと想定
- ②地域が持続的であるために、すべての地域において若年層の社会動態の改善は重要な地域課題であり、取組の一層の強化は必要であるものの、東京圏への一極集中が厳しさを増す中で、県内市町のほとんどで若年層が大きな転入超過になるような目覚ましい変化は困難であると想定

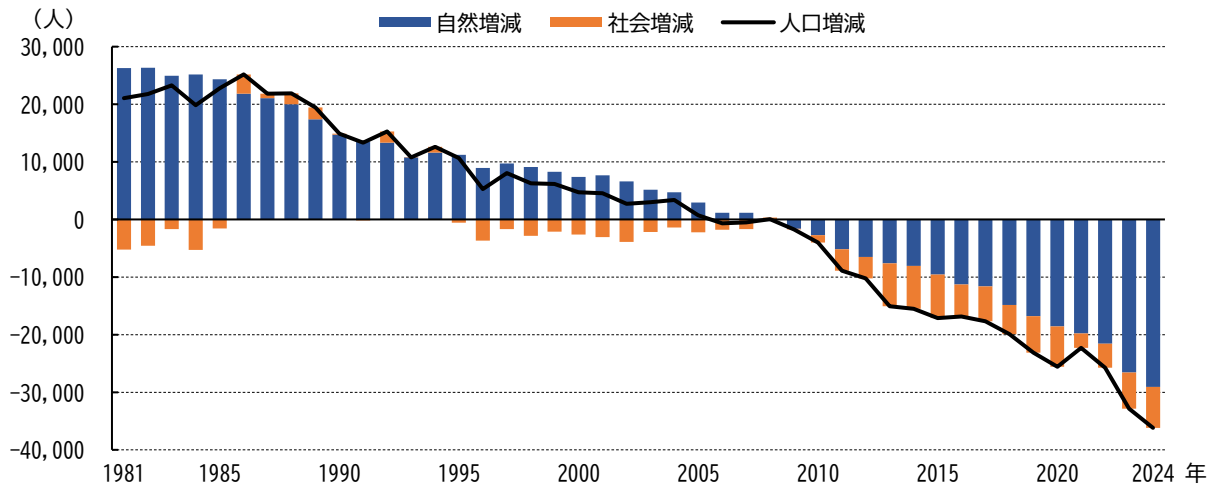
■加えて、わが国のほとんどの地域では、現在直ちに、合計特殊出生率が人口置換水準にまで上昇し、かつ、社会動態が均衡化したと仮定しても、これからも長期にわたり人口減少が続くと推計され、ほぼ確定的な予測と受け止める必要があります。これは、過去において、長期に続いた少子化や若年層の流出傾向が、現在の高齢化した年齢構造を形作ったため、社会動態が均衡的でも自然減によって人口減が続くからです。それならば、私たちは、何を目標に地域の人口問題に取り組めばよいのでしょうか。

■しずおか・地域こども未来羅針盤は、このことを真正面から受け止めた上で、新しい目標像を模索しました。そして、戦略的にその目標像を達成できるように現状を分析し、実効ある施策形成を支援するツールを作成することを目指しています。これが今回の改訂の背景です。

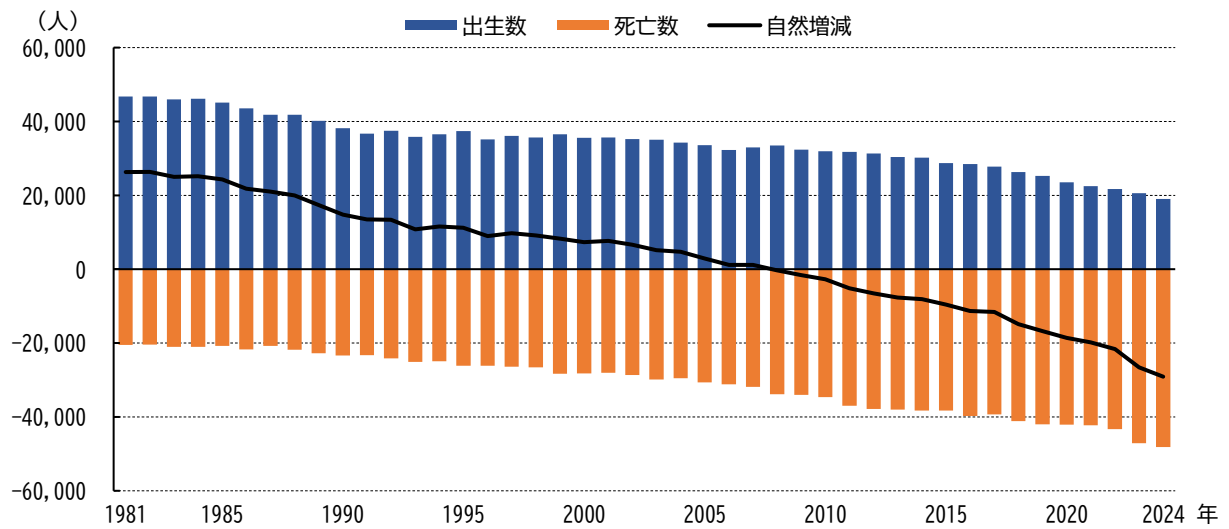
しずおか・地域こども未来羅針盤の目標像

地域が持続的であるため、「次世代を育む」をコンセプトに設定し、結婚、子の出生、子どもの健全な成長、若年層のウェルビーイング、定住等をその要素として捉え、少子化対策に取り組みつつ、少子化に適応した地域環境が整備をされた状態

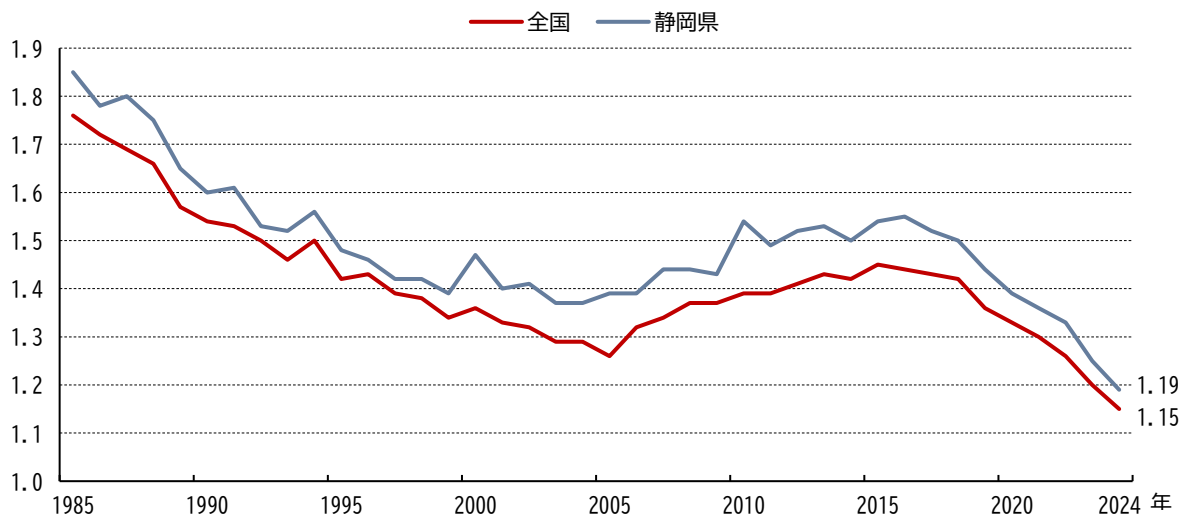
静岡県の人口動態の推移（日本人）



静岡県の自然動態の推移（日本人）



静岡県の合計特殊出生率の推移（日本人）



(注) しずおか・地域子ども未来羅針盤で取り扱う人口動態は、すべて日本人を対象としている。
資料：総務省「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数」、厚生労働省「人口動態統計」

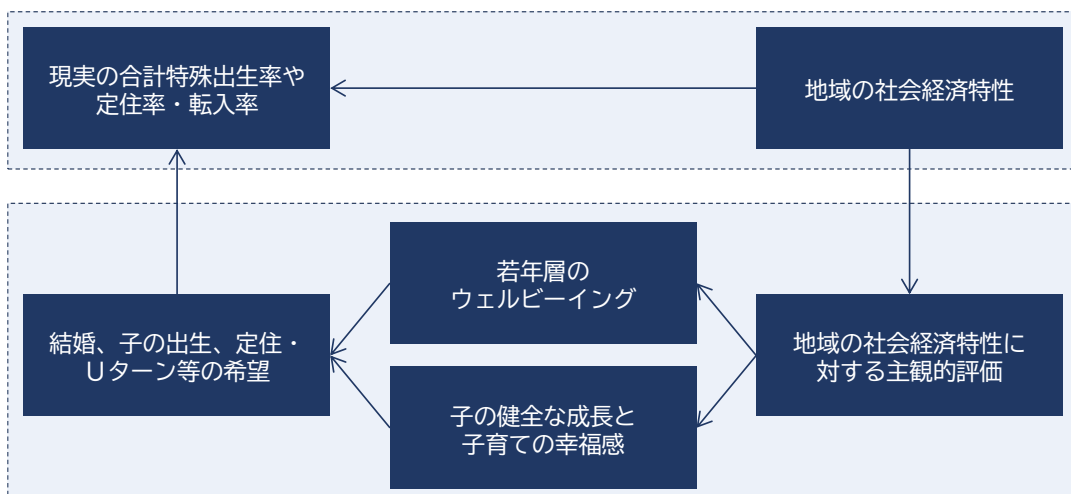
3. しずおか・地域こども未来羅針盤の全体像

－少子化に適応した地域環境とはどのようなものか－

- しずおか・地域こども未来羅針盤が目標とする「少子化に適応した地域環境」は、単なるスマートシュリンク（賢く縮小すること）な社会ではありません。スマートシュリンクは都市構造のコンパクト化、行政機能の集約、DXの活用等によって効率性と持続性の両立を追求するとともに、これらを通じた住民のウェルビーイングの向上を含む考え方です。人口減少社会において適切な方向性と考えられます。
- 一方、しずおか・地域こども未来羅針盤が分析対象とする、結婚、子の出生、子どもの健全な成長、定住等は、住民の一人ひとりの希望が元となり、それが実現した結果です。ウェルビーイングは希望の土壌であり、スマートシュリンクはウェルビーイングな状態をもたらす手段の1つに過ぎません。
- 人口減少下でも、人々に希望が生まれ、それが叶えられる、これが1つの少子化に適応した社会の姿であると考えられないでしょうか。希望は行動を伴う能動的な姿勢です。人々が行動し、希望を叶える中で人口減少に歯止めがかかる未来が見えてくることも期待されます。
- さて、こうしたことの実態を捉え、施策につながる分析に取り組むためには、主観である、結婚、子の出生、定住等の希望を的確に測定・可視化することが必要です。また、スマートシュリンクが対象とする地域環境のほか、結婚・子育てと仕事の両立、ワークライフバランス、ジェンダー平等、地域コミュニティにおける人々の相互信頼的なつながり、そして自己のウェルビーイングな状態等に対する主観的評価を測定し、希望の形成やその実現との関係を検証していくことも必要です。

しずおか・地域こども未来羅針盤の全体像

事象の分析（2025年度）



※矢印は始点が原因、終点が結果を示す因果関係を表わす

4. 事象の分析と住民の主観の分析

(1) 事象の分析 (2025 年度)

- 「次世代を育む」ことの構成要素のうち、結婚と子の出生は、地域の有配偶率や有配偶出生率として観察可能であり、統計データが整備されています。また、定住についても、地域の定住率あるいは転入率(Uターンを含む)として観察可能な事象です。
- しずおか・地域こども未来羅針盤の作成に当たっては、2025年度の分析対象は市町の合計特殊出生率(有配偶率と有配偶出生率に分解可能)及び定住率・転入率としました。また、これらに影響を及ぼす要因も、事象である地域の社会経済特性の中から選定します。

(2) 住民を対象とした主観の分析 (2026 年度)

- 「次世代を育む」ことの構成要素のうち、子どもの健全な成長は、子育て世帯の幸福感等が重視されるため直接には観察できない事柄が含まれます。若年層のウェルビーイングの状態把握も同様です。また、これらに限らず、「次世代を育む」ことの要素はすべて、人々の希望とその実現の結果です。そして、これらは、自分を取り巻く地域の社会経済特性の主観的評価から影響を受けていると考えられます。

これらの主観を測定・可視化し、事象の分析結果と併せて、エビデンスとして施策形成に利用するための大規模意識調査を 2026 年度に実施

市町ごとに有意な標本サイズを得る大規模意識調査の実施

区分	内容(案)
①名称	結婚・出産・子育てに関するウェルビーイング調査(仮)
②対象	県内在住の20歳から49歳の男女
③抽出方法	市町の住民基本台帳から無作為に抽出
④対象数	105,000人(1市町あたり3,000人に対して配布、回収率25%を想定)
⑤調査方法	発送：郵便で調査票を送付 回収：同封の返信用封筒で返信、もしくは回答用URLからオンラインで回答
⑥質問項目	<ul style="list-style-type: none"> ・結婚希望、結婚の見通し、理想の結婚年齢、理想の結婚年齢の実現見通し ・希望する子どもの数、現実には持てると思う子どもの数 ・結婚や子育てのための所得のゆとり、仕事と家庭生活の優先度の理想と現実 ・夫婦の家事・育児への関わり方 ・男女の出会いの機会 ・職場の結婚、出産、子育てに対する配慮 ・仕事におけるキャリアアップ志向と実現可能性 ・地域社会との関わり ・ジェンダー平等に係る意識 ・自己効力感、本来感(自分らしさ)、地域の居心地のよさ等 ・生活環境に対する評価(移動利便性、子の預かりサービス、買い物・医療等) ・経済環境に対する評価(産業活力、雇用の安定性、産業多様性等)

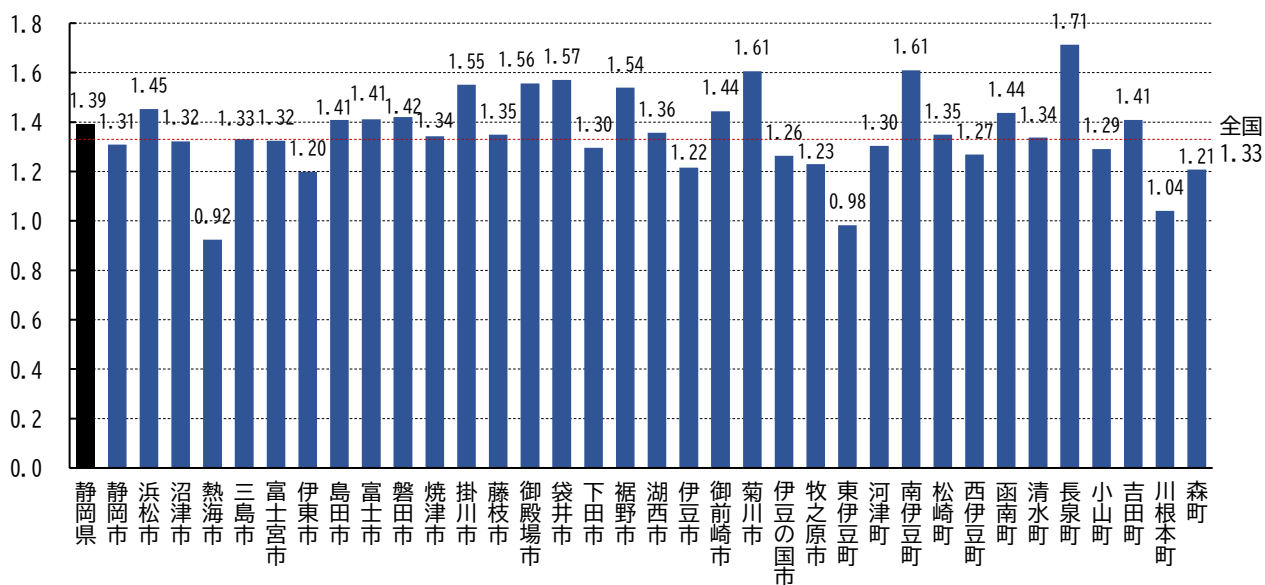
Ⅱ 市町の人口動態に影響を及ぼす社会経済特性の分析

1. 市町の人口動態の構造分解

(1) 合計特殊出生率の構造分解

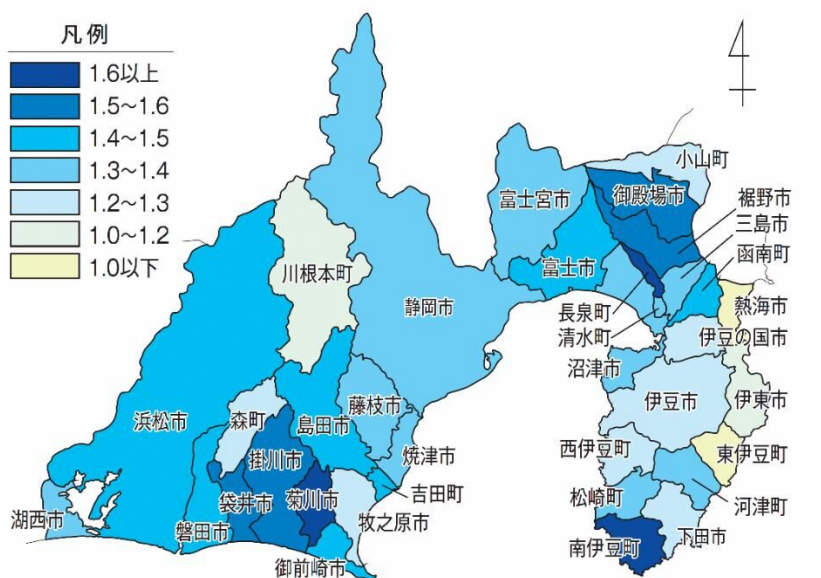
■ 2025年度のしずおか・地域こども未来羅針盤の分析対象は、結婚、子の出生、定住及び転入です。このうち、結婚、子の出生の地域の状況は、当該地域の合計特殊出生率に集約的に表れます。過去の羅針盤と同様に、県内市町の合計特殊出生率に差があることに着目して、結婚や子の出生に影響を及ぼしている社会経済特性を探ります。

県内市町の合計特殊出生率（2018-2022年）



資料：厚生労働省「人口動態統計」、総務省「国勢調査」

県内市町の合計特殊出生率（2018-2022年）



■ 静岡県の 2018-2022 年の合計特殊出生率は 1.39 であり、全国値の 1.33 とは 0.06 ポイントの差があります。

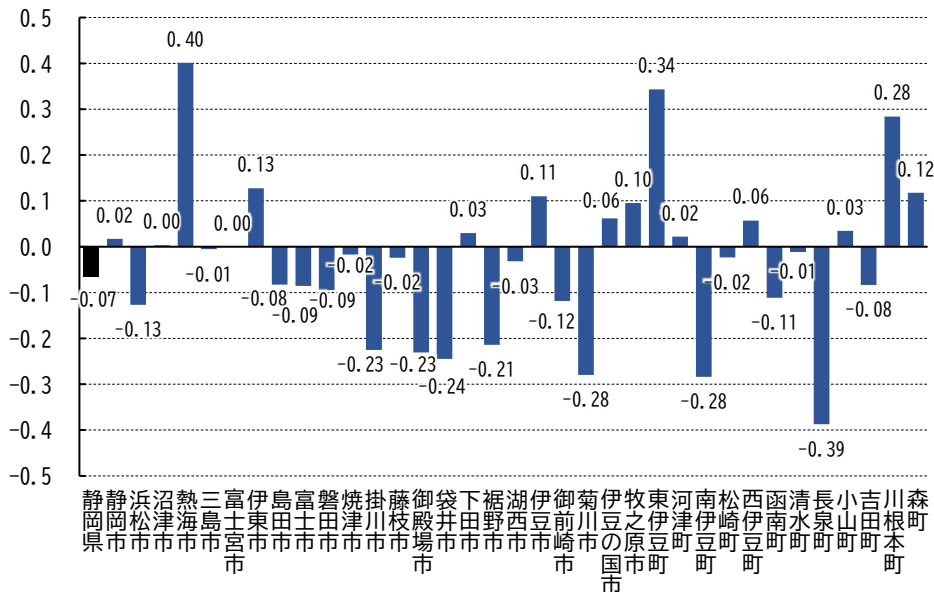
■ 市町の合計特殊出生率も全県、全国との間に差があるだけでなく、左図に示すように市町間で差があり、市町によって高かったり、低かったりします。

資料：厚生労働省「人口動態統計」、総務省「国勢調査」

0.2 4.6 8.10 15 20km

—複雑な問題に取り組む効果的な方法は、対象を構成要素に分けて捉えること—

県内市町の合計特殊出生率（2018-2022年）の地域差

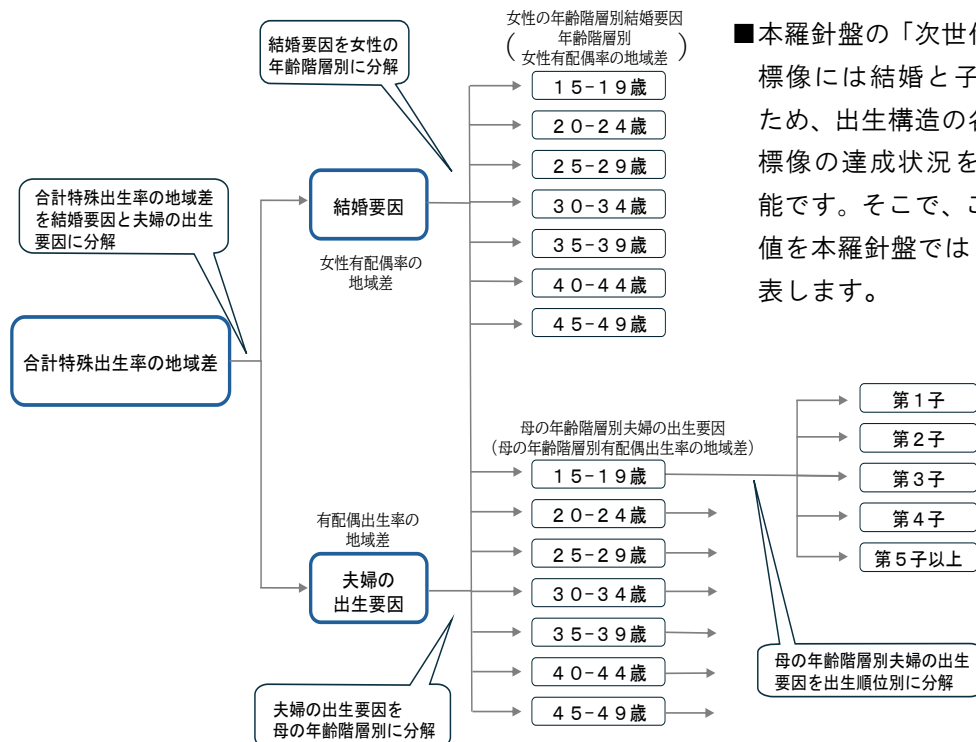


資料：厚生労働省「人口動態統計」、総務省「国勢調査」

■「全国」はあらゆる地域にとって共通の基準です。しずおか・地域こども未来羅針盤では、各市町と全国の合計特殊出生率の差を分析対象にします。

■合計特殊出生率は、全国との差ならば、「結婚要因（女性有配偶率の地域差）」と「夫婦の出生要因（有配偶出生率の地域差）」の和の形に分解できます。

合計特殊出生率の出生構造への分解



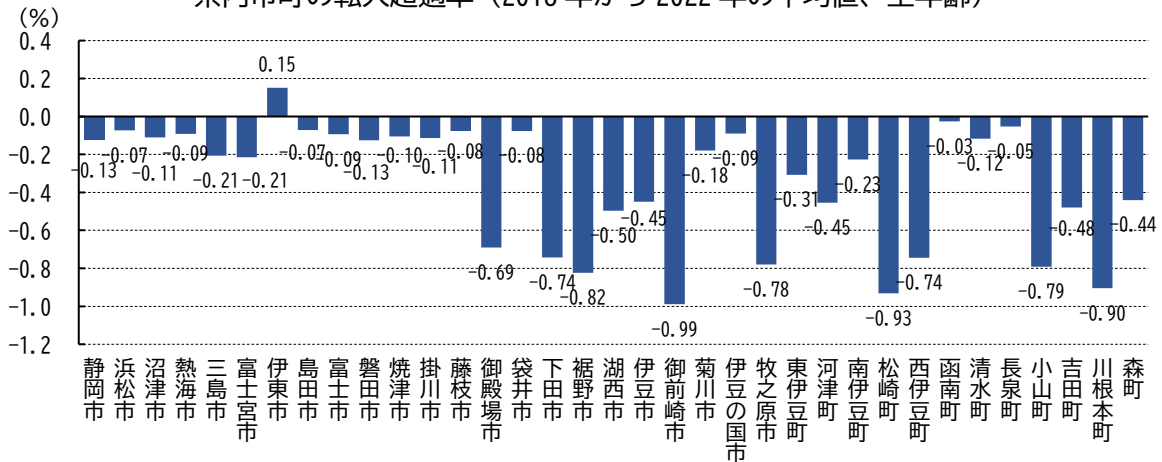
■左図のとおり、結婚要因と夫婦の出生要因はさらに細分化でき、本羅針盤ではこれらを出生構造と呼びます。

■本羅針盤の「次世代を育む」という目標像には結婚と子の出生が含まれるため、出生構造の各要素の値から、目標像の達成状況を把握することが可能です。そこで、これらの出生構造の値を本羅針盤では「評価要素」と言い表します。

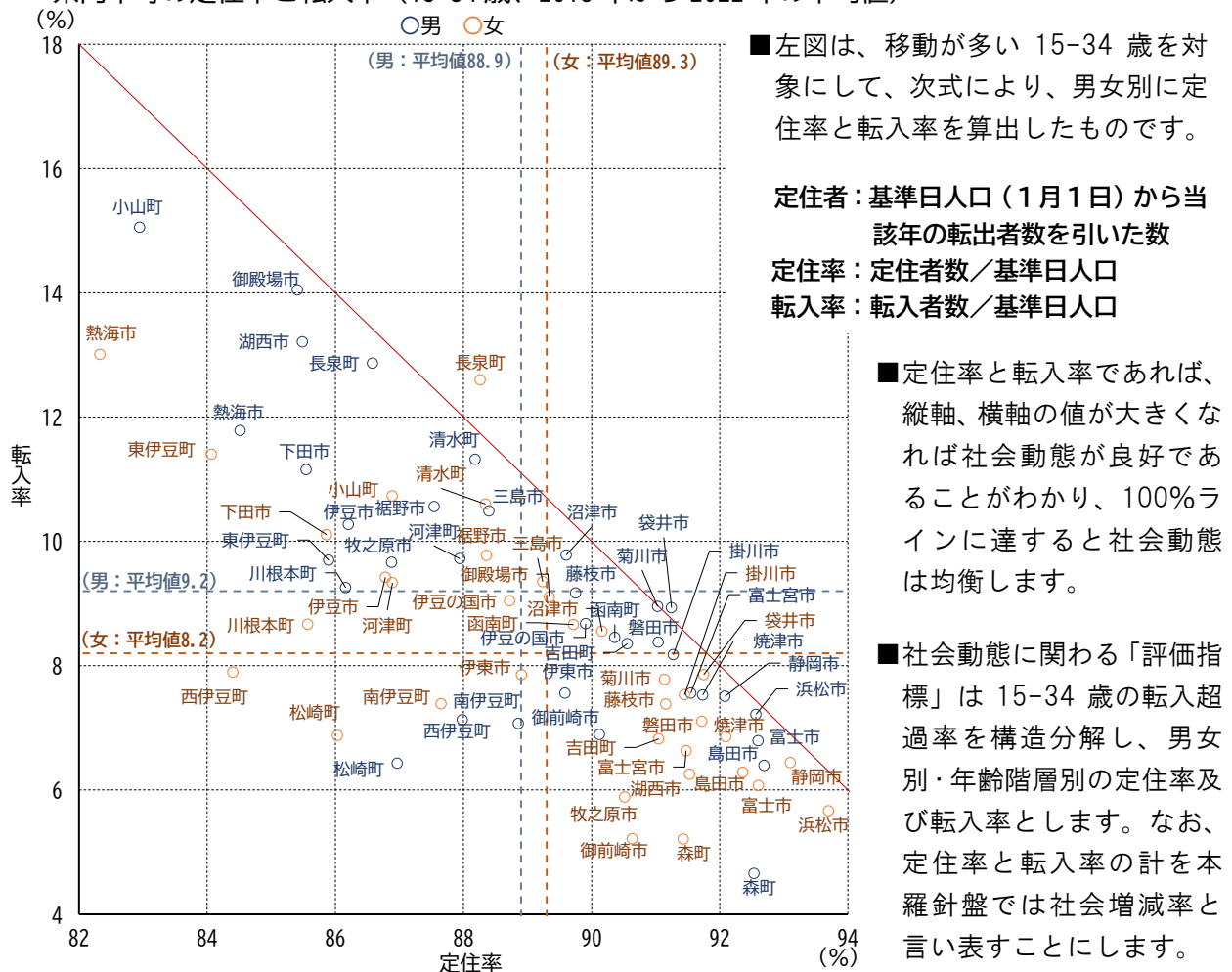
(2) 若年層の社会動態の構造分解

■ 転入超過率も県内市町で大きな地域差があります。そこで、この地域差を生じさせている社会経済特性を明らかにできれば、「次世代を育む」ことを目標にした実効ある施策形成の助けになると考えます。

県内市町の転入超過率（2018年から2022年の平均値、全年齢）



県内市町の定住率と転入率（15-34歳、2018年から2022年の平均値）



資料：総務省「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数」「住民基本台帳人口移動報告」

2. 人口動態に影響を及ぼすと想定される社会経済特性の選定

(1) 指標選定の条件

■しずおか・地域こども未来羅針盤は、県内市町における「次世代を育む」ことを目標にした施策形成を目的としています。このため、施策形成に用いるという観点では、次の条件をクリアする社会経済特性に関するデータを、合計特殊出生率や定住率・転入率に影響を及ぼす指標として選定することが必要です。

条件は大きく分けて3つです。

- i) 市町の社会経済特性を定量化する測定可能なデータであること
- ii) 個々の社会経済特性が合計特殊出生率及び定住率・転入率に影響を及ぼすというロジック（論理）をもつこと
- iii) 個々の社会経済特性が出生率に影響を及ぼす因果関係がデータで検証されていること

■これらは実効が期待される施策形成のための条件であり、さらに詳しく条件を整理したものが下表です。

施策形成に求められる指標特性

区分	指標特性	評価内容
妥当性	①合目的性	出生率の上昇に寄与する指標か（因果関係の確認）
	②感度	地域の取り組みによる変化を把握しやすい指標か
	③時系列性	過去の推移や将来値を入手できる指標か
	④地域共通性	どの市町村でも入手できる指標か
受容性	⑤明瞭性	解釈しやすい指標か
	⑥測定容易性	データの収集、指標の算出が容易な指標か
	⑦地域受容性	地域特性を反映した地域住民の納得感が得られる指標か
信頼性	⑧学術的根拠	学術的なバックアップがある指標か
	⑨透明性	指標の情報源や算出過程に透明性がある指標か
	⑩安定性	偶然変動が少ない安定した結果が得られる指標か

■どの指標特性も重要ですが、しずおか・地域こども未来羅針盤では、ii)の観点から⑧学術的根拠を重視しています。多くの学術的な研究成果や研究者のバックアップを受けた国・自治体の分析報告書を参照しています。また、本羅針盤を作成するに当たって、研究者を含む6人の有識者からアドバイスを受けました。

(2) 本羅針盤で指標に採用した社会経済特性

設定した社会経済特性は8分野にわたり、指標数は22個、測定データ数は63個

分析に利用する社会経済特性等の一覧

分野	番号	指標名	出生率及び若年層の社会動態に影響を及ぼすロジック
移動利便性	①	職住近接性	就業の場と住居が近接していると、生活時間にゆとりが生まれ、夫婦の家事・育児参加の協力が進み、仕事と結婚・子育ての両立が可能となることから、出生率が上昇する。また、住居地の選択において職住近接を重視する者があるため若年層の定住・転入を促す。
	②	交通利便性	就業の場と住居の間に距離があっても公共交通等の利便性が高いと、生活時間にゆとりが生まれることから、出生率が上昇する。また、交通利便性が高い市町は通勤や通学が容易であることから若年層の定住・転入を促す。
企業支援	③	男女の雇用均等	未婚女性の就業者の増加は、結婚のための所得が得られるとともに男女の出会いの機会が増え、共働きによる世帯においても経済的ゆとりが増すことから、出生率が上昇する。また、男女の雇用均等度が高い市町ほど女性の雇用機会が多いと考えられることから若年女性の定住・転入を促す。
	④	企業のサポート	企業の結婚・出産・子育てに対するサポートは、従業員の仕事と結婚・子育ての両立を容易にすることから、出生率が上昇する。また、仕事と結婚・子育ての両立を希望する若年層の定住・転入を促す。
住宅環境	⑤	住宅環境(結婚・第1子まで)	手頃な住宅の得やすさは、結婚時等の住居地選択の条件となり、若年層の定住・転入を促す。また、住居地選択の結果、職住近接や居心地のよい暮らしが実現すれば出生率が上昇する。
	⑥	住宅の安定性	ゆとりある住宅空間を得られることは第2子以降の子育て世帯の住居地選択の条件となり、子育て世帯の定住・転入を促す。また、ゆとりある住宅空間は、生活を安定化させるとともに暮らしの居心地のよさが向上し、第2子以降の出生率が上昇する。
生活環境	⑦	安全・安心	子どもに関する事故・事件が少ないことによる子育ての安心感は、子どもを持つ希望を強めるとともに、暮らしの居心地のよさにもつながることから、出生率が上昇する。また、安全・安心な生活環境は子育て世代だけでなく若者全般で重視されるため若年層の定住・転入を促す。
	⑧	買物利便性	買物利便性は、子どもを持つ希望がある若年層や子育て世帯の住居地選択の条件となり、生活時間のゆとりが生まれることから、出生率が上昇する。また、買い物における選択肢の多さは若年層の定住・転入を促す。
	⑨	外遊び環境	自然体験の豊かさや外遊び体験は、自己効力感や本来感(自分らしさ)を培い、結婚や子どもを持つことの希望を強めることから、出生率が上昇する。また、自然環境の豊かさは心身の両面で生活の質を高めることから若年層の定住・転入を促す。
	⑩	保健・医療環境	保健・医療の水準は、妊娠・出産・子育ての安心感を高め、準備のための知識向上に寄与することから、出生率が上昇する。また、子どもを持つ希望がある若年層の結婚時や子育て世帯の転居時において地域選択の条件になり得ることから若年層の定住・転入を促す。
保育・児童預かりサービス	⑪	保育サービス(量的)	保育サービスが利用できると、仕事と子育ての両立が容易になることから、共働き世帯の出生率が上昇する。また、希望する保育所等に子ども預けられる地域は、仕事と子育ての両立を希望する子育て世帯の定住・転入を促す。
	⑫	保育サービス(多様性)	ニーズに応じた保育サービスが利用できると、仕事と子育ての両立が一層容易になることから、共働き世帯が増加し、その出生率の上昇がする。また、仕事と子育ての両立を希望する子育て世帯の定住・転入を促す。
	⑬	児童預かりサービス	学齢期の子どもの預かりサービスが利用できると、仕事と子育ての両立が容易になることから、共働き世帯等の出生率が上昇する。
経済環境	⑭	所得水準	所得が多いと、結婚に必要な所得が得られるとともに、希望する子ども数を持つための支出が可能となることから、出生率が上昇する。また、所得が多い就業機会を求める若年層の定住・転入を促す。
	⑮	雇用の安定性	男女とも正規雇用であると、将来の安定した所得の見通しが得られることから有配偶率が上昇するとともに、希望する子ども数を持つための所得の見通しが得られることにより、出生率が上昇する。また、安定した雇用を求める若年層の定住・転入を促す。
	⑯	産業活力	若年層が働きたいと思う活力ある就業の場は若年層の自己効力感や本来感(自分らしさ)を高め、そこに仕事と結婚・子育てが両立できる環境があれば、出生率が上昇する。また、産業活力はより多くの雇用機会をもたらすことから若年層の定住・転入を促す。
	⑰	産業・職業の多様性	産業や職業が多様であると、ライフコースやライフスタイルに応じた就業形態や働き方を選択することができるため、仕事と家庭・子育ての両立を通じて出生率が上昇する。また、若年層が働きたいと希望する産業・職業を見つけられる可能性が高まるため、若年層の定住・転入を促す。
地域社会	⑱	人々のつながり	社会関係資本(人々の相互信頼的な関係を示し、ソーシャルキャピタルとも言う)が適度に蓄積された地域では、若年層や子育て世帯が居心地のよさを感じ、小さい頃に結婚や子どもに関わる体験機会が増えて出生率が上昇する。また、こうしたソーシャルキャピタルを求める若年層の定住・転入を促す。
	⑲	子どもの頃の経験	結婚や子どもを持つことに対する感受性、自己効力感や本来感(自分らしさ)は、親や身近な者と接する中で育まれると考えられ、将来、結婚や子どもを持つ希望につながり、出生率が上昇する。また、こうした経験は地元志向を高め、若年層の定住を促す。
	⑳	ジェンダー平等	地域におけるジェンダーギャップの解消は女性の生きづらさや居心地の悪さの解消につながり、若年女性の定住・転入を促す。また、定住・転入を通じて15-49歳人口に占める若年女性の構成比が高まれば出生率が上昇する。
地域支援	㉑	地域のサポート	地域の子育て支援策等により、子育ての経済的負担が軽減されるほか、結婚・子育てに関する情報提供や助言、子育て世帯間の交流促進により、子育て世帯等の暮らしの居心地のよさを高め、出生率が上昇する。また、手厚い子育て支援策は子育て世帯の住居地選択に有利に働くと考えられるため、子育て世帯の定住・転入を促す。
	㉒	困難家庭等支援	ひとり親家庭等の対策は、子育てのセーフティネットであり、対象となる子育て世帯の経済的負担の軽減とともに、地域全体の子育てに対する安心感を醸成し、出生率が上昇する。
コントロール変数(当該変数の影響を除き各指標の影響を得るための変数)			女性の学生比率及び若年層(子育て世帯を含む)の地域間移動は女性有配偶率・有配偶出生率に影響を及ぼすことから、社会経済特性が女性有配偶率及び有配偶出生率に及ぼす影響を分析する際、それらの影響を除くためコントロール変数とする。女性平均初婚年齢は有配偶出生率に影響を及ぼすため、社会経済特性の有配偶出生率に及ぼす影響を分析する際は、その影響を除くためコントロール変数とする。
ダミー変数 0もしくは1の値を取る変数			いくつかの市町では、評価指標との関係が、他市町から大きく外れている(外れ値)指標があり、ダミー変数を設定した

■検証を行った測定データ数は91個に上ります。この中から、指標としてのまとまり方や、女性有配偶率、有配偶出生率、定住率、転入率との因果関係の検証結果に基づき、63個の測定データを選定しました。

測定データ
通勤時間(逆相関)、市内内通勤率
公共交通利用率、鉄道利用率
未婚女性就業率、有配偶女性就業率
次世代育成支援事業、くるみん企業とプラチナくるみん企業
一般世帯の借家居住割合、新設住宅着工戸数(貸家)
一戸建て比率、持ち家比率、住宅延べ床面積
子どもの交通事故死傷者数(逆相関)、刑法犯認知件数(逆相関)、交通ボランティア数
小売・生活関連サービス業集積度、大型小売店数
自然公園面積、林野面積割合
産科・産婦人科医師数(市町)、小児科医師数(市町)、産科・産婦人科医師数(2次医療圏)、小児科医師数(2次医療圏)
保育所待機児童数(逆相関)、保育所潜在的待機児童数(逆相関)、保育所数(地域型保育事業所を含む)、保育所定員数(地域型保育事業所を含む)、保育所等利用児童割合
延長保育(保育所数)、休日保育(保育所数)、病児保育(保育所数)、延長保育(利用者数)、休日保育(利用者数)
放課後児童クラブ登録児童割合、放課後児童クラブ待機児童割合(逆相関)
課税対象所得額、雇用者所得額、世帯所得
男性正規雇用割合、女性正規雇用割合、完全失業率(逆相関)
新設事業所割合、新設事業所従業者割合、GDP成長率
産業多様性指数、職業多様性指数
消防団員数、刑法犯認知件数(逆相関)(再掲)、民生委員数、少年スポーツクラブ数
多子世帯割合(タイムラグ付与)、三世帯世帯割合
女性の行政職員割合、行政における女性の役職(部局長)割合、市町議会に占める女性の割合、審議会委員に占める女性の割合
児童福祉費(決算額)、子育て世帯に対する経済的支援額、結婚支援額、ファミリーサポートセンター数
ひとり親家庭への支援額、不妊治療支援額
15-24歳的女子学生比率、15-34歳若年層人口転入率、15-34歳の若年層人口定住率、女性平均初婚年齢
静岡市、熱海市、東伊豆町、南伊豆町、松崎町、小山町、川根本町

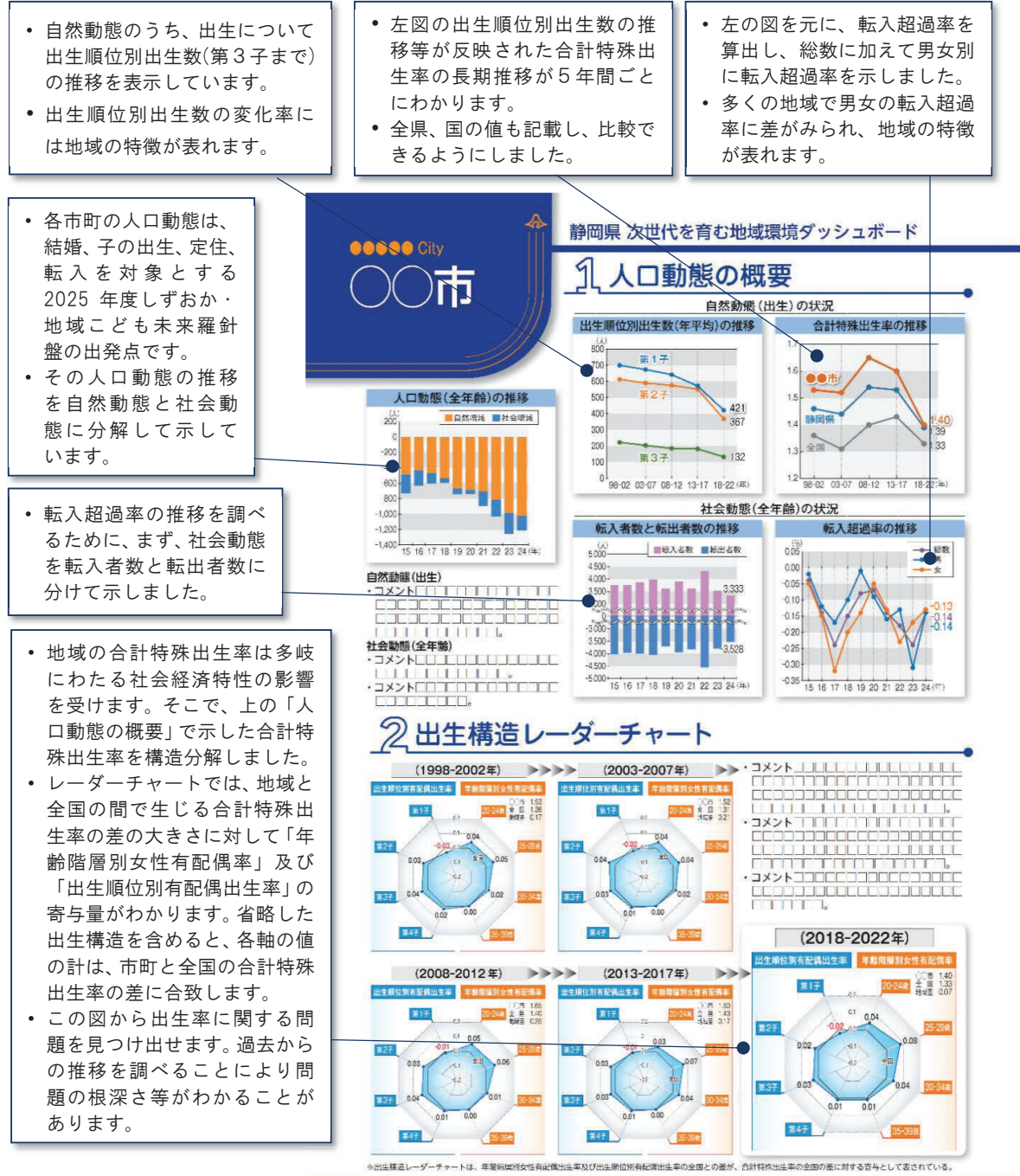
※測定データのうち、人数、金額、施設数等で表記されているデータは、分析時に人口当たり等の比率に変換を行っています。(資料編参照)

Ⅲ 次世代を育む地域環境ダッシュボード

次世代を育む地域環境ダッシュボードの見方

次世代を育む地域環境ダッシュボードは、2025年のしずおか・地域こども未来羅針盤（客観指標編）の中心部です。

■このダッシュボードによって「次世代を育む」ことの構成要素のうち、結婚、子の出生、定住及び転入が施策形成に利用できるよう、その推移が示され、それぞれ構造分解されています。

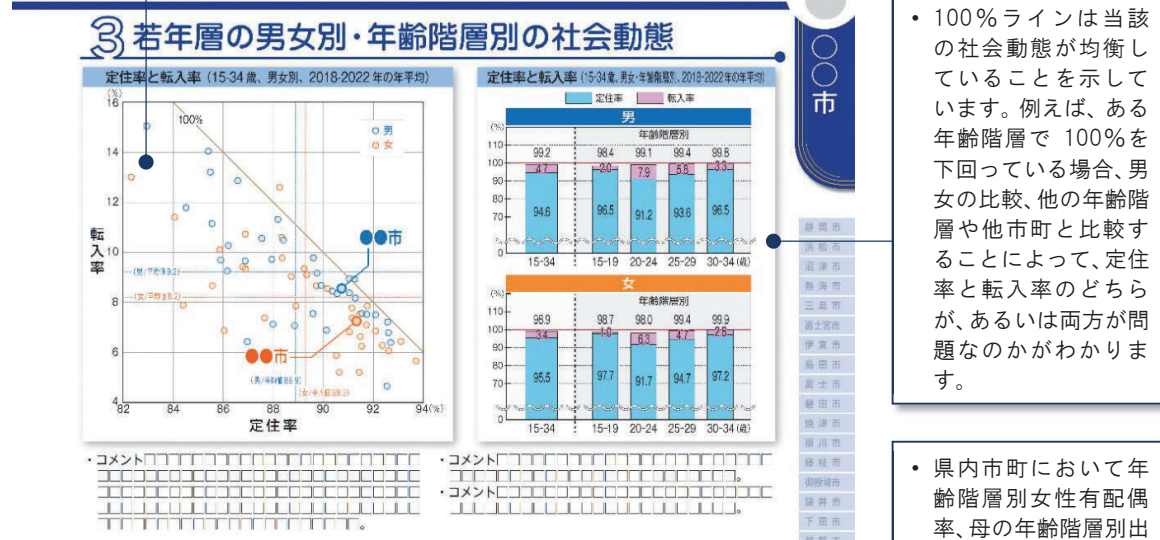


(注) 1. しずおか・地域こども未来羅針盤で取り扱う人口動態は、すべて日本人を対象としている。
2. 合計特殊出生率は、本羅針盤を含め、算出対象とする出生数の期間や女性数の年次の取り方、利用する統計資料によって、国、市町等で公表している数値と異なる場合がある

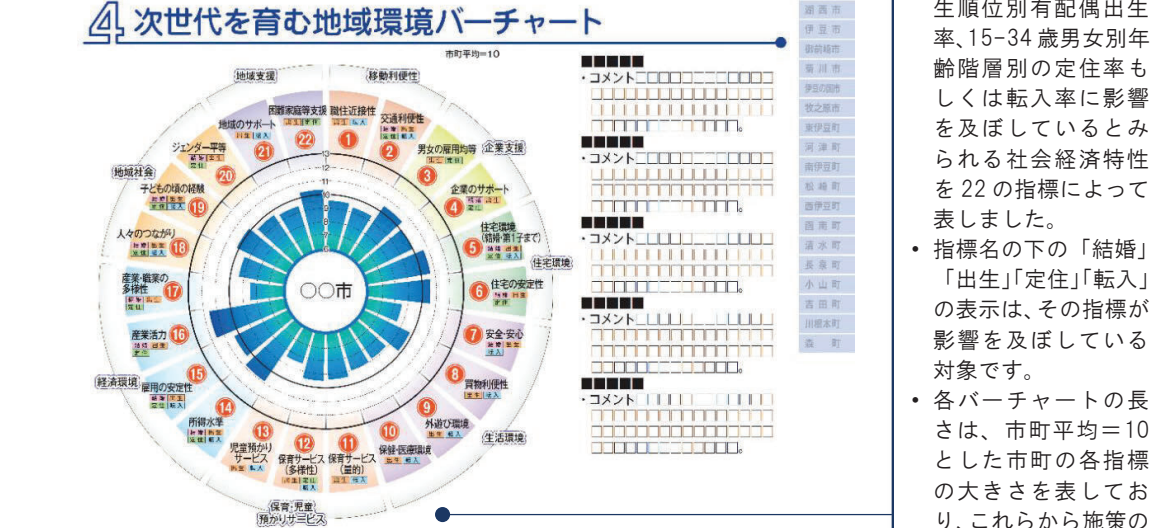
■さらに、結婚、子の出生、定住及び転入に影響を及ぼしている社会経済特性が22の指標として定量化されています。市町が「次世代を育む」というコンセプトの下で、施策形成に取り組むことを支援するため、地域の実態を22の指標によって俯瞰的に、そしてグラフィカルに表示しました。

※ダッシュボードとは、企業経営や行政運営のため複数の情報を統合的に示す資料やシステムのこと。航空機のコックピットにおいて計器類がパイロット前のダッシュボードに集中配置されていることが由来です。企業や行政機関が「ダッシュボード」を見て事業や施策を「操縦する」イメージを表します。

・「人口動態の概要」の転入超過率を、移動が多い15-34歳の若年層に絞り、さらに定住率と転入率の組み合わせに変換して表しました。県内市町の中で位置が散布図によって示されています。定住率と転入率を用いることで、横軸、縦軸の値が大きいほど、社会動態が良好であると理解できるようになります。
・男女の差、県内市町の分布における位置を調べることによって、社会動態に関わる問題を見つけ出すことができます。



・合計特殊出生率と同様、地域の社会動態も多くの社会経済特性の影響を受けます。そこで、社会動態を男女別の定住率と転入率にとどまらず、年齢階層別に分解しました。
・100%ラインは当該の社会動態が均衡していることを示しています。例えば、ある年齢階層で100%を下回っている場合、男女の比較、他の年齢階層や他市町と比較することによって、定住率と転入率のどちらが、あるいは両方が問題なのかがわかります。

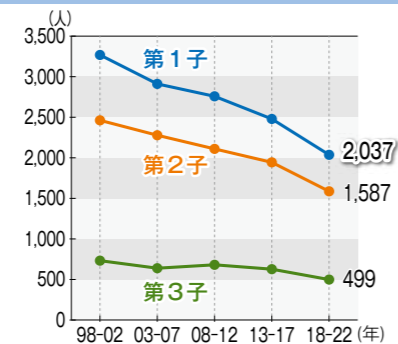


・県内市町において年齢階層別女性有配偶率、母の年齢階層別出生順位別有配偶出生率、15-34歳男女別年齢階層別の定住率もしくは転入率に影響を及ぼしているとみられる社会経済特性を22の指標によって表しました。
・指標名の下に「結婚」「出生」「定住」「転入」の表示は、その指標が影響を及ぼしている対象です。
・各バーチャートの長さは、市町平均=10とした市町の各指標の大きさを表しており、これらから施策の着眼点を見つけ出すことができます。

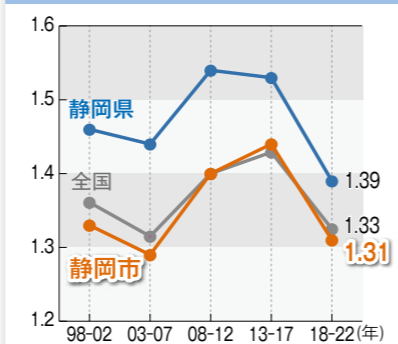
1 人口動態の概要

自然動態(出生)の状況

出生順位別出生数(年平均)の推移

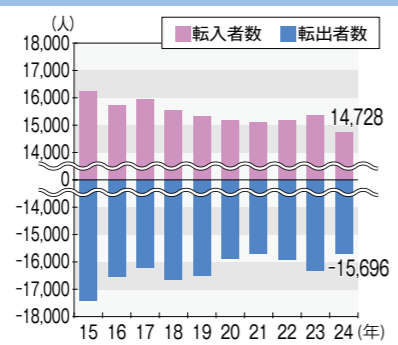


合計特殊出生率の推移

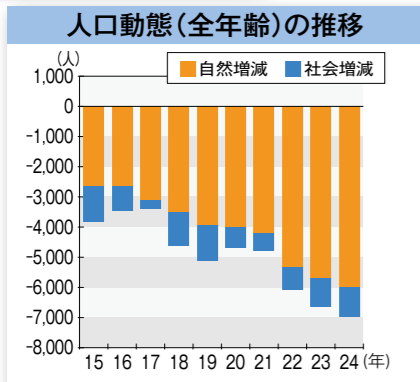
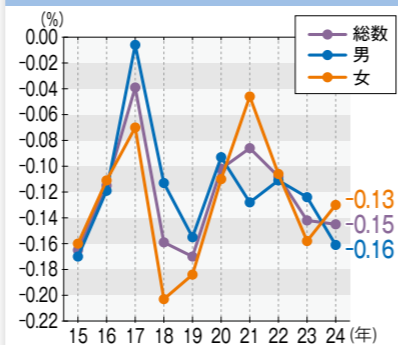


社会動態(全年齢)の状況

転入者数と転出者数の推移



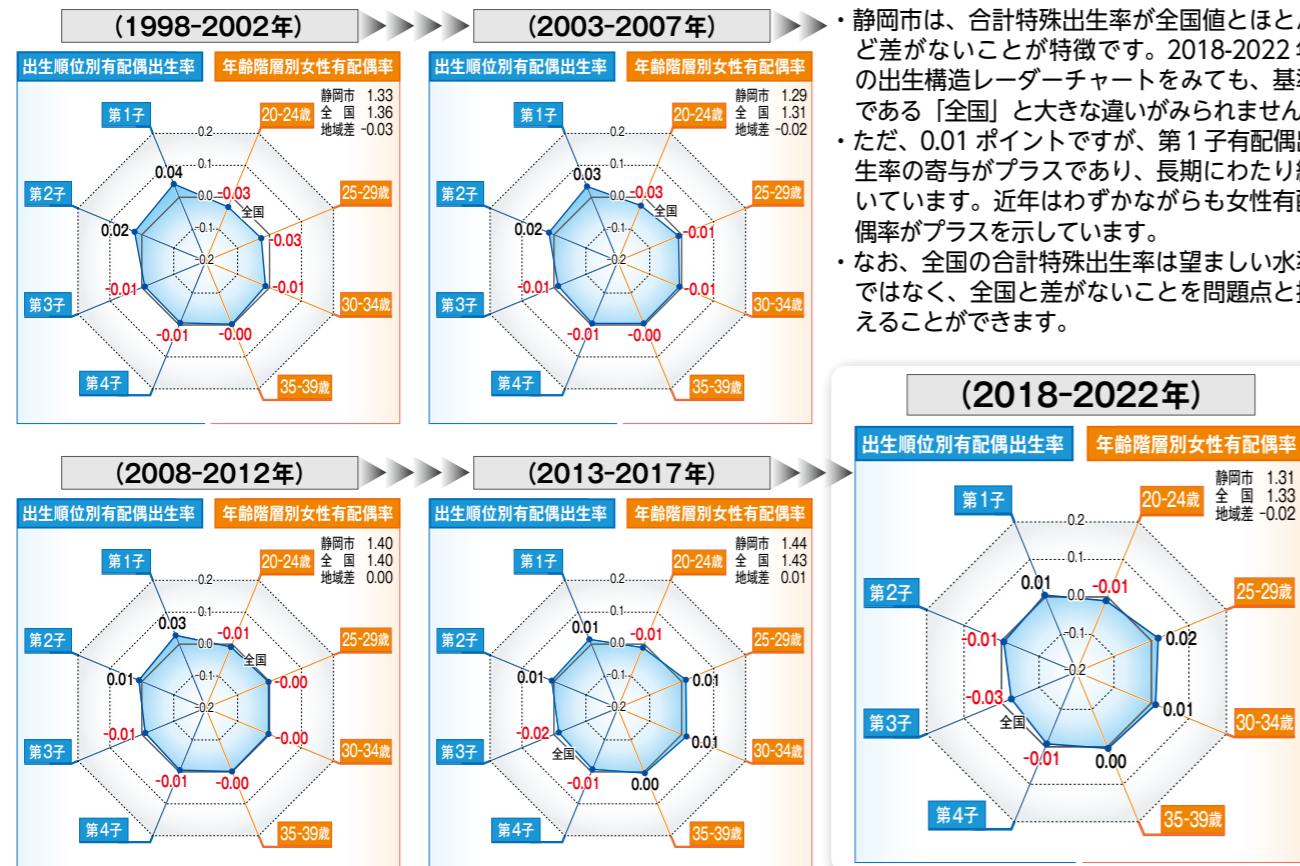
転入超過率の推移



自然動態(出生)
 ・2013-2017年については第1子出生数の減少率が第2子を上回っており、直近の期間ほど、第1子、第2子出生数の減少率が高くなっています。

社会動態(全年齢)
 ・長期にわたり転出者が転入者を上回り、近年、その差は拡大しています。
 ・転入超過率は男女で違いがみられ、その差は年によって変動しています。

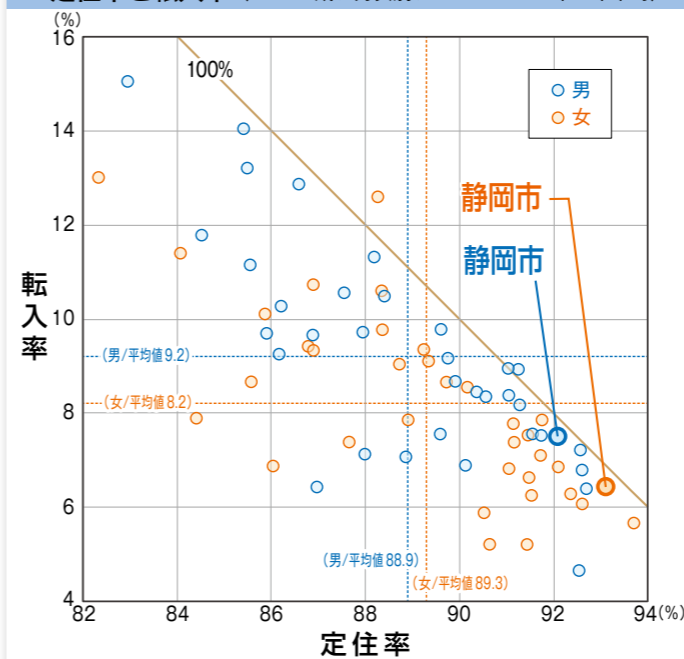
2 出生構造レーダーチャート



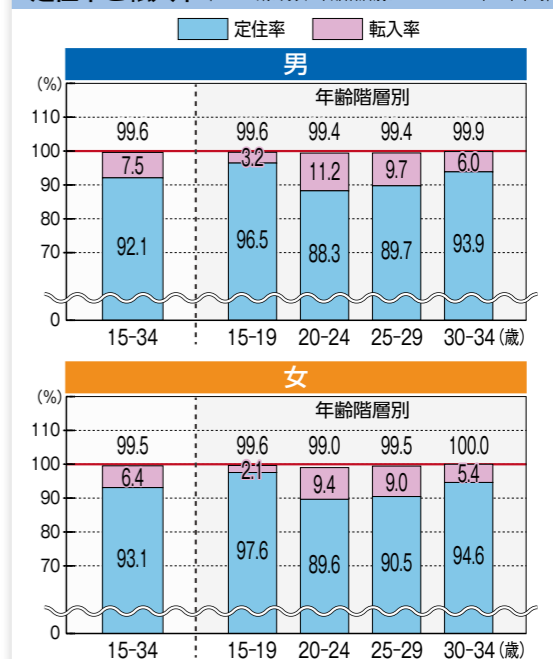
※出生構造レーダーチャートは、年齢階層別女性有配偶出生率及び出生順位別有配偶出生率の全国との差が、合計特殊出生率の全国との差に対する寄与として表されている。

3 若年層の男女別・年齢階層別の社会動態

定住率と転入率(15-34歳、男女別、2018-2022年の年平均)

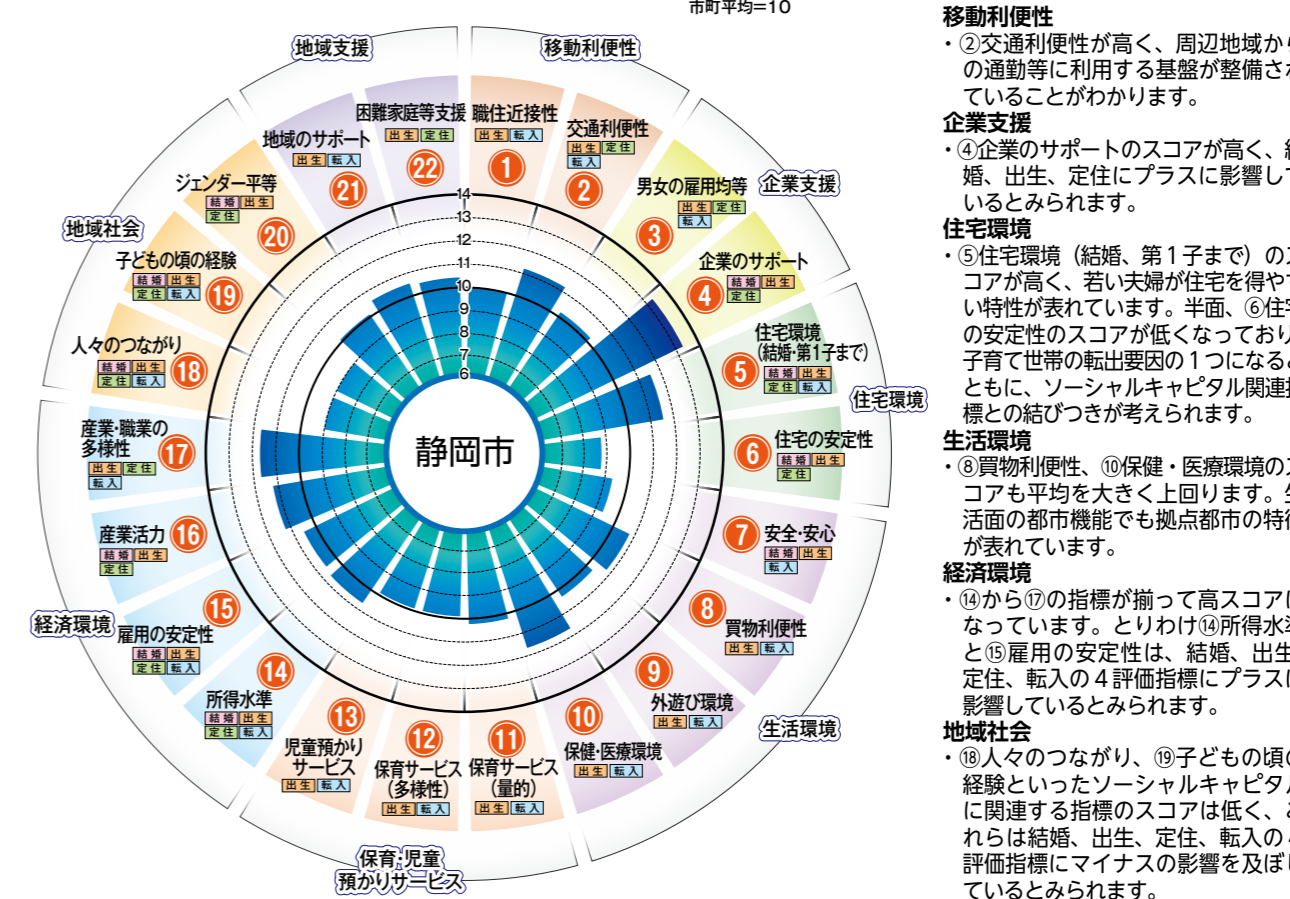


定住率と転入率(15-34歳、男女・年齢階層別、2018-2022年の年平均)



・静岡市の転入超過率はマイナスで推移していました。これを定住率と転入率で表し、15-34歳でみても、2018-2022年の年平均は、男女とも定住率と転入率の計が100%ラインを下回っています。
 ・2018-2022年は、県内市町の中でみると、男女とも定住率が低く、転入率が低いという特徴がみられます。この特徴は、男女で比較すると、女性の方が強くなっています。
 ・年齢階層別にみると、男女とも20-24歳から25-29歳までの定住率が低く、これを転入率がカバーしています。

4 次世代を育む地域環境バーチャート



移動利便性
 ・②交通利便性が高く、周辺地域からの通勤等に利用する基盤が整備されていることがわかります。

企業支援
 ・④企業のサポートのスコアが高く、結婚、出生、定住にプラスに影響していると考えられます。

住宅環境
 ・⑤住宅環境(結婚、第1子まで)のスコアが高く、若い夫婦が住宅を得やすい特性が表れています。反面、⑥住宅の安定性のスコアが低くなっており、子育て世帯の転出要因の1つになるとともに、ソーシャルキャピタル関連指標との結びつきが考えられます。

生活環境
 ・⑧買物利便性、⑩保健・医療環境のスコアも平均を大きく上回ります。生活面の都市機能でも拠点都市の特徴が表れています。

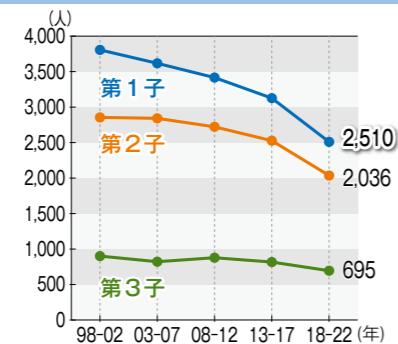
経済環境
 ・⑭から⑰の指標が揃って高スコアになっています。とりわけ⑭所得水準と⑮雇用の安定性は、結婚、出生、定住、転入の4評価指標にプラスに影響しているとみられます。

地域社会
 ・⑱人々のつながり、⑲子どもの頃の経験といったソーシャルキャピタルに関連する指標のスコアは低く、これらは結婚、出生、定住、転入の4評価指標にマイナスの影響を及ぼしていると考えられます。

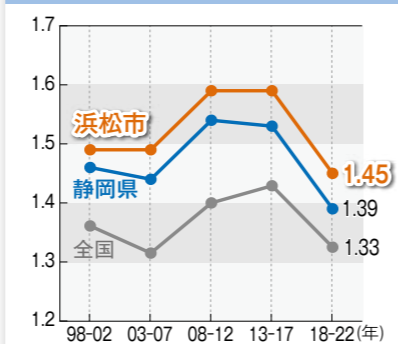
1 人口動態の概要

自然動態(出生)の状況

出生順位別出生数(年平均)の推移

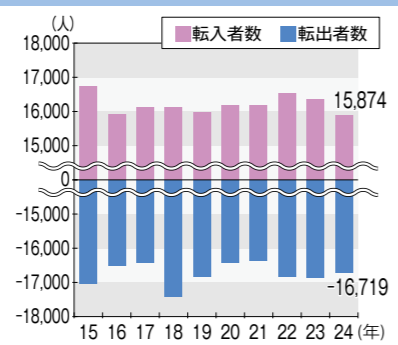


合計特殊出生率の推移

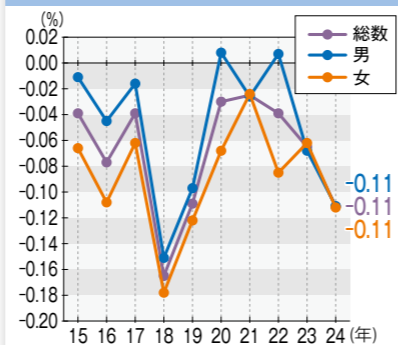


社会動態(全年齢)の状況

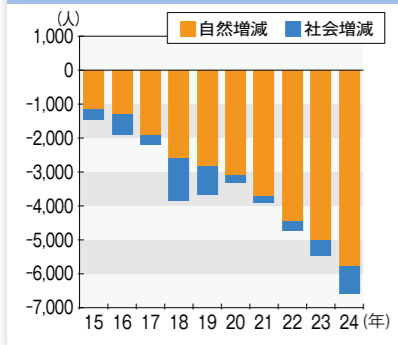
転入者数と転出者数の推移



転入超過率の推移



人口動態(全年齢)の推移



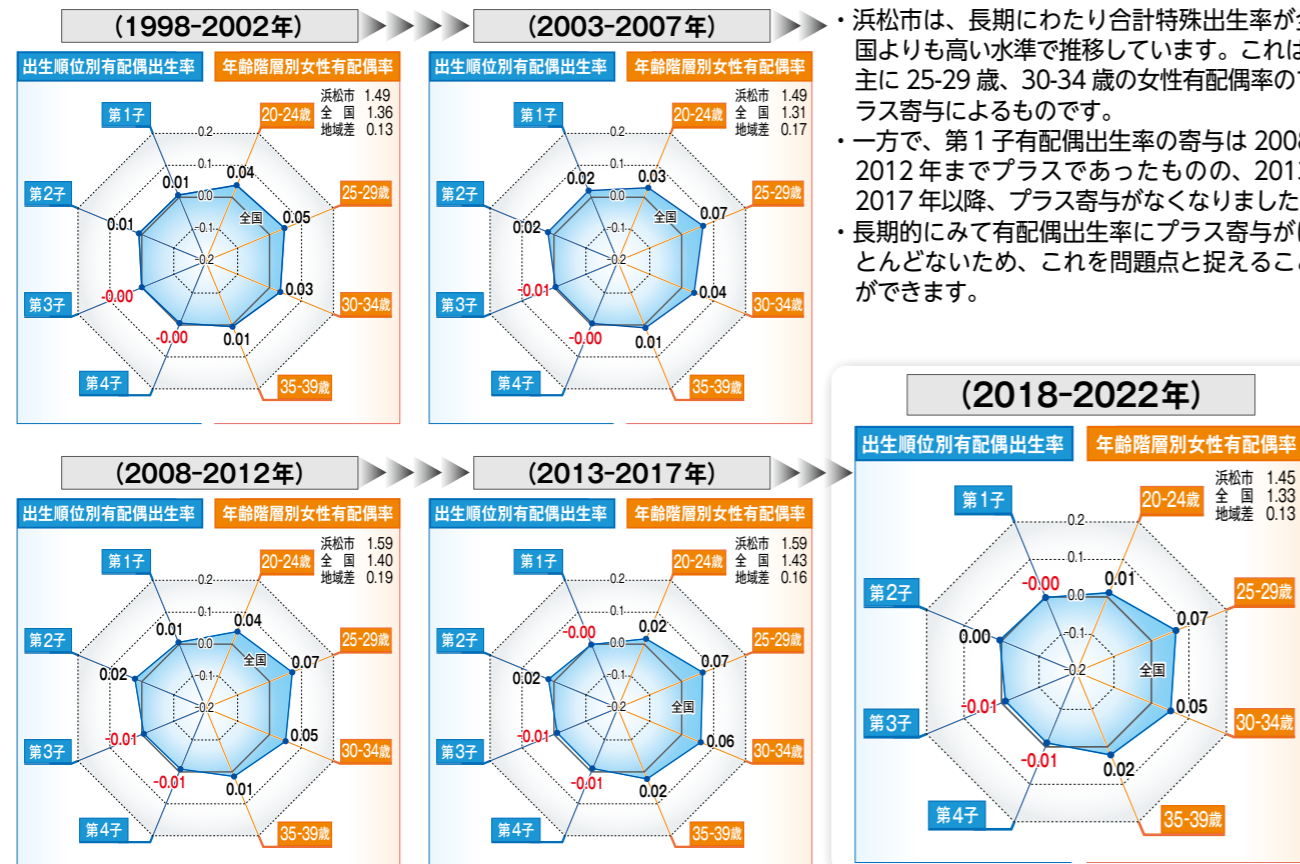
自然動態(出生)

・1998-2002年以降、4期間連続して、第1子出生数の減少率が第2子を上回っています。

社会動態(全年齢)

・長期にわたり転出者が転入者を上回り、近年、その差は拡大しています。
・転入超過率は男女で違いがみられ、その差は年によって変動しています。

2 出生構造レーダーチャート

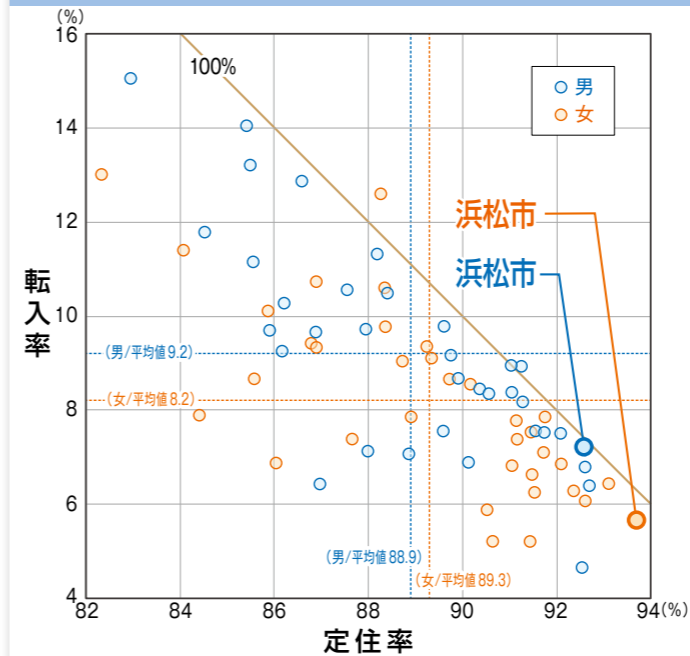


・浜松市は、長期にわたり合計特殊出生率が全国よりも高い水準で推移しています。これは、主に25-29歳、30-34歳の女性有配偶率のプラス寄与によるものです。
・一方で、第1子有配偶率の寄与は2008-2012年までプラスであったものの、2013-2017年以降、プラス寄与がなくなりました。
・長期的にみて有配偶率にプラス寄与がほとんどないため、これを問題点と捉えることができます。

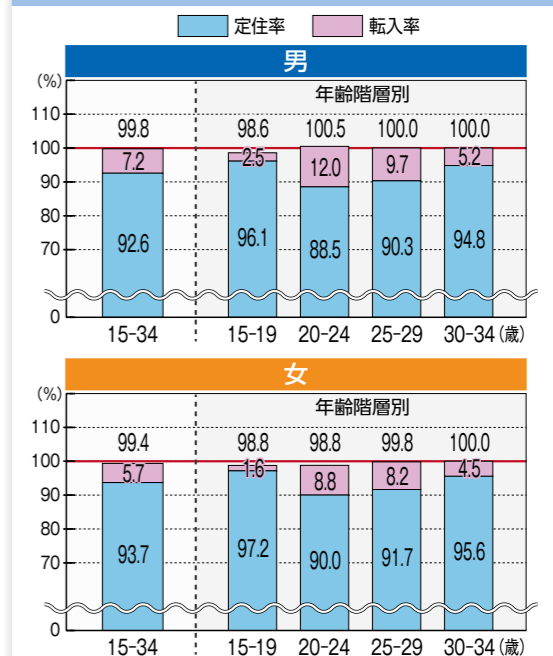
※出生構造レーダーチャートは、年齢階層別女性有配偶率及び出生順位別有配偶率の全国との差が、合計特殊出生率の全国との差に対する寄与として表されている。

3 若年層の男女別・年齢階層別の社会動態

定住率と転入率(15-34歳、男女別、2018-2022年の年平均)



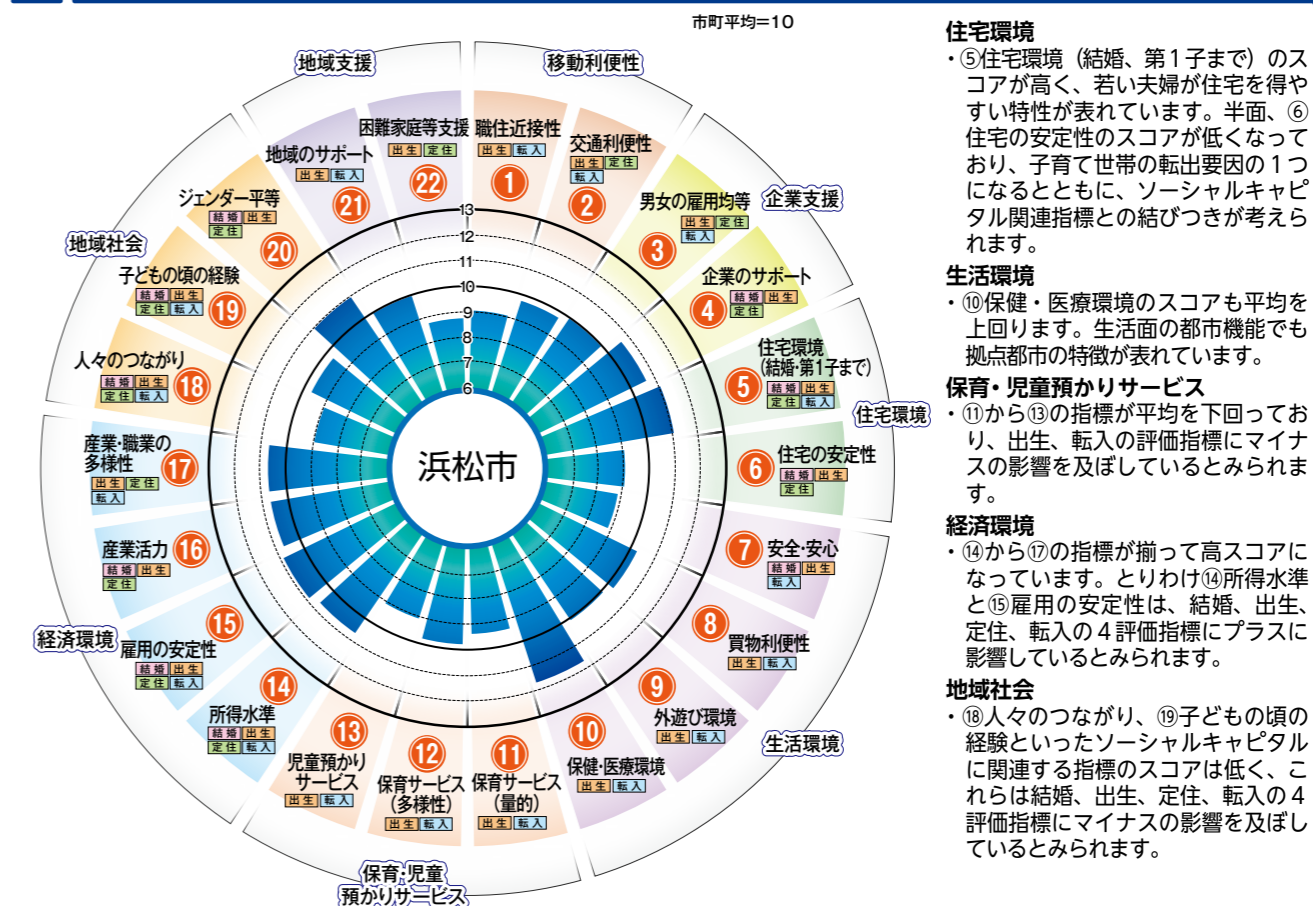
定住率と転入率(15-34歳、男女・年齢階層別、2018-2022年の年平均)



・浜松市の転入超過率はマイナスで推移しています。これを定住率と転入率で表し、15-34歳でみても、2018-2022年の年平均は、男女とも定住率と転入率の計が100%ラインを下回っています。
・2018-2022年は、県内市町の中でみると、男女とも定住率

が高く、転入率が低いという特徴がみられます。この特徴は、男女で比較すると、女性の方が強くなっています。
・年齢階層別にみると、男女とも20-24歳から25-29歳までの定住率が低く、これを転入率がカバーしています。

4 次世代を育む地域環境バーチャート



住宅環境
・⑤住宅環境(結婚、第1子まで)のスコアが高く、若い夫婦が住宅を得やすい特性が表れています。反面、⑥住宅の安定性のスコアが低く、子育て世帯の転出要因の一つになるとともに、ソーシャルキャピタル関連指標との結びつきが考えられます。

生活環境
・⑩保健・医療環境のスコアも平均を上回ります。生活面の都市機能も拠点都市の特徴が表れています。

保育・児童預かりサービス
・⑪から⑬の指標が平均を下回っており、出生、転入の評価指標にマイナスの影響を及ぼしているとみられます。

経済環境
・⑭から⑰の指標が揃って高スコアになっています。とりわけ⑭所得水準と⑮雇用の安定性は、結婚、出生、定住、転入の4評価指標にプラスに影響しているとみられます。

地域社会
・⑱人々のつながり、⑲子どもの頃の経験といったソーシャルキャピタルに関連する指標のスコアは低く、これらは結婚、出生、定住、転入の4評価指標にマイナスの影響を及ぼしているとみられます。

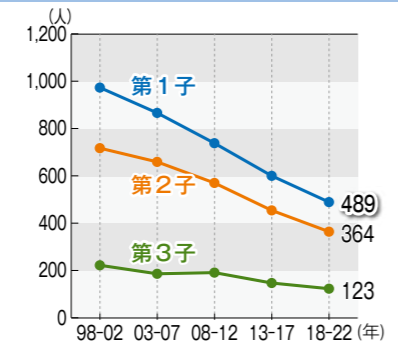


- 静岡市
- 浜松市
- 沼津市
- 熱海市
- 三島市
- 富士宮市
- 伊東市
- 島田市
- 富士市
- 磐田市
- 焼津市
- 掛川市
- 藤枝市
- 御殿場市
- 袋井市
- 下田市
- 裾野市
- 湖西市
- 伊豆市
- 御前崎市
- 菊川市
- 伊豆の国市
- 牧之原市
- 東伊豆町
- 河津町
- 南伊豆町
- 松崎町
- 西伊豆町
- 函南町
- 清水町
- 長泉町
- 小山町
- 吉田町
- 川根本町
- 森町

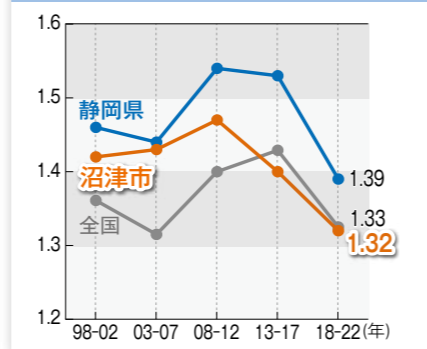
1 人口動態の概要

自然動態(出生)の状況

出生順位別出生数(年平均)の推移

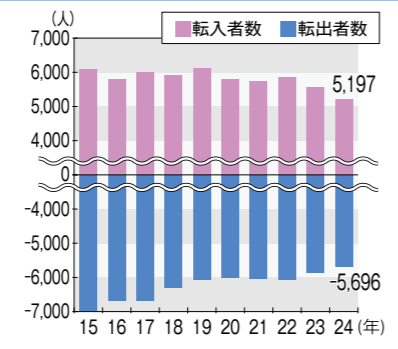


合計特殊出生率の推移

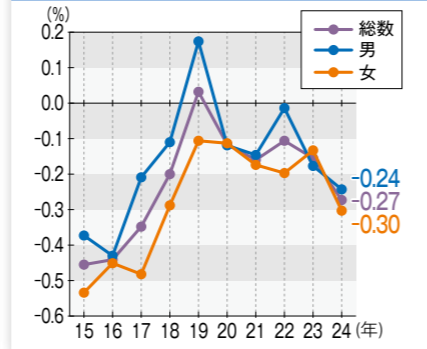


社会動態(全年齢)の状況

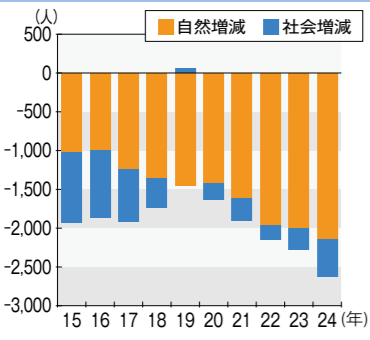
転入者数と転出者数の推移



転入超過率の推移



人口動態(全年齢)の推移



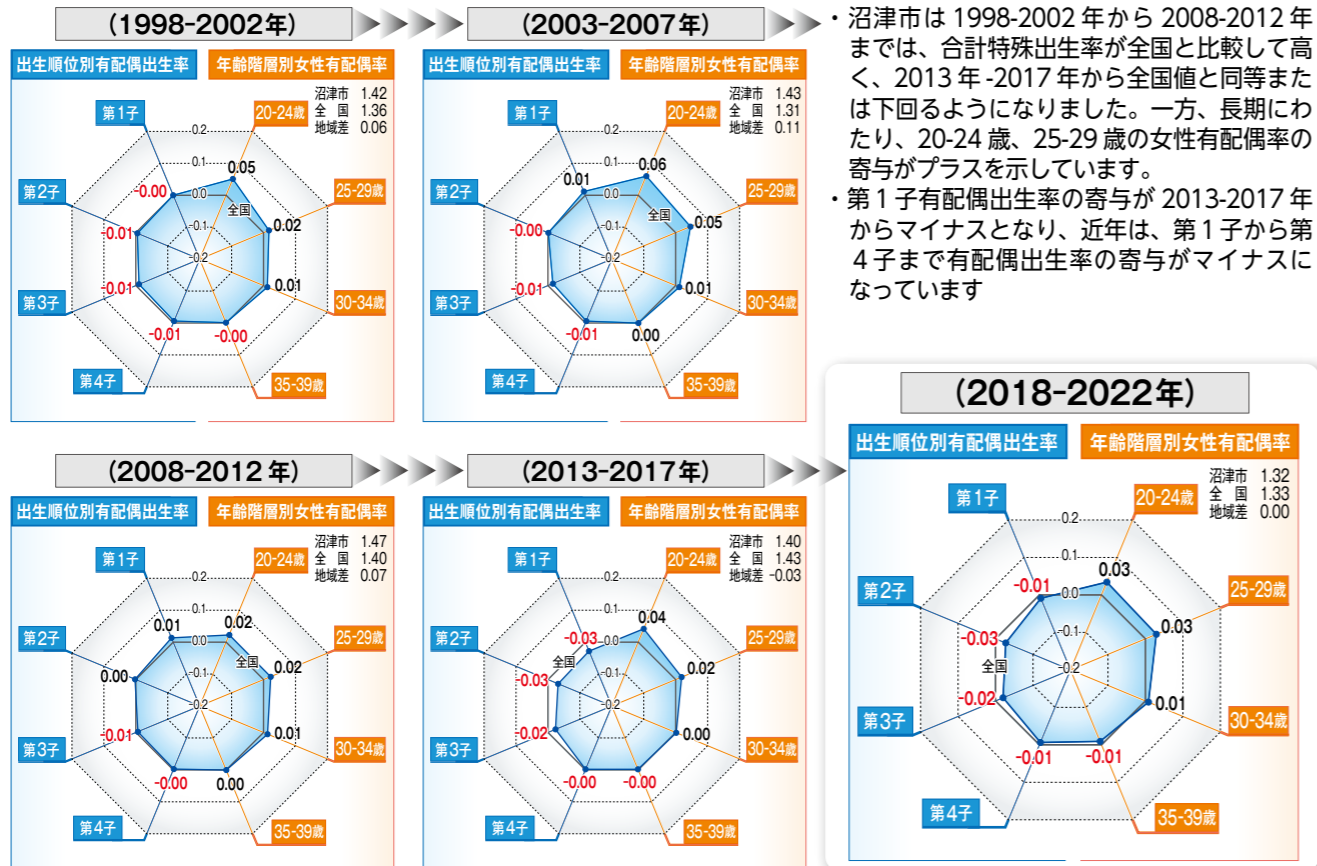
自然動態(出生)

・1998-2002年以降、4期間連続して、第1子と第2子の出生数がほぼ同率で減少しています。

社会動態(全年齢)

・2015年に900人を超える社会減でしたが、2019年に一度プラスに転じています。その後再びマイナスとなり、2024年まで社会減は拡大傾向にあります。
・転入超過率は2019年以降、男女の推移はおおよそ連動しています。

2 出生構造レーダーチャート

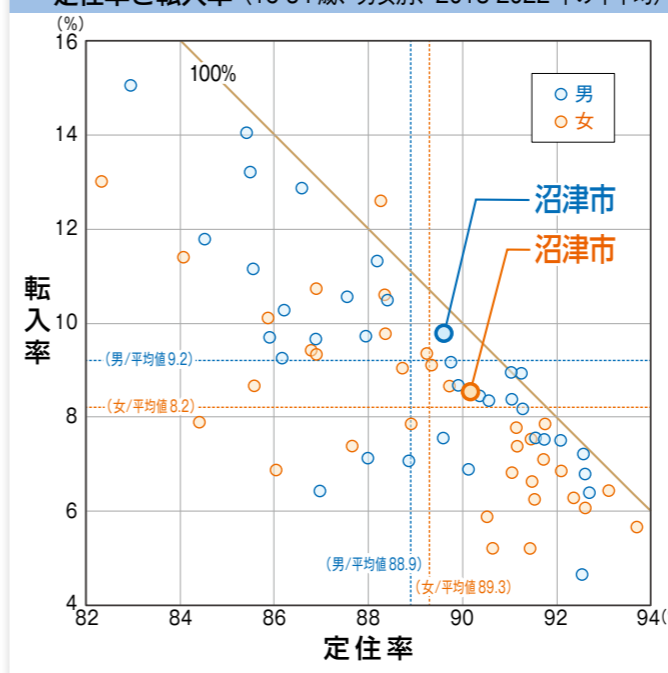


・沼津市は1998-2002年から2008-2012年までは、合計特殊出生率が全国と比較して高く、2013年-2017年から全国値と同等または下回るようになりました。一方、長期にわたり、20-24歳、25-29歳の女性有配偶率の寄与がプラスを示しています。
・第1子有配偶率の寄与が2013-2017年からマイナスとなり、近年は、第1子から第4子まで有配偶率の寄与がマイナスになっています

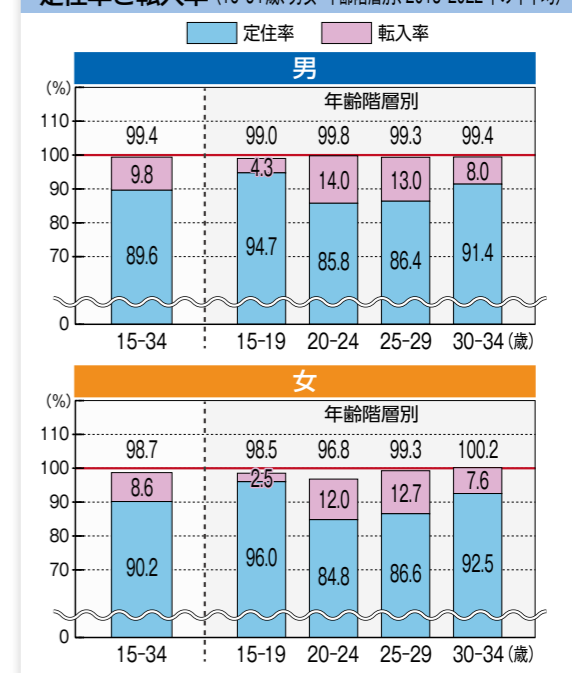
※出生構造レーダーチャートは、年齢階層別女性有配偶率及び出生順位別有配偶率の全国との差が、合計特殊出生率の全国との差に対する寄与として表されている。

3 若年層の男女別・年齢階層別の社会動態

定住率と転入率(15-34歳、男女別、2018-2022年の年平均)



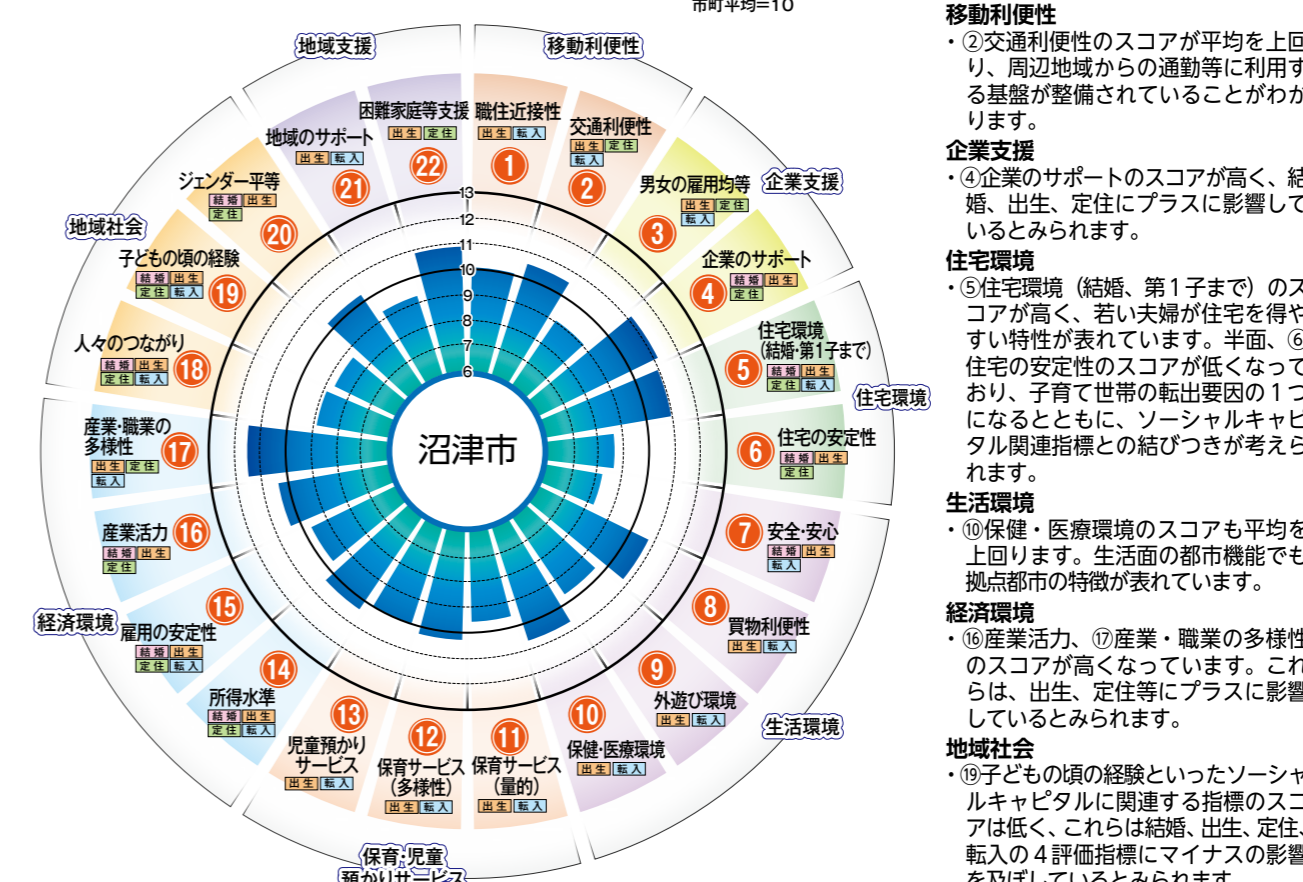
定住率と転入率(15-34歳、男女・年齢階層別、2018-2022年の年平均)



・沼津市の転入超過率は2019年を除きマイナスで推移してきました。これを定住率と転入率で表し、15-34歳でも、2018-2022年の年平均は、男女とも定住率と転入率の計が100%ラインを下回っています。
・2018-2022年は、男女で比較すると、定住率には大きな差

はありませんが、女性は男性に比べ転入率が低く、男性よりも社会増減率が低いことがわかります。
・年齢階層別に比較すると、女性は20-24歳の定住率が他の階層に比べ低いことに加え、男性に比較して転入率が低くなっています。

4 次世代を育む地域環境バーチャート



移動利便性
・②交通利便性のスコアが平均を上回り、周辺地域からの通勤等に利用する基盤が整備されていることがわかります。

企業支援
・④企業のサポートのスコアが高く、結婚、出生、定住にプラスに影響しているとみられます。

住宅環境
・⑤住宅環境(結婚、第1子まで)のスコアが高く、若い夫婦が住宅を得やすい特性が表れています。半面、⑥住宅の安定性のスコアが低く、子育て世帯の転出要因の1つになるとともに、ソーシャルキャピタル関連指標との結びつきが考えられます。

生活環境
・⑩保健・医療環境のスコアも平均を上回ります。生活面の都市機能でも拠点都市の特徴が表れています。

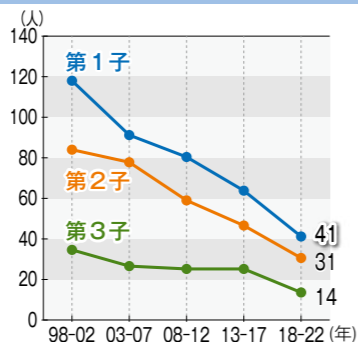
経済環境
・⑬産業活力、⑭産業・職業の多様性のスコアが高くなっています。これらは、出生、定住等にプラスに影響しているとみられます。

地域社会
・⑲子どもの頃の経験といったソーシャルキャピタルに関連する指標のスコアは低く、これらは結婚、出生、定住、転入の4評価指標にマイナスの影響を及ぼしているとみられます。

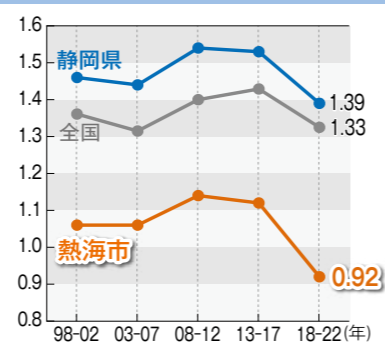
1 人口動態の概要

自然動態(出生)の状況

出生順位別出生数(年平均)の推移

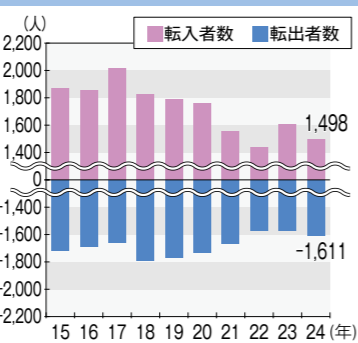


合計特殊出生率の推移

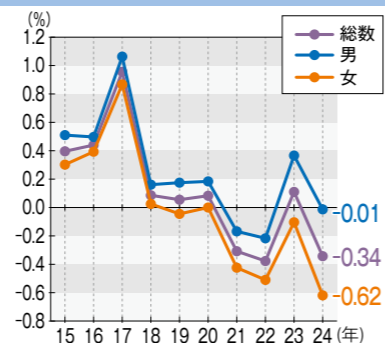


社会動態(全年齢)の状況

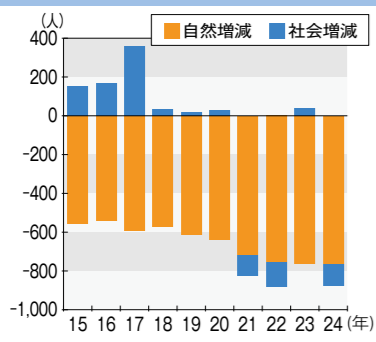
転入者数と転出者数の推移



転入超過率の推移



人口動態(全年齢)の推移



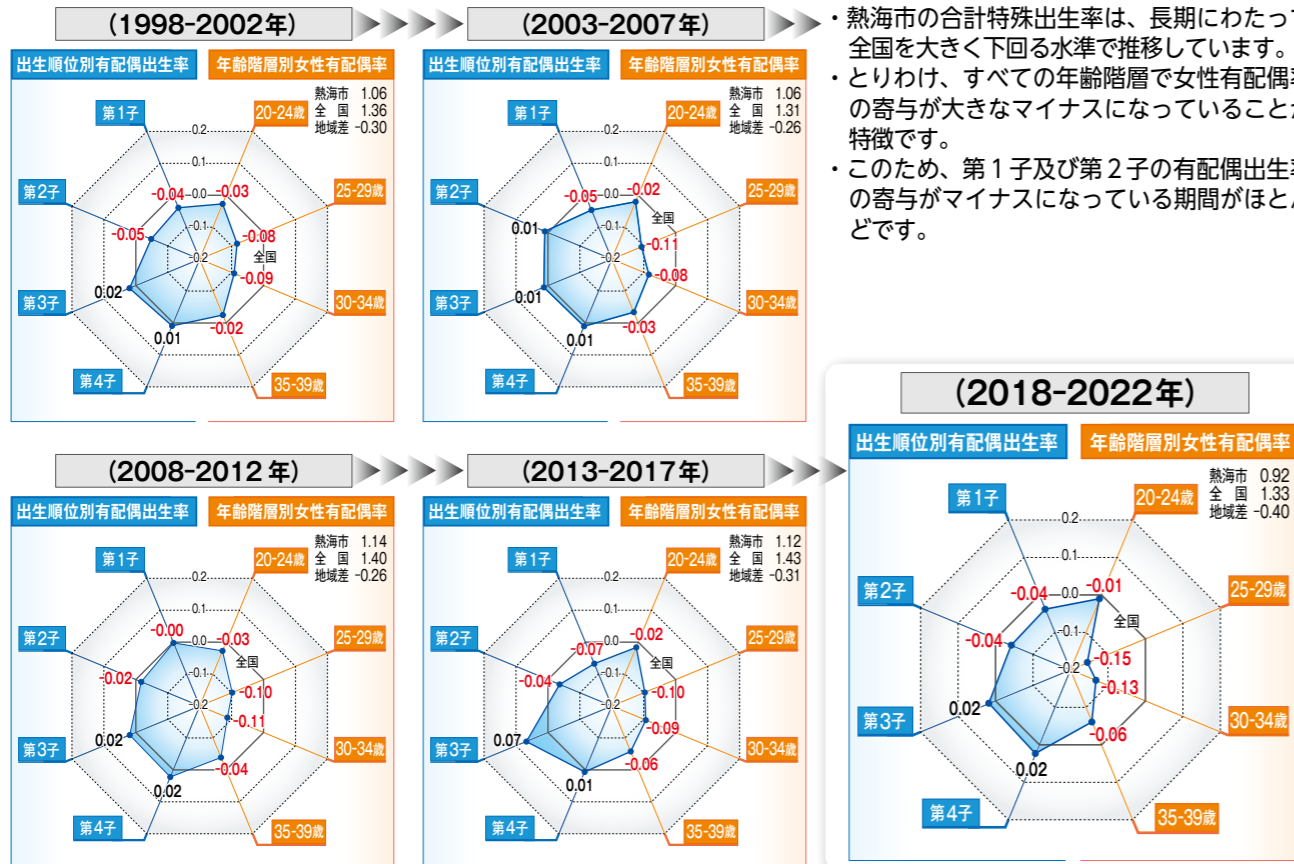
自然動態(出生)

・2003-2007年の期間から連続して、第1子と第2子の出生数が減少しています。

社会動態(全年齢)

・2021年以降転出者が転入者を上回っている状況です。
・近年の転入超過率は、男女が同程度の変化率で推移しています。

2 出生構造レーダーチャート

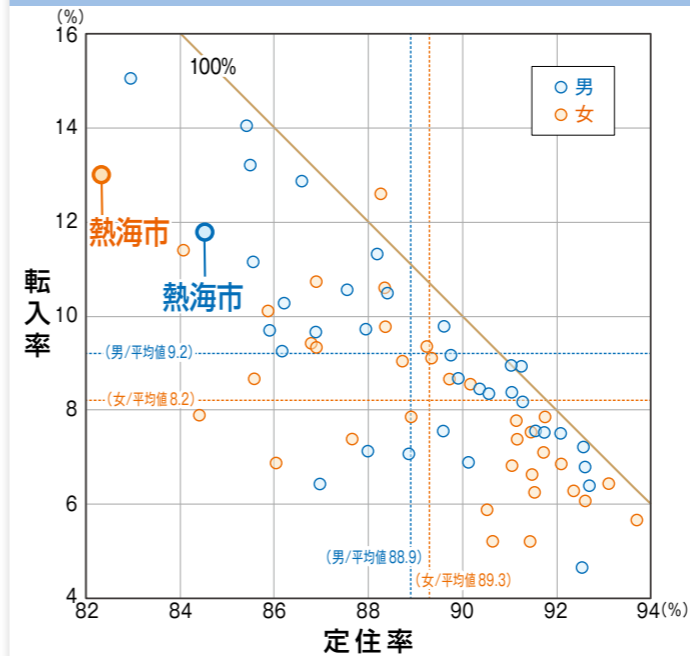


・熱海市の合計特殊出生率は、長期にわたって全国を大きく下回る水準で推移しています。
・とりわけ、すべての年齢階層で女性有配偶率の寄与が大きなマイナスになっていることが特徴です。
・このため、第1子及び第2子の有配偶率の寄与がマイナスになっている期間がほとんどです。

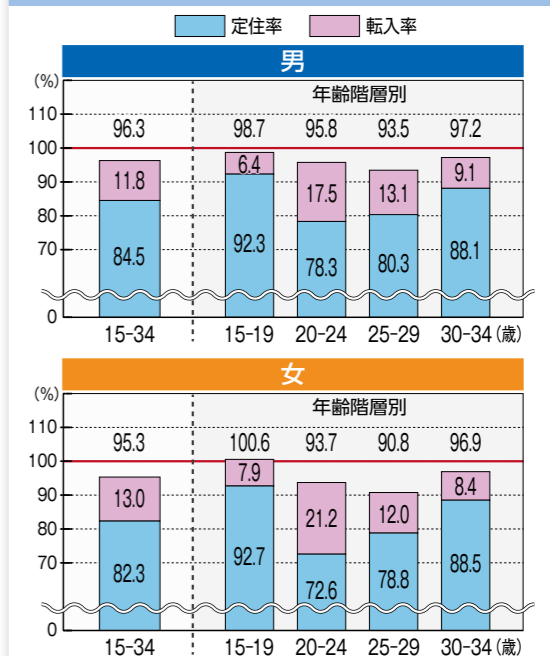
※出生構造レーダーチャートは、年齢階層別女性有配偶率及び出生順位別有配偶率の全国との差、合計特殊出生率の全国との差に対する寄与として表されている。

3 若年層の男女別・年齢階層別の社会動態

定住率と転入率(15-34歳、男女別、2018-2022年の年平均)



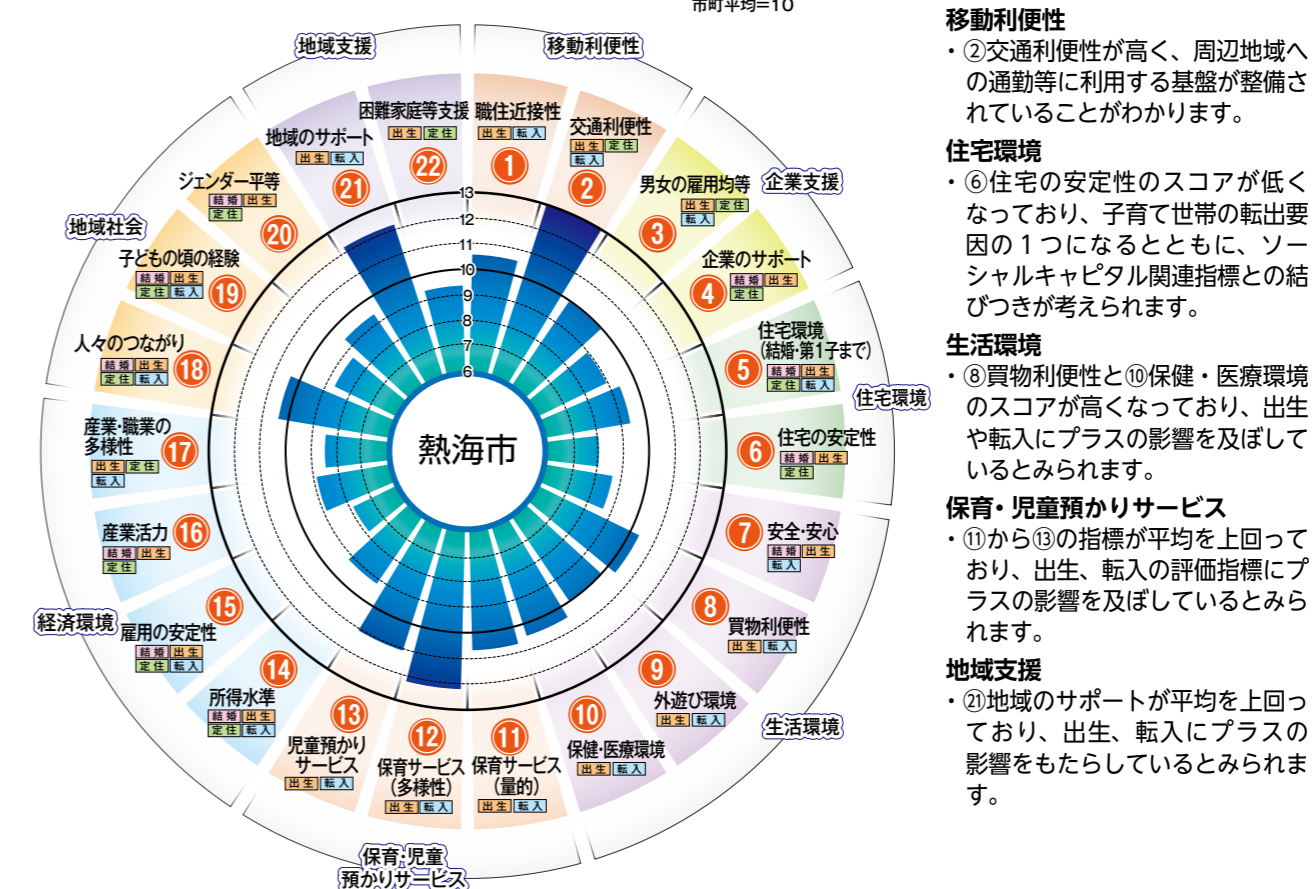
定住率と転入率(15-34歳、男女・年齢階層別、2018-2022年の年平均)



・熱海市の転入超過率は2021年と2022年はマイナスで推移していました。これを定住率と転入率で表し、15-34歳でも、2018-2022年の年平均は、男女とも定住率と転入率の計が100%ラインから大きく左下方に離れています。
・2018-2022年は、男女ともに定住率が県内市町の中でも低く、一方で、転入率が高いという特徴がみられます。この傾向は特

に女性で強く表れています。
・年齢階層別にみると、男女とも社会増減率は15-19歳は100%に近いものの、20-24歳及び25-29歳に社会増減率が低くなります。この傾向は女性で顕著であり、特に20-24歳で低い定住率と高い転入率という傾向が強く表れているものの、転入率が低い定住率をカバーできていない状況がわかります。

4 次世代を育む地域環境バーチャート



移動利便性
・②交通利便性が高く、周辺地域への通勤等に利用する基盤が整備されていることがわかります。

住宅環境
・⑥住宅の安定性のスコアが低くなっており、子育て世帯の転出要因の1つになるとともに、ソーシャルキャピタル関連指標との結びつきが考えられます。

生活環境
・⑧買物利便性と⑩保健・医療環境のスコアが高くなっており、出生や転入にプラスの影響を及ぼしていると考えられます。

保育・児童預かりサービス
・⑪から⑬の指標が平均を上回っており、出生、転入の評価指標にプラスの影響を及ぼしていると考えられます。

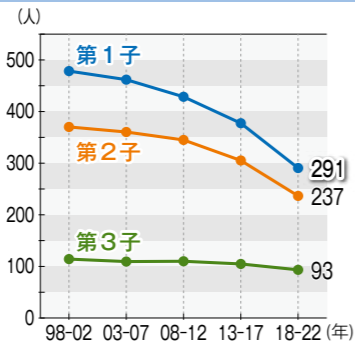
地域支援
・⑫地域のサポートが平均を上回っており、出生、転入にプラスの影響をもたらしていると考えられます。



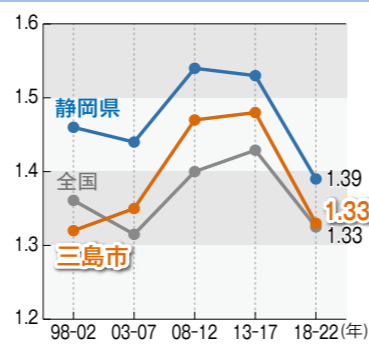
1 人口動態の概要

自然動態(出生)の状況

出生順位別出生数(年平均)の推移

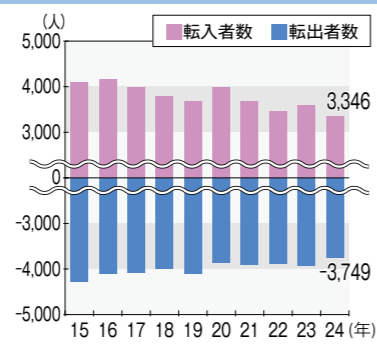


合計特殊出生率の推移

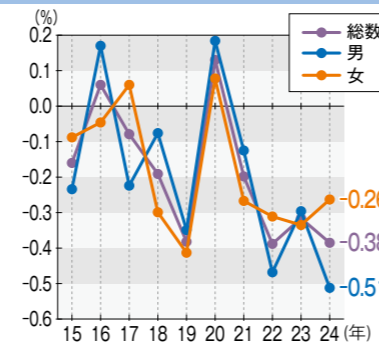


社会動態(全年齢)の状況

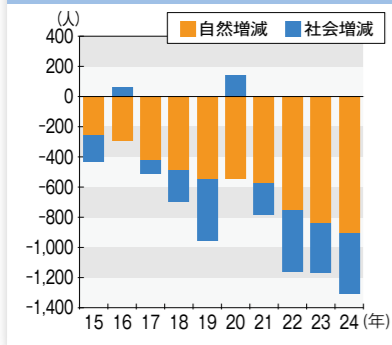
転入者数と転出者数の推移



転入超過率の推移



人口動態(全年齢)の推移



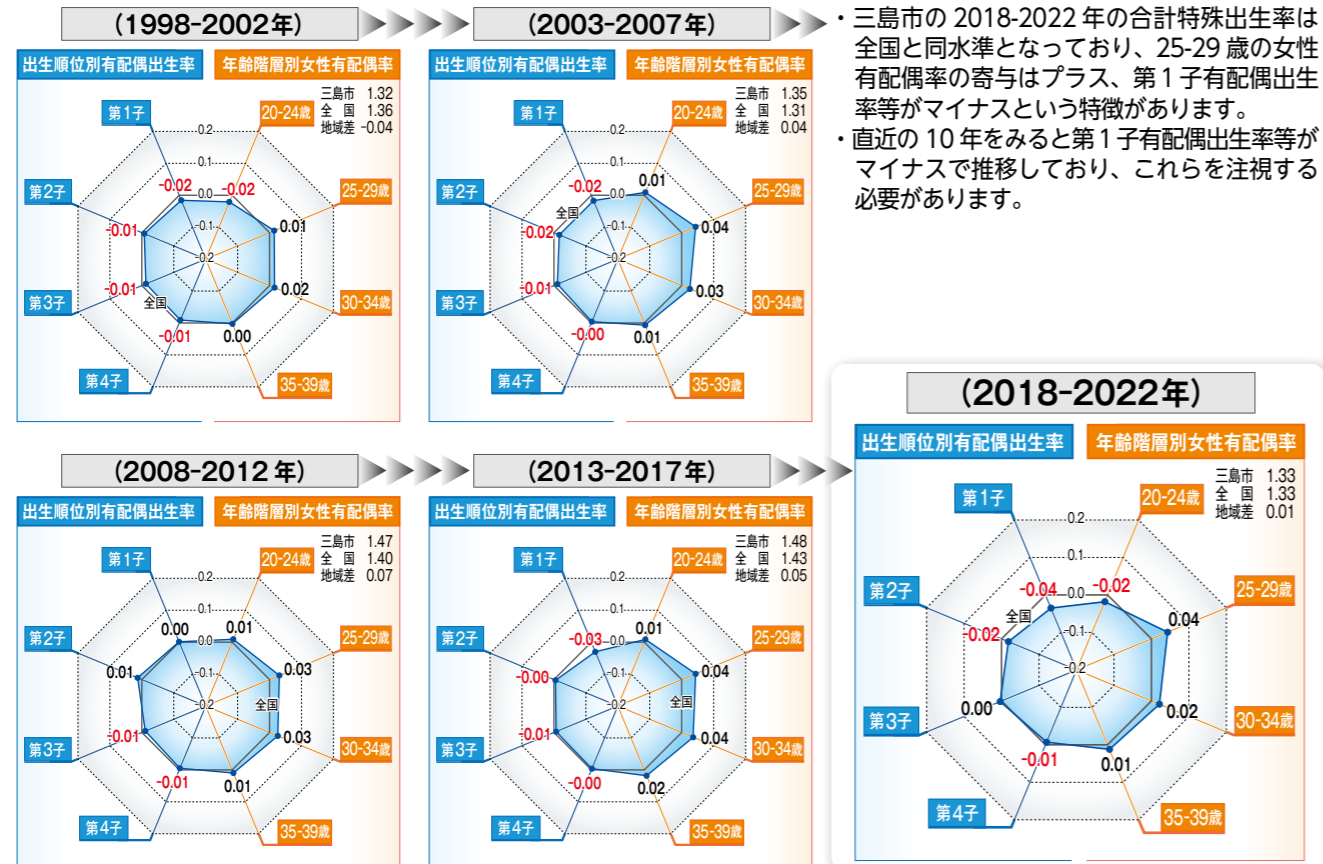
自然動態(出生)

・1998-2002年の期間から連続して、第1子出生数の減少率が第2子を上回っています。

社会動態(全年齢)

・社会動態がプラスになった年があるものの、おおよそ転出者が転入を上回り、近年その差は拡大しています。
・男女の転入超過率はおおよそ近い値で推移していましたが、直近年は男性の転入超過率のマイナスが拡大傾向にあります。

2 出生構造レーダーチャート

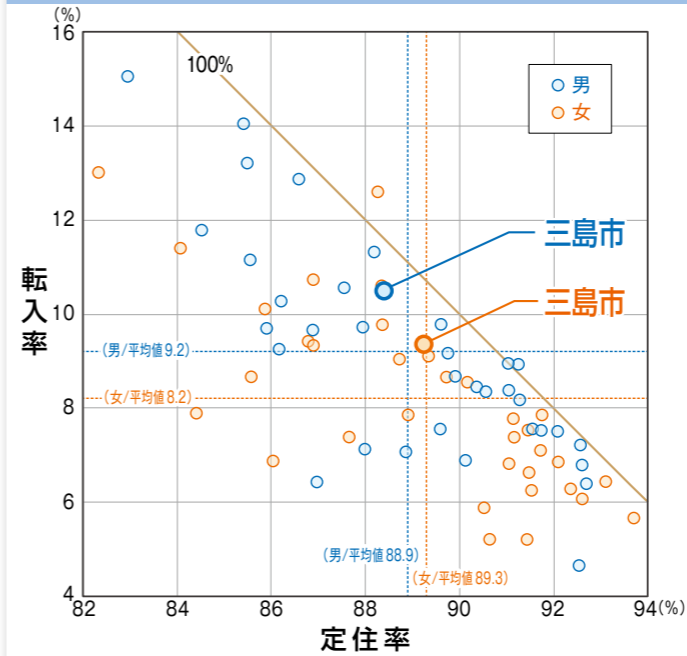


・三島市の2018-2022年の合計特殊出生率は全国と同水準となっており、25-29歳の女性有配偶率の寄与はプラス、第1子有配偶出生率等がマイナスという特徴があります。
・直近の10年をみると第1子有配偶出生率等がマイナスで推移しており、これらを注視する必要があります。

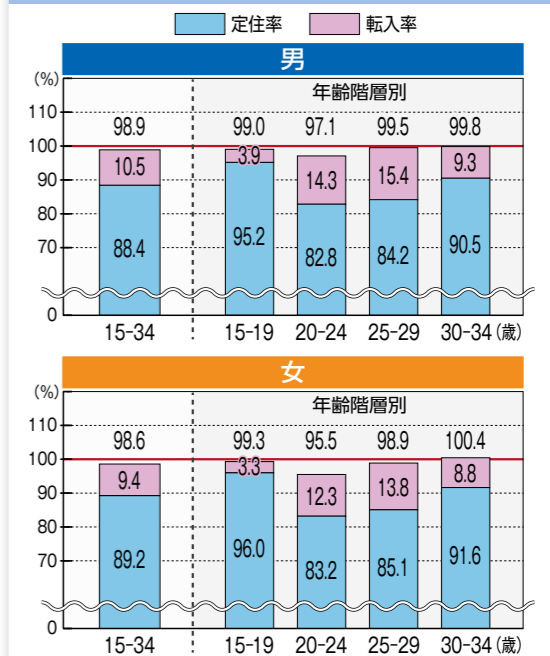
※出生構造レーダーチャートは、年齢階層別女性有配偶出生率及び出生順位別有配偶出生率の全国との差、合計特殊出生率の全国との差に対する寄与として表されている。

3 若年層の男女別・年齢階層別の社会動態

定住率と転入率(15-34歳、男女別、2018-2022年の年平均)



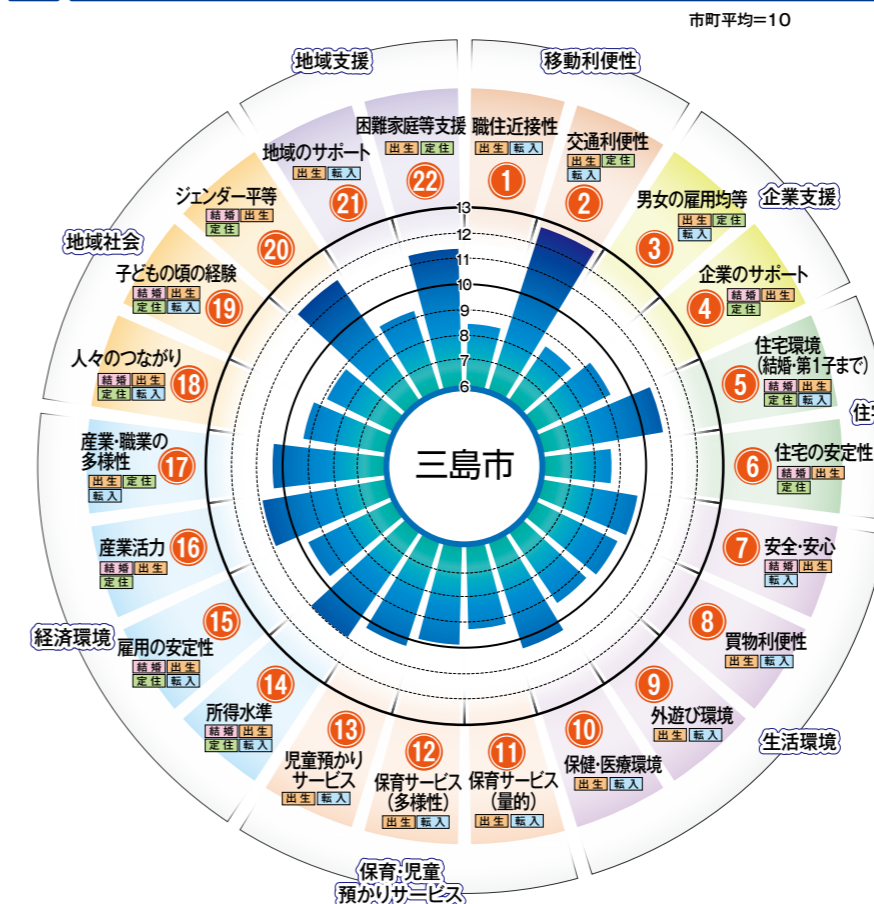
定住率と転入率(15-34歳、男女・年齢階層別、2018-2022年の年平均)



・三島市の転入超過率は2017年以降、2020年を除きマイナスで推移していました。これを定住率と転入率で表し、15-34歳でも、2018-2022年の年平均は、男女とも定住率と転入率の計が100%ラインを下回っています。
・2018-2022年は、男女とも定住率と転入率の値は市町平均

に近いものの、男女で比較すると、女性の方が定住率が高く、転入率が低くなっています。
・年齢階層別にみると、男女とも20-24歳の定住率が最も低く、結果として社会増減率が低くなっています。

4 次世代を育む地域環境バーチャート



移動利便性
・②交通利便性のスコアが高く、周辺地域への通勤・通学等に利用する基盤が整備されていることがわかります。

住宅環境
・⑥住宅の安定性のスコアが低くなっているものの、⑤住宅環境(結婚、第1子まで)のスコアは高いため、若い夫婦が定住・転入しやすく、住居地としての選択実現が高いと考えられます。

経済環境
・⑭所得水準、⑯産業活力のスコア高く、これらは、結婚、出生、定住等の評価指標にプラスに影響しているとみられます。

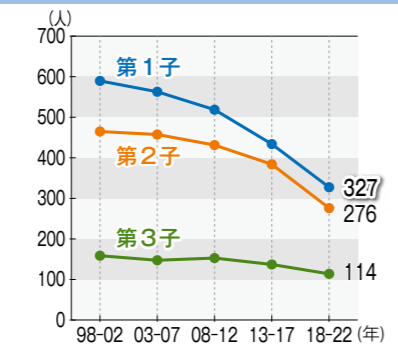
地域社会
・⑳ジェンダー平等のスコアが高く、結婚、出生、定住の3評価指標にプラスに影響しているとみられます。

地域支援
・㉒困難家庭等支援が平均を上回っており、出生、定住にプラスの影響をもたらしているとみられます。

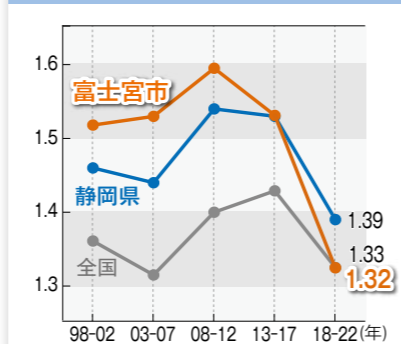
1 人口動態の概要

自然動態(出生)の状況

出生順位別出生数(年平均)の推移

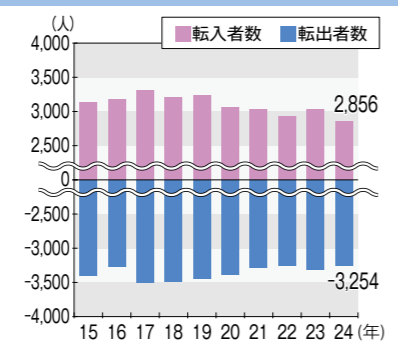


合計特殊出生率の推移

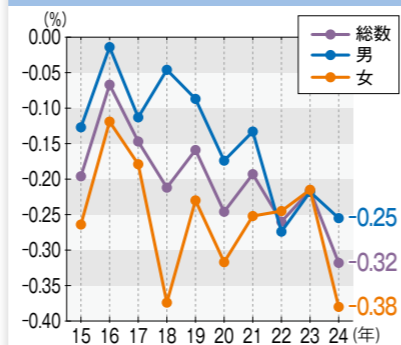


社会動態(全年齢)の状況

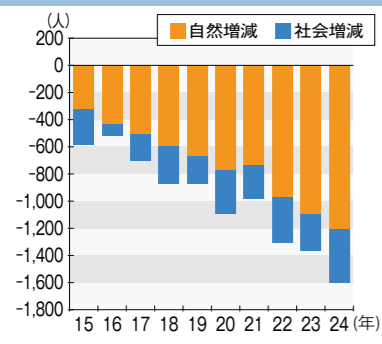
転入者数と転出者数の推移



転入超過率の推移



人口動態(全年齢)の推移



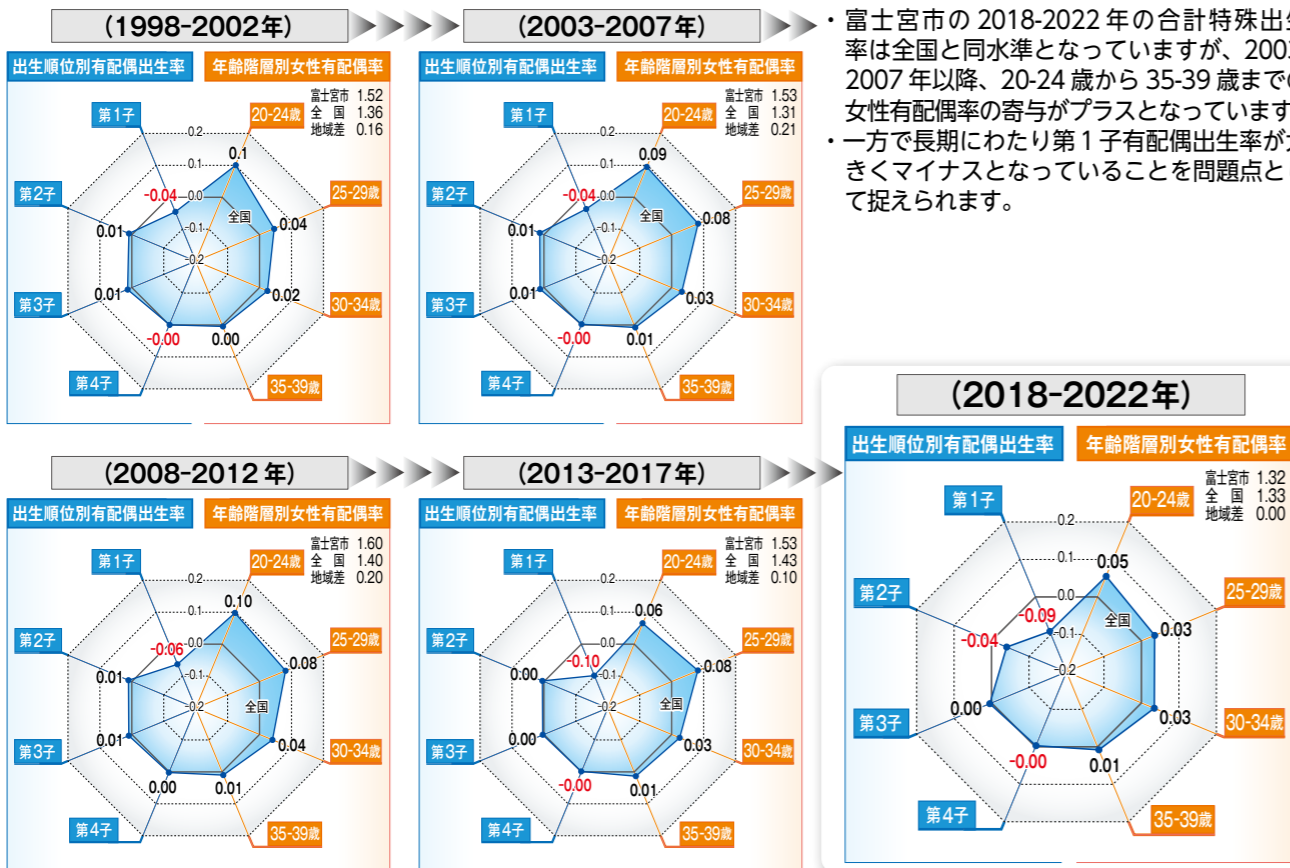
自然動態(出生)

・1998-2002年の期間から2013-2017年まで、第1子出生数の減少率が第2子を上回っています。

社会動態(全年齢)

・長期にわたり転出者が転入者を上回り、その差は拡大しています。
・転入超過率は長期間にわたり女性のマイナス率が男性を上回っています。

2 出生構造レーダーチャート

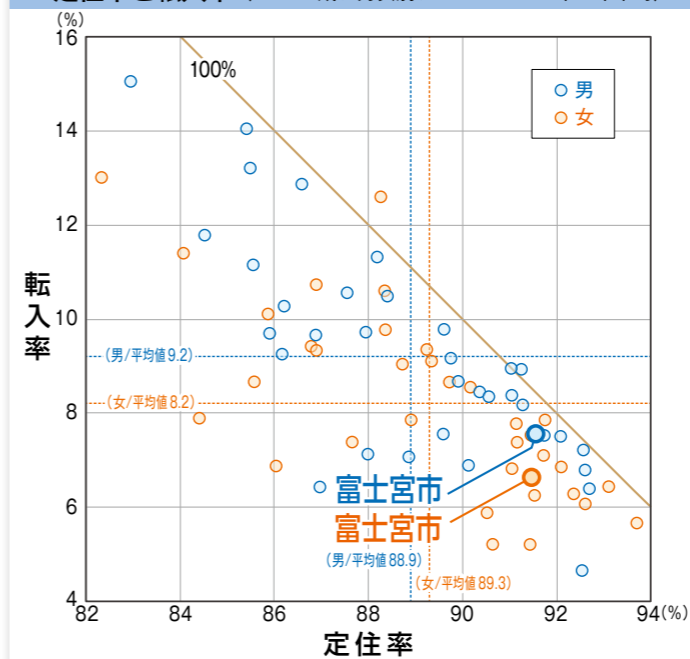


・富士宮市の2018-2022年の合計特殊出生率は全国と同水準となっていますが、2003-2007年以降、20-24歳から35-39歳までの女性有配偶率の寄与がプラスとなっています。
・一方で長期にわたり第1子有配偶出生率が大きくマイナスとなっていることを問題点として捉えられます。

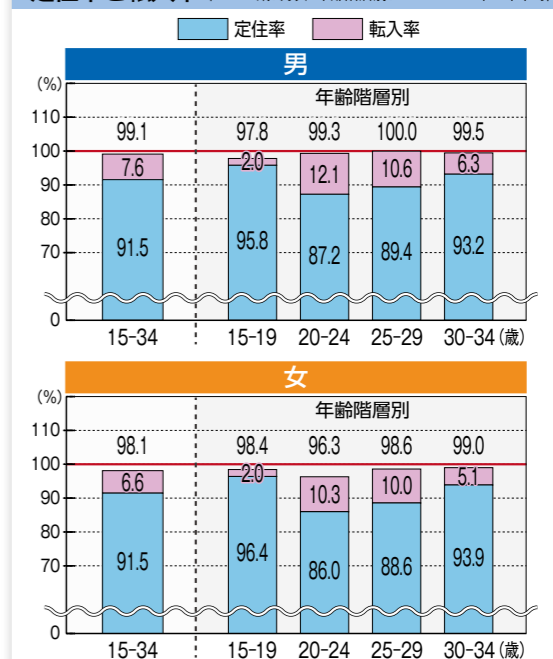
※出生構造レーダーチャートは、年齢階層別女性有配偶出生率及び出生順位別有配偶出生率の全国との差が、合計特殊出生率の全国との差に対する寄与として表されている。

3 若年層の男女別・年齢階層別の社会動態

定住率と転入率(15-34歳、男女別、2018-2022年の年平均)



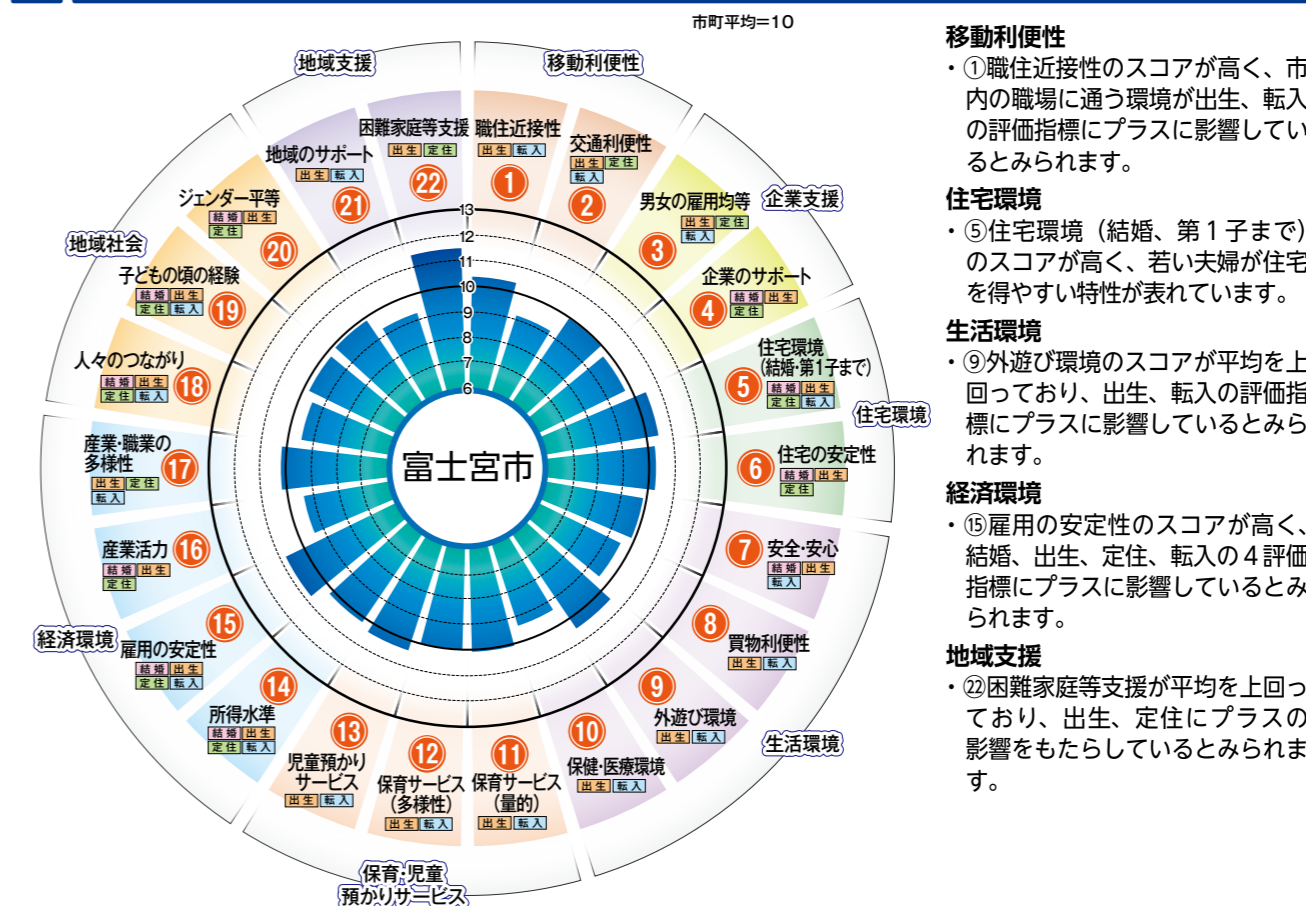
定住率と転入率(15-34歳、男女・年齢階層別、2018-2022年の年平均)



・富士宮市の転入超過率はマイナスで推移していました。これを定住率と転入率で表し、15-34歳でも、2018-2022年の年平均は、男女とも定住率と転入率の計が100%ラインを下回っています。
・2018-2022年は、県内市町の中で男女ともに定住率が高く

転入率が低いという特徴がみられます。男女で比較すると、定住率に大きな差はありませんが、女性の転入率が低くなっており、男性よりも女性の社会増減率が低くなっています。
・年齢階層別にみると、女性の20-24歳の社会増減率が低く、低い定住率を転入率がカバーできていません。

4 次世代を育む地域環境バーチャート



移動利便性
・①職住近接性のスコアが高く、市内の職場に通う環境が出生、転入の評価指標にプラスに影響しているとみられます。

住宅環境
・⑤住宅環境(結婚、第1子まで)のスコアが高く、若い夫婦が住宅を得やすい特性が表れています。

生活環境
・⑨外遊び環境のスコアが平均を上回っており、出生、転入の評価指標にプラスに影響しているとみられます。

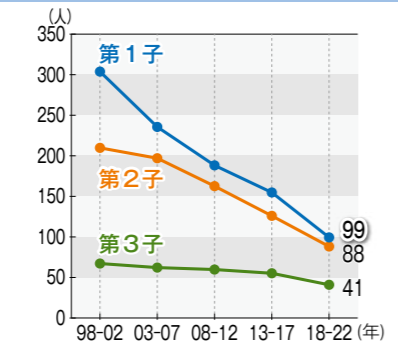
経済環境
・⑮雇用の安定性のスコアが高く、結婚、出生、定住、転入の4評価指標にプラスに影響しているとみられます。

地域支援
・⑳困難家庭等支援が平均を上回っており、出生、定住にプラスの影響をもたらしているとみられます。

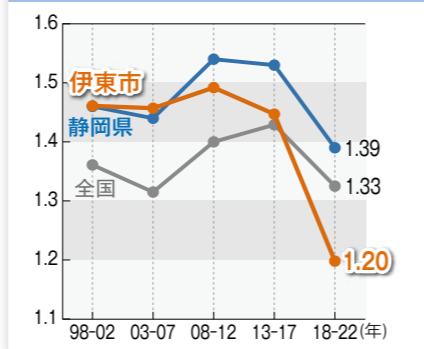
1 人口動態の概要

自然動態(出生)の状況

出生順位別出生数(年平均)の推移

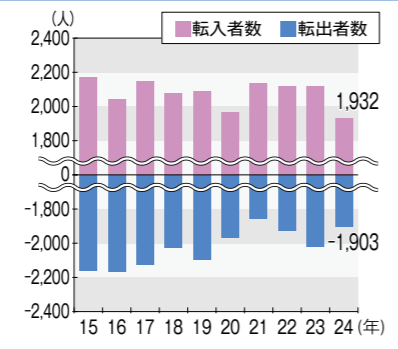


合計特殊出生率の推移

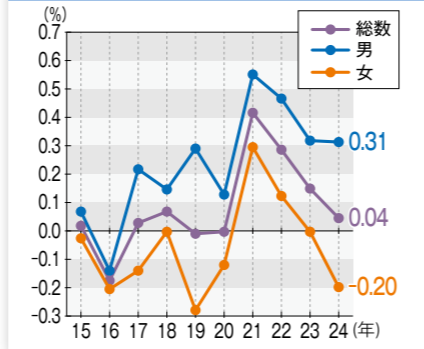


社会動態(全年齢)の状況

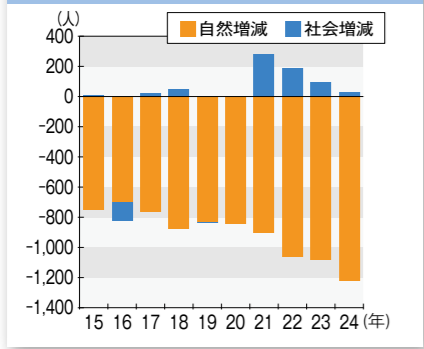
転入者数と転出者数の推移



転入超過率の推移



人口動態(全年齢)の推移



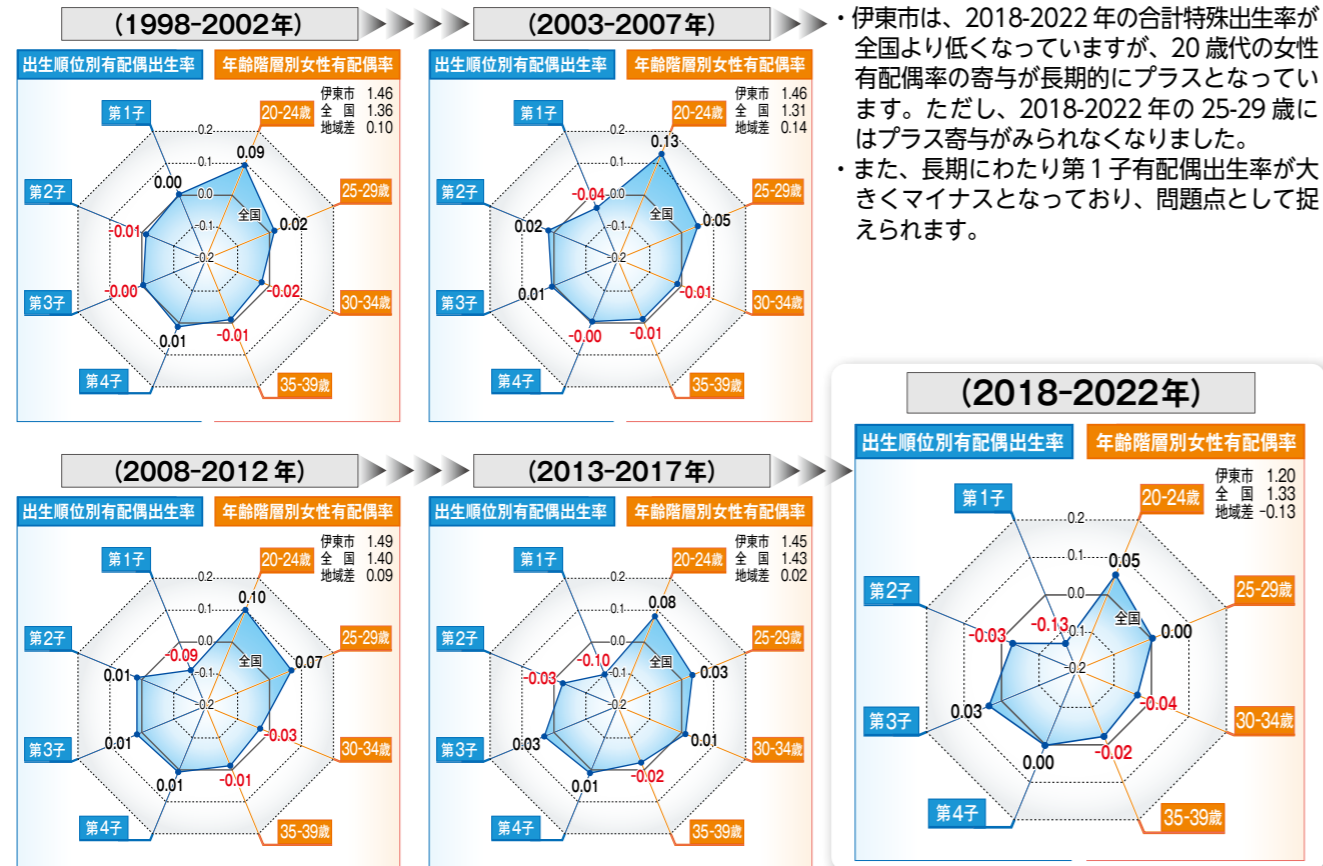
自然動態(出生)

・2018-2022年について、第1子出生数の減少率が第2子を上回っています。

社会動態(全年齢)

- ・2021年から4年連続して転入超過となりましたが、転入超過数は年を追って減少しています。
- ・転入超過率は2016年以降、男女でおおよそ連動した変化となっています。

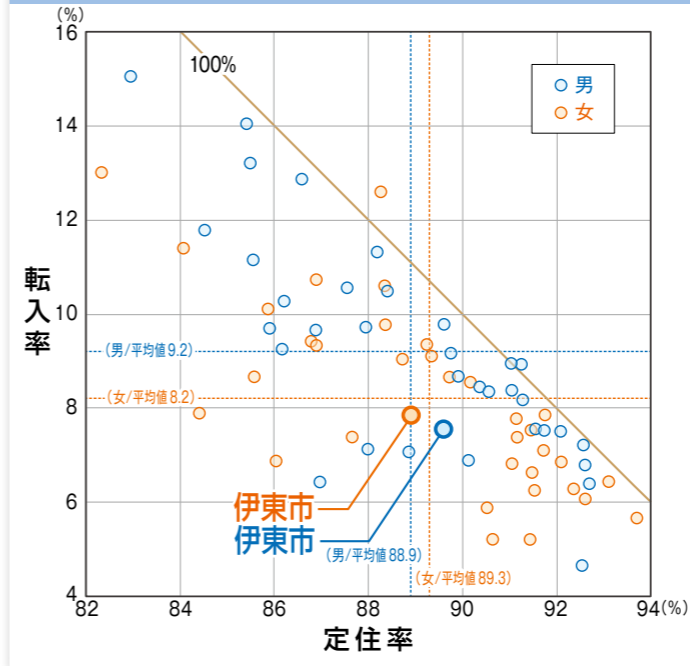
2 出生構造レーダーチャート



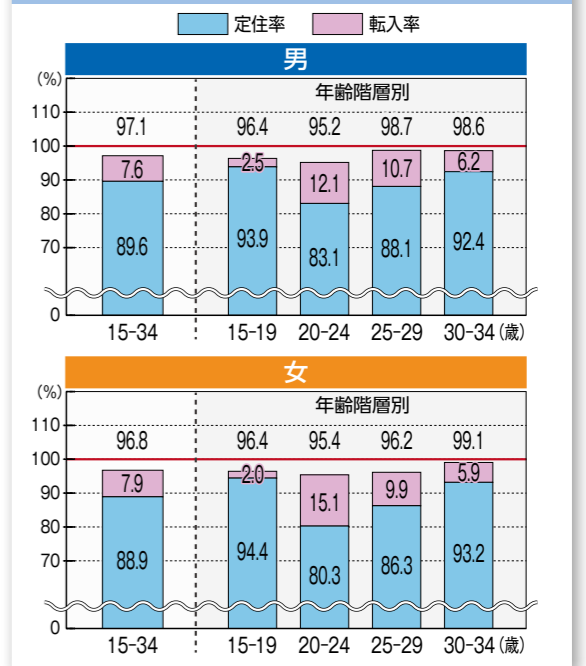
※出生構造レーダーチャートは、年齢階層別女性有配偶出生率及び出生順位別有配偶出生率の全国との差が、合計特殊出生率の全国との差に対する寄与として表されている。

3 若年層の男女別・年齢階層別の社会動態

定住率と転入率(15-34歳、男女別、2018-2022年の年平均)



定住率と転入率(15-34歳、男女・年齢階層別、2018-2022年の年平均)

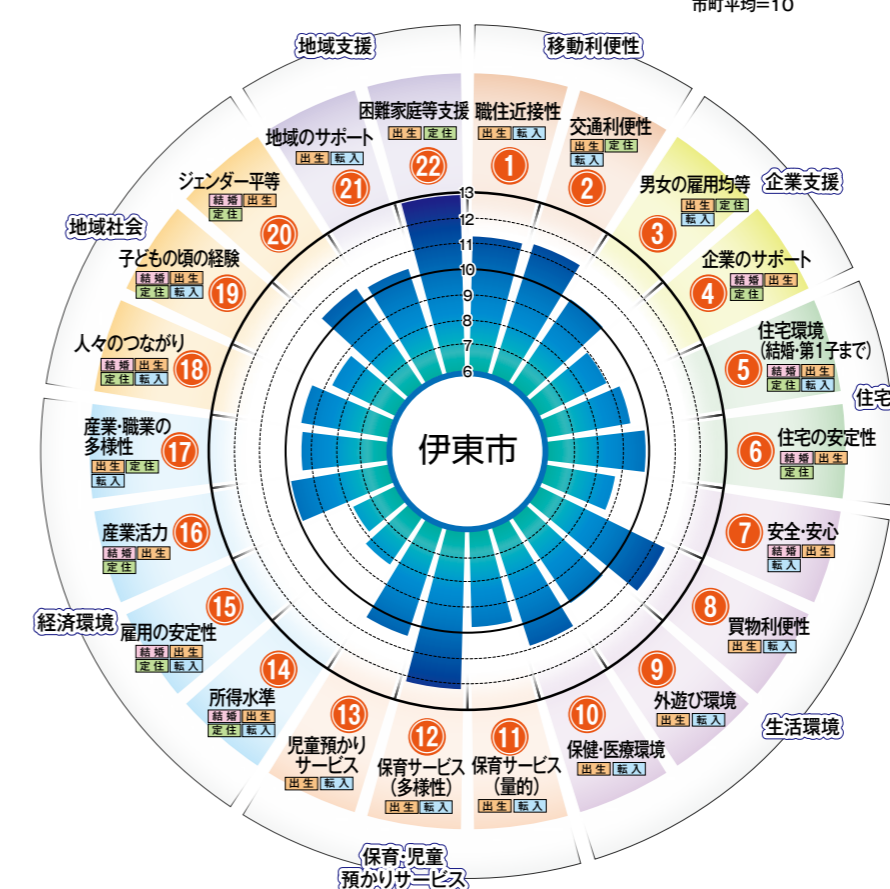


- ・伊東市の転入超過率は2021年まで2016年を除き大きなマイナスにならず、2022年以降はプラスで推移していました。これを定住率と転入率で表し、15-34歳に限ると、2018-2022年の年平均は、男女とも定住率と転入率の計が100%ラインを大きく下回っています。
- ・2018-2022年は、県内市町の中では男性の定住率は市町平均をやや上回り、女性はやや下回っています。男女ともに、転入率は

市町平均をやや下回っています。男女の差は、女性の定住率が男性をやや下回る程度です。

・年齢階層別にみると、男女ともに、20-24歳、25-29歳の定住率が他の階層に比べ低くなっており、低い定住率を転入率がカバーできていません。市町の中での転入率の低さは、特に15-19歳に表れています。

4 次世代を育む地域環境バーチャート

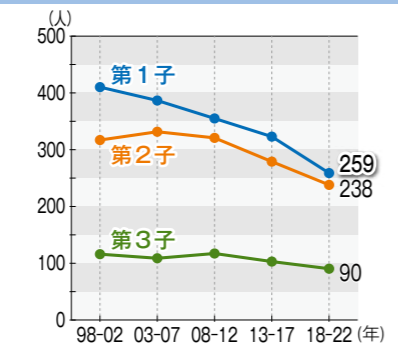


- 移動利便性**
- ・①職住近接性のスコアが高く、市内の職場に通う環境が出生、転入の評価指標にプラスに影響しているとみられます。また②交通利便性が高く、周辺地域からの通勤等に利用する基盤も整備されていることがわかります。
- 生活環境**
- ・⑧買物利便性のスコアが平均を上回っており、出生、転入の評価指標にプラスに影響しているとみられます。
- 保育・児童預かりサービス**
- ・⑫保育サービス(多様性)のスコアが高く、出生、転入にプラスに影響しているとみられます。
- 経済環境**
- ・⑭所得水準、⑮雇用の安定性のスコアが低く、結婚、出生、定住、転入の評価指標にマイナスに影響しているとみられます。
- 地域支援**
- ・⑫⑬困難家庭等支援が平均を上回っており、出生、定住にプラスの影響をもたらしているとみられます。

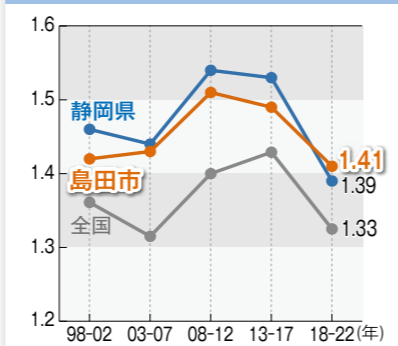
1 人口動態の概要

自然動態(出生)の状況

出生順位別出生数(年平均)の推移

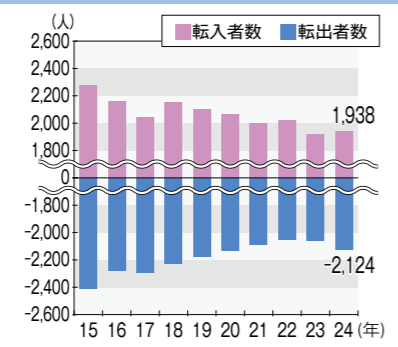


合計特殊出生率の推移

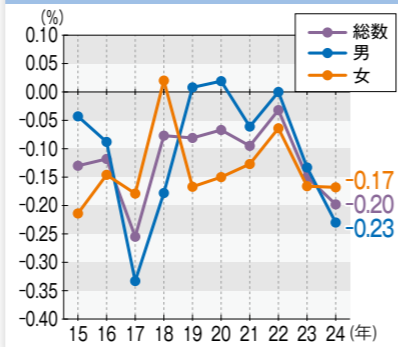


社会動態(全年齢)の状況

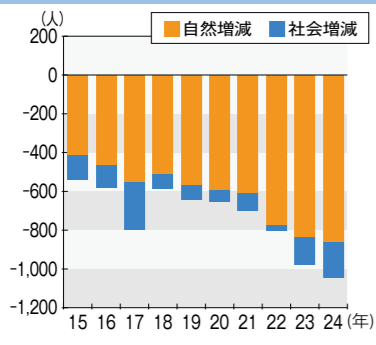
転入者数と転出者数の推移



転入超過率の推移



人口動態(全年齢)の推移



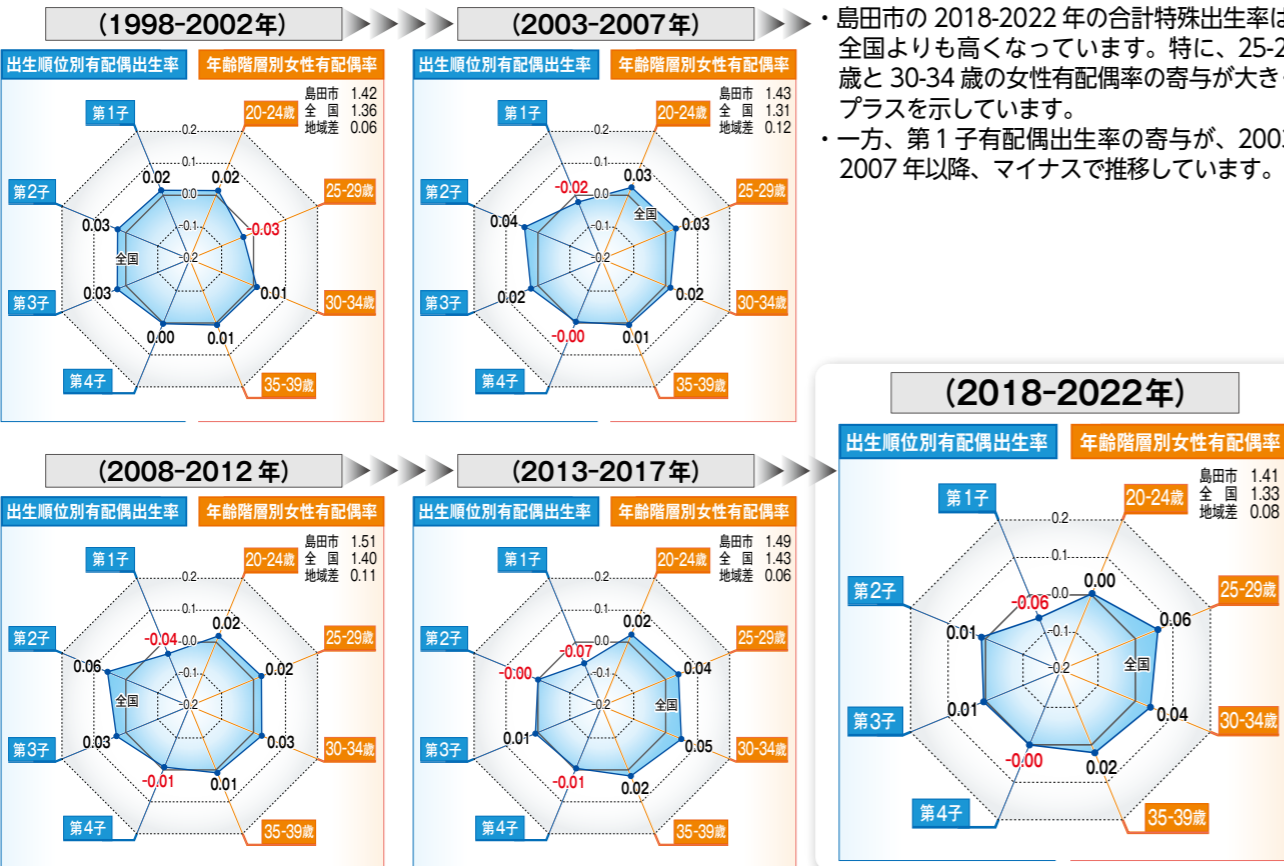
自然動態(出生)

・直近期間の2018-2022年は、第1子出生数の減少率が第2子を上回っています。

社会動態(全年齢)

・長期にわたり転出超過が続いています。転出超過数は一時縮小傾向にありましたが、近年、拡大傾向が顕著です。
・転入超過率は男女で違いがみられ、その差は年によって変動しています。

2 出生構造レーダーチャート

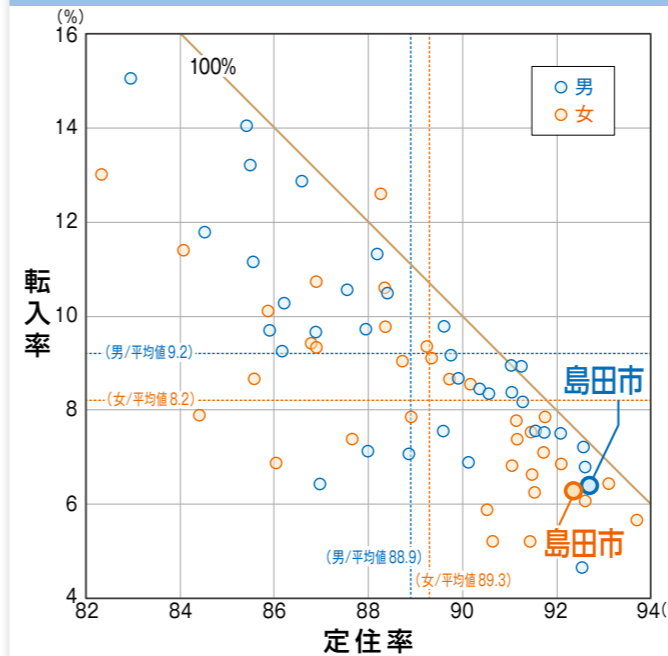


・島田市の2018-2022年の合計特殊出生率は、全国よりも高くなっています。特に、25-29歳と30-34歳の女性有配偶率の寄与が大きくプラスを示しています。
・一方、第1子有配偶率の寄与が、2003-2007年以降、マイナスで推移しています。

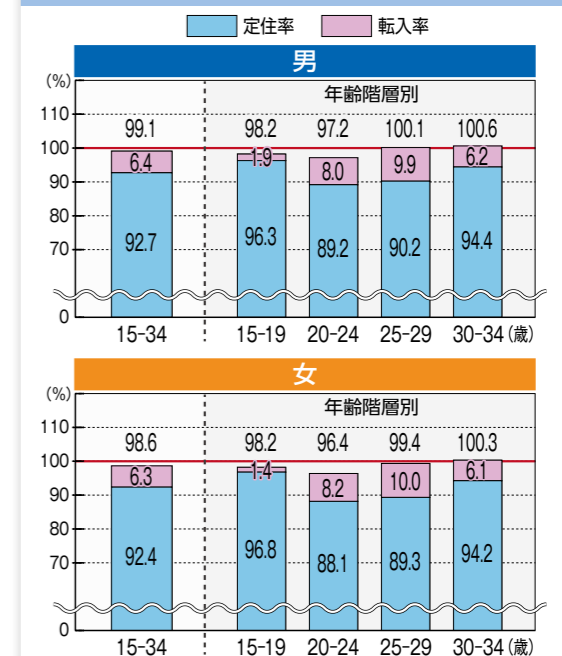
※出生構造レーダーチャートは、年齢階層別女性有配偶率及び出生順位別有配偶率の全国との差が、合計特殊出生率の全国との差に対する寄与として表されている。

3 若年層の男女別・年齢階層別の社会動態

定住率と転入率(15-34歳、男女別、2018-2022年の年平均)



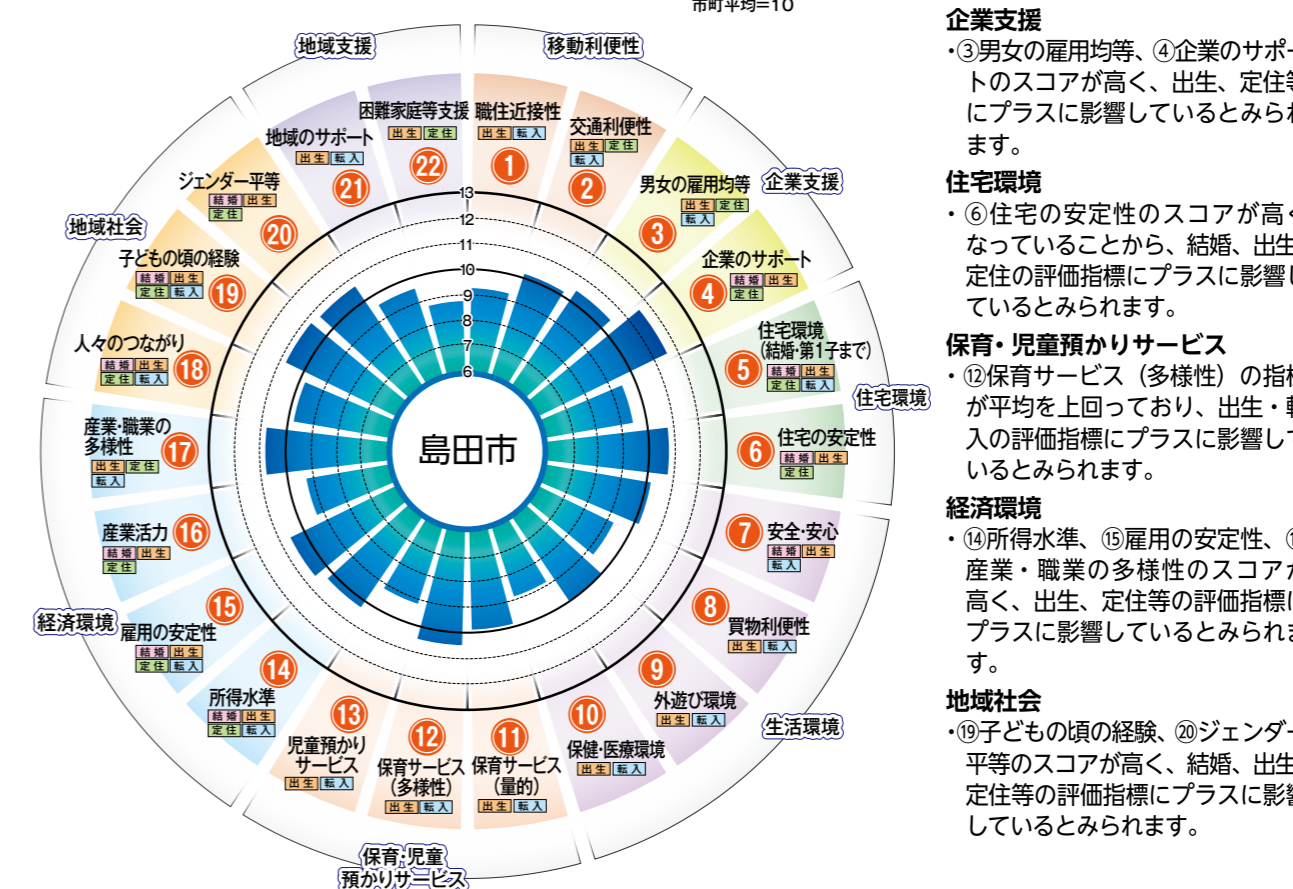
定住率と転入率(15-34歳、男女・年齢階層別、2018-2022年の年平均)



・島田市の転入超過率はマイナスで推移していました。これを定住率と転入率で表し、15-34歳でみても、2018-2022年の年平均は、男女とも定住率と転入率の計が100%ラインを下回っています。
・2018-2022年は、男女ともに県内市町の中で定住率が高く転入率が低いという特徴が強く表れている地域の1つです。

男女で比較すると、女性は、男性に比べ、定住率が低くなっています。
・年齢階層別にみると、男女ともに、20-24歳の社会増減率が低くなっています。低い定住率を転入率がカバーできていない状況が表れています。

4 次世代を育む地域環境バーチャート



企業支援
・③男女の雇用均等、④企業のサポートのスコアが高く、出生、定住等にプラスに影響しているとみられます。

住宅環境
・⑥住宅の安定性のスコアが高くなっていることから、結婚、出生、定住の評価指標にプラスに影響しているとみられます。

保育・児童預かりサービス
・⑫保育サービス(多様性)の指標が平均を上回っており、出生・転入の評価指標にプラスに影響しているとみられます。

経済環境
・⑭所得水準、⑮雇用の安定性、⑰産業・職業の多様性のスコアが高く、出生、定住等の評価指標にプラスに影響しているとみられます。

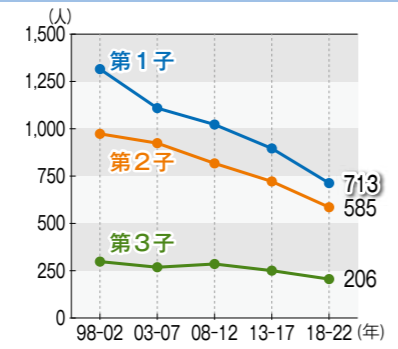
地域社会
・⑲子どもの頃の経験、⑳ジェンダー平等のスコアが高く、結婚、出生、定住等の評価指標にプラスに影響しているとみられます。



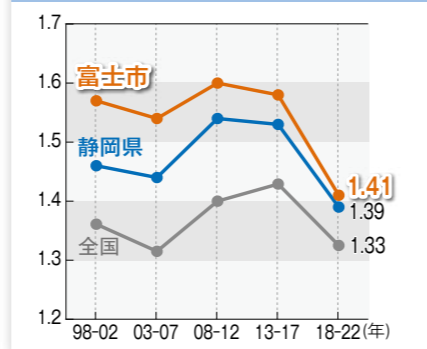
1 人口動態の概要

自然動態(出生)の状況

出生順位別出生数(年平均)の推移

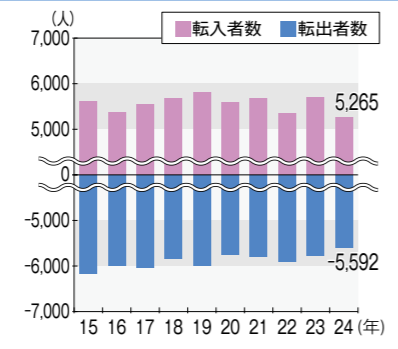


合計特殊出生率の推移

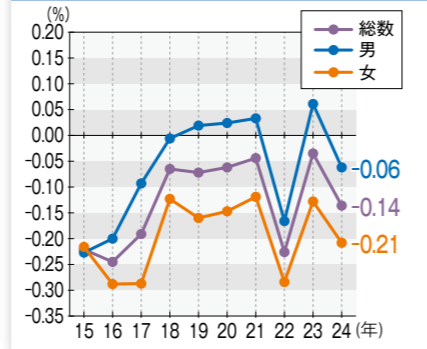


社会動態(全年齢)の状況

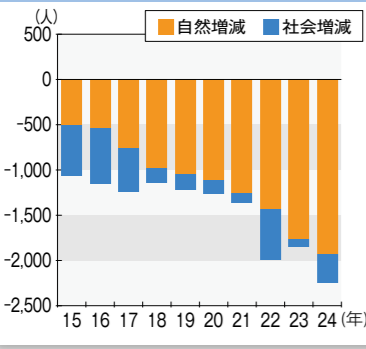
転入者数と転出者数の推移



転入超過率の推移



人口動態(全年齢)の推移



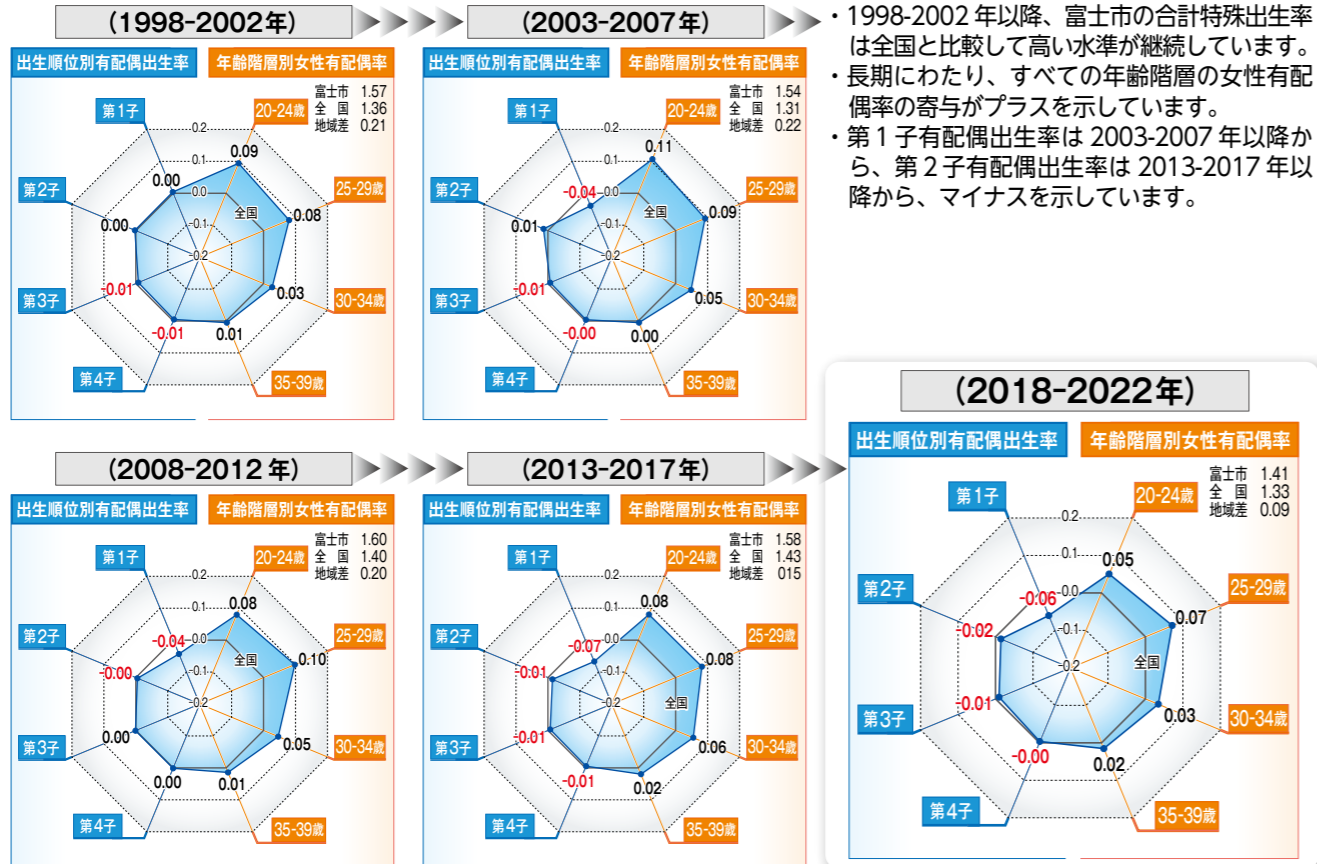
自然動態(出生)

・1998-2002年から第1子・第2子ともに減少が続いています。第3子は2013-2017年から緩やかに減少しています。

社会動態(全年齢)

・2022年を除き2023年まで転出超過は改善傾向でしたが、2024年から再び拡大しています。
・転入超過率のマイナス値は、女性が男性を上回る状況が続いています。

2 出生構造レーダーチャート

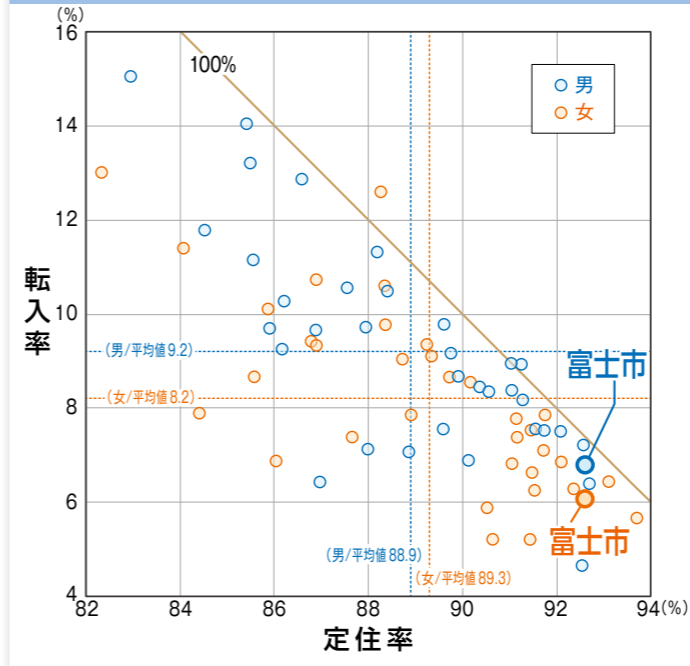


・1998-2002年以降、富士市の合計特殊出生率は全国と比較して高い水準が継続しています。
・長期にわたり、すべての年齢層の女性有配偶率の寄与がプラスを示しています。
・第1子有配偶出生率は2003-2007年以降から、第2子有配偶出生率は2013-2017年以降から、マイナスを示しています。

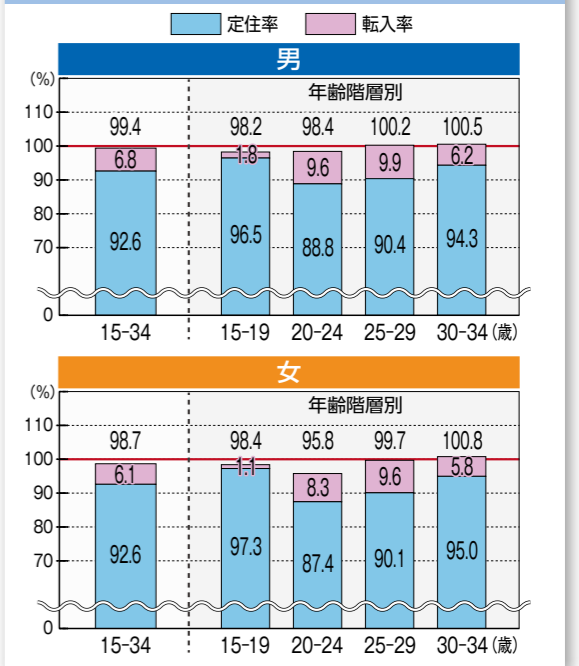
※出生構造レーダーチャートは、年齢層別女性有配偶出生率及び出生順位別有配偶出生率の全国との差が、合計特殊出生率の全国との差に対する寄与として表されている。

3 若年層の男女別・年齢階層別の社会動態

定住率と転入率(15-34歳、男女別、2018-2022年の年平均)



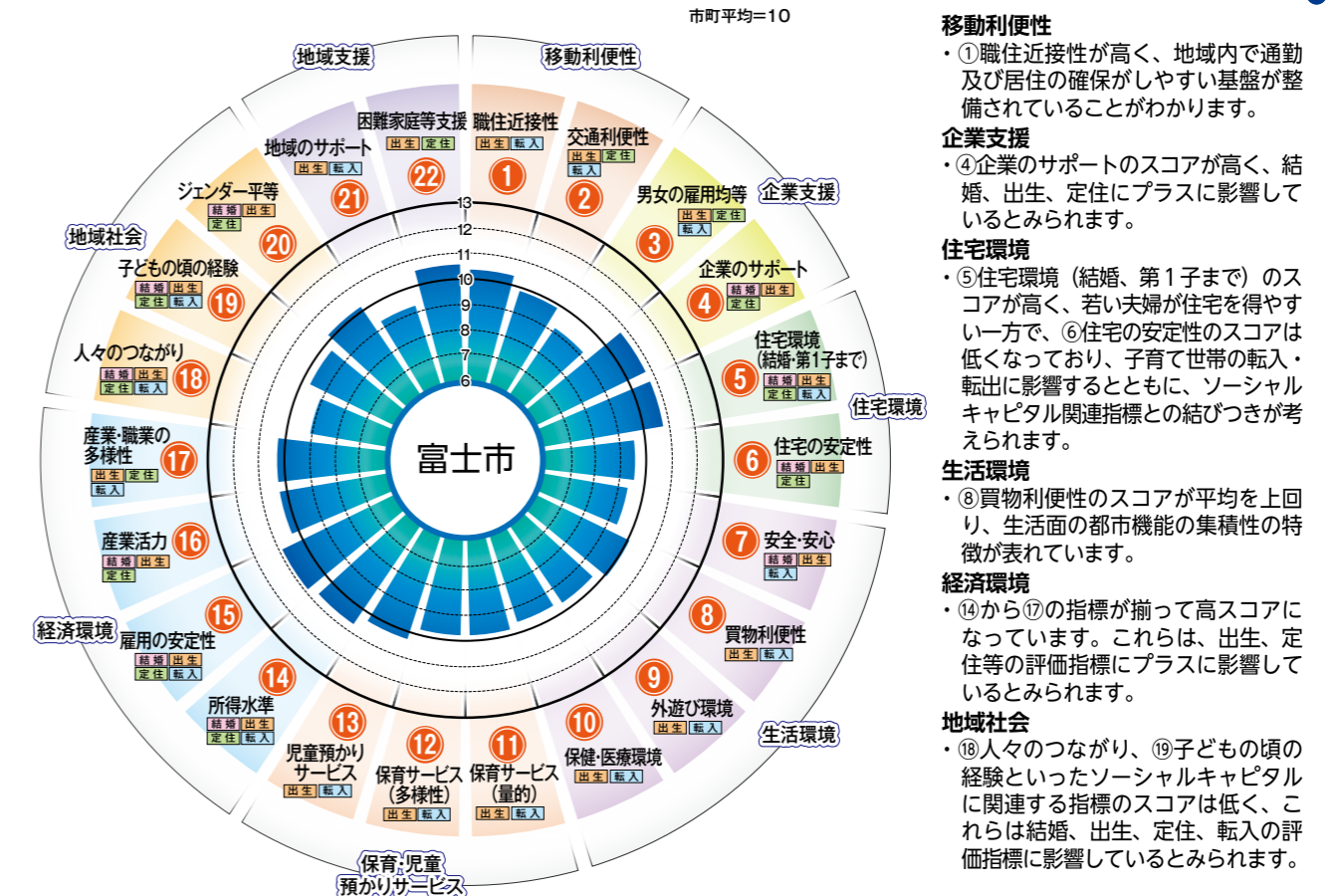
定住率と転入率(15-34歳、男女・年齢階層別、2018-2022年の年平均)



・富士市の社会動態の状況を定住率と転入率で表し、15-34歳で見た場合、2018-2022年の年平均は、男女とも定住率と転入率の計が100%ラインを下回っています。
・2018-2022年は、男女ともに、県平均より定住率が高く、転入率は低いという特徴がみられます。男女で比較すると、定住率に差はありませんが、女性は男性に比べて転入率が低

くなっています。
・年齢階層別にみると、女性の20-24歳の社会増減率は他年代より低く、定住率、転入率とも男性を下回ります。一方で、25-29歳と30-34歳は男女とも社会増減率が100%超又は100%に近い値となっています。

4 次世代を育む地域環境バーチャート



移動利便性
・①職住近接性が高く、地域内で通勤及び居住の確保がしやすい基盤が整備されていることがわかります。

企業支援
・④企業のサポートのスコアが高く、結婚、出生、定住にプラスに影響しているとみられます。

住宅環境
・⑤住宅環境(結婚、第1子まで)のスコアが高く、若い夫婦が住宅を得やすい一方で、⑥住宅の安定性のスコアは低くなっており、子育て世帯の転入・転出に影響するとともに、ソーシャルキャピタル関連指標との結びつきが考えられます。

生活環境
・⑧買物利便性のスコアが平均を上回り、生活面の都市機能の集積性の特徴が表れています。

経済環境
・⑭から⑰の指標が揃って高スコアになっています。これらは、出生、定住等の評価指標にプラスに影響しているとみられます。

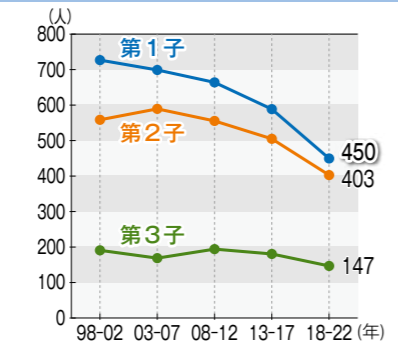
地域社会
・⑱人々のつながり、⑲子どもの頃の経験といったソーシャルキャピタルに関連する指標のスコアは低く、これらは結婚、出生、定住、転入の評価指標に影響しているとみられます。



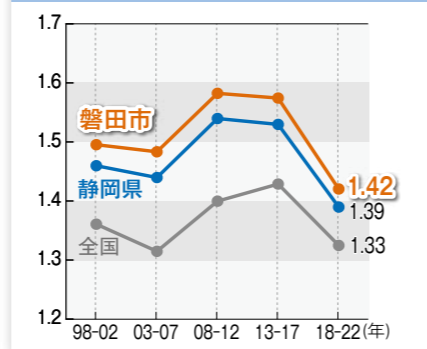
1 人口動態の概要

自然動態(出生)の状況

出生順位別出生数(年平均)の推移

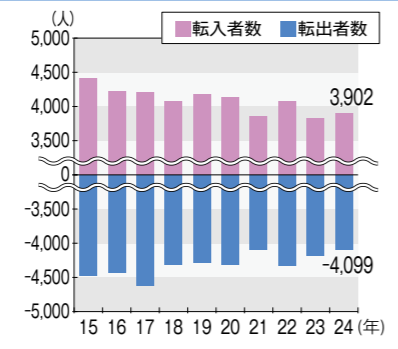


合計特殊出生率の推移

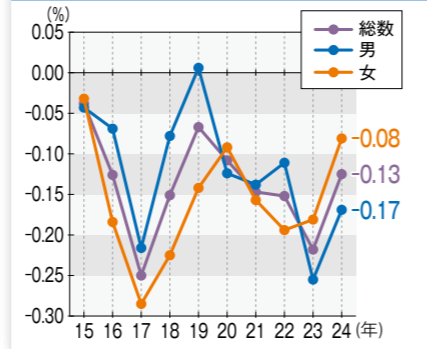


社会動態(全年齢)の状況

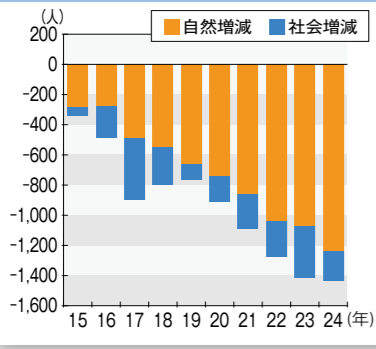
転入者数と転出者数の推移



転入超過率の推移



人口動態(全年齢)の推移



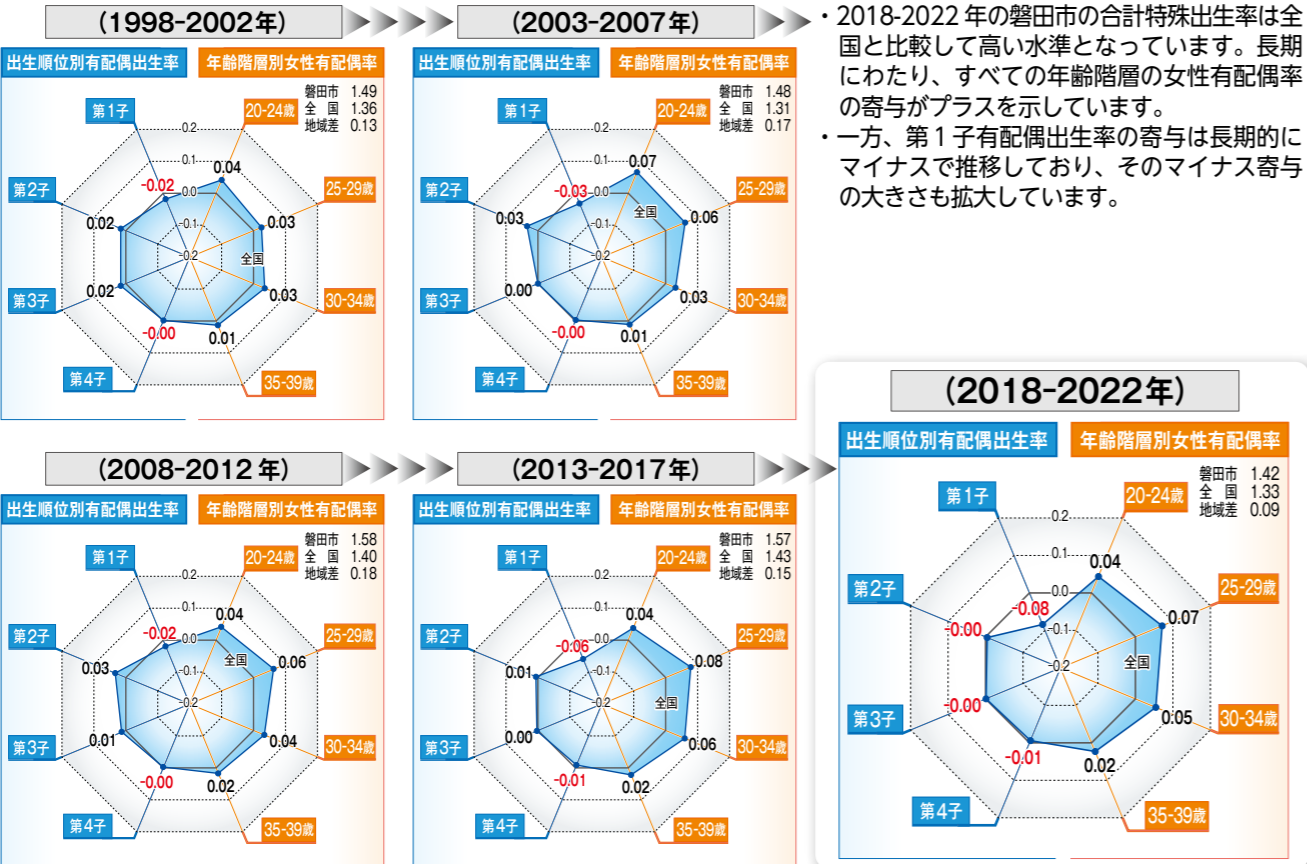
自然動態(出生)

・2013-2017年から連続で、第1子出生数の減少率が第2子を上回っています。

社会動態(全年齢)

・長期にわたり転出者が転入者を上回っていますが、直近年は転出超過数が縮小しました。
・転入超過率は男女で違いがみられ、その差は年によって変動しています。

2 出生構造レーダーチャート

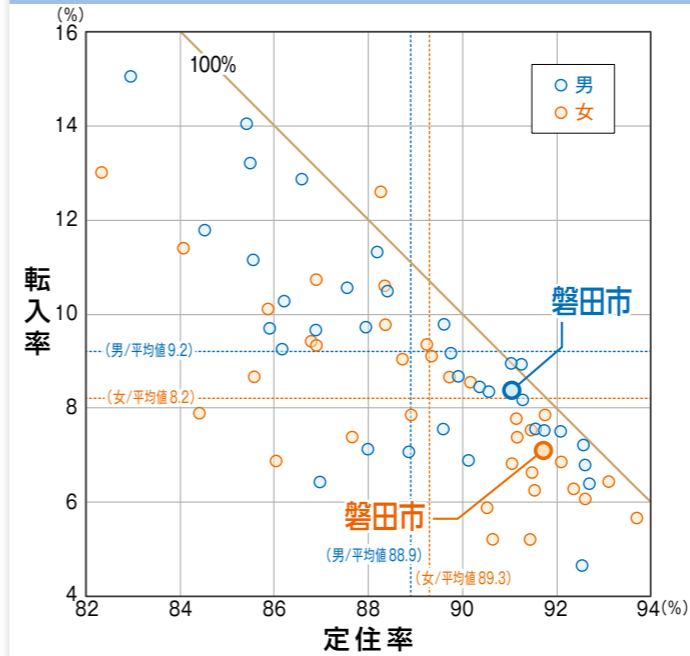


・2018-2022年の磐田市の合計特殊出生率は全国と比較して高い水準となっています。長期にわたり、すべての年齢階層の女性有配偶率の寄与がプラスを示しています。
・一方、第1子有配偶率の寄与は長期的にマイナスで推移しており、そのマイナス寄与の大きさも拡大しています。

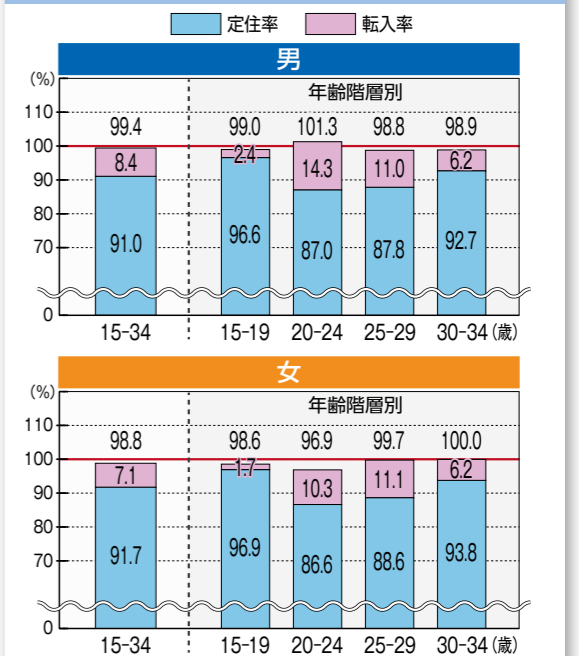
※出生構造レーダーチャートは、年齢階層別女性有配偶率及び出生順位別有配偶率の全国との差、合計特殊出生率の全国との差に対する寄与として表されている。

3 若年層の男女別・年齢階層別の社会動態

定住率と転入率(15-34歳、男女別、2018-2022年の年平均)



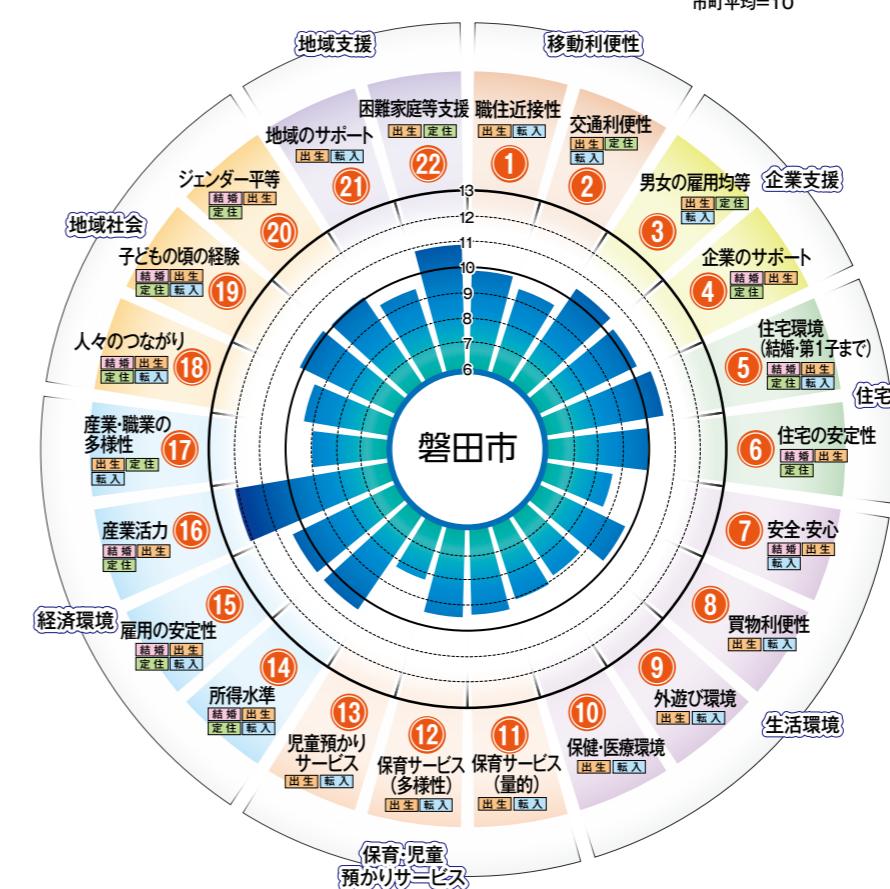
定住率と転入率(15-34歳、男女・年齢階層別、2018-2022年の年平均)



・磐田市の転入超過率はマイナスで推移していました。これを定住率と転入率で表し、15-34歳でみても、2018-2022年の年平均は、男女とも定住率と転入率の計が100%ラインを下回っています。
・2018-2022年は、男女ともに県内市町の中では、定住率が高く、転入率は低いという特徴がみられます。男女で比較すると、定住率にほとんど差はありませんが、女性の方が転入率が低くなって

います。このため、社会増減率は女性が男性をやや下回ります。
・年齢階層別にみると、女性の20-24歳の社会増減率が他に比べて低くなっています。これには、この年齢階層の女性の定住率と転入率の低さが影響しています。一方、男性の20-24歳は社会増減率は100%を上回っており、この年齢階層の高い転入率が寄与しているとみられます。

4 次世代を育む地域環境バーチャート



企業支援
・③男女の雇用均等、④企業のサポートのスコアが高く、出生、定住等にプラスに影響しているとみられます。

住宅環境
・⑤住宅環境(結婚、第1子まで)のスコアが高く、若い夫婦が住宅を得やすい特性が表れています。

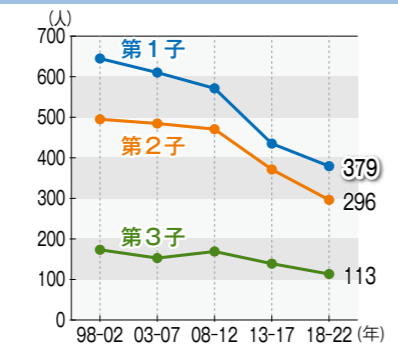
経済環境
・⑭所得水準から⑯産業活力までの指標のスコアが高くなっており、結婚、出生、定住等の評価指標にプラスに影響しているとみられます。

地域支援
・⑫困難家庭等支援が平均を上回っており、出生、定住にプラスの影響をもたらしているとみられます。

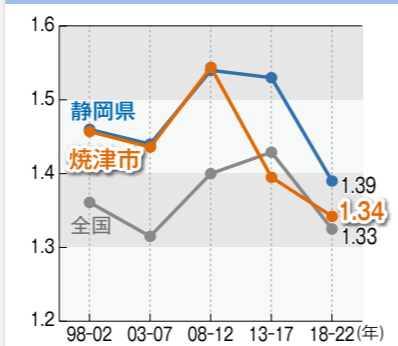
1 人口動態の概要

自然動態(出生)の状況

出生順位別出生数(年平均)の推移

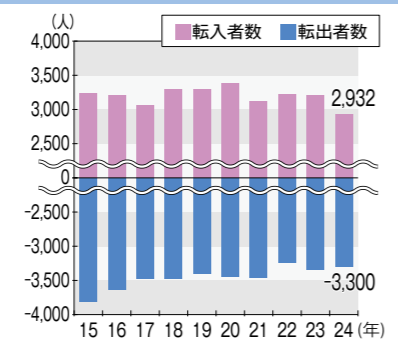


合計特殊出生率の推移

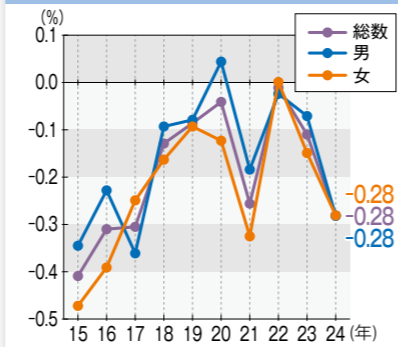


社会動態(全年齢)の状況

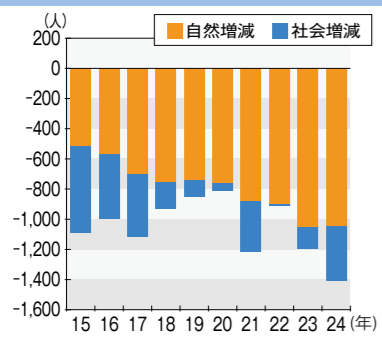
転入者数と転出者数の推移



転入超過率の推移



人口動態(全年齢)の推移



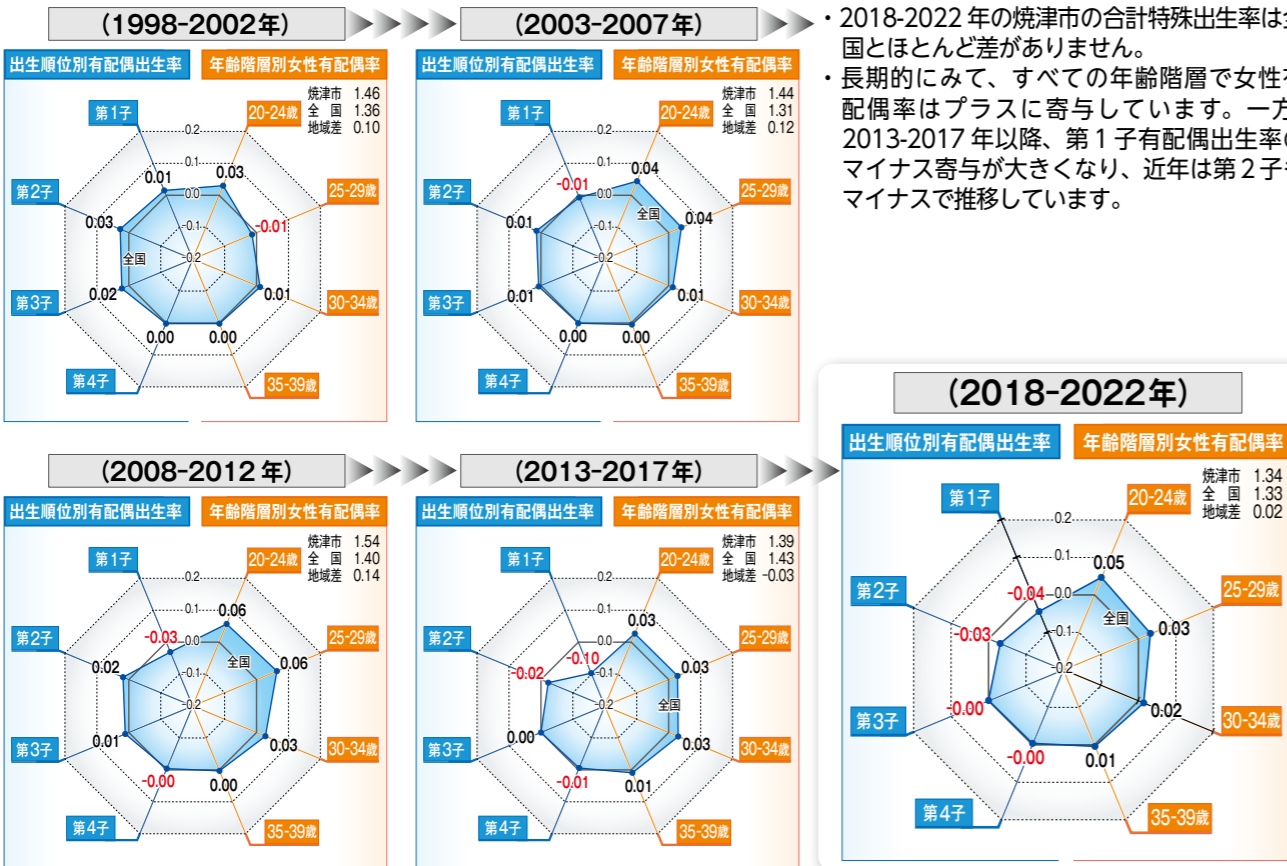
自然動態(出生)

・2003-2007年から第1子出生数の減少率が第2子を上回っていましたが、直近期間は第2子の減少率の方が高くなっています。

社会動態(全年齢)

・長期にわたり転出者が転入者を上回っていますが、2018年頃から転入増に転じるケースが見られ、改善傾向にあります。
・転入超過率は男女の動きに連動性がみられます。

2 出生構造レーダーチャート

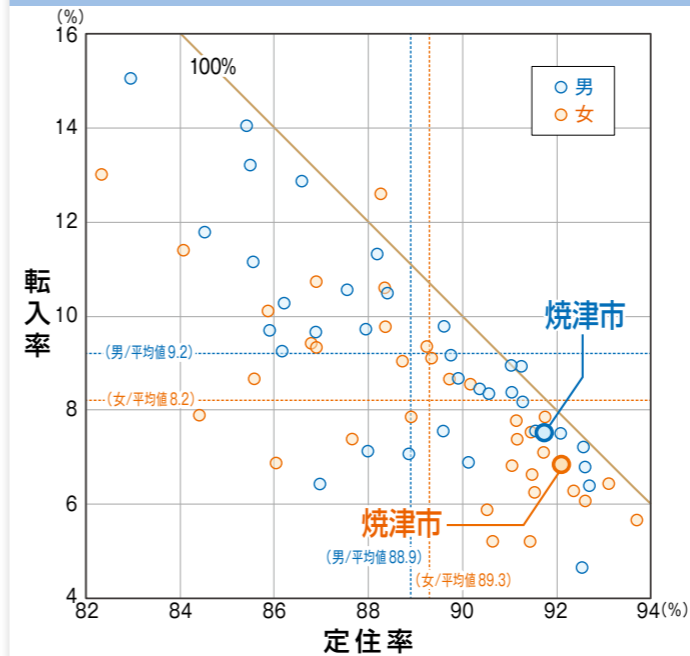


・2018-2022年の焼津市の合計特殊出生率は全国とほとんど差がありません。
・長期的にみて、すべての年齢階層で女性有配偶率はプラスに寄与しています。一方、2013-2017年以降、第1子有配偶出生率のマイナス寄与が大きくなり、近年は第2子もマイナスで推移しています。

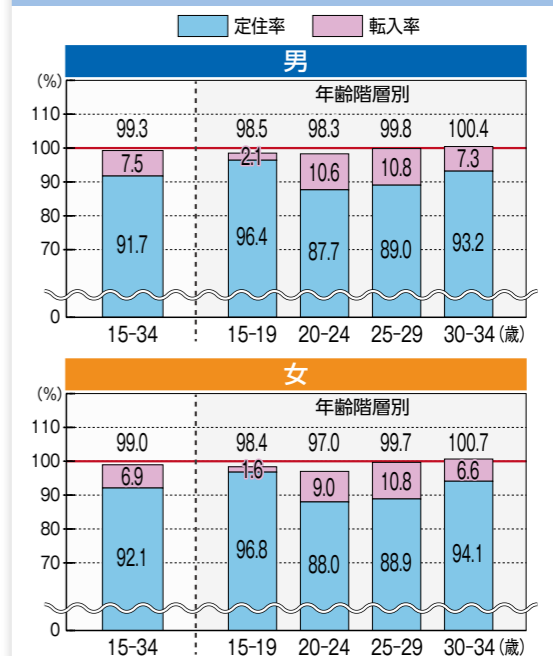
※出生構造レーダーチャートは、年齢階層別女性有配偶出生率及び出生順位別有配偶出生率の全国との差が、合計特殊出生率の全国との差に対する寄与として表されている。

3 若年層の男女別・年齢階層別の社会動態

定住率と転入率(15-34歳、男女別、2018-2022年の年平均)



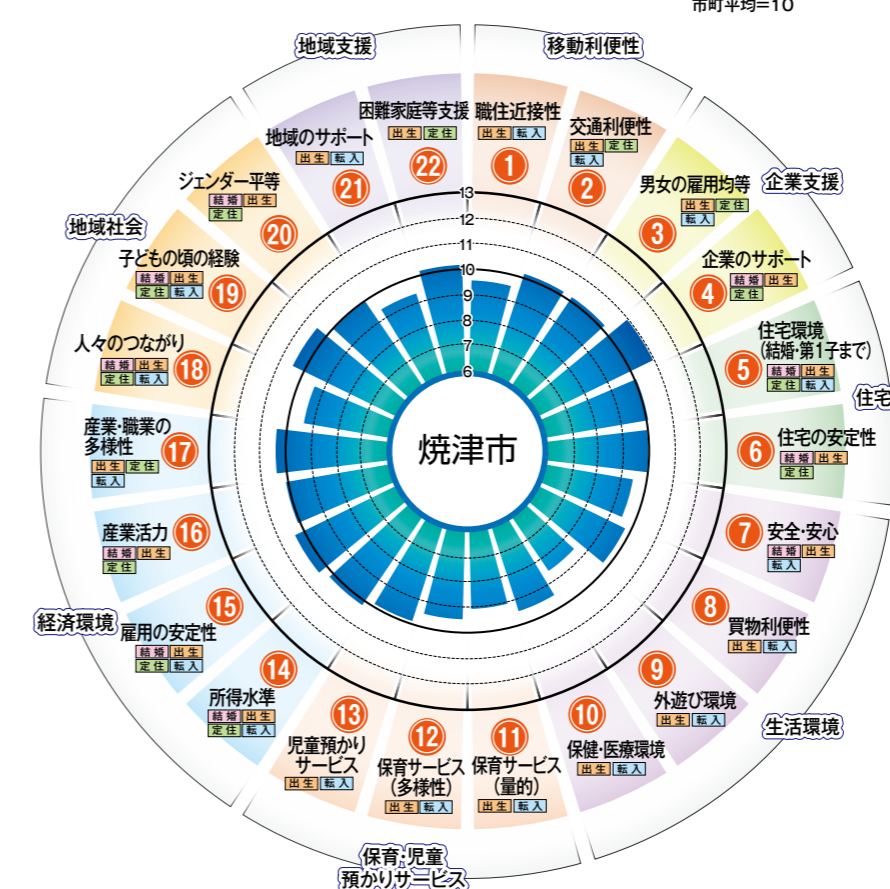
定住率と転入率(15-34歳、男女・年齢階層別、2018-2022年の年平均)



・焼津市の転入超過率はマイナスで推移していました。これを定住率と転入率で表し、15-34歳でみても、2018-2022年の年平均は、男女とも定住率と転入率の計が100%ラインを下回っています。
・2018-2022年は、男女ともに県内市町の中では定住率が高く、転入率は低いという特徴がみられます。男女で比較すると、女性は転入率が男性に比べてやや低い程度で、大きな差はみ

られません。
・年齢階層別にみると、男女ともに20-24歳の社会増減率が低く、女性の方がこの傾向が顕著です。この年齢階層の低い定住率を転入率がカバーできていない状況ですが、女性は男性よりも転入率が低くなっています。ただし、男女とも30-34歳は社会増減率が100%を上回ります。

4 次世代を育む地域環境バーチャート



移動利便性
・②交通利便性が高く、周辺地域への通勤等に利用する基盤が整備されていることがわかります。

企業支援
・③男女の雇用均等、④企業のサポートのスコアが共に高く、出生、定住等にプラスに影響しているとみられます。

生活環境
・⑦から⑩のスコアが軒並み平均を下回っていることから、出生、転入等の評価指標にマイナスに影響しているとみられます。

経済環境
・⑭所得水準から⑰産業・職業の多様性までのスコアが高くなっており、出生、定住等の評価指標にプラスに影響しているとみられます。

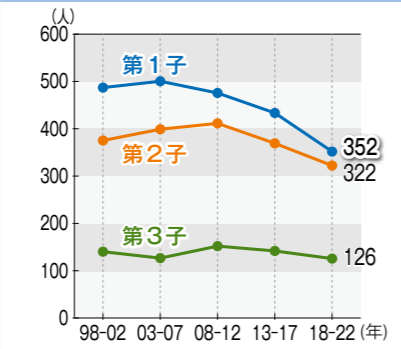
地域社会
・⑲子どもの頃の経験のスコアが高く、結婚、出生、定住、転入にプラスに影響しているとみられます。



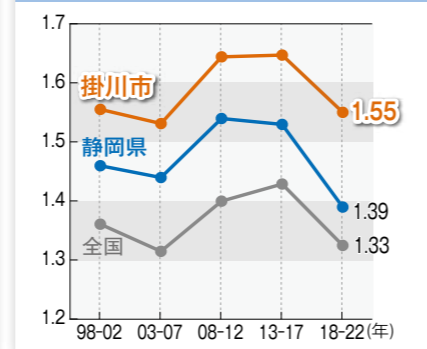
1 人口動態の概要

自然動態(出生)の状況

出生順位別出生数(年平均)の推移

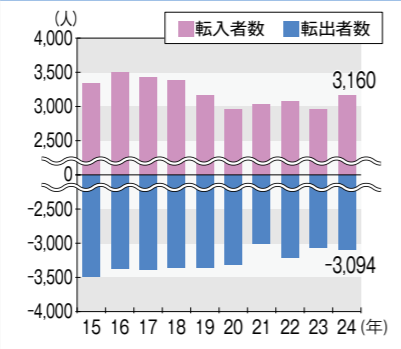


合計特殊出生率の推移

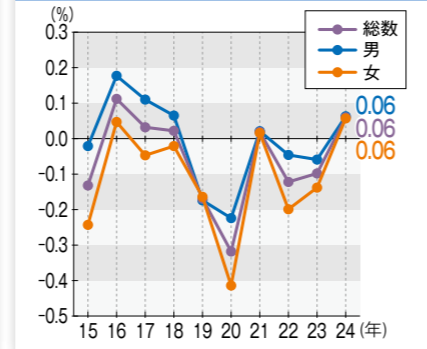


社会動態(全年齢)の状況

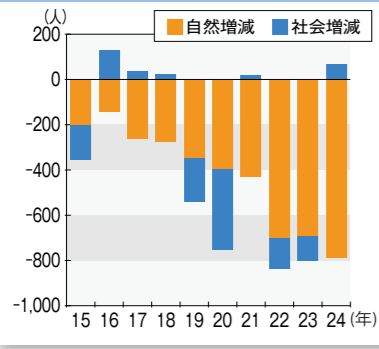
転入者数と転出者数の推移



転入超過率の推移



人口動態(全年齢)の推移



自然動態(出生)

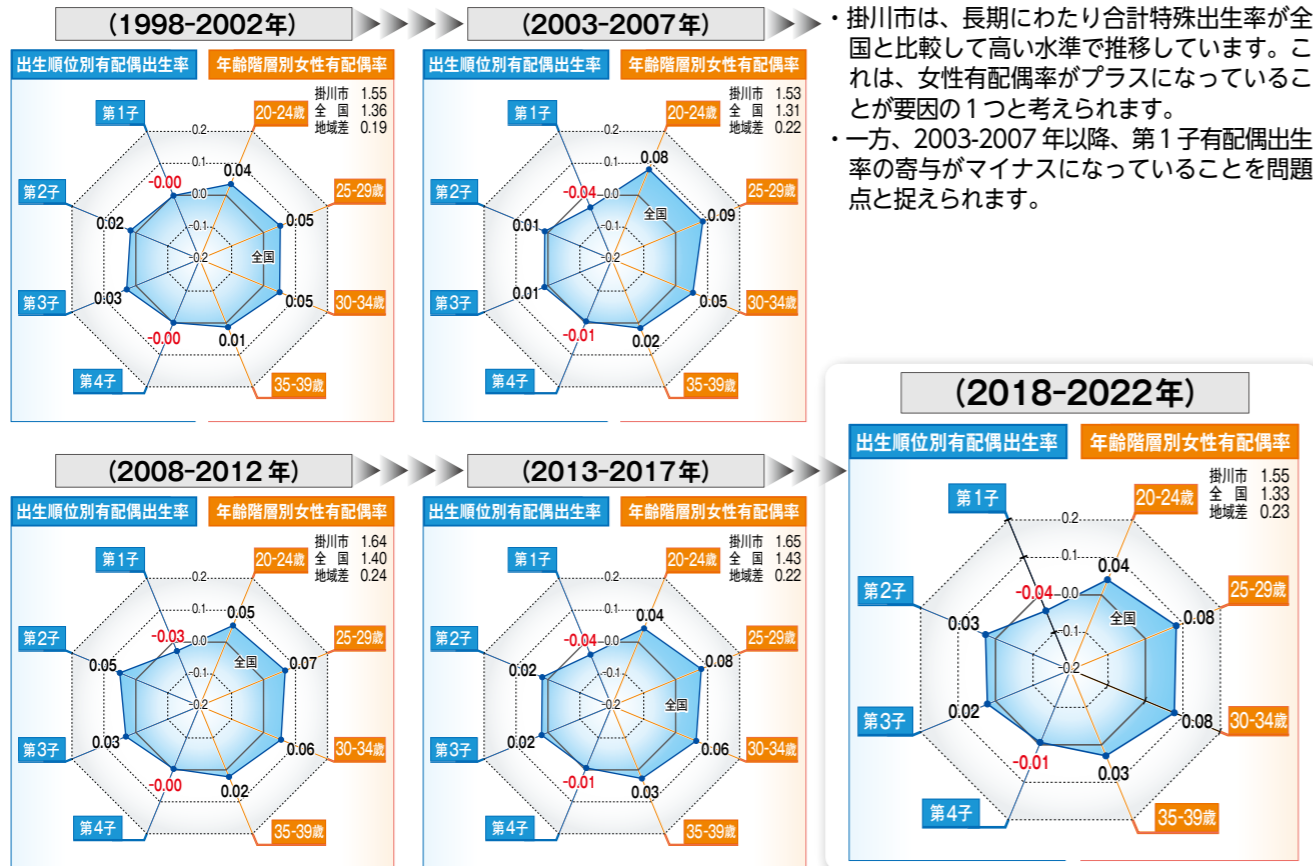
・2008-2012年から第1子出生数は減少していますが、直近期間では第2子の減少率を上回っています。

社会動態(全年齢)

・転入超過がプラスの年とマイナスの年がありますが、長期的にはマイナスが大きくなっています。

・直近年の転入超過率は男女でほぼ同じ値でしたが、長期的には女性の方が転入超過率のマイナスが大きくなっています。

2 出生構造レーダーチャート



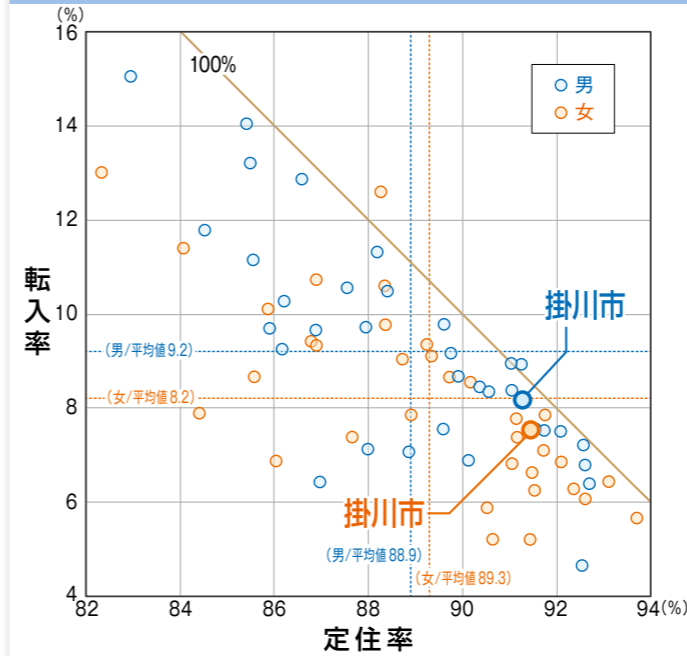
・掛川市は、長期にわたり合計特殊出生率が全国と比較して高い水準で推移しています。これは、女性有配偶率がプラスになっていることが要因の1つと考えられます。

・一方、2003-2007年以降、第1子有配偶出生率の寄与がマイナスになっていることを問題点と捉えられます。

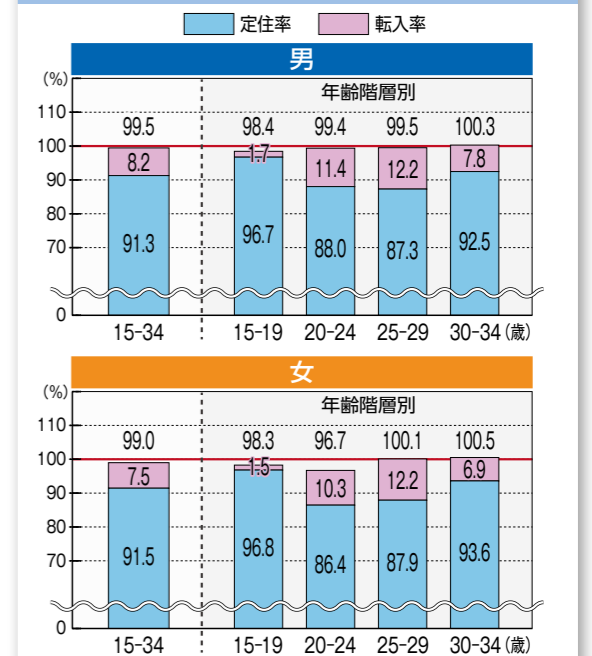
※出生構造レーダーチャートは、年齢階層別女性有配偶出生率及び出生順位別有配偶出生率の全国との差が、合計特殊出生率の全国との差に対する寄与として表されている。

3 若年層の男女別・年齢階層別の社会動態

定住率と転入率(15-34歳、男女別、2018-2022年の年平均)



定住率と転入率(15-34歳、男女・年齢階層別、2018-2022年の年平均)



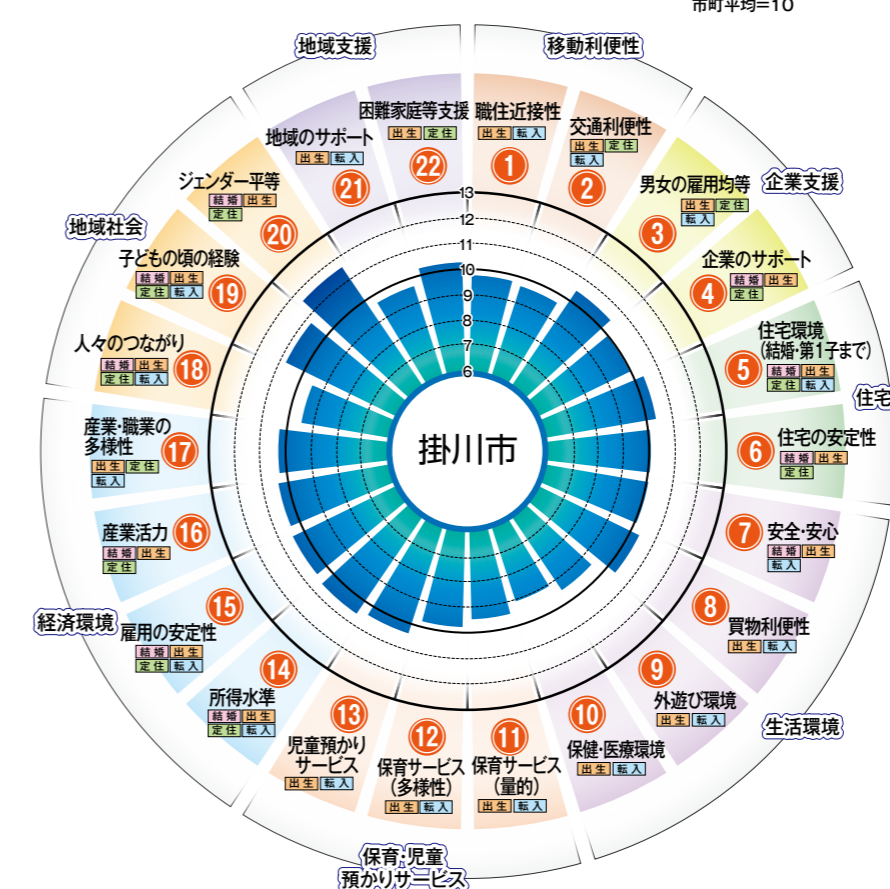
・掛川市の転入超過率は2019年と2020年に大きなマイナスで推移しました。これを定住率と転入率で表し、15-34歳でも、2018-2022年の年平均は、男女とも定住率と転入率の計が100%ラインを下回っています。

・2018-2022年は、男女ともに県内市町の中では比較的定住率が高く、転入率は低い地域に分類されます。男女で比較す

ると、定住率に差はみられないものの、女性の方が転入率がやや低くなっています。

・年齢階層別にみると、女性の20-24歳の社会増減率が低くなっています。低い定住率を転入率がカバーできていない状況ですが、同じ年齢階層の男性に比べて、女性は定住率、転入率ともに低くなっています。

4 次世代を育む地域環境バーチャート



企業支援

・③男女の雇用均等のスコアが高く、出生、転入、定住にプラスに影響しているとみられます。

生活環境

・⑧買物利便性のスコアが平均を上回っており、出生、転入の評価指標にプラスに影響しているとみられます。

経済環境

・⑭から⑰の指標のスコアが揃って平均を上回っています。これらは、出生、定住等の評価指標にプラスに影響しているとみられます。

地域社会

・⑲子どもの頃の経験、⑳ジェンダー平等のスコアが高く、結婚、出生、定住等の評価指標にプラスに影響しているとみられます。

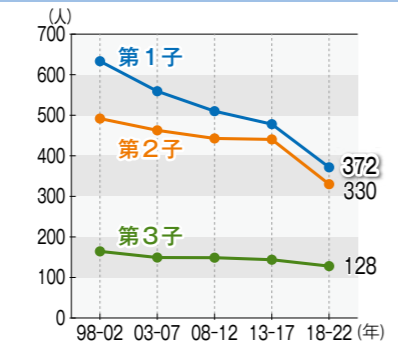
地域支援

・㉒困難家庭等支援が平均を上回っており、出生、定住にプラスの影響をもたらしているとみられます。

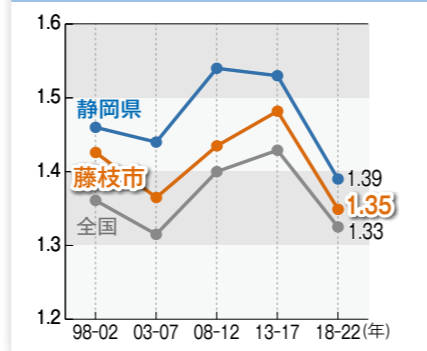
1 人口動態の概要

自然動態(出生)の状況

出生順位別出生数(年平均)の推移

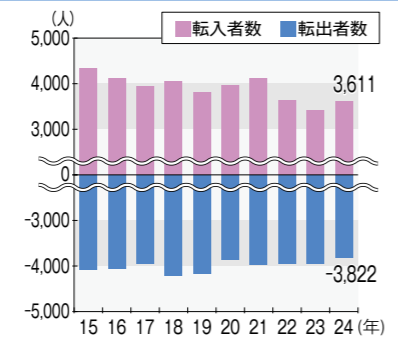


合計特殊出生率の推移

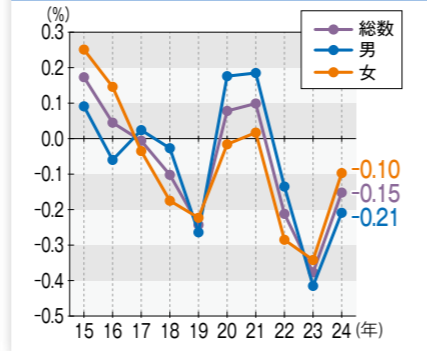


社会動態(全年齢)の状況

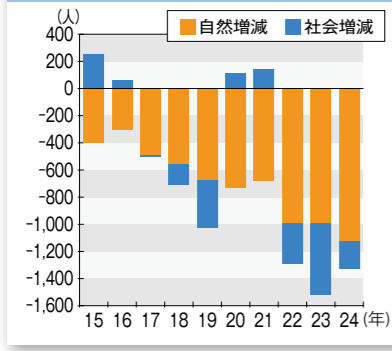
転入者数と転出者数の推移



転入超過率の推移



人口動態(全年齢)の推移



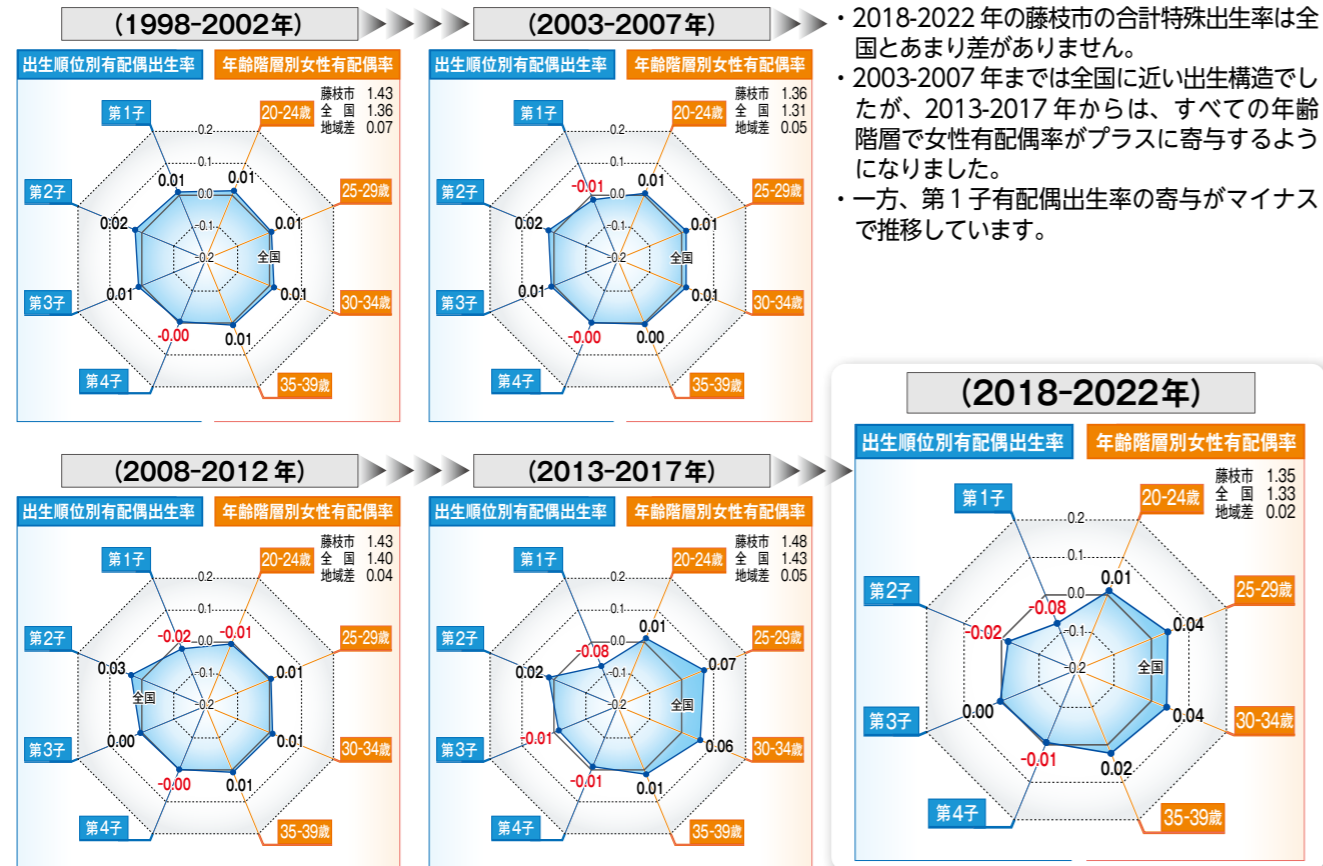
自然動態(出生)

・直近期間の2018-2022年は、第1子と第2子の出生数の減少率が大きくなっています。

社会動態(全年齢)

・2022年から3年連続で転出者が転入者を上回っています。
・転入超過率は男女の推移に連動性がみられます。

2 出生構造レーダーチャート

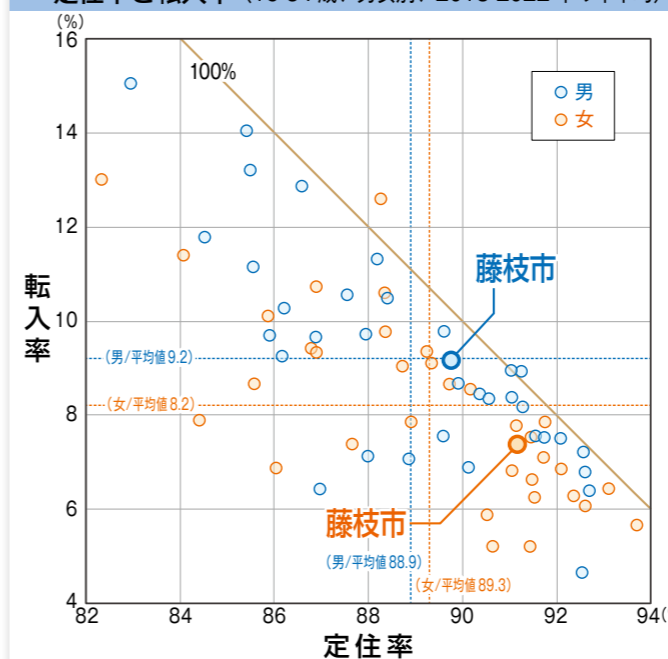


・2018-2022年の藤枝市の合計特殊出生率は全国とあまり差がありません。
・2003-2007年までは全国に近い出生構造でしたが、2013-2017年からは、すべての年齢階層で女性有配偶率がプラスに寄与するようになりました。
・一方、第1子有配偶率の寄与がマイナスで推移しています。

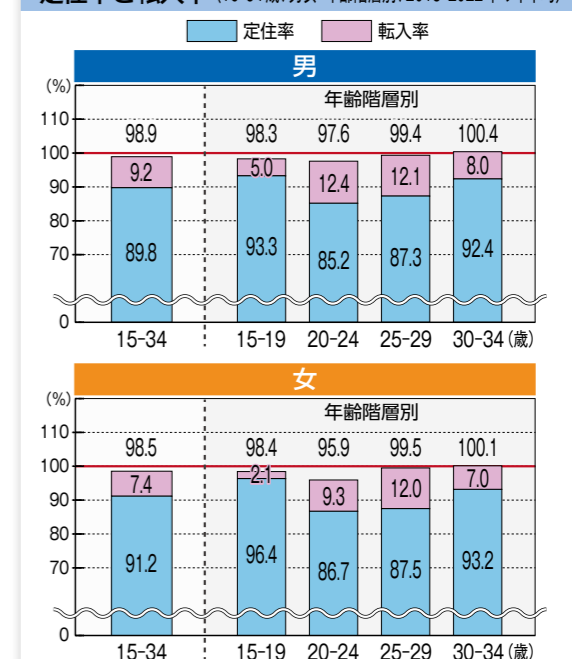
※出生構造レーダーチャートは、年齢階層別女性有配偶率及び出生順位別有配偶率の全国との差が、合計特殊出生率の全国との差に対する寄与として表されている。

3 若年層の男女別・年齢階層別の社会動態

定住率と転入率(15-34歳、男女別、2018-2022年の年平均)



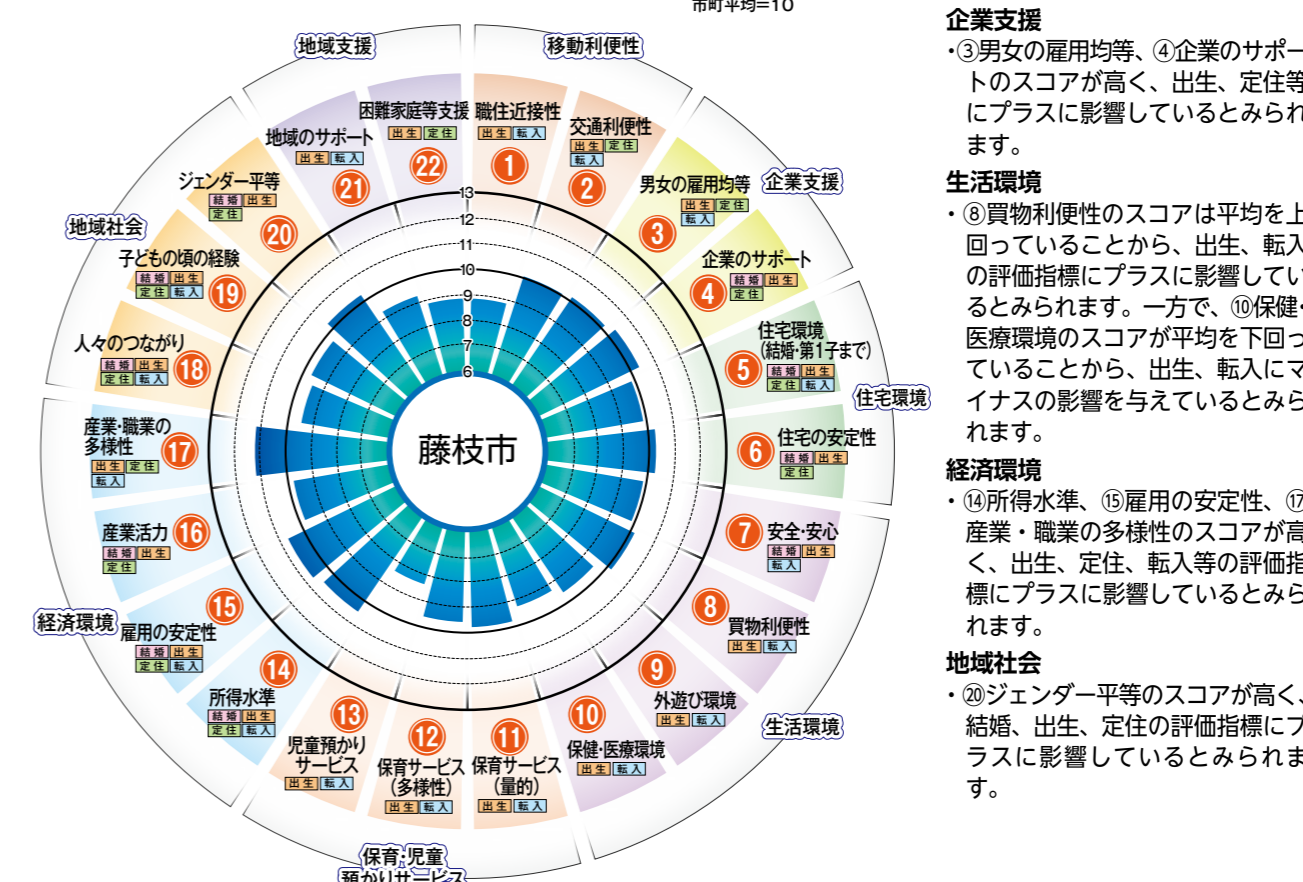
定住率と転入率(15-34歳、男女・年齢階層別、2018-2022年の年平均)



・藤枝市の転入超過率は2017年以降、2020年と2021年を除きマイナスで推移していました。これを定住率と転入率で表し、15-34歳でみても、2018-2022年の年平均は、男女とも定住率と転入率の計が100%ラインを下回っています。
・2018-2022年は、県内市町の中では男性は定住率、転入率とも平均的ですが、女性は県内市町の中でも定住率が高く転

入率が低い地域になっています。男女で定住率、転入率に比較的大きな差がみられる地域です。
・年齢階層別にみると、男女ともに、20-24歳の社会増減率が低くなっていますが、この傾向は女性において顕著です。20-24歳では、定住率は女性の方が高いものの、女性は低い転入率が響いています。

4 次世代を育む地域環境バーチャート



企業支援
・③男女の雇用均等、④企業のサポートのスコアが高く、出生、定住等にプラスに影響しているとみられます。

生活環境
・⑧買物利便性のスコアは平均を上回っていることから、出生、転入の評価指標にプラスに影響しているとみられます。一方で、⑩保健・医療環境のスコアが平均を下回っていることから、出生、転入にマイナスの影響を与えているとみられます。

経済環境
・⑭所得水準、⑮雇用の安定性、⑰産業・職業の多様性のスコアが高く、出生、定住、転入等の評価指標にプラスに影響しているとみられます。

地域社会
・⑳ジェンダー平等のスコアが高く、結婚、出生、定住の評価指標にプラスに影響しているとみられます。

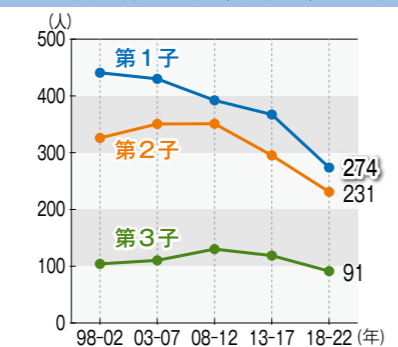


- 静岡県
- 浜松市
- 沼津市
- 熱海市
- 三島市
- 富士宮市
- 伊東市
- 島田市
- 富士市
- 磐田市
- 焼津市
- 掛川市
- 藤枝市
- 御殿場市
- 袋井市
- 下田市
- 裾野市
- 湖西市
- 伊豆市
- 御前崎市
- 菊川市
- 伊豆の国市
- 牧之原市
- 東伊豆町
- 河津町
- 南伊豆町
- 松崎町
- 西伊豆町
- 函南町
- 清水町
- 長泉町
- 小山町
- 吉田町
- 川根本町
- 森町

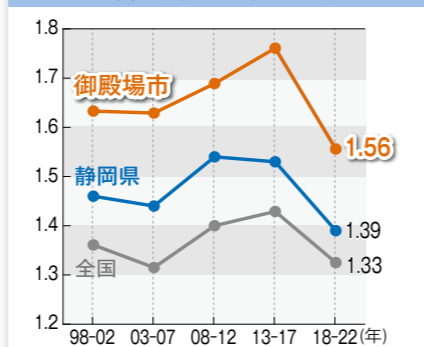
1 人口動態の概要

自然動態(出生)の状況

出生順位別出生数(年平均)の推移

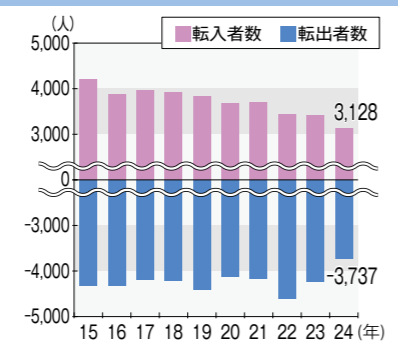


合計特殊出生率の推移

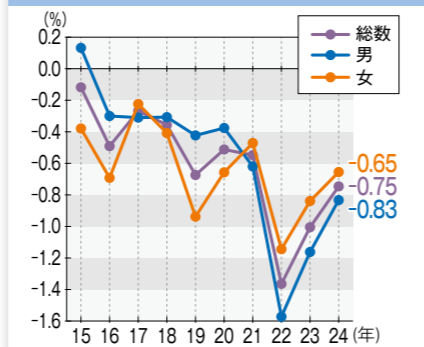


社会動態(全年齢)の状況

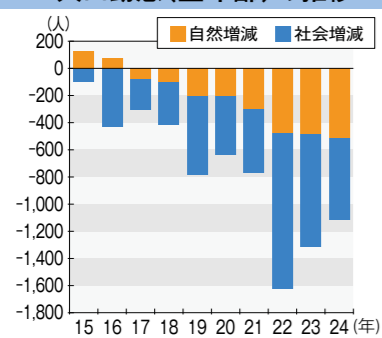
転入者数と転出者数の推移



転入超過率の推移



人口動態(全年齢)の推移



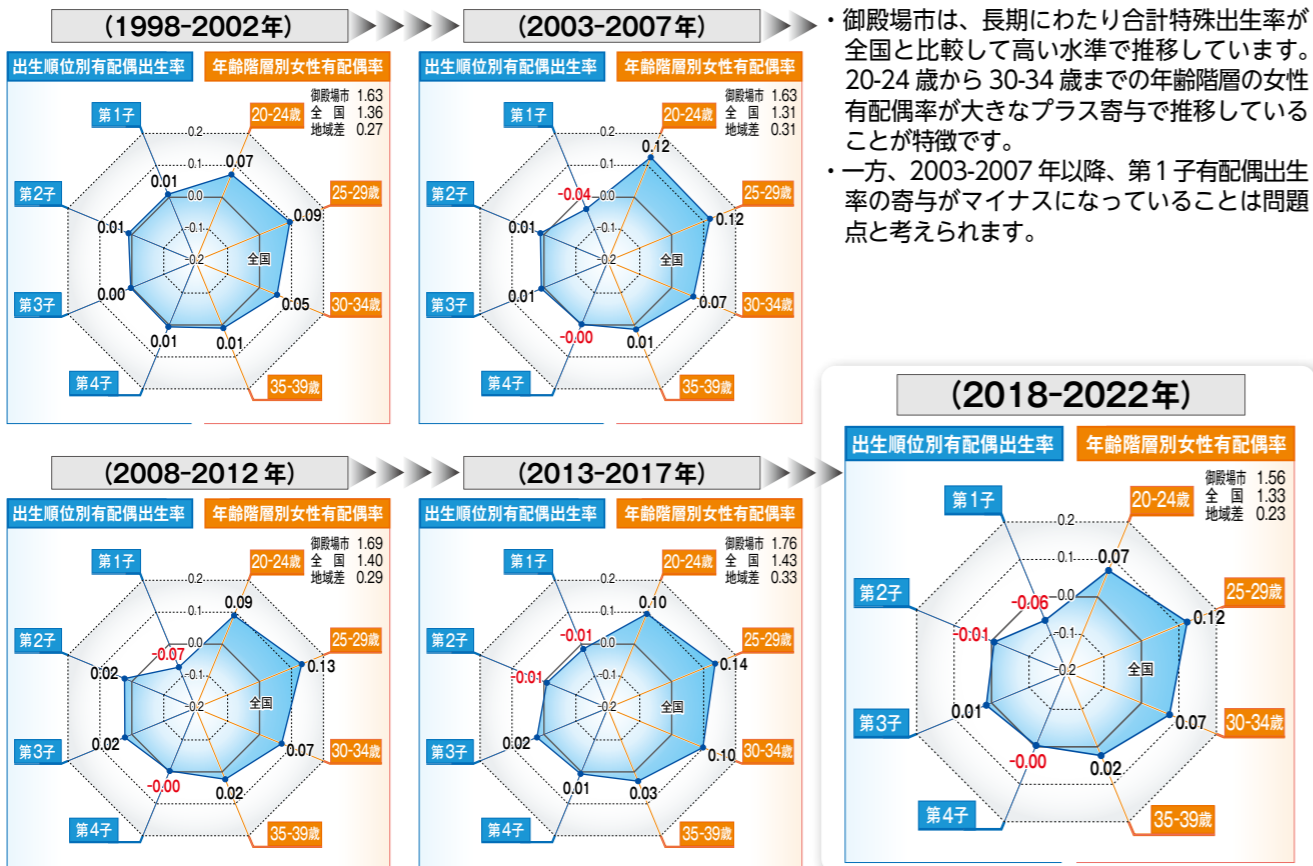
自然動態(出生)

・直近期間の2018-2022年では、第1子出生数の減少率が第2子を上回っています。

社会動態(全年齢)

・長期にわたり転出超過が続いています。近年はやや転出超過数が減少しました。
・転入超過率は、ここ4年間、男性の方が大きなマイナスになっています

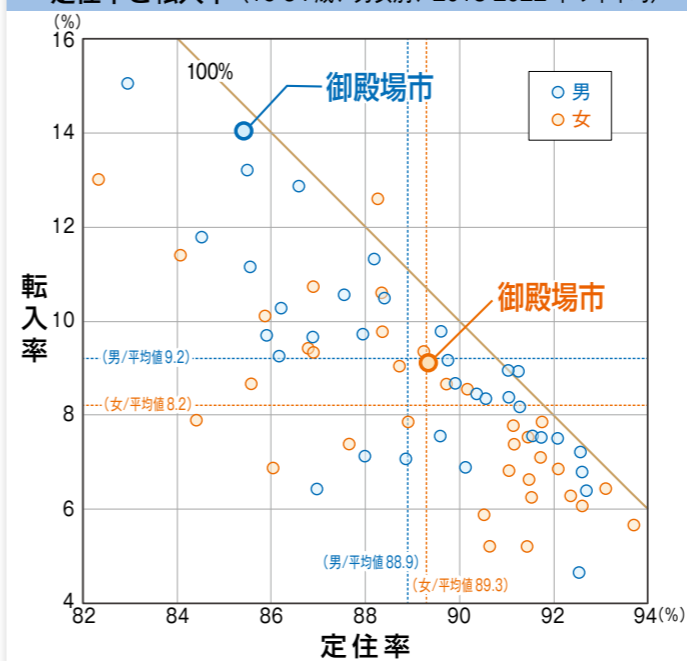
2 出生構造レーダーチャート



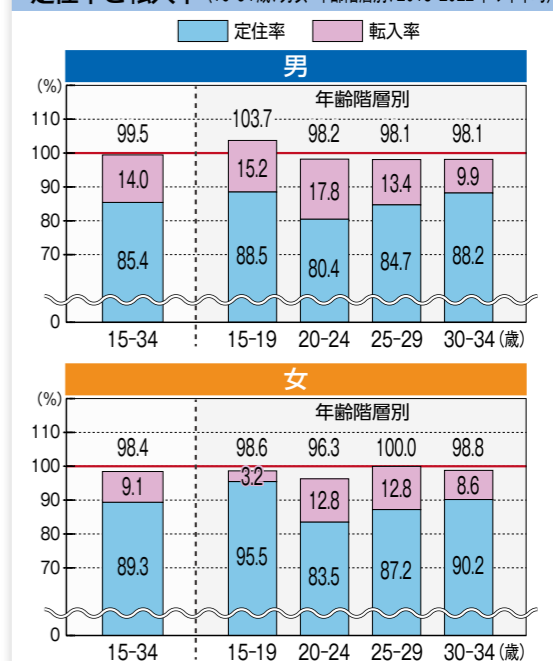
※出生構造レーダーチャートは、年齢階層別女性有配偶出生率及び出生順位別有配偶出生率の全国との差が、合計特殊出生率の全国との差に対する寄与として表されている。

3 若年層の男女別・年齢階層別の社会動態

定住率と転入率(15-34歳、男女別、2018-2022年の年平均)



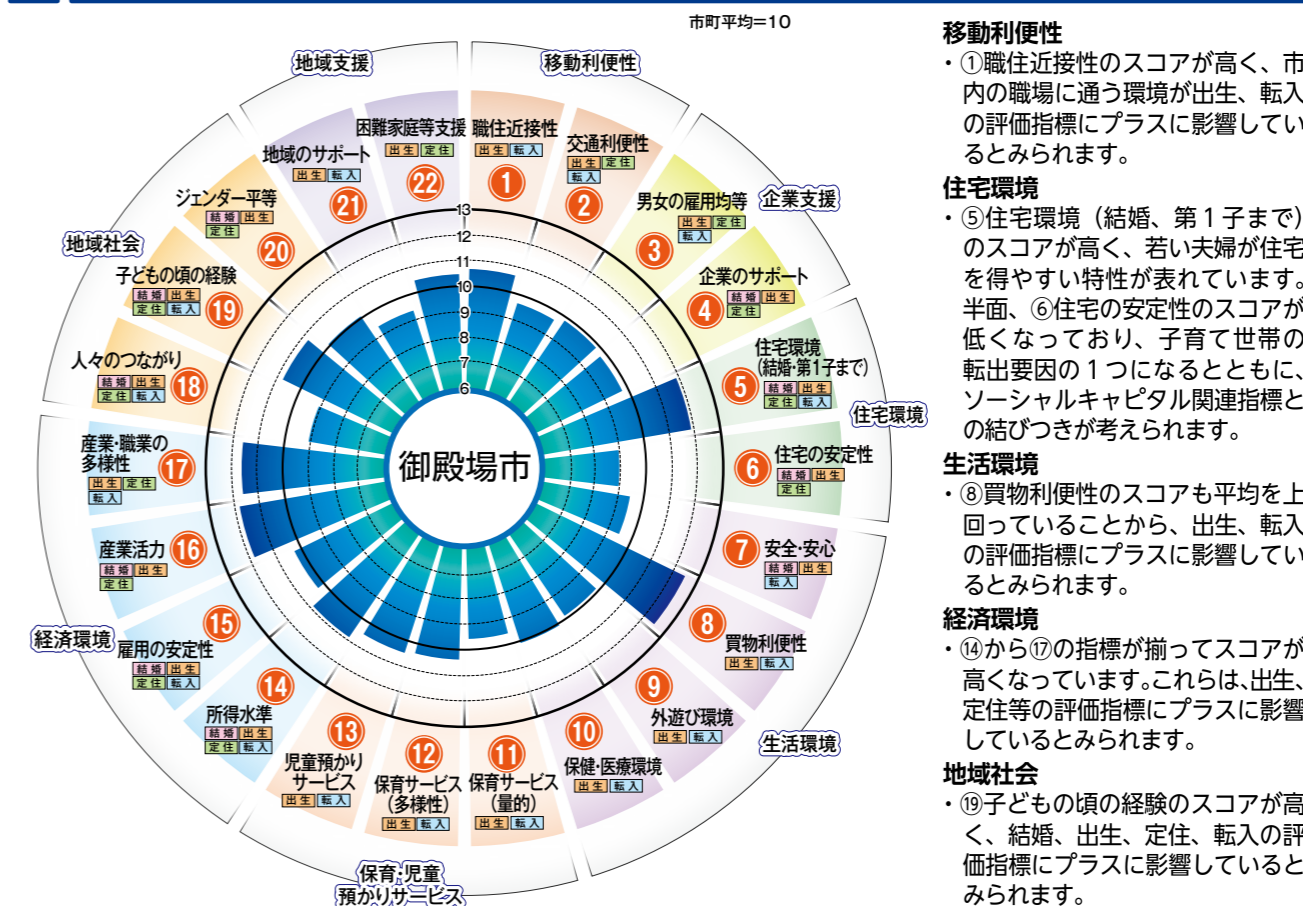
定住率と転入率(15-34歳、男女・年齢階層別、2018-2022年の年平均)



・御殿場市の転入超過率は2017年以降マイナスで推移していました。これを定住率と転入率で表し、15-34歳でみても、2018-2022年の年平均は、男女とも定住率と転入率の計が100%ラインを下回っています。
・2018-2022年は、県内市町の中で、男性は定住率がかなり低く、逆に転入率は際立って高いという特徴を持ちます。女性の定住率、転入率は県内市町の平均に近いため、社会増減率に大きな差ではない

ものの、男女で定住率、転入率に極めて大きな差が生じています。
・年齢階層別にみると、男性の15-19歳の社会増減率が100%を大きく超えています。この理由は転入率が極めて高いことです。一方、この年齢階層の女性の社会増減率は100%を下回っています。20-24歳の社会増減率は男女とも100%を下回り、女性の方が値が低くなっています。ここにも男性の高い転入率が影響しています。

4 次世代を育む地域環境バーチャート



移動利便性

・①職住近接性のスコアが高く、市内の職場に通う環境が出生、転入の評価指標にプラスに影響しているとみられます。

住宅環境

・⑤住宅環境(結婚、第1子まで)のスコアが高く、若い夫婦が住宅を得やすい特性が表れています。半面、⑥住宅の安定性のスコアが低くなっており、子育て世帯の転出要因の1つになるとともに、ソーシャルキャピタル関連指標との結びつきが考えられます。

生活環境

・⑧買物利便性のスコアも平均を上回っていることから、出生、転入の評価指標にプラスに影響しているとみられます。

経済環境

・⑭から⑰の指標が揃ってスコアが高くなっています。これらは、出生、定住等の評価指標にプラスに影響しているとみられます。

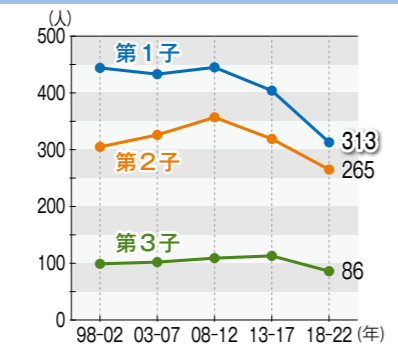
地域社会

・⑩子どもの頃の経験のスコアが高く、結婚、出生、定住、転入の評価指標にプラスに影響しているとみられます。

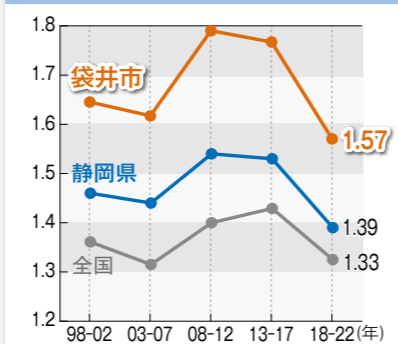
1 人口動態の概要

自然動態(出生)の状況

出生順位別出生数(年平均)の推移

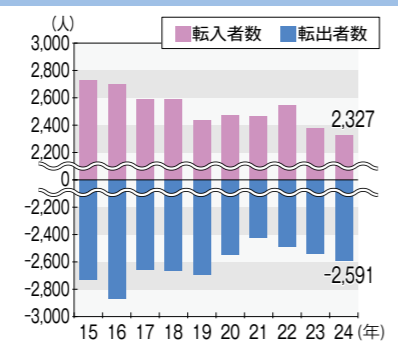


合計特殊出生率の推移

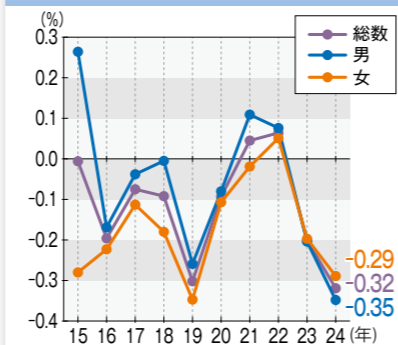


社会動態(全年齢)の状況

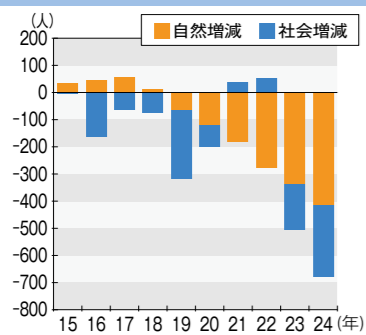
転入者数と転出者数の推移



転入超過率の推移



人口動態(全年齢)の推移



自然動態(出生)

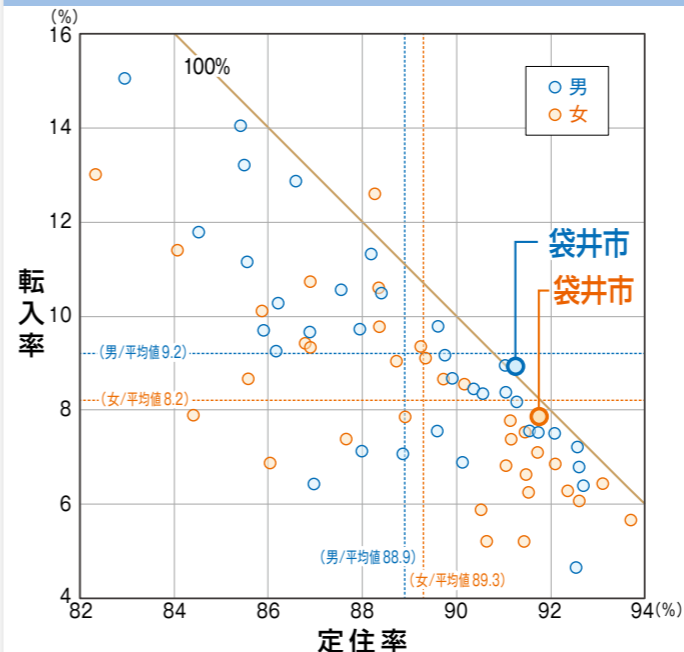
・直近期間の2018-2022年は、第1子出生数の減少率が第2子を上回っています。

社会動態(全年齢)

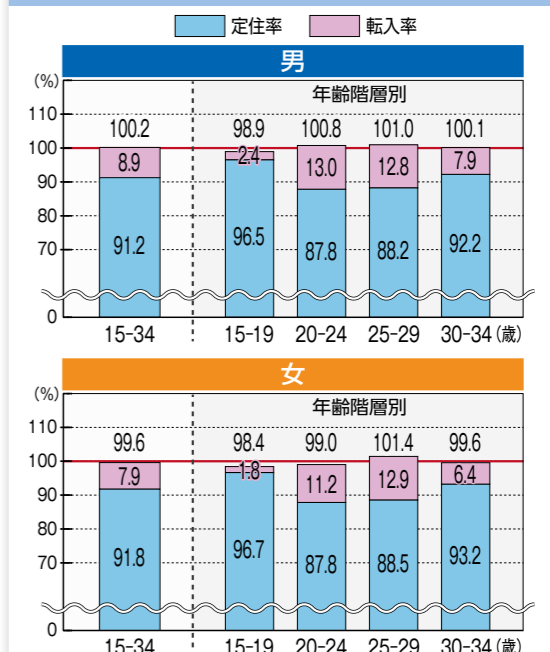
・2023年以降、転出者が転入者を上回るようになっていきます。
・転入超過率は男女の推移に連動性がみられます。

3 若年層の男女別・年齢階層別の社会動態

定住率と転入率(15-34歳、男女別、2018-2022年の年平均)



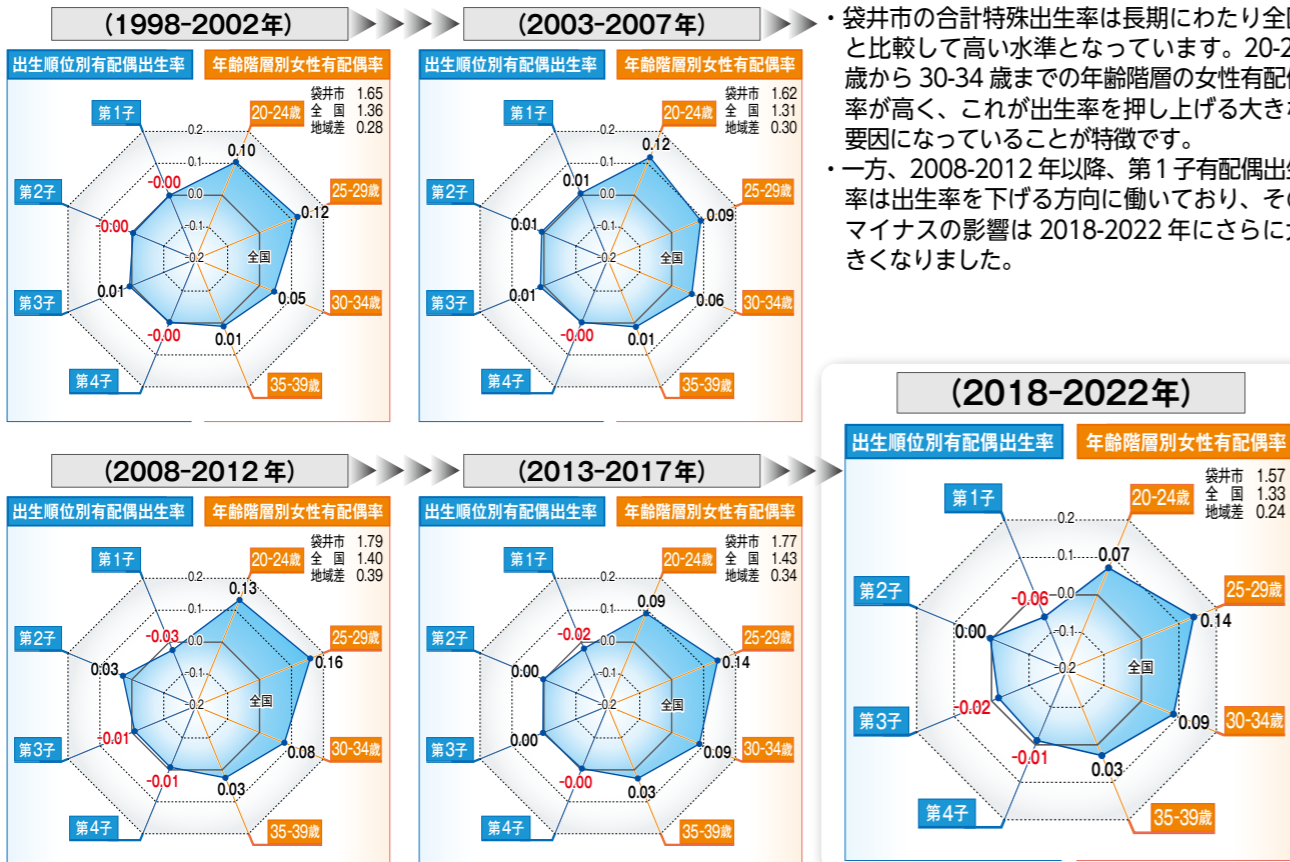
定住率と転入率(15-34歳、男女・年齢階層別、2018-2022年の年平均)



・袋井市の転入超過率は2021年と2022年はプラス、その他の年はマイナスで推移していました。これを定住率と転入率で表し、15-34歳で見ると、2018-2022年の年平均は、男性は定住率と転入率の計が100%ラインを上回っていることから、社会動態によって人口増加となっています。一方、女性は100%ラインを下回りますが、その程度は大きくありません。
・2018-2022年は、県内市町では、男女ともに定住率が高く、転入率は

県平均をやや下回っています。男女で比較すると、女性の方が男性よりも定住率が高く、転入率が低くなっています。
・年齢階層別にみると、定住率と転入率の合計である社会増減率は、男女のどの年齢階層も100%に近いことがわかります。その中でも男女とも15-19歳の社会増減率が低く、男性は20-24歳以降は100%を超えています。一方、女性は15-19歳に加えて20-24歳でも100%を下回っており、男女の差は主に転入率の違いによるものです。

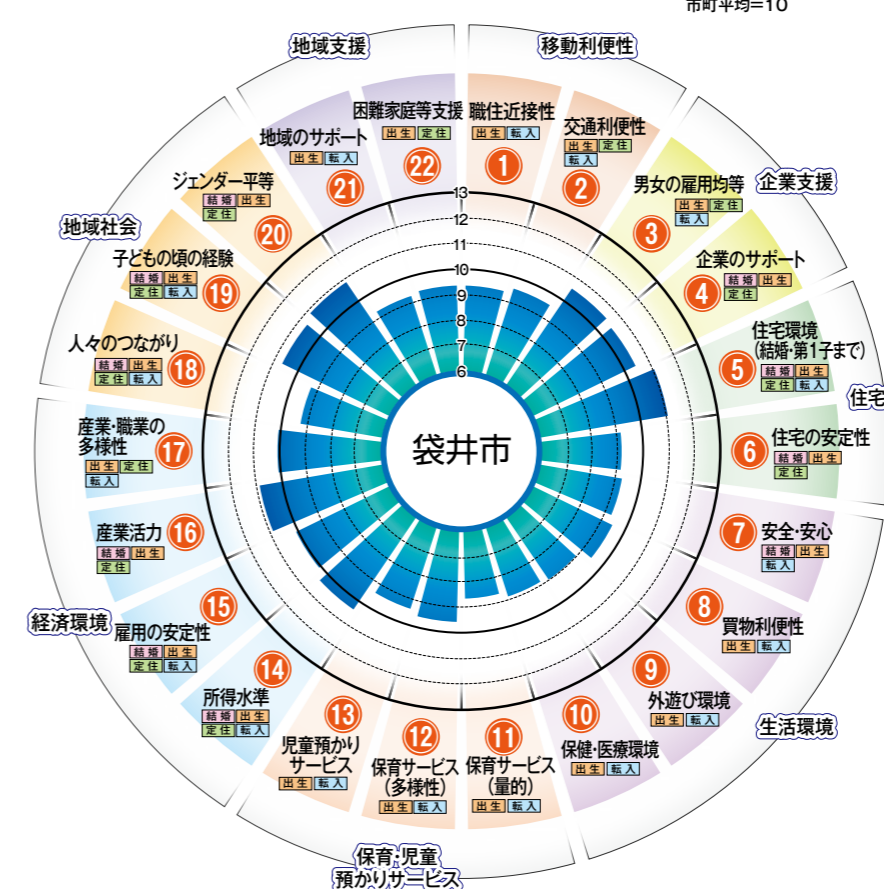
2 出生構造レーダーチャート



・袋井市の合計特殊出生率は長期にわたり全国と比較して高い水準となっています。20-24歳から30-34歳までの年齢階層の女性有配偶率が高く、これが出生率を押し上げる大きな要因になっていることが特徴です。
・一方、2008-2012年以降、第1子有配偶出生率は出生率を下げる方向に働いており、そのマイナスの影響は2018-2022年にさらに大きくなりました。

※出生構造レーダーチャートは、年齢階層別女性有配偶出生率及び出生順位別有配偶出生率の全国との差が、合計特殊出生率の全国との差に対する寄与として表されている。

4 次世代を育む地域環境バーチャート



企業支援
・③男女の雇用均等、④企業のサポートのスコアが高く、出生、定住等にプラスに影響しているとみられます。

住宅環境
・⑤住宅環境(結婚、第1子まで)のスコアが高く、若い夫婦が住宅を得やすい特性が表れています。半面、⑥住宅の安定性のスコアが低くなっており、子育て世帯の転出要因の1つになるとともに、地域の人間関係(ソーシャルキャピタル)にも影響している可能性があります。

生活環境
・⑦から⑩までのスコアが揃って低いことから、出生、転入の評価指標にマイナスに影響しているとみられます。

経済環境
・⑭所得水準、⑯産業活力の指標のスコアが高く、これらは、結婚、出生、定住等の評価指標にプラスに影響しているとみられます。

地域社会
・⑰子どもの頃の経験、⑱ジェンダー平等のスコアが高く、結婚、出生、定住等の評価指標にプラスに影響しているとみられます。

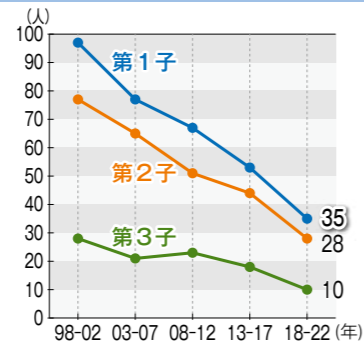


- 静岡市
- 浜松市
- 沼津市
- 熱海市
- 三島市
- 富士宮市
- 伊東市
- 島田市
- 富士市
- 磐田市
- 焼津市
- 掛川市
- 藤枝市
- 御殿場市
- 袋井市
- 下田市
- 裾野市
- 湖西市
- 伊豆市
- 御前崎市
- 菊川市
- 伊豆の国市
- 牧之原市
- 東伊豆町
- 河津町
- 南伊豆町
- 松崎町
- 西伊豆町
- 函南町
- 清水町
- 長泉町
- 小山町
- 吉田町
- 川根本町
- 森町

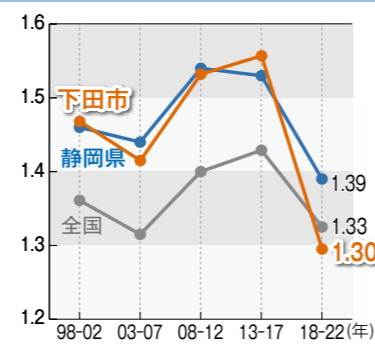
1 人口動態の概要

自然動態(出生)の状況

出生順位別出生数(年平均)の推移

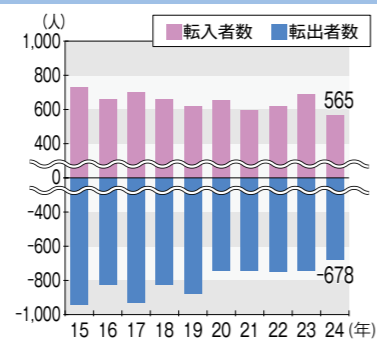


合計特殊出生率の推移

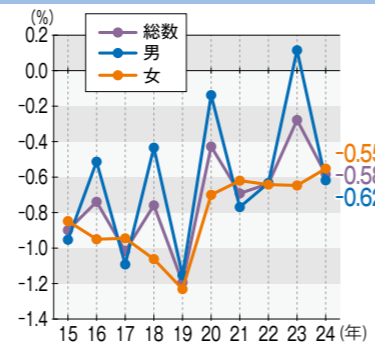


社会動態(全年齢)の状況

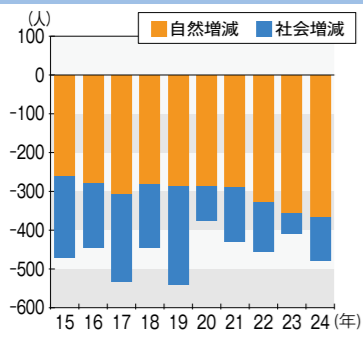
転入者数と転出者数の推移



転入超過率の推移



人口動態(全年齢)の推移



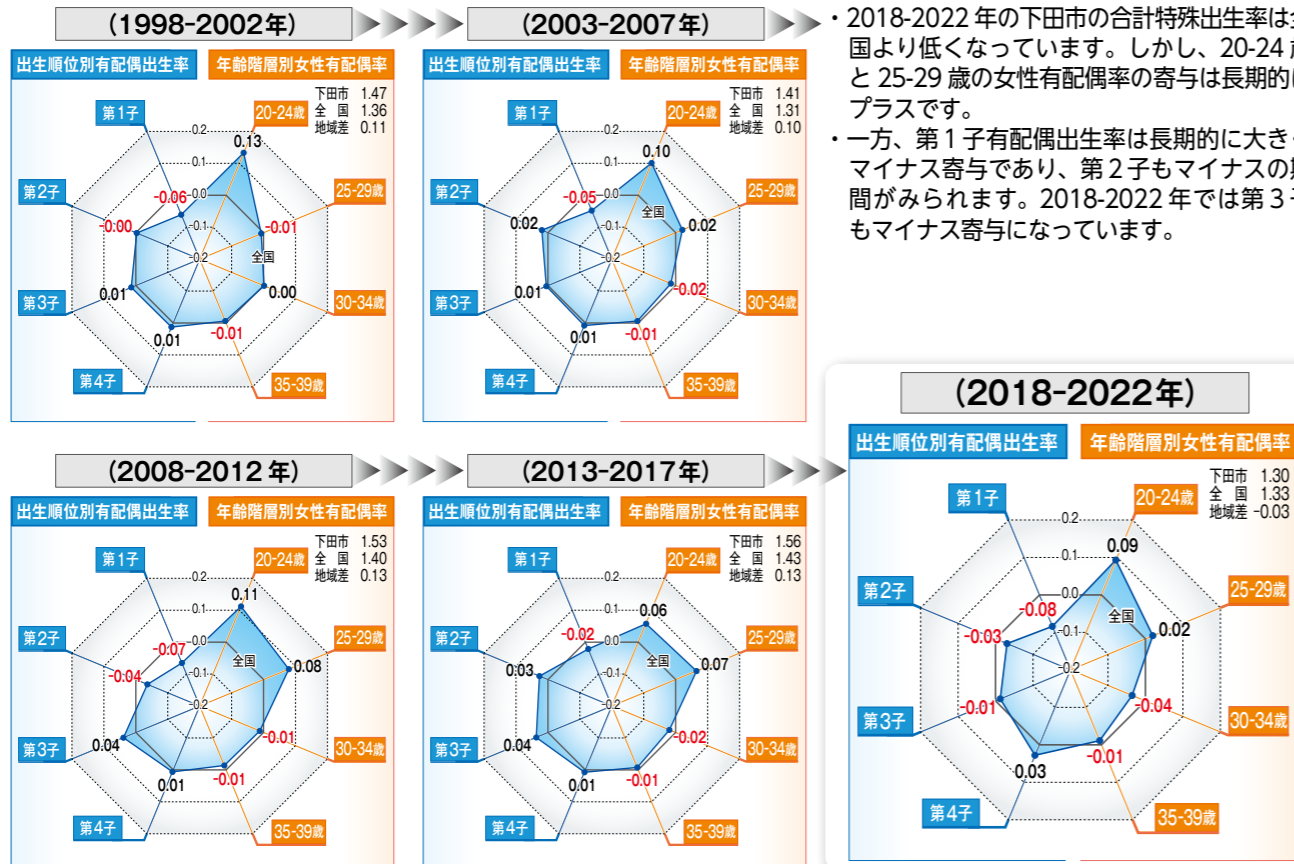
自然動態(出生)

・1998-2002年以降、第1子・第2子の出生数の推移はおおよそ連動しています。

社会動態(全年齢)

・長期にわたり転出者が転入者を上回っています。
・転入超過率は男女で違いがみられ、その差は年によって変動しています。

2 出生構造レーダーチャート

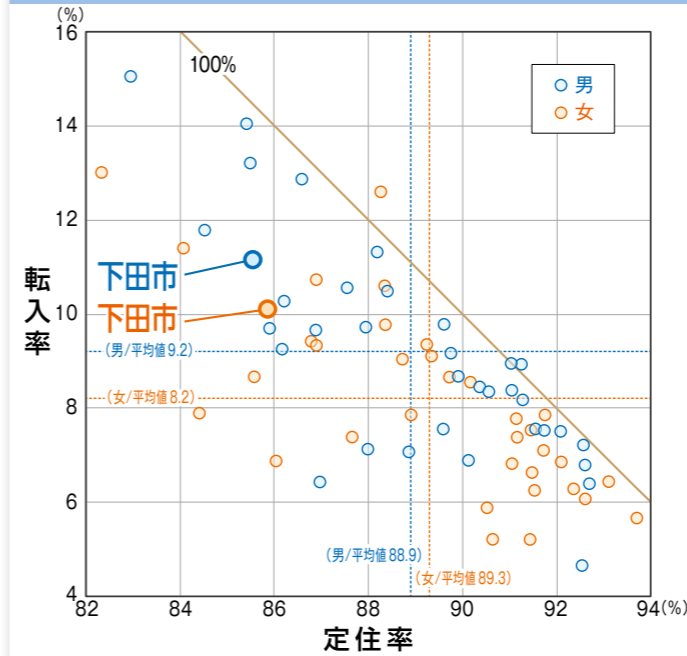


・2018-2022年の下田市の合計特殊出生率は全国より低くなっています。しかし、20-24歳と25-29歳の女性有配偶率の寄与は長期的にプラスです。
・一方、第1子有配偶出生率は長期的に大きくマイナス寄与であり、第2子もマイナスの期間がみられます。2018-2022年では第3子もマイナス寄与になっています。

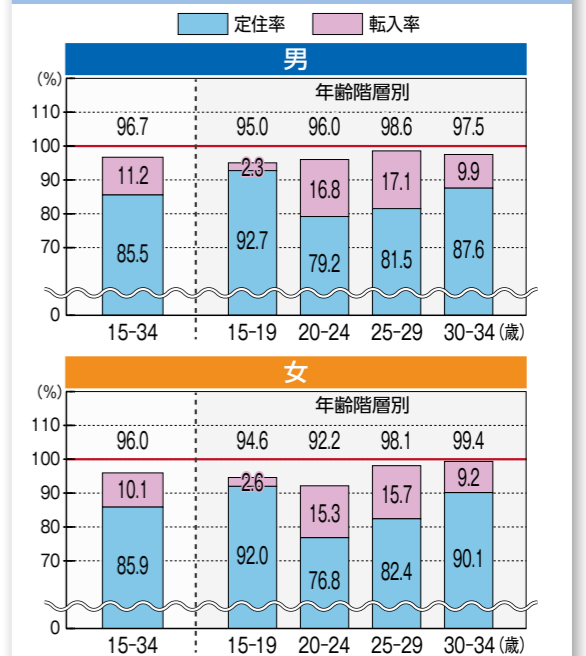
※出生構造レーダーチャートは、年齢階層別女性有配偶出生率及び出生順位別有配偶出生率の全国との差が、合計特殊出生率の全国との差に対する寄与として表されている。

3 若年層の男女別・年齢階層別の社会動態

定住率と転入率(15-34歳、男女別、2018-2022年の年平均)



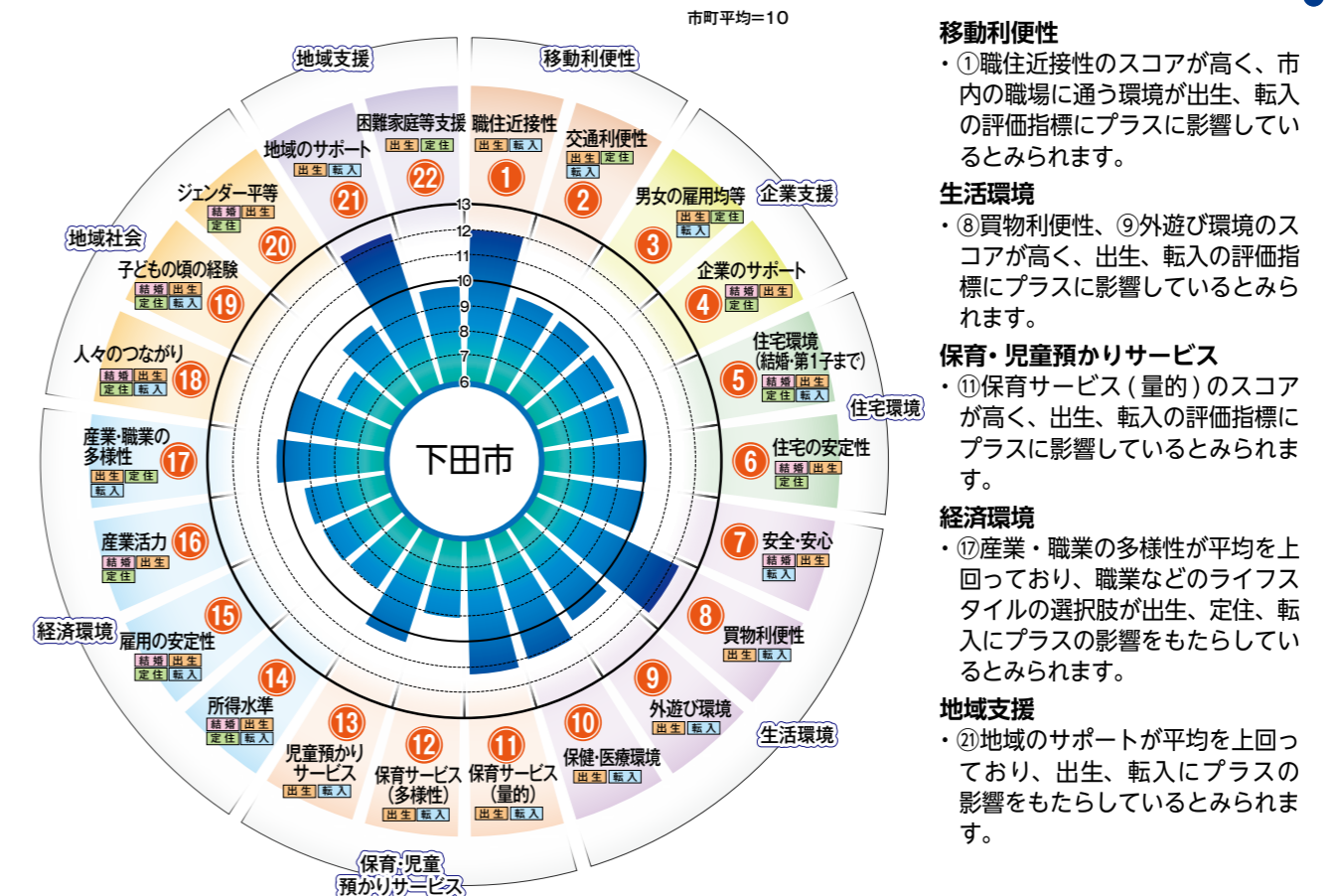
定住率と転入率(15-34歳、男女・年齢階層別、2018-2022年の年平均)



・下田市の転入超過率はマイナスで推移していました。これを定住率と転入率で表し、15-34歳で見ると、2018-2022年の年平均は、男女とも定住率と転入率の合計が100%ラインを大きく下回っています。
・2018-2022年は、県内市町の中では男女ともに定住率が低く転入率が高いという特徴がみられます。男女の比較では、

定住率に大きな差はみられませんが、女性の方が転入率が低くなっています。
・年齢階層別にみると、15-19歳、20-24歳の社会増減率が大きく100%を下回ります。女性は15-19歳よりも20-24歳の方が社会増減率が低くなっています。これは、20-24歳の女性は男性に比べて、定住率、転入率とも低いからです。

4 次世代を育む地域環境バーチャート



移動利便性
・①職住近接性のスコアが高く、市内の職場に通う環境が出生、転入の評価指標にプラスに影響しているとみられます。

生活環境
・⑧買物利便性、⑨外遊び環境のスコアが高く、出生、転入の評価指標にプラスに影響しているとみられます。

保育・児童預かりサービス
・⑪保育サービス(量的)のスコアが高く、出生、転入の評価指標にプラスに影響しているとみられます。

経済環境
・⑦産業・職業の多様性が平均を上回っており、職業などのライフスタイルの選択肢が出生、定住、転入にプラスの影響をもたらしているとみられます。

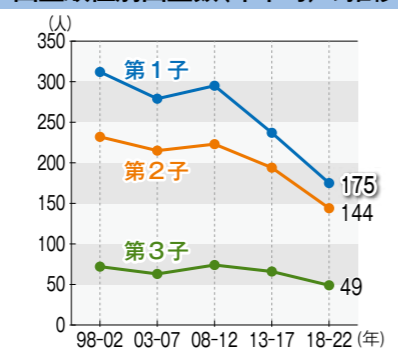
地域支援
・⑫地域のサポートが平均を上回っており、出生、転入にプラスの影響をもたらしているとみられます。



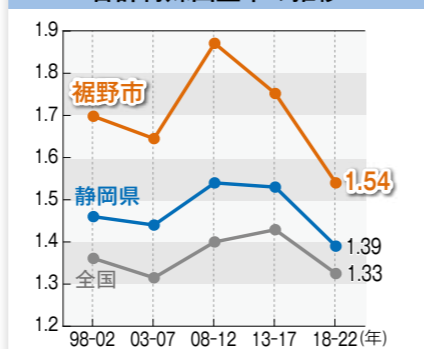
1 人口動態の概要

自然動態(出生)の状況

出生順位別出生数(年平均)の推移

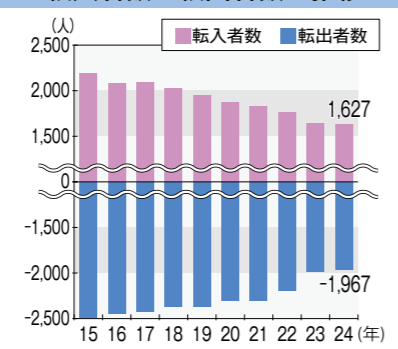


合計特殊出生率の推移

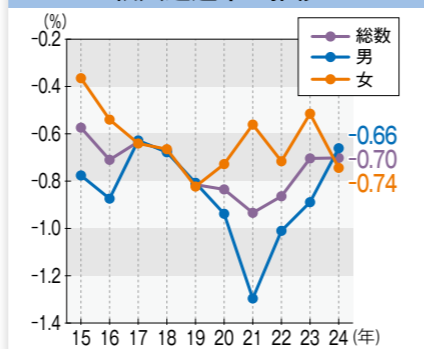


社会動態(全年齢)の状況

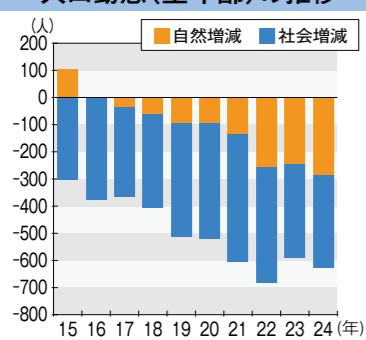
転入者数と転出者数の推移



転入超過率の推移



人口動態(全年齢)の推移



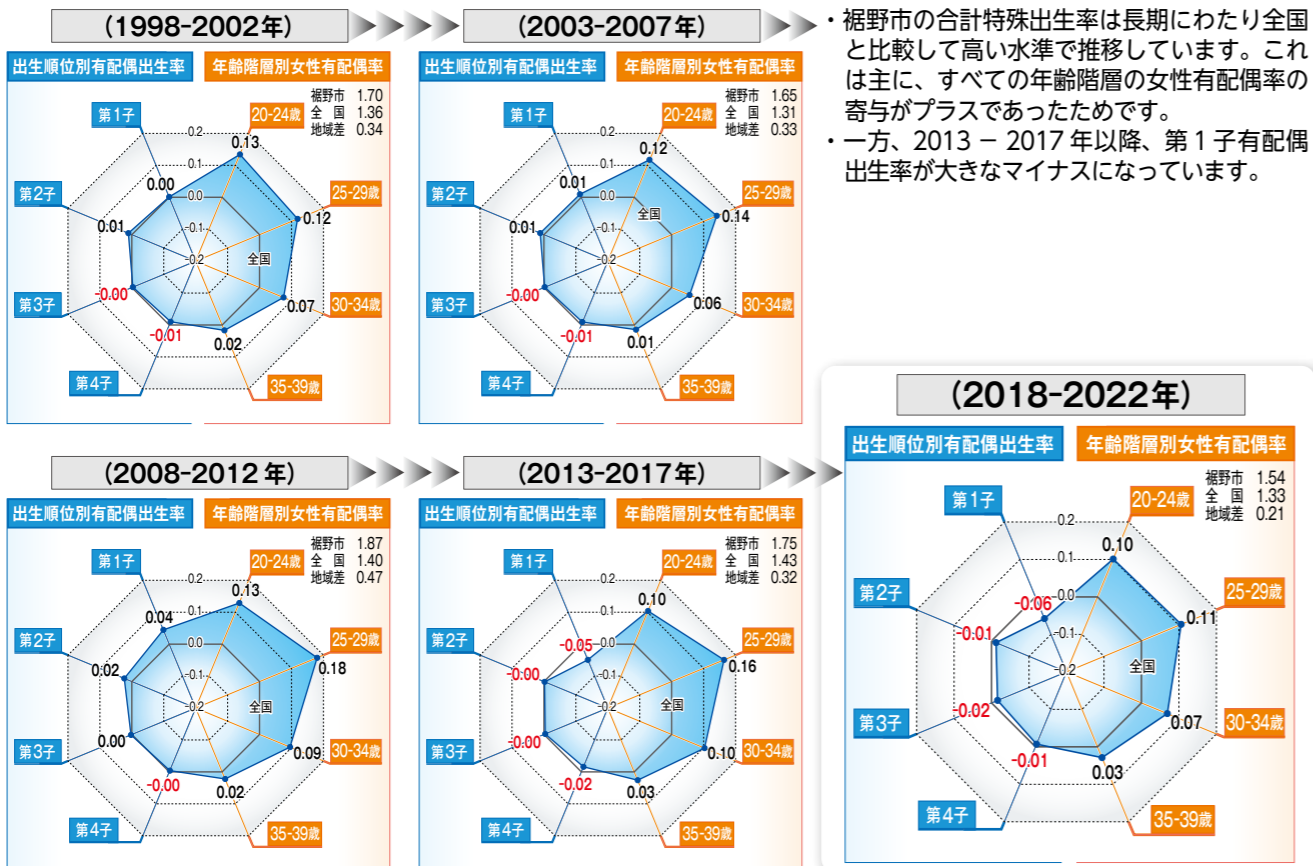
自然動態(出生)

・2008-2012年以降、第1子出生数の減少率が第2子を上回っています。

社会動態(全年齢)

・長期にわたり転出者が転入者を上回り、その差は年によって変動しています。
・転入超過率は男女で違いがみられ、その差は年によって変動しています。

2 出生構造レーダーチャート

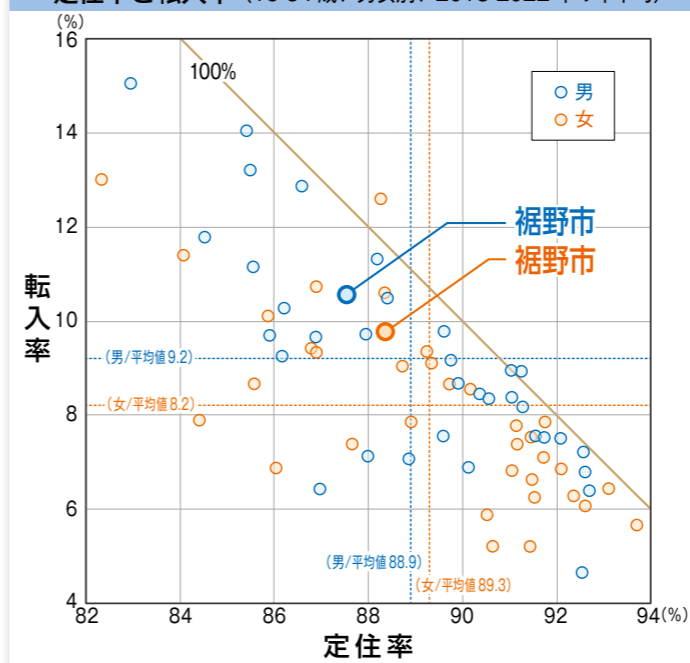


・裾野市の合計特殊出生率は長期にわたり全国と比較して高い水準で推移しています。これは主に、すべての年齢階層の女性有配偶率の寄与がプラスであったためです。
・一方、2013 - 2017年以降、第1子有配偶出生率が大きなマイナスになっています。

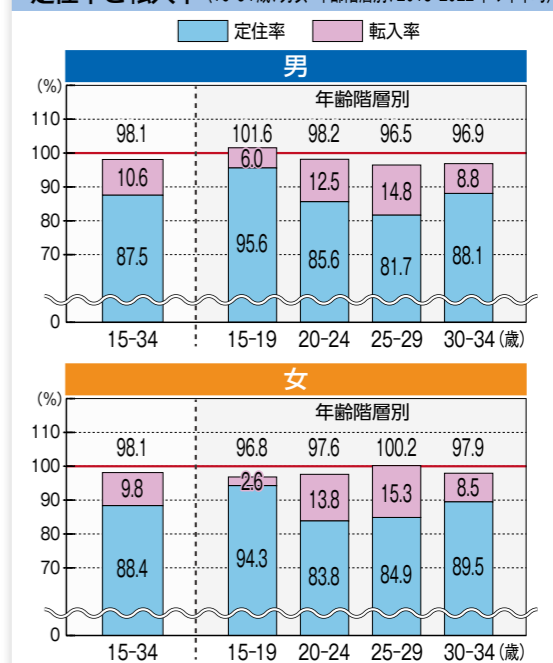
※出生構造レーダーチャートは、年齢階層別女性有配偶率及び出生順位別有配偶率の全国との差、合計特殊出生率の全国との差に対する寄与として表されている。

3 若年層の男女別・年齢階層別の社会動態

定住率と転入率(15-34歳、男女別、2018-2022年の年平均)



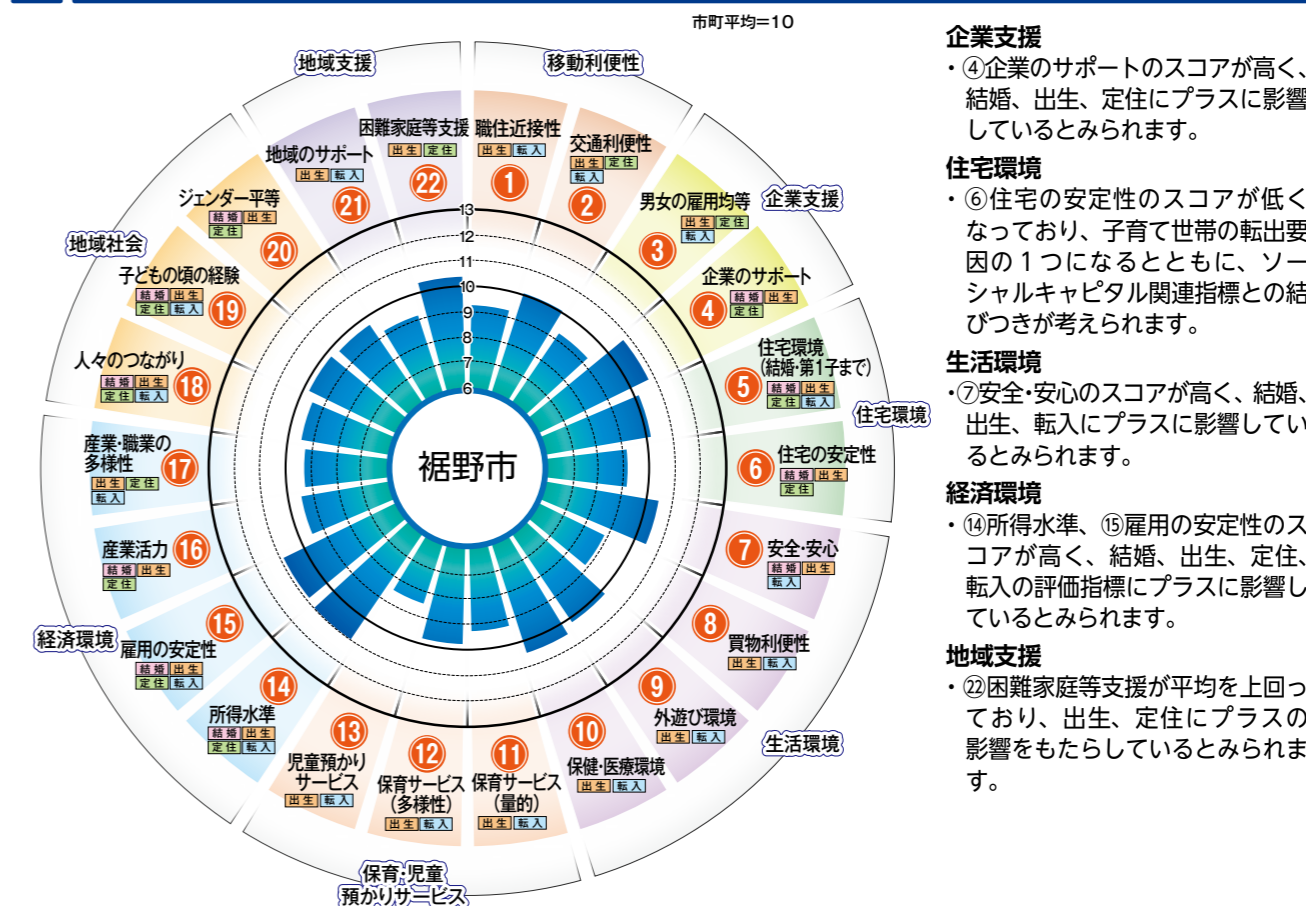
定住率と転入率(15-34歳、男女・年齢階層別、2018-2022年の年平均)



・裾野市の転入超過率はマイナスで推移していました。これを定住率と転入率で表し、15-34歳で見ると、2018-2022年の年平均は、男女とも定住率と転入率の計が100%ラインを下回っています。
・2018-2022年は、男女とも定住率が市町平均をやや下回り、転入率は平均をやや上回っています。男女の比較では、女性の方が定住率が高く、転入率は低くなっています。

・年齢階層別にみると、男性の15-19歳の社会増減率が100%を上回っています。これには高い転入率が寄与しています。ただし、20-24歳以降の年齢階層では100%を下回ります。女性は15-19歳、20-24歳、30-34歳の社会増減率が100%を下回ります。20-24歳では女性の方が男性に比べて定住率が低いものの、転入率は高いという他の年齢階層とは異なる特徴が表れています。

4 次世代を育む地域環境バーチャート



企業支援
・④企業のサポートのスコアが高く、結婚、出生、定住にプラスに影響しているとみられます。

住宅環境
・⑥住宅の安定性のスコアが低く、子育て世帯の転出要因の1つになるとともに、ソーシャルキャピタル関連指標との結びつきが考えられます。

生活環境
・⑦安全・安心のスコアが高く、結婚、出生、転入にプラスに影響しているとみられます。

経済環境
・⑭所得水準、⑮雇用の安定性のスコアが高く、結婚、出生、定住、転入の評価指標にプラスに影響しているとみられます。

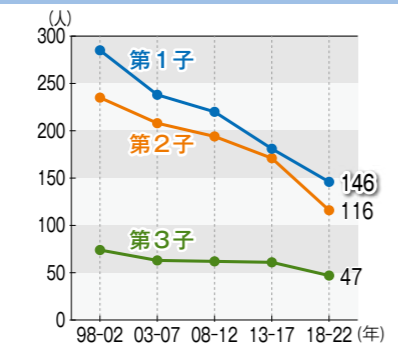
地域支援
・⑫困難家庭等支援が平均を上回っており、出生、定住にプラスの影響をもたらしているとみられます。



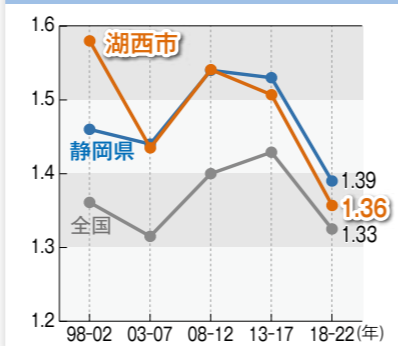
1 人口動態の概要

自然動態(出生)の状況

出生順位別出生数(年平均)の推移

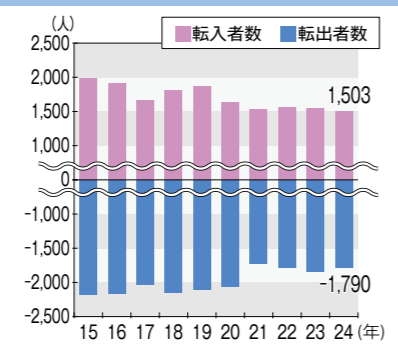


合計特殊出生率の推移

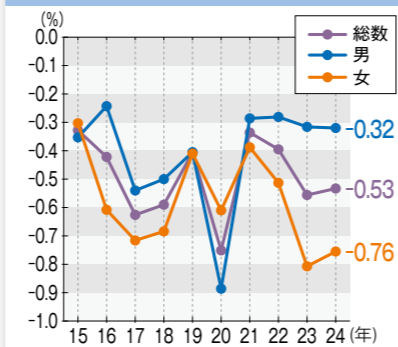


社会動態(全年齢)の状況

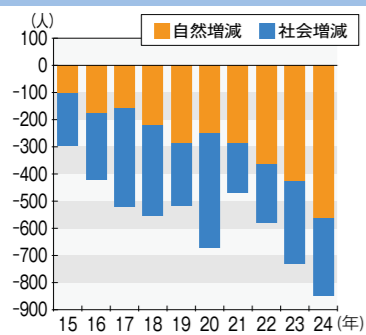
転入者数と転出者数の推移



転入超過率の推移



人口動態(全年齢)の推移



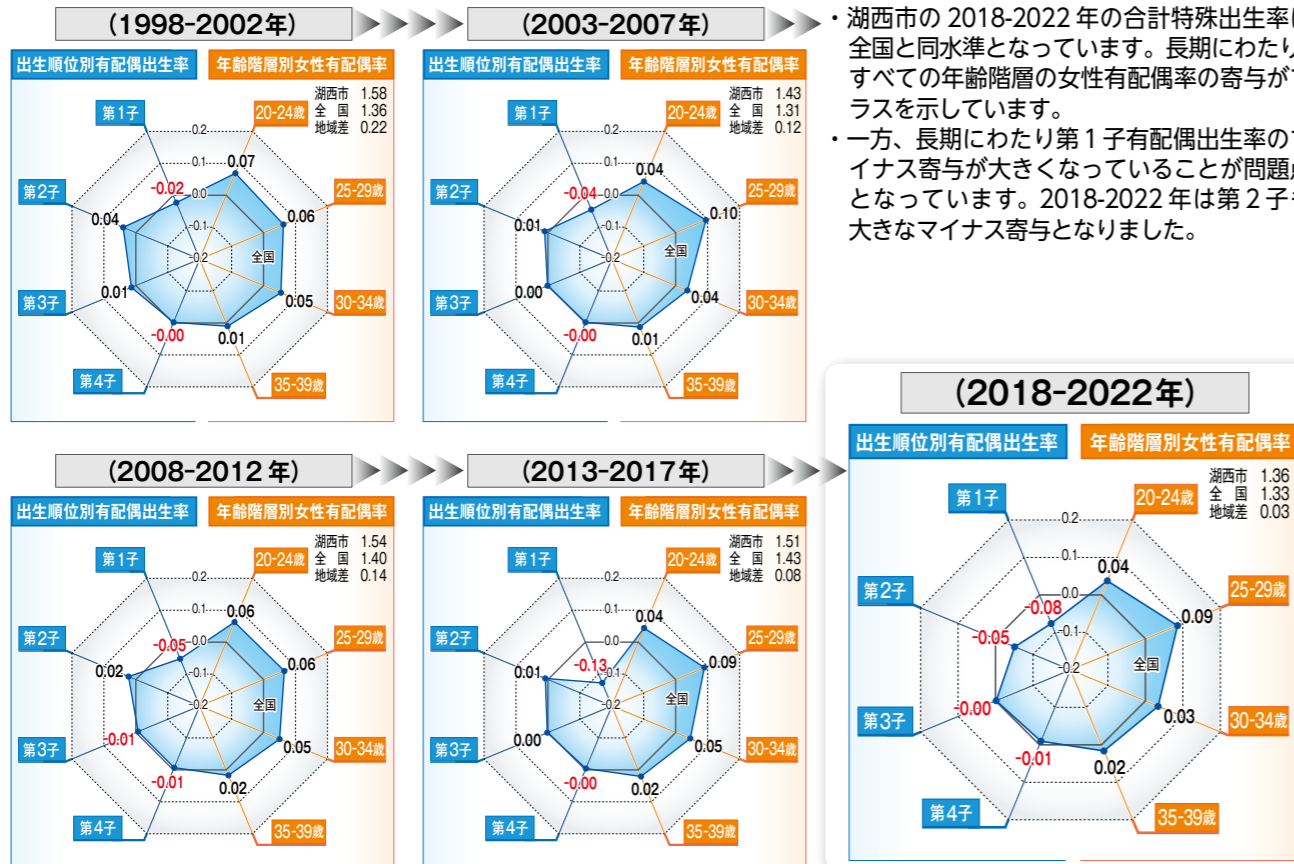
自然動態(出生)

・2013-2017年から2018-2022年にかけて、第2子出生数の減少率が第1子を上回っています。

社会動態(全年齢)

・長期にわたって転出者が転入者を上回る傾向が続いていますが、年によって変動があります。
・ほとんどの期間において、女性の転入超過率が男性を下回っています。

2 出生構造レーダーチャート

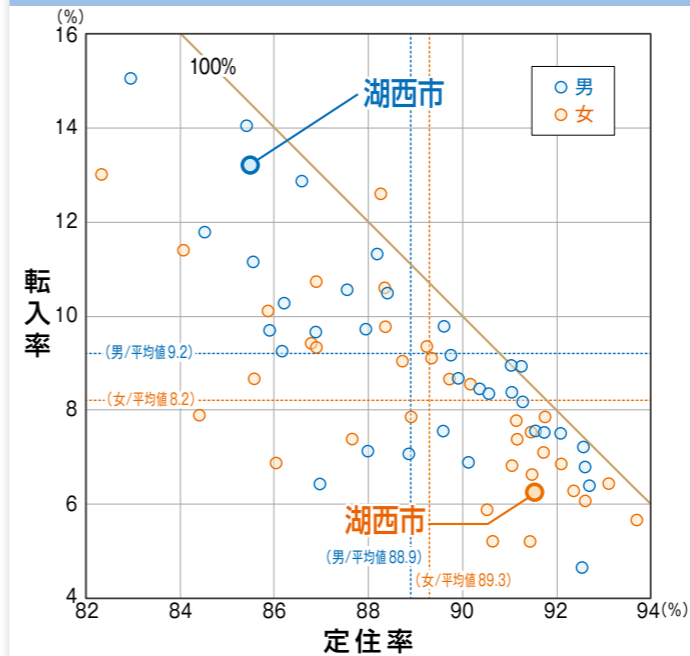


・湖西市の2018-2022年の合計特殊出生率は全国と同水準となっています。長期にわたり、すべての年齢層の女性有配偶率の寄与がプラスを示しています。
・一方、長期にわたり第1子有配偶率のマイナス寄与が大きくなっていることが問題点となっています。2018-2022年は第2子も大きなマイナス寄与となりました。

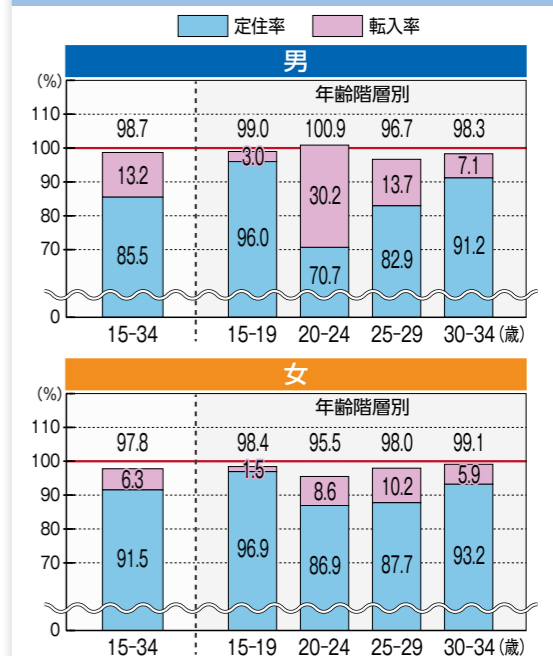
※出生構造レーダーチャートは、年齢層別女性有配偶率及び出生順位別有配偶率の全国との差、合計特殊出生率の全国との差に対する寄与として表されている。

3 若年層の男女別・年齢階層別の社会動態

定住率と転入率(15-34歳、男女別、2018-2022年の年平均)



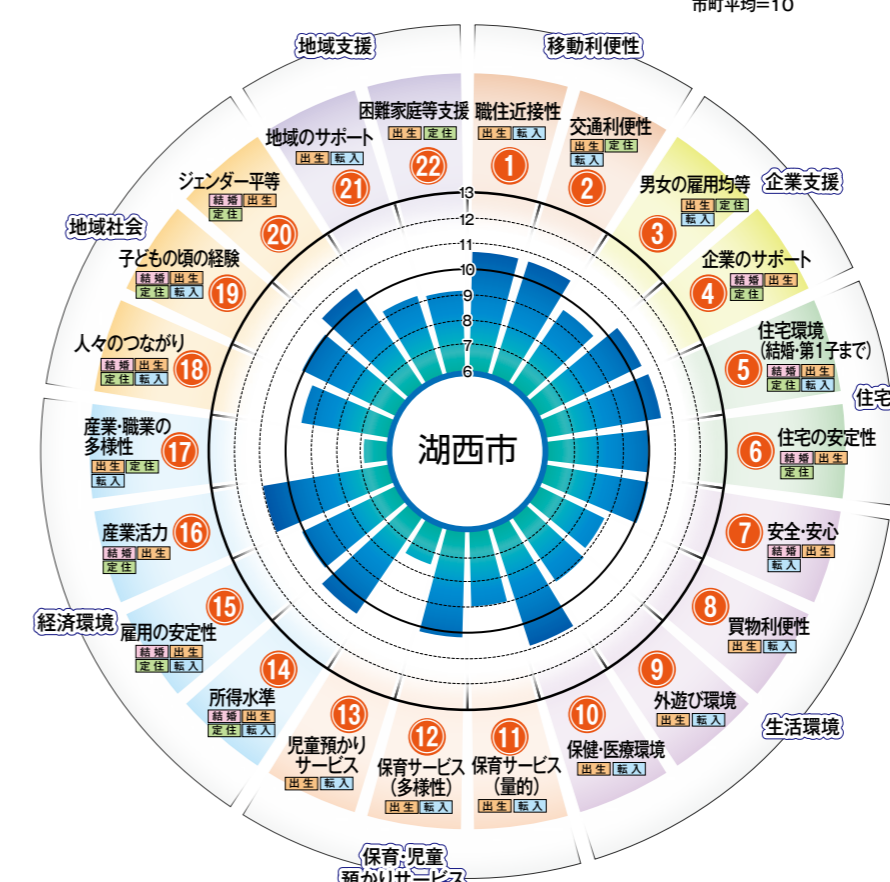
定住率と転入率(15-34歳、男女・年齢階層別、2018-2022年の年平均)



・湖西市の転入超過率はマイナスで推移していました。これを定住率と転入率で表し、15-34歳で見ると、2018-2022年の年平均は、男女とも定住率と転入率の計が100%ラインを下回っています。特に、女性は男性よりも100%ラインから離れています。
・2018-2022年は、男性の定住率は市町平均を大きく下回り、転入率は際立って高い値を示しています。一方、女性の定住率は市町平均

を上回り、転入率はかなり低くなっています。社会増減率を、定住率と転入率に分けてみると男女で極めて大きな差が生じている地域です。
・年齢階層別にみると、男性の転入率の高さは20-24歳の移動によるものです。一方、女性の20-24歳の社会増減率は100%を下回っています。定住率は男性に比べて高いものの、社会増減率が100%に達するような転入率にはなっていません。

4 次世代を育む地域環境バーチャート



移動利便性
・①職住近接性のスコアが高く、市内の職場に通う環境が出生、転入の評価指標にプラスに影響しているとみられます。また②交通利便性が高く、周辺地域からの通勤等に利用する基盤を整備されていることがわかります。

保育・児童預かりサービス
・⑪保育サービス(量的)、⑬児童預かりサービスのスコアが平均を下回っており、出生、転入の評価指標にマイナスに影響しているとみられます。

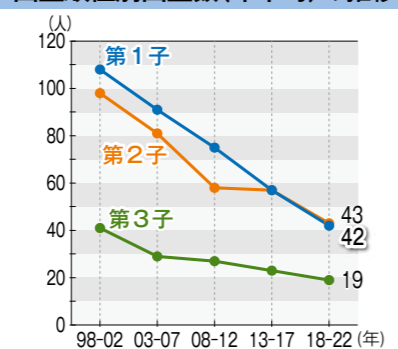
経済環境
・⑭所得水準、⑯産業活力のスコアが高く、結婚、出生、定住等の評価指標にプラスに影響しているとみられます。

地域社会
・⑳ジェンダー平等のスコアが高く、結婚、出生、定住の評価指標にプラスに影響しているとみられます

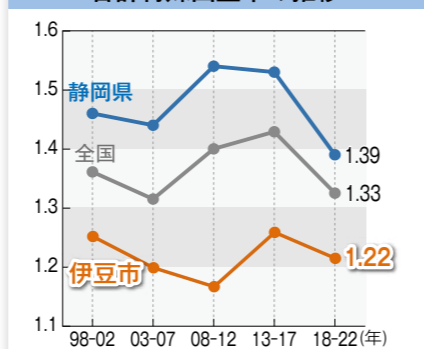
1 人口動態の概要

自然動態(出生)の状況

出生順位別出生数(年平均)の推移

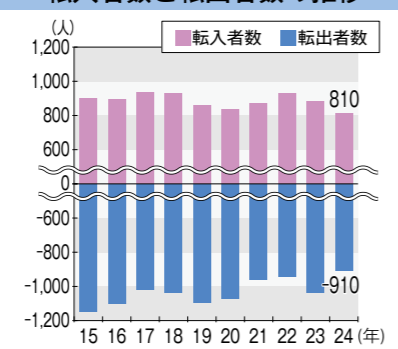


合計特殊出生率の推移

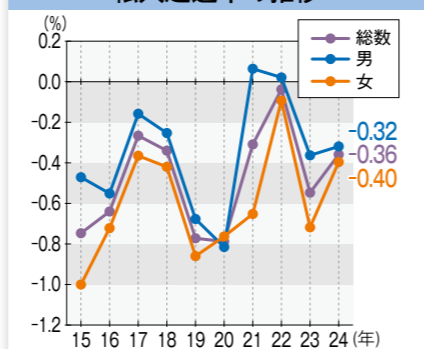


社会動態(全年齢)の状況

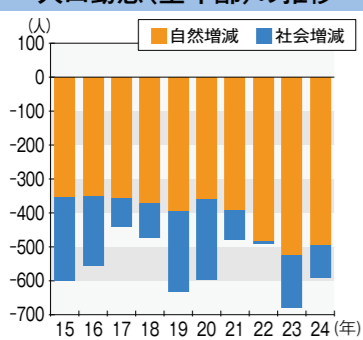
転入者数と転出者数の推移



転入超過率の推移



人口動態(全年齢)の推移



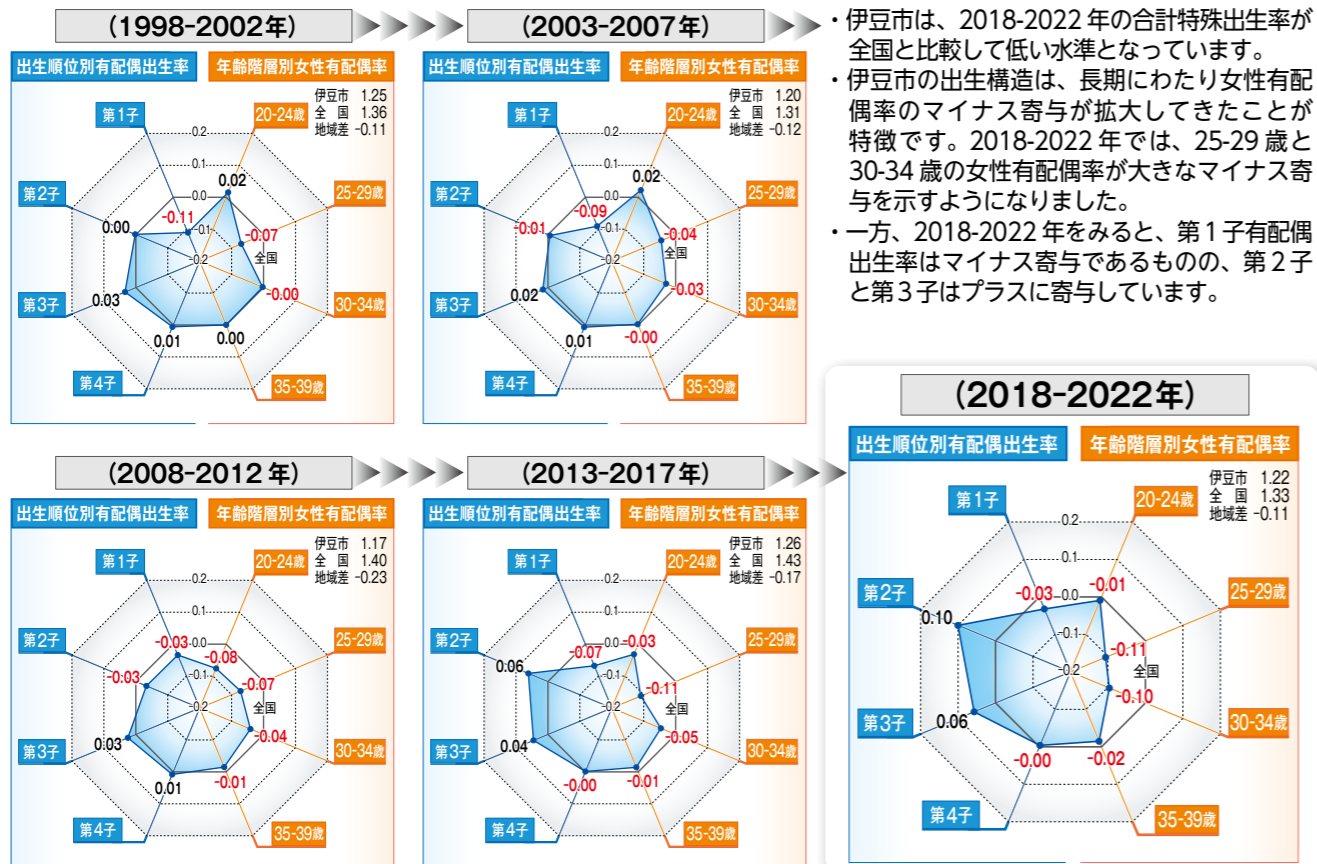
自然動態(出生)

・2013-2017年以降について、第1子と第2子の出生数がほぼ同数となっています。

社会動態(全年齢)

・転出者が転入者を上回る傾向が続いていますが、年によって変動があります。
・転入超過率は男女で違いがみられ、その差は年によって変動しています。

2 出生構造レーダーチャート

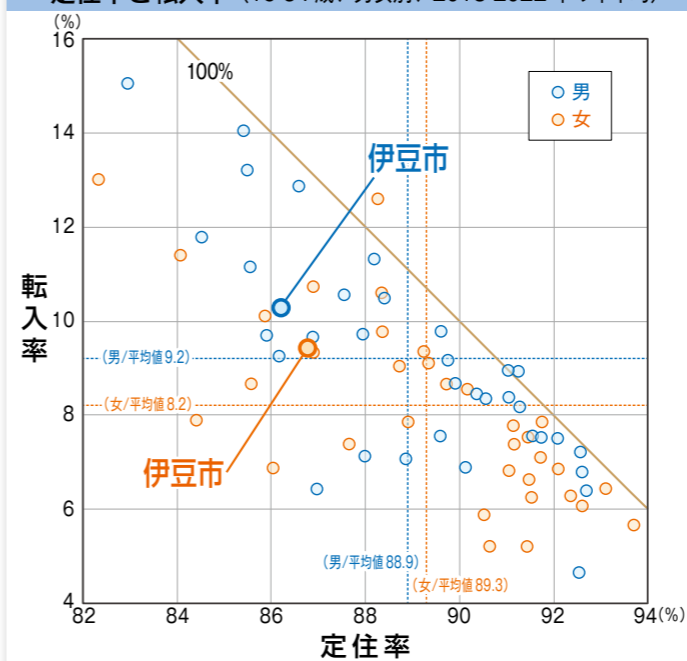


・伊豆市は、2018-2022年の合計特殊出生率が全国と比較して低い水準となっています。
・伊豆市の出生構造は、長期にわたり女性有配偶率のマイナス寄与が拡大してきたことが特徴です。2018-2022年には、25-29歳と30-34歳の女性有配偶率が大きなマイナス寄与を示すようになりました。
・一方、2018-2022年をみると、第1子有配偶出生率はマイナス寄与であるものの、第2子と第3子はプラスに寄与しています。

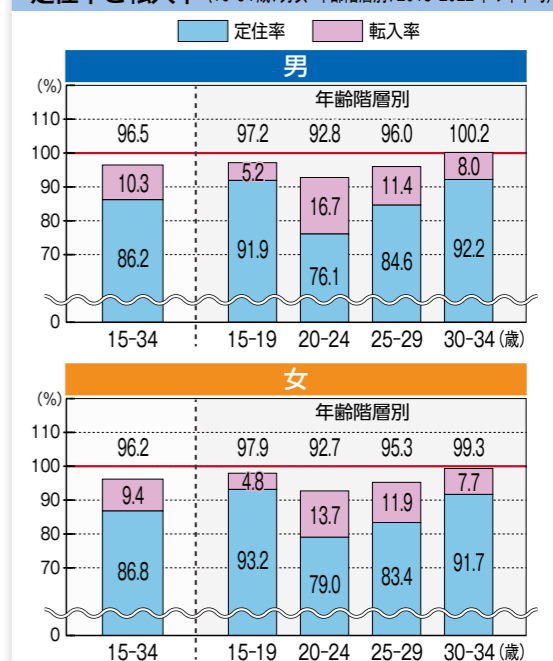
※出生構造レーダーチャートは、年齢階層別女性有配偶出生率及び出生順位別有配偶出生率の全国との差が、合計特殊出生率の全国との差に対する寄与として表されている。

3 若年層の男女別・年齢階層別の社会動態

定住率と転入率(15-34歳、男女別、2018-2022年の年平均)



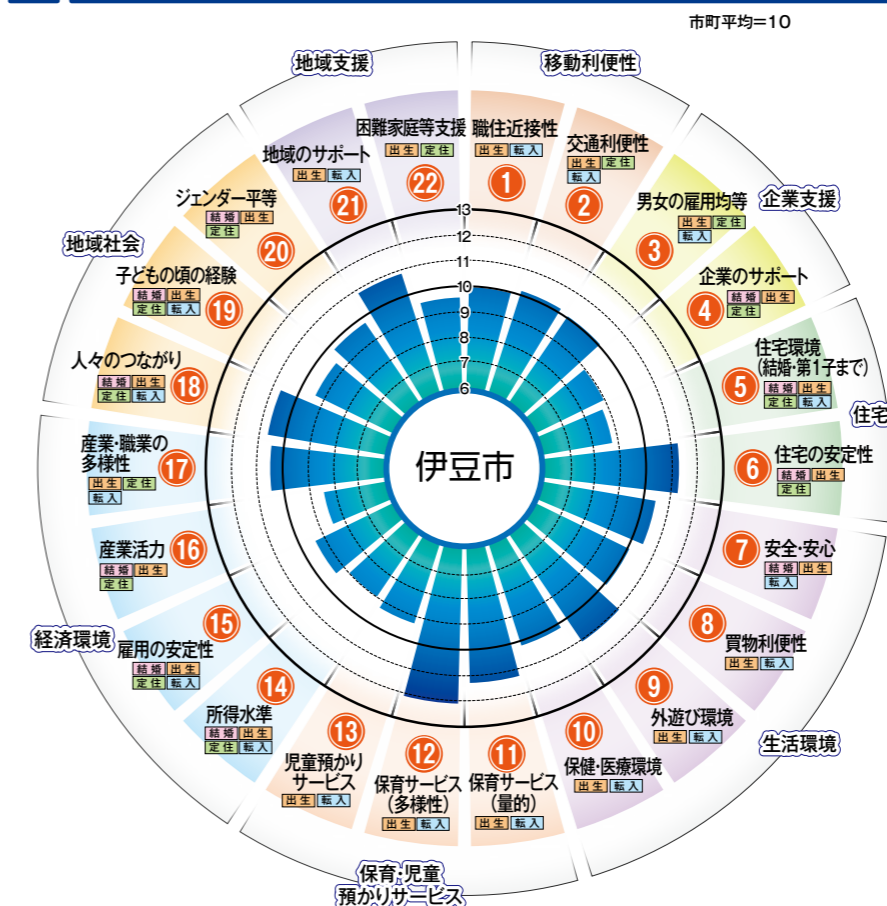
定住率と転入率(15-34歳、男女・年齢階層別、2018-2022年の年平均)



・伊豆市の転入超過率はマイナスで推移していました。これを定住率と転入率で表し、15-34歳で見ると、2018-2022年の年平均は、男女とも定住率と転入率の計が100%ラインを大きく下回っています。
・2018-2022年は、男女ともに定住率が市町平均を下回り、転入率は平均をやや上回っています。男女で比較すると、女

性の方が男性に比べて定住率が高く、転入率は低くなっています。
・年齢階層別にみると、男女ともに、20-24歳、25-29歳の社会増減率が低くなっており、低い定住率を転入率がカバーできていません。特に20-24歳は、女性の定住率は男性に比べて高いものの、転入率が低くなっています。

4 次世代を育む地域環境バーチャート



住宅環境
・⑤住宅環境(結婚、第1子までのスコアが低く、若い夫婦が住宅を得にくい特性が表れています。半面、⑥住宅の安定性のスコアが高くなっており、子育て世帯の定住要因の1つになっていると考えられます。

生活環境
・⑨外遊び環境のスコアが平均を上回っており、出生、転入の評価指標にプラスに影響しているとみられます。

保育・児童預かりサービス
・⑪保育サービス(量的)、⑫保育サービス(多様性)のスコアが平均を上回っており、出生、転入にプラスに影響しているとみられます。

経済環境
・⑭から⑯のスコアが低く、結婚、出生、定住等の評価指標にマイナスに影響しているとみられます。

地域社会
・⑱人々のつながりのスコアが高く、結婚、出生、転入、定住の評価指標にプラスに影響しているとみられます。

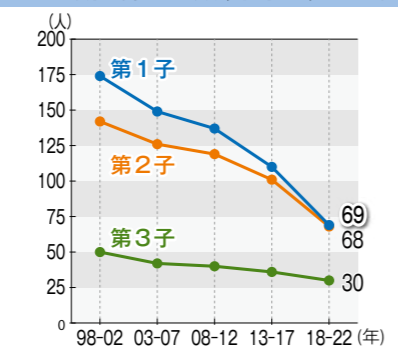


- 静岡市
- 浜松市
- 沼津市
- 熱海市
- 三島市
- 富士宮市
- 伊東市
- 島田市
- 富士市
- 磐田市
- 焼津市
- 掛川市
- 藤枝市
- 御殿場市
- 袋井市
- 下田市
- 裾野市
- 湖西市
- 伊豆市
- 御前崎市
- 菊川市
- 伊豆の国市
- 牧之原市
- 東伊豆町
- 河津町
- 南伊豆町
- 松崎町
- 西伊豆町
- 函南町
- 清水町
- 長泉町
- 小山町
- 吉田町
- 川根本町
- 森町

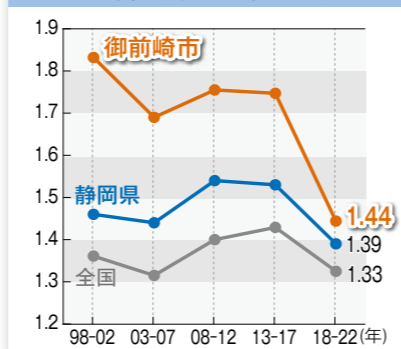
1 人口動態の概要

自然動態(出生)の状況

出生順位別出生数(年平均)の推移

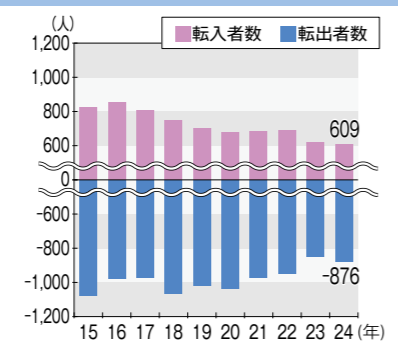


合計特殊出生率の推移

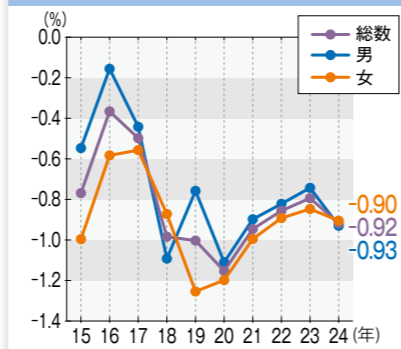


社会動態(全年齢)の状況

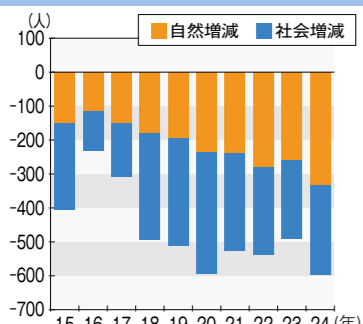
転入者数と転出者数の推移



転入超過率の推移



人口動態(全年齢)の推移



自然動態(出生)

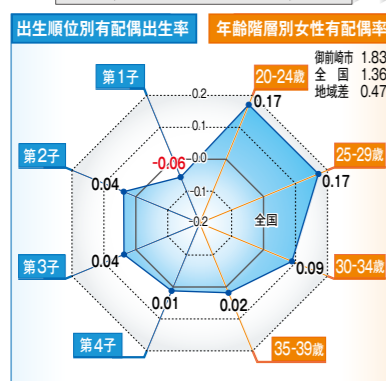
・1998-2002年の期間から2018-2022年まで、第1子出生数の減少率が第2子を上回っており、2018-2022年では第1子と第2子の出生数がほぼ同数となっています。

社会動態(全年齢)

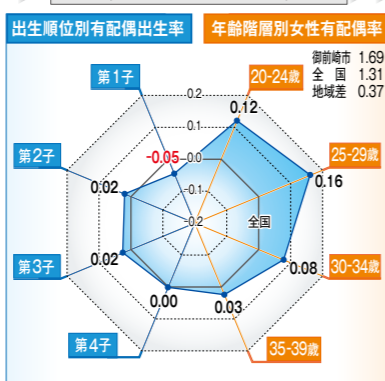
・長期にわたり転入者が転出者を上回り、その差は年によって変動しています。
・転入超過率は男女の動きに連動性がみられます。

2 出生構造レーダーチャート

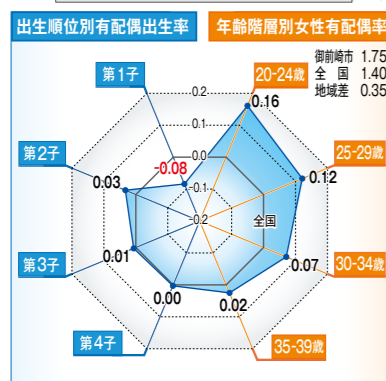
(1998-2002年)



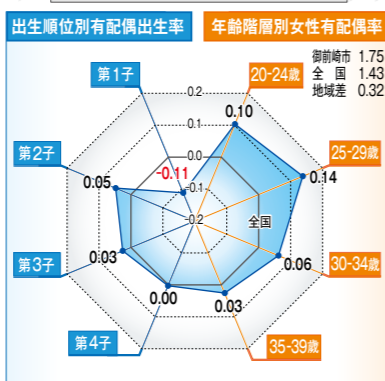
(2003-2007年)



(2008-2012年)

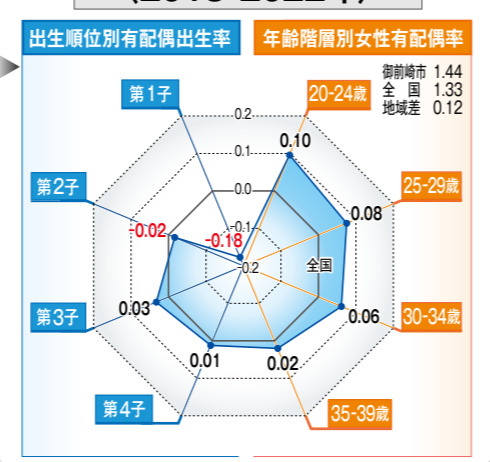


(2013-2017年)



・御前崎市は、長期にわたり合計特殊出生率が全国と比較して高い水準となっています。すべての年齢階層の女性有配偶率がプラス寄与を維持してきたことが主な理由です。
・一方、第1子有配偶出生率の寄与が、長期的にマイナスで推移しており、マイナス値も拡大しています。

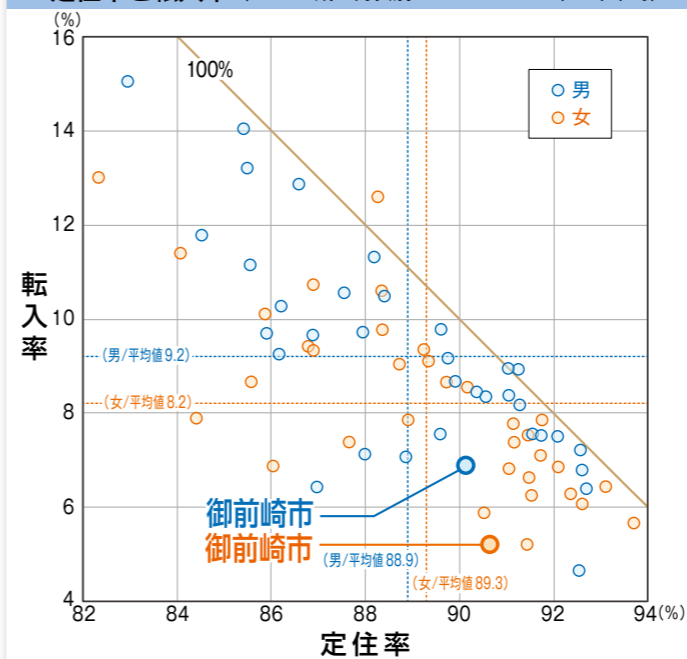
(2018-2022年)



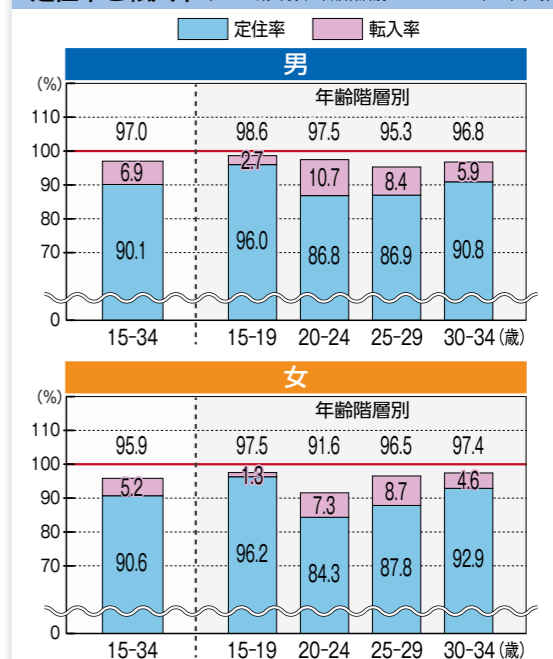
※出生構造レーダーチャートは、年齢階層別女性有配偶出生率及び出生順位別有配偶出生率の全国との差が、合計特殊出生率の全国との差に対する寄与として表されている。

3 若年層の男女別・年齢階層別の社会動態

定住率と転入率(15-34歳、男女別、2018-2022年の年平均)



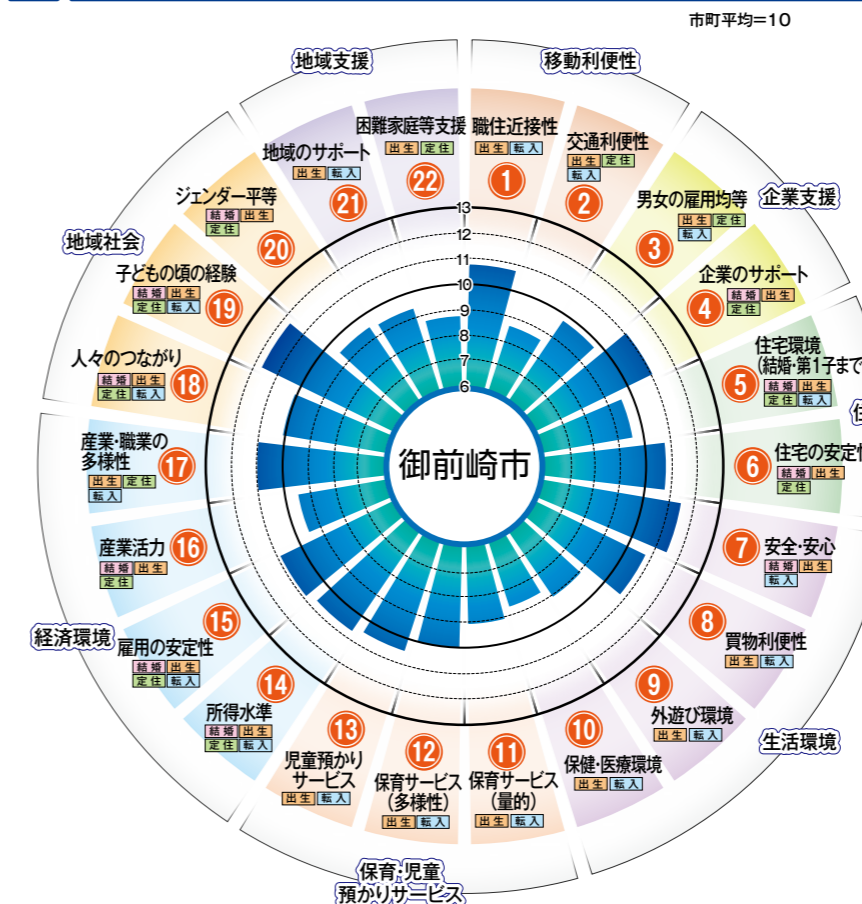
定住率と転入率(15-34歳、男女・年齢階層別、2018-2022年の年平均)



・御前崎市の転入超過率はマイナスで推移していました。これを定住率と転入率で表し、15-34歳で見ると、2018-2022年の年平均は、男女とも定住率と転入率の計が100%ラインを大きく下回っています。
・2018-2022年は、男女ともに定住率は市町平均を上回るものの、転入率が低く、社会増減率の低さに影響しています。

この傾向は女性で顕著です。
・年齢階層別にみると、男女ともすべての年齢階層で社会増減率は100%を下回っています。最も社会増減率が低いのは女性の20-24歳であり、男性に比べて定住率、転入率とも低くなっています。

4 次世代を育む地域環境バーチャート



企業支援
・④企業のサポートのスコアが高く、結婚、出生、定住にプラスに影響しているとみられます。

住宅環境
・⑥住宅の安定性のスコアが高く、子育て世帯の定住要因の1つになっていると考えられます。

生活環境
・⑦安全・安心、⑧買物利便性のスコアが高いことから、出生、転入等の評価指標にプラスに影響しているとみられます。

保育・児童預かりサービス
・⑪保育サービス(量的)の指標が平均を下回っており、出生、転入にマイナスに影響しているとみられます。

経済環境
・⑭所得水準、⑮雇用の安定性、⑰産業・職業の多様性のスコアが高くなっています。これらは、出生、定住、転入等の指標にプラスに影響しているとみられます。

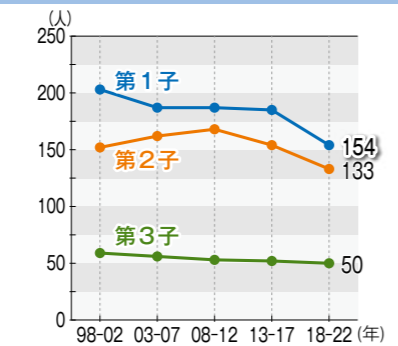
地域社会
・⑲子どもの頃の経験のスコアが高く、結婚、出生、転入、定住の評価指標にプラスに影響しているとみられます。



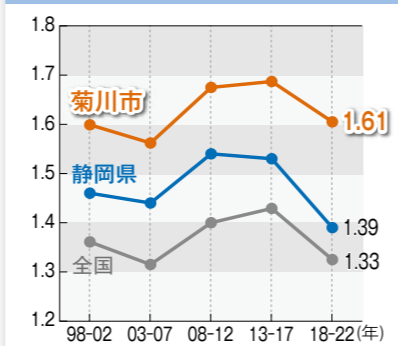
1 人口動態の概要

自然動態(出生)の状況

出生順位別出生数(年平均)の推移

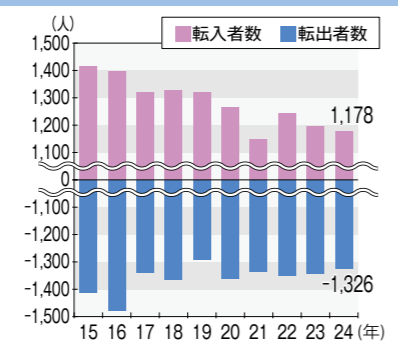


合計特殊出生率の推移

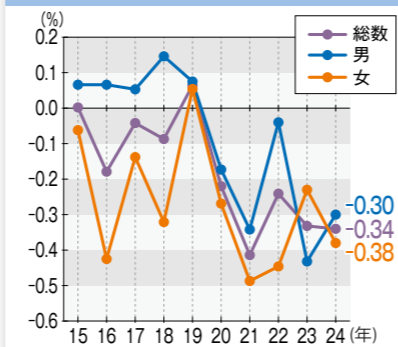


社会動態(全年齢)の状況

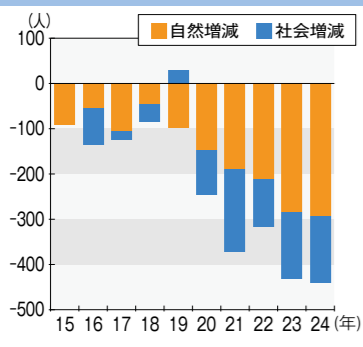
転入者数と転出者数の推移



転入超過率の推移

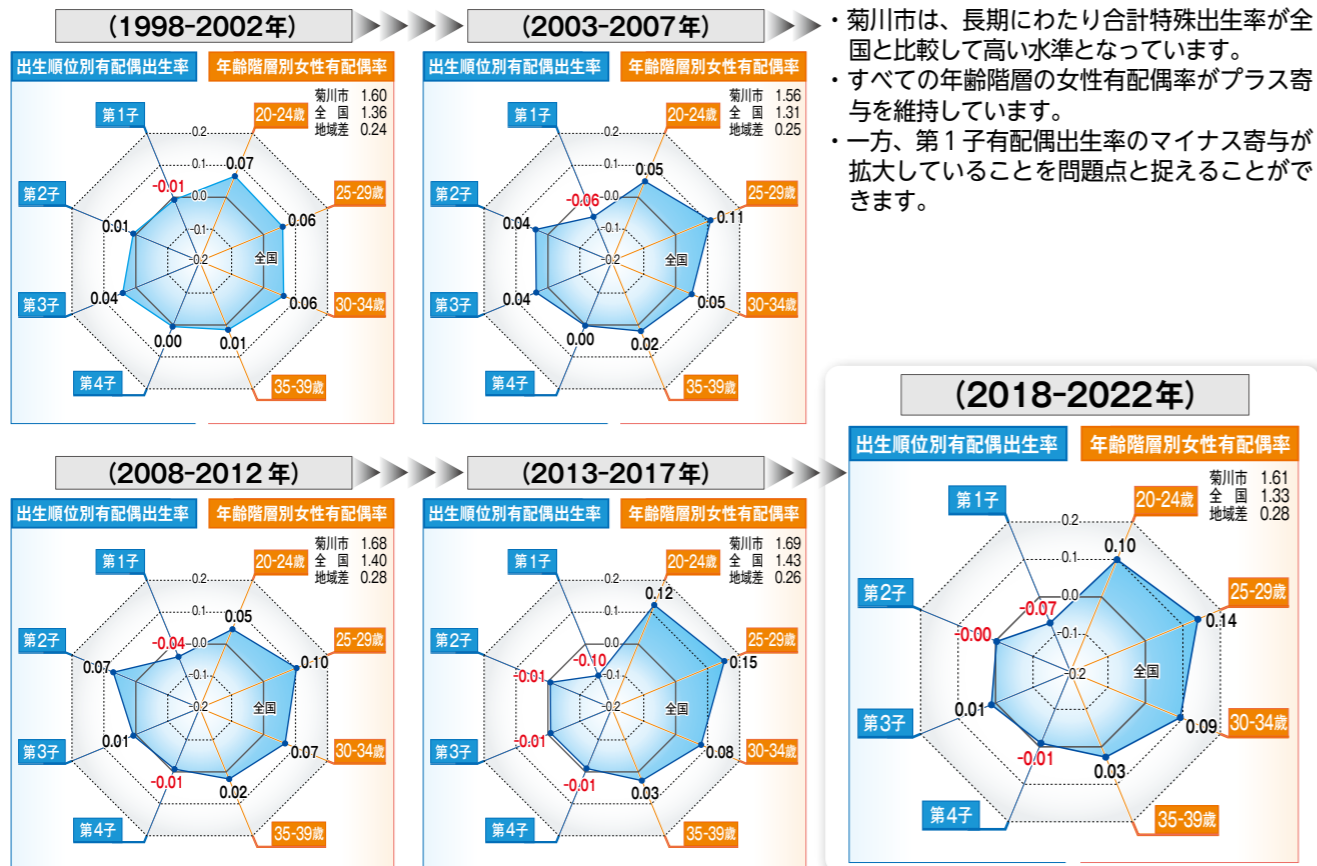


人口動態(全年齢)の推移



- 自然動態(出生)**
 ・2018-2022年にかけて、第1子、第2子ともに出生数が減少しています。
- 社会動態(全年齢)**
 ・おおむね転出者が転入者を上回る状況で、年によって差が変動しています。
 ・転入超過率は2023年を除き、男性が女性を上回る状況が続いています。

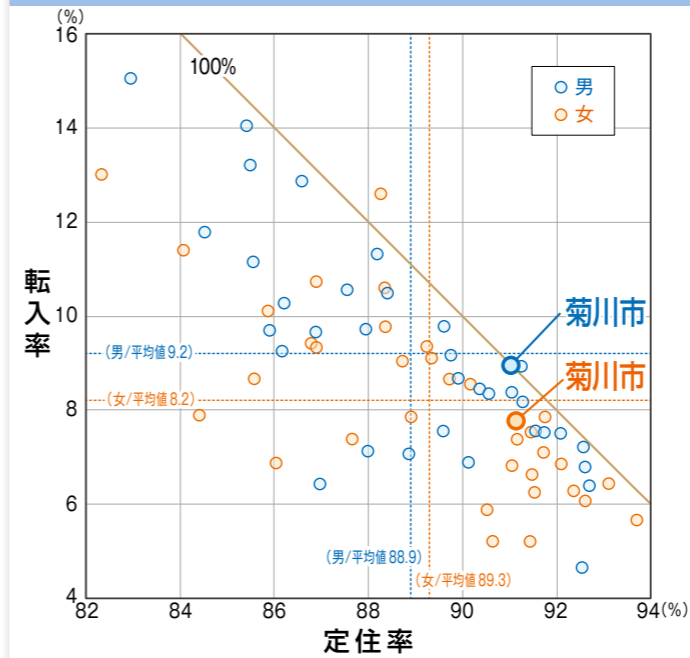
2 出生構造レーダーチャート



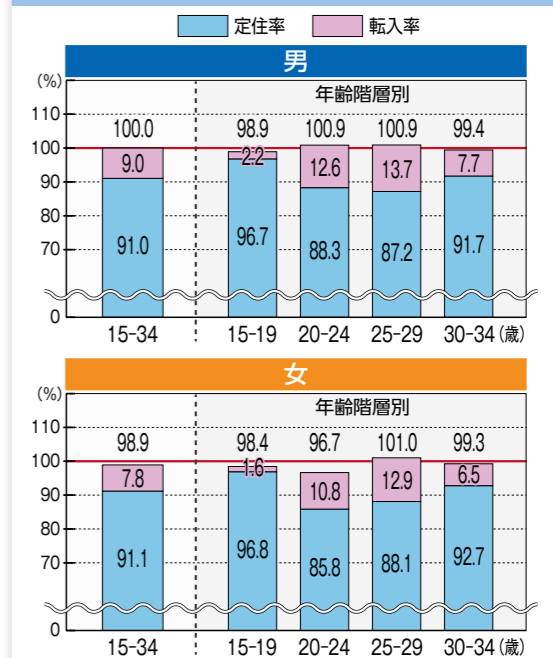
※出生構造レーダーチャートは、年齢階層別女性有配偶出生率及び出生順位別有配偶出生率の全国との差が、合計特殊出生率の全国との差に対する寄与として表されている。

3 若年層の男女別・年齢階層別の社会動態

定住率と転入率(15-34歳、男女別、2018-2022年の年平均)



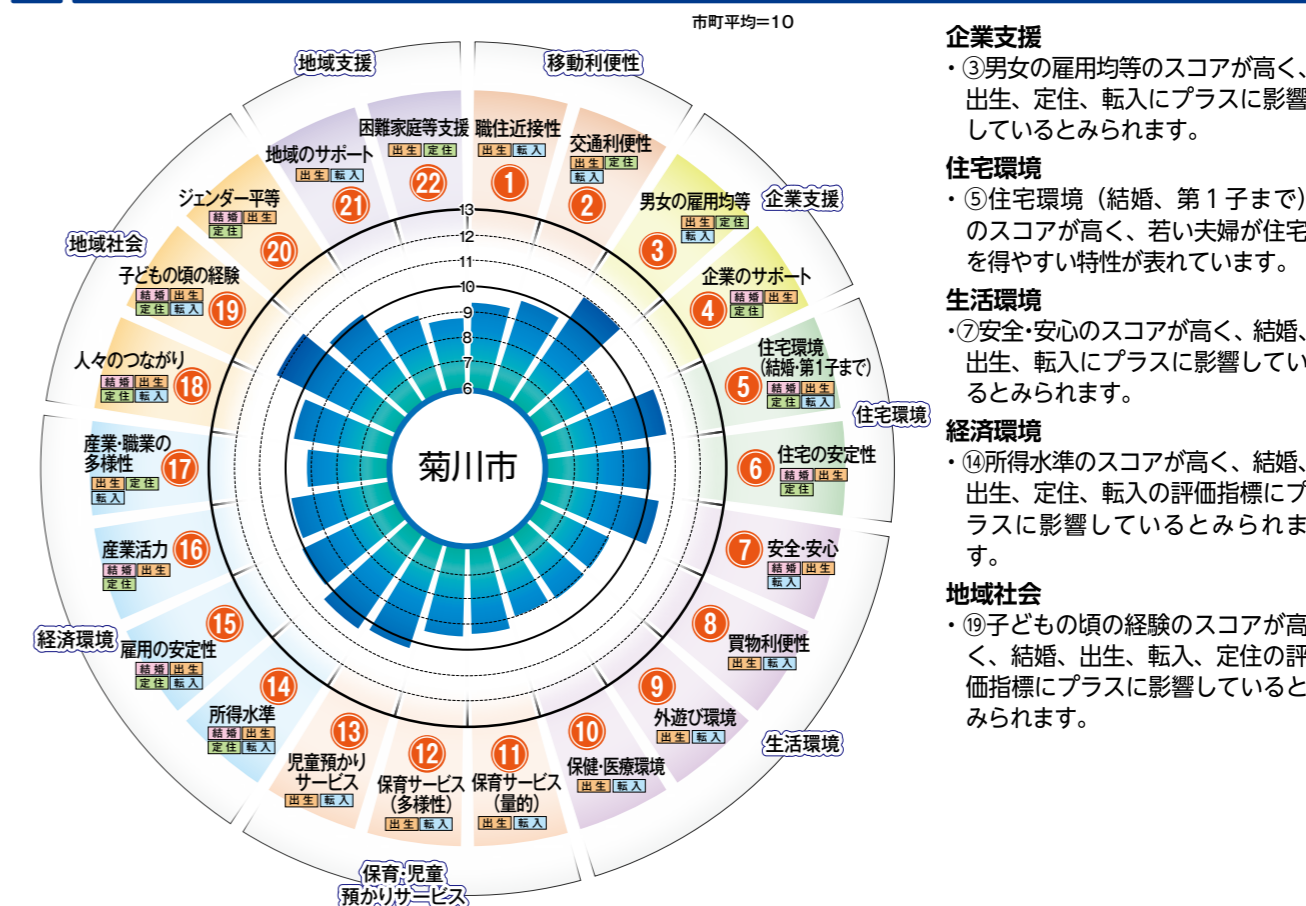
定住率と転入率(15-34歳、男女・年齢階層別、2018-2022年の年平均)



- ・菊川市の転入超過率は2015年と2019年を除きマイナスで推移してきました。これを定住率と転入率で表し、15-34歳で見ると、2018-2022年の年平均では、定住率と転入率の合計が、男性ではほぼ100%であり、女性は100%を下回っています。
- ・2018-2022年は、男女ともに定住率は市町平均よりも高く、転入率は平均よりも低くなっています。男性については、100%に満たない定住率を転

入率がカバーできているとみることができます。定住率は男女でほとんど差がないため、社会増減率の男女差は転入率の差であることがわかります。年齢階層別にみると、男性の20-24歳と25-29歳は社会増減率が100%を超えており、女性に比べて転入率が高くなっています。女性の20-24歳は社会増減率が100%を下回りますが、25-29歳は定住率、転入率とも十分に高く、100%を上回っています。

4 次世代を育む地域環境バーチャート

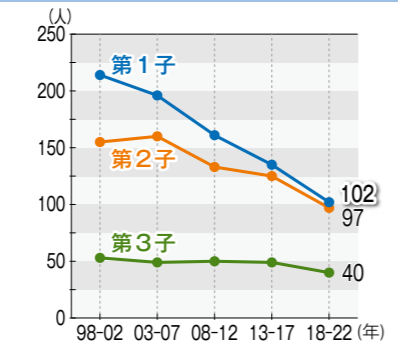


- 企業支援**
 ・③男女の雇用均等のスコアが高く、出生、定住、転入にプラスに影響しているとみられます。
- 住宅環境**
 ・⑤住宅環境(結婚、第1子まで)のスコアが高く、若い夫婦が住宅を得やすい特性が表れています。
- 生活環境**
 ・⑦安全・安心のスコアが高く、結婚、出生、転入にプラスに影響しているとみられます。
- 経済環境**
 ・⑭所得水準のスコアが高く、結婚、出生、定住、転入の評価指標にプラスに影響しているとみられます。
- 地域社会**
 ・⑲子どもの頃の経験のスコアが高く、結婚、出生、転入、定住の評価指標にプラスに影響しているとみられます。

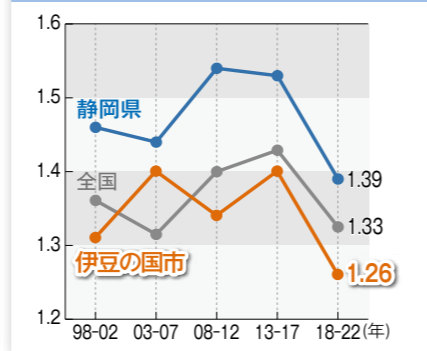
1 人口動態の概要

自然動態(出生)の状況

出生順位別出生数(年平均)の推移

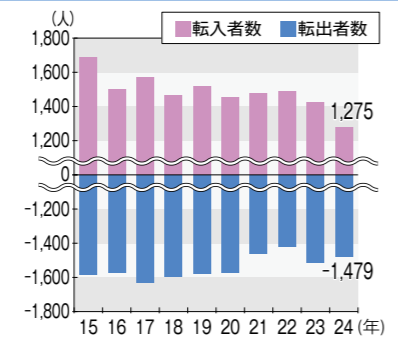


合計特殊出生率の推移

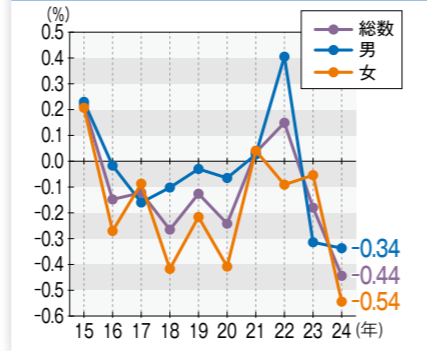


社会動態(全年齢)の状況

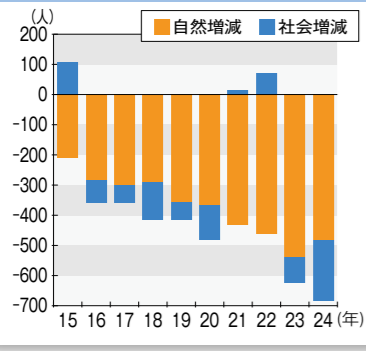
転入者数と転出者数の推移



転入超過率の推移



人口動態(全年齢)の推移



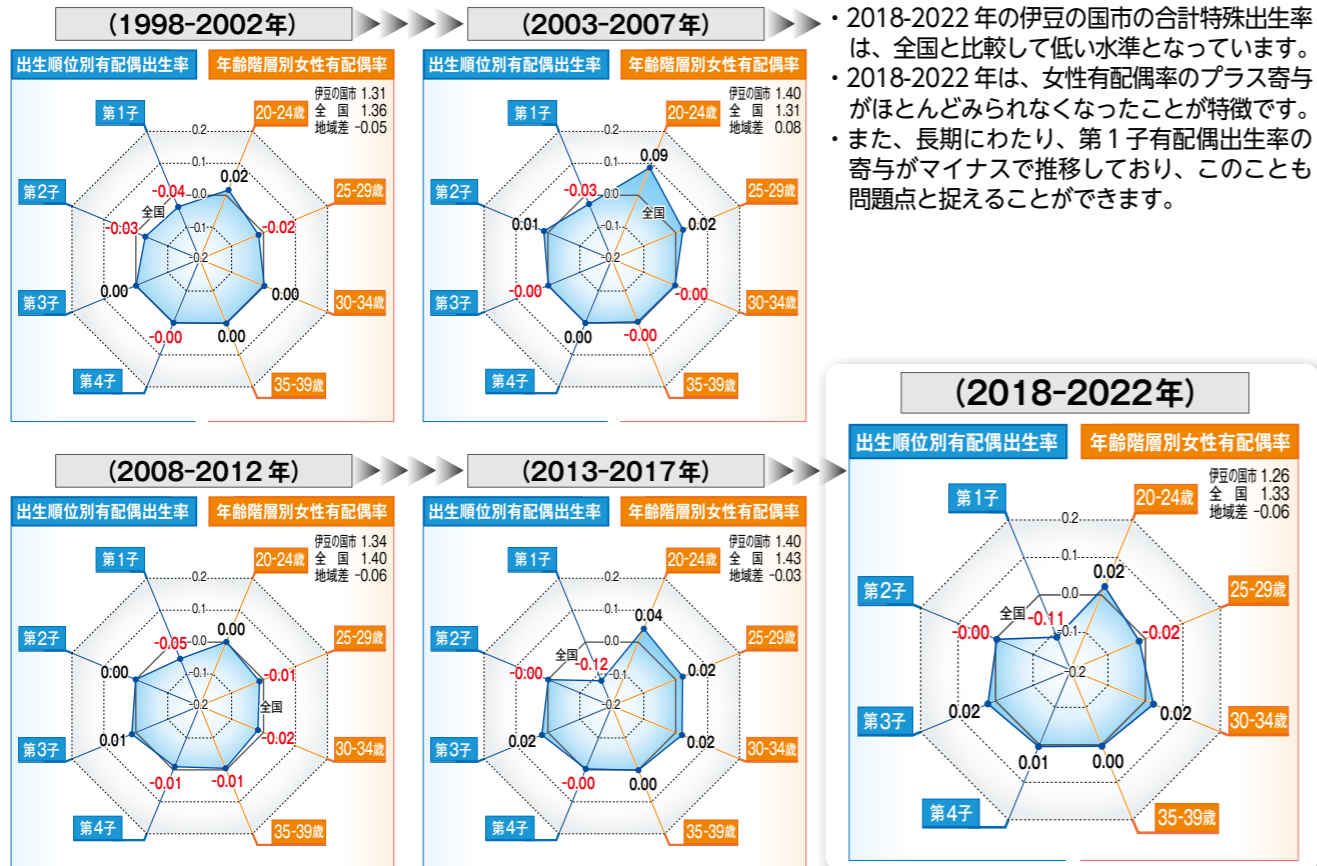
自然動態(出生)

・1998-2002年の期間から2018-2022年まで、第1子出生数の減少率が第2子を上回っており、2018-2022年では第1子と第2子の出生数がほぼ同数となっています。

社会動態(全年齢)

・社会動態がプラスになった年があるものの、転出者が転入を上回る年は多く、直近ではその差が拡大しています。
・転入超過率は男女で違いがみられ、その差は年によって変動しています。

2 出生構造レーダーチャート

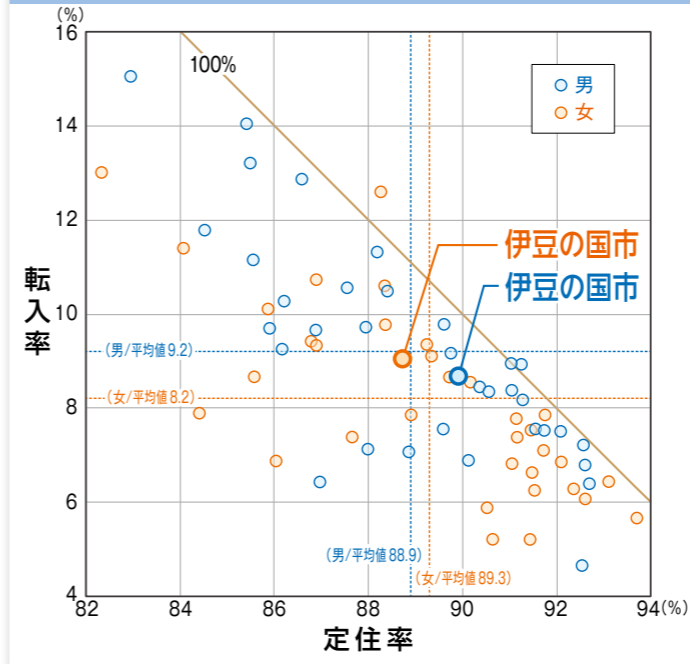


・2018-2022年の伊豆の国市の合計特殊出生率は、全国と比較して低い水準となっています。
・2018-2022年は、女性有配偶率のプラス寄与がほとんどみられなくなったことが特徴です。
・また、長期にわたり、第1子有配偶率の寄与がマイナスで推移しており、このことも問題点と捉えることができます。

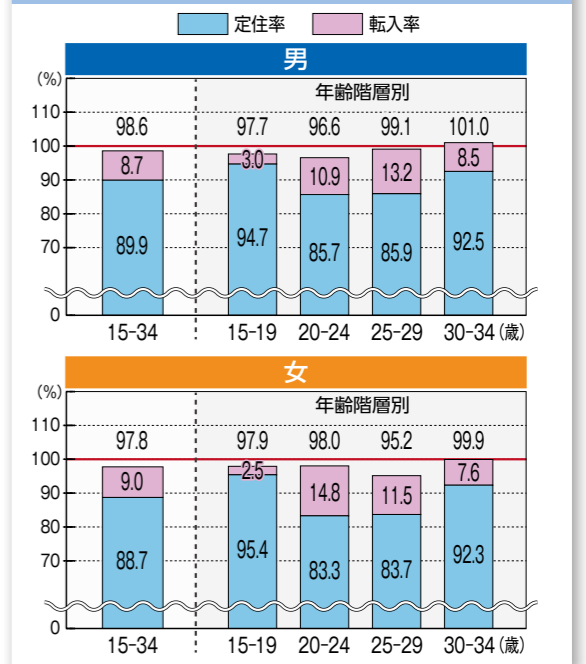
※出生構造レーダーチャートは、年齢階層別女性有配偶率及び出生順位別有配偶率の全国との差が、合計特殊出生率の全国との差に対する寄与として表されている。

3 若年層の男女別・年齢階層別の社会動態

定住率と転入率(15-34歳、男女別、2018-2022年の年平均)



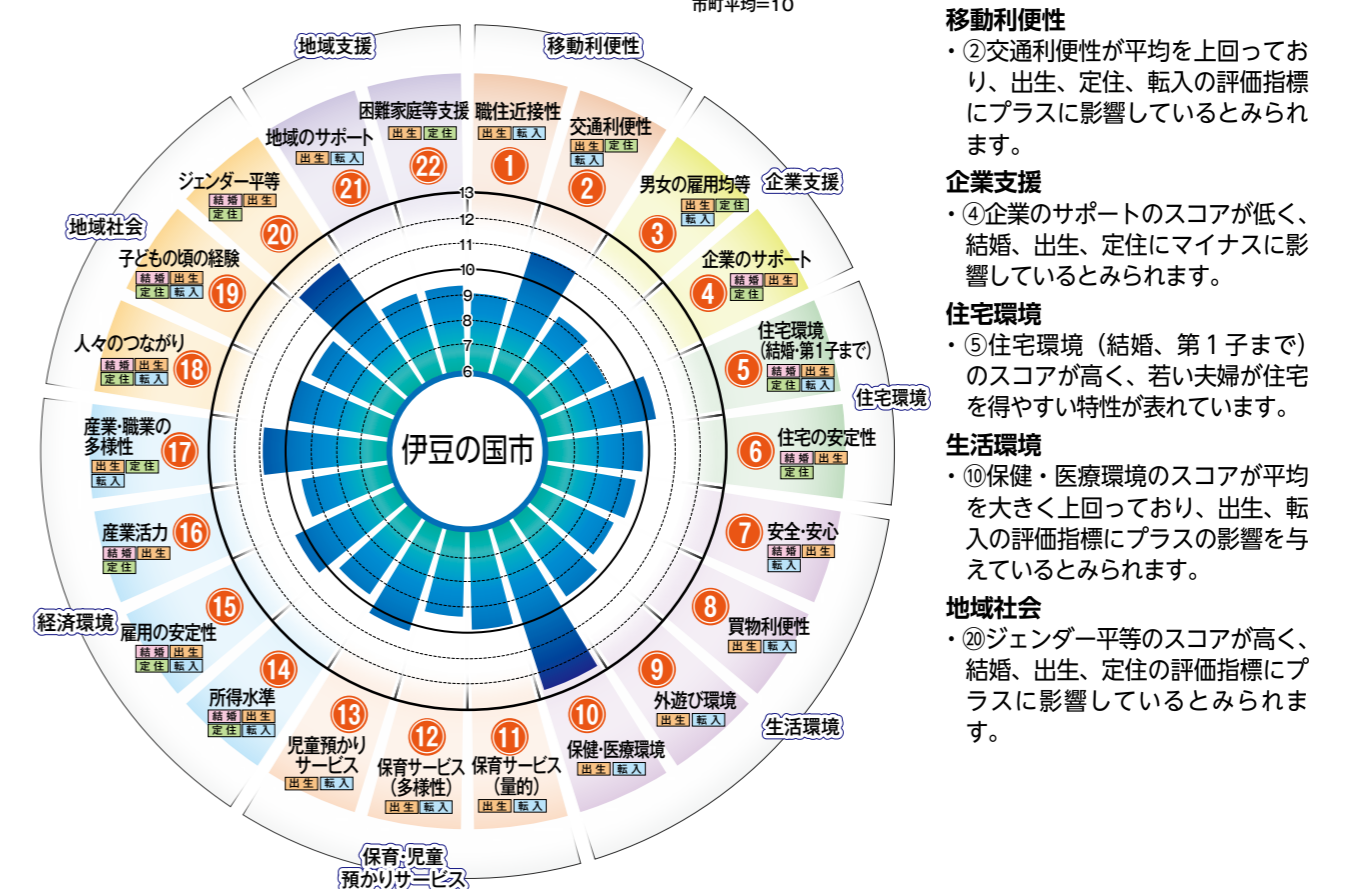
定住率と転入率(15-34歳、男女・年齢階層別、2018-2022年の年平均)



・伊豆の国市の転入超過率は2015年、2021年と2022年はプラス、その他の年はマイナスで推移していました。これを定住率と転入率で表し、15-34歳で見ると、2018-2022年の年平均は、男女とも定住率と転入率の計が100%ラインを下回っています。
・2018-2022年は、男性は定住率が市町平均を上回り、転入率は平均をやや下回ります。女性は、定住率が市町平均をやや下回り、転

入率は平均を上回っています。男女で比較すると、転入率に大きな差はありませんが、女性の定住率が男性に比べて低くなっています。
・年齢階層別にみると、男性は20-24歳、女性は25-29歳の社会増減率が低くなっています。20-24歳と25-29歳の女性の定住率が男性を下回っていますが、20-24歳の女性の転入率は男性を大きく上回っています。

4 次世代を育む地域環境バーチャート



移動利便性
・②交通利便性が平均を上回っており、出生、定住、転入の評価指標にプラスに影響しているとみられます。

企業支援
・④企業のサポートのスコアが低く、結婚、出生、定住にマイナスに影響しているとみられます。

住宅環境
・⑤住宅環境(結婚、第1子までの)のスコアが高く、若い夫婦が住宅を得やすい特性が表れています。

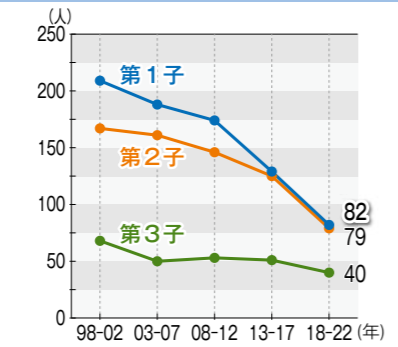
生活環境
・⑩保健・医療環境のスコアが平均を大きく上回っており、出生、転入の評価指標にプラスの影響を与えているとみられます。

地域社会
・⑩ジェンダー平等のスコアが高く、結婚、出生、定住の評価指標にプラスに影響しているとみられます。

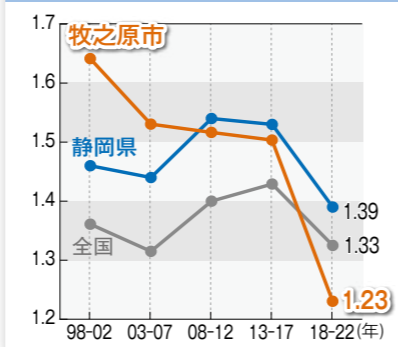
1 人口動態の概要

自然動態(出生)の状況

出生順位別出生数(年平均)の推移

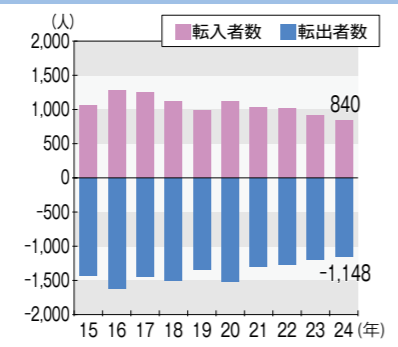


合計特殊出生率の推移

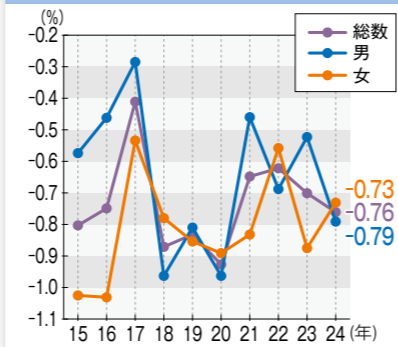


社会動態(全年齢)の状況

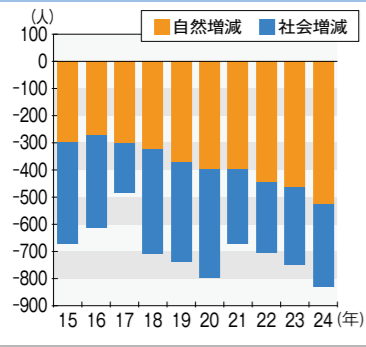
転入者数と転出者数の推移



転入超過率の推移



人口動態(全年齢)の推移



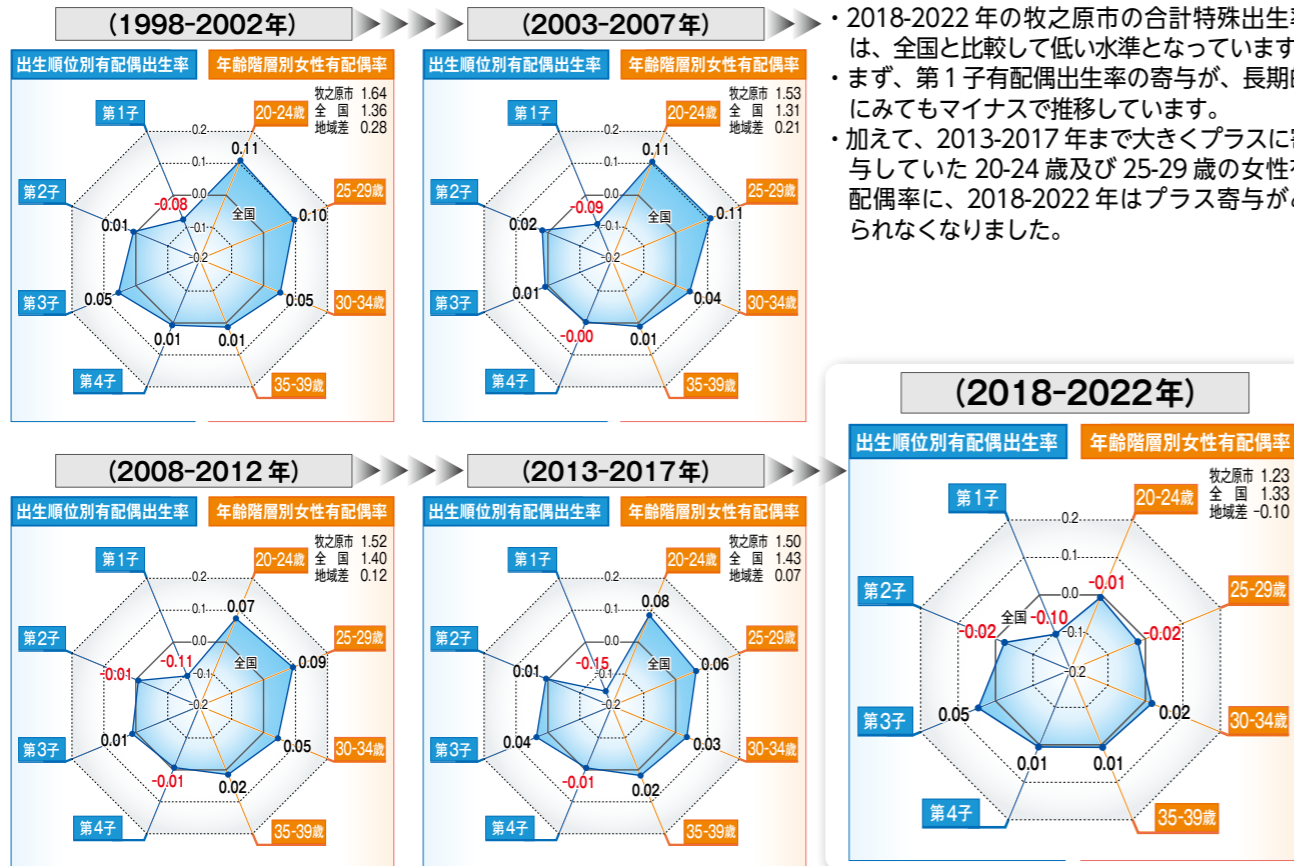
自然動態(出生)

・2013-2017年以降については、第1子と第2子の出生数がほぼ同数となっています。

社会動態(全年齢)

・転出者が転入者を上回る傾向が続いていますが、年によって変動があります。
・転入超過率は男女で違いがみられ、その差は年によって変動しています。

2 出生構造レーダーチャート

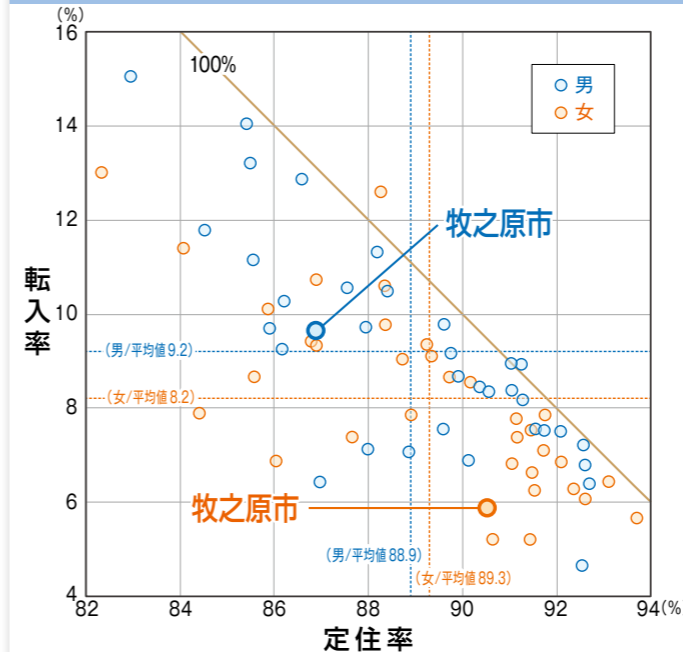


・2018-2022年の牧之原市の合計特殊出生率は、全国と比較して低い水準となっています。
・まず、第1子有配偶出生率の寄与が、長期的にみてもマイナスで推移しています。
・加えて、2013-2017年まで大きくプラスに寄与していた20-24歳及び25-29歳の女性有配偶率に、2018-2022年はプラス寄与がみられなくなりました。

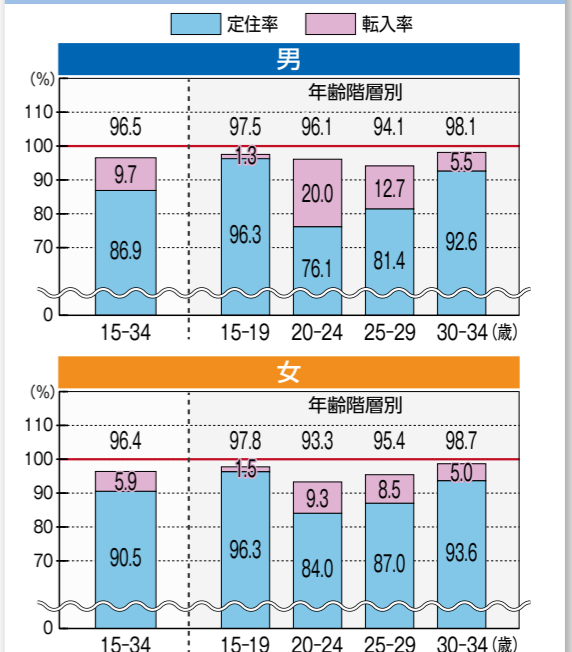
※出生構造レーダーチャートは、年齢階層別女性有配偶出生率及び出生順位別有配偶出生率の全国との差が、合計特殊出生率の全国との差に対する寄与として表されている。

3 若年層の男女別・年齢階層別の社会動態

定住率と転入率(15-34歳、男女別、2018-2022年の年平均)



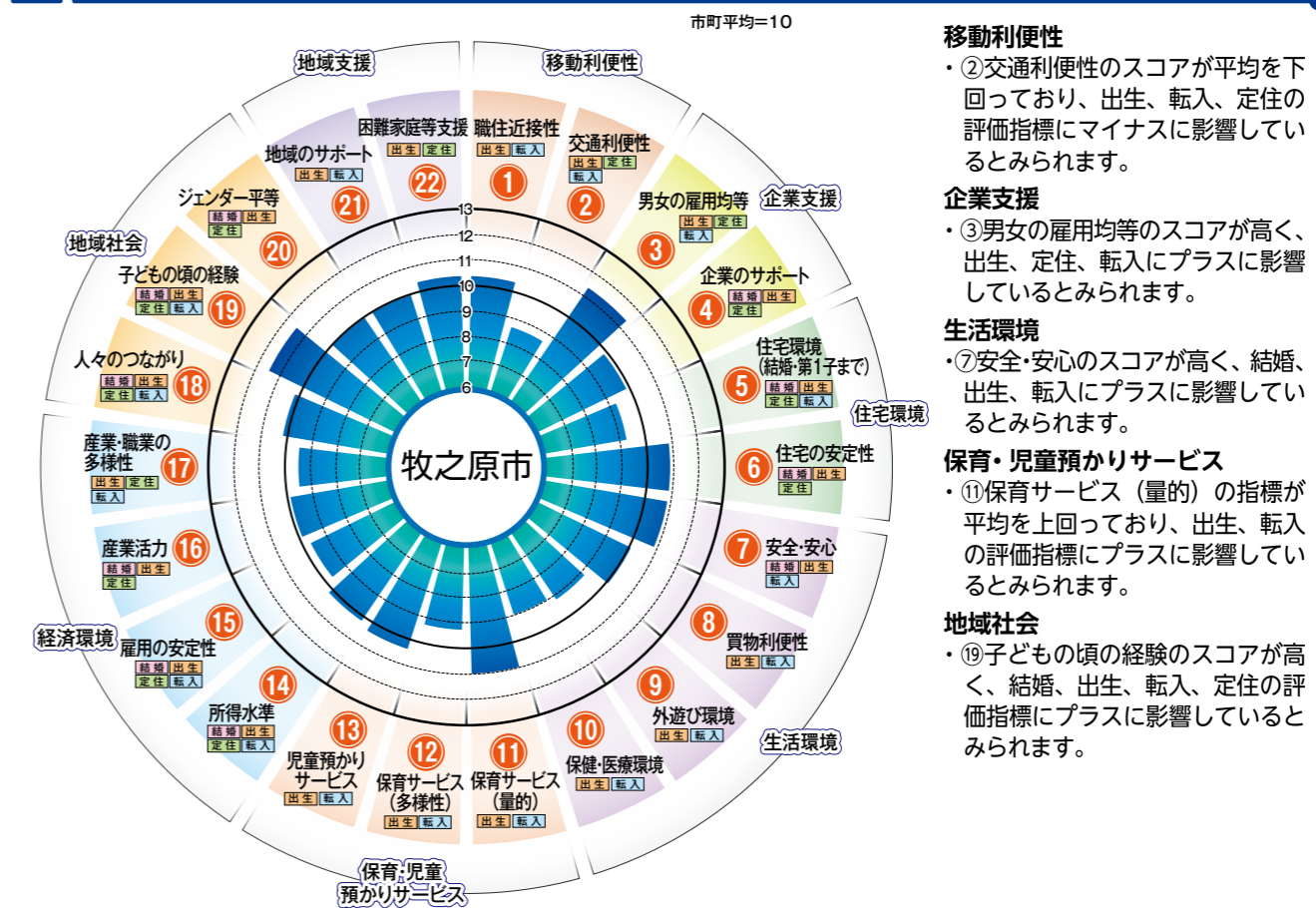
定住率と転入率(15-34歳、男女・年齢階層別、2018-2022年の年平均)



・牧之原市の転入超過率はマイナスで推移していました。これを定住率と転入率で表し、15-34歳でみると、2018-2022年の年平均は、男女とも定住率と転入率の計が100%ラインを下回っています。
・2018-2022年は、男性の定住率は市町平均を下回り、転入率が平均をやや上回っています。女性は、定住率が平均を上回り

ますが、転入率は平均を下回ります。男女で比較すると、男性の方が転入率が高く、定住率は女性の方が高いという特徴が表れます。
・年齢階層別にみると、男性は20-24歳の定住率が低く、低い定住率を高い転入率でカバーしている状況です。女性は20-24歳の社会増減率が低くなっていますが、定住率は男性を上回っています。

4 次世代を育む地域環境バーチャート



移動利便性
・②交通利便性のスコアが平均を下回っており、出生、転入、定住の評価指標にマイナスに影響しているとみられます。

企業支援
・③男女の雇用均等のスコアが高く、出生、定住、転入にプラスに影響しているとみられます。

生活環境
・⑦安全・安心のスコアが高く、結婚、出生、転入にプラスに影響しているとみられます。

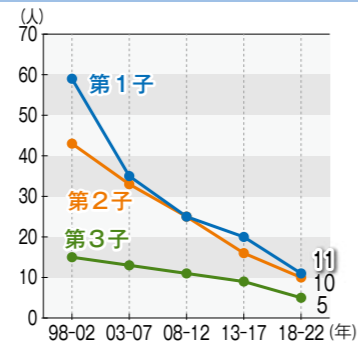
保育・児童預かりサービス
・⑪保育サービス(量的)の指標が平均を上回っており、出生、転入の評価指標にプラスに影響しているとみられます。

地域社会
・⑩子どもの頃の経験のスコアが高く、結婚、出生、転入、定住の評価指標にプラスに影響しているとみられます。

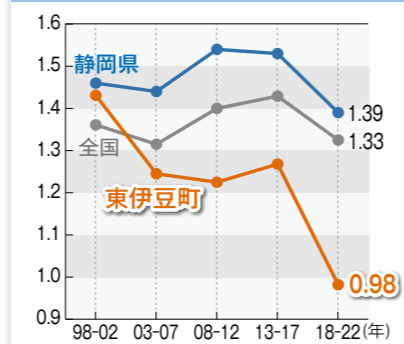
1 人口動態の概要

自然動態(出生)の状況

出生順位別出生数(年平均)の推移

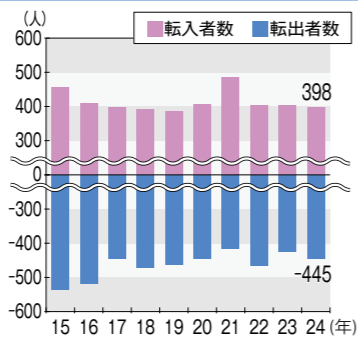


合計特殊出生率の推移

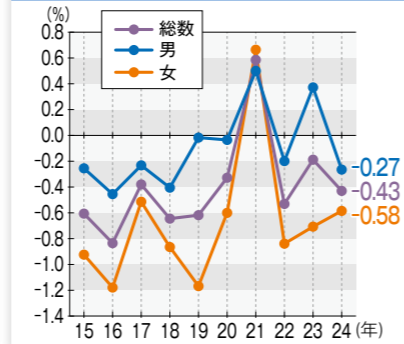


社会動態(全年齢)の状況

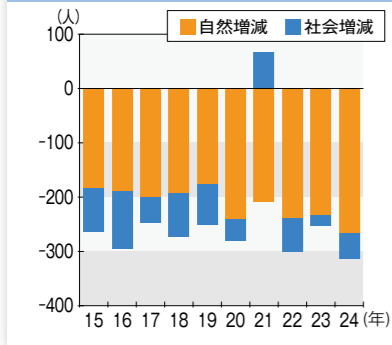
転入者数と転出者数の推移



転入超過率の推移



人口動態(全年齢)の推移



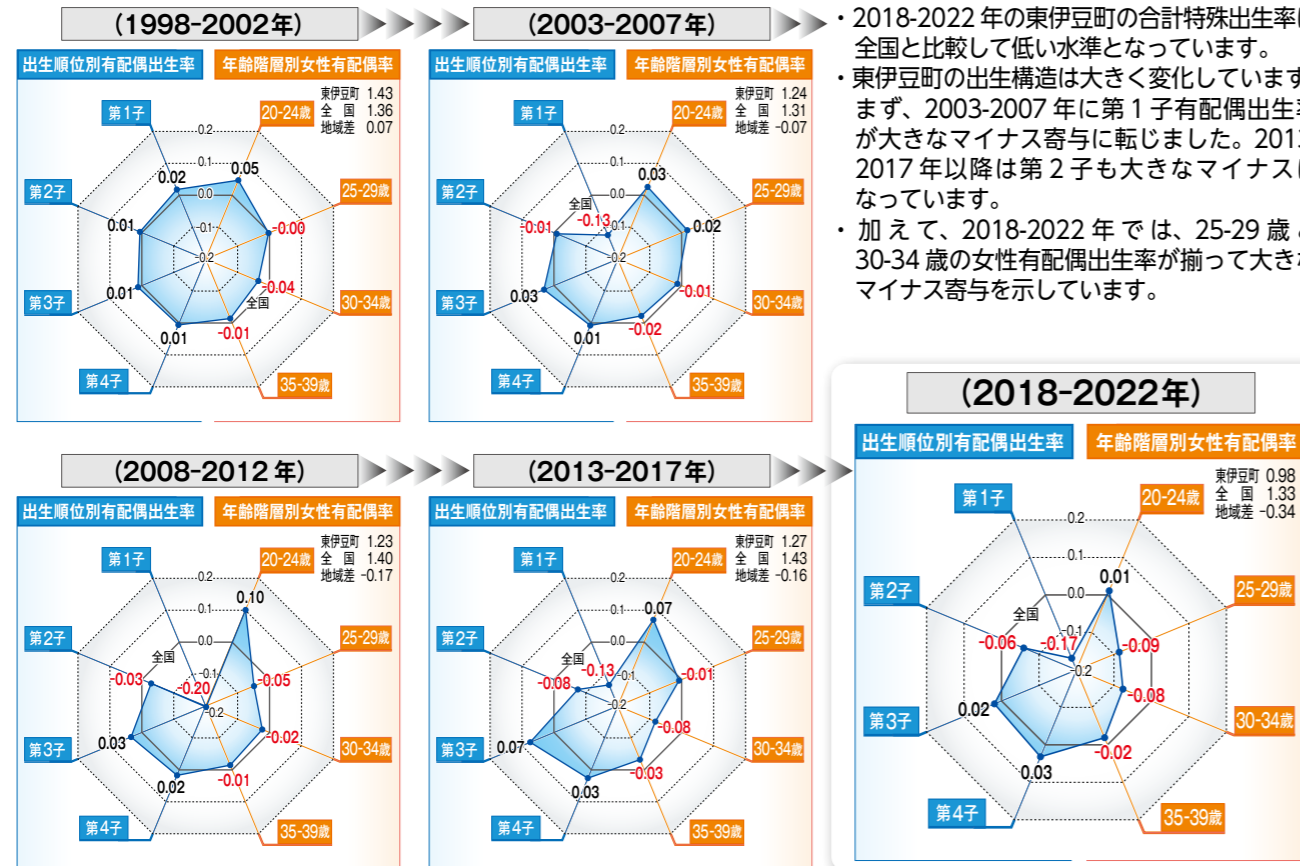
自然動態(出生)

・2003-2007年以降について、第1子と第2子の出生数がほぼ同数となっています。

社会動態(全年齢)

・転出者が転入者を上回る傾向が続いていますが、年によって変動があります。
・転入超過率は男女で違いがみられ、その差は年によって変動しています。

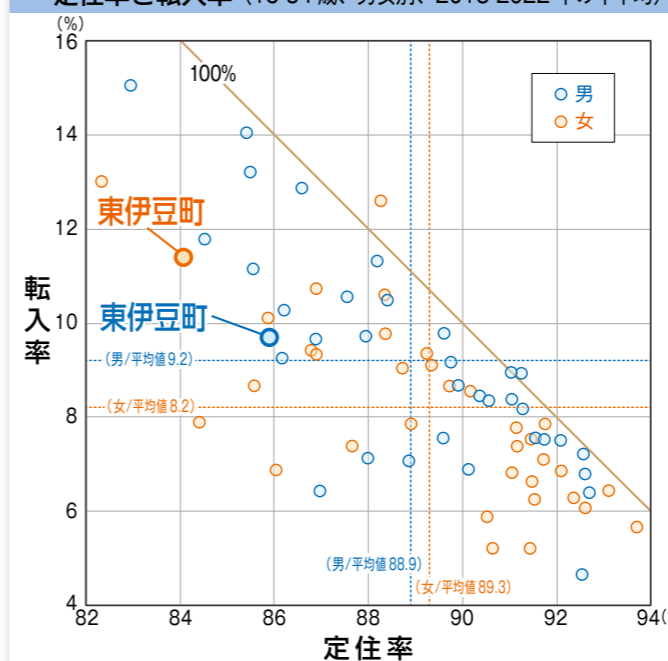
2 出生構造レーダーチャート



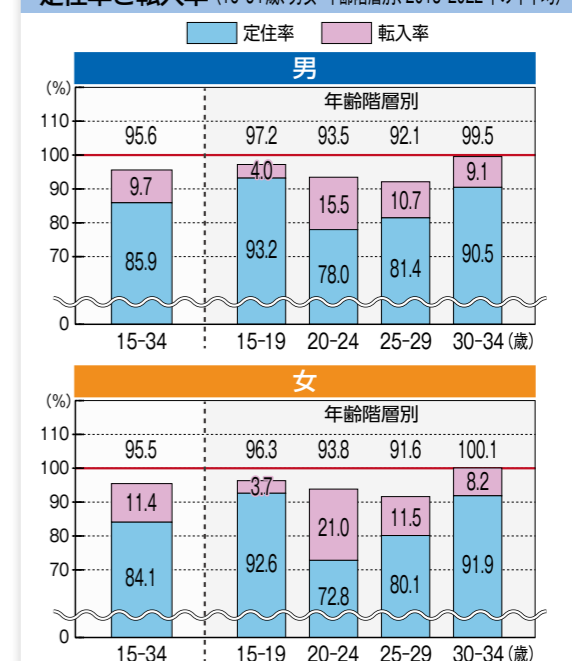
※出生構造レーダーチャートは、年齢階層別女性有配偶出生率及び出生順位別有配偶出生率の全国との差、合計特殊出生率の全国との差に対する寄与として表されている。

3 若年層の男女別・年齢階層別の社会動態

定住率と転入率(15-34歳、男女別、2018-2022年の年平均)



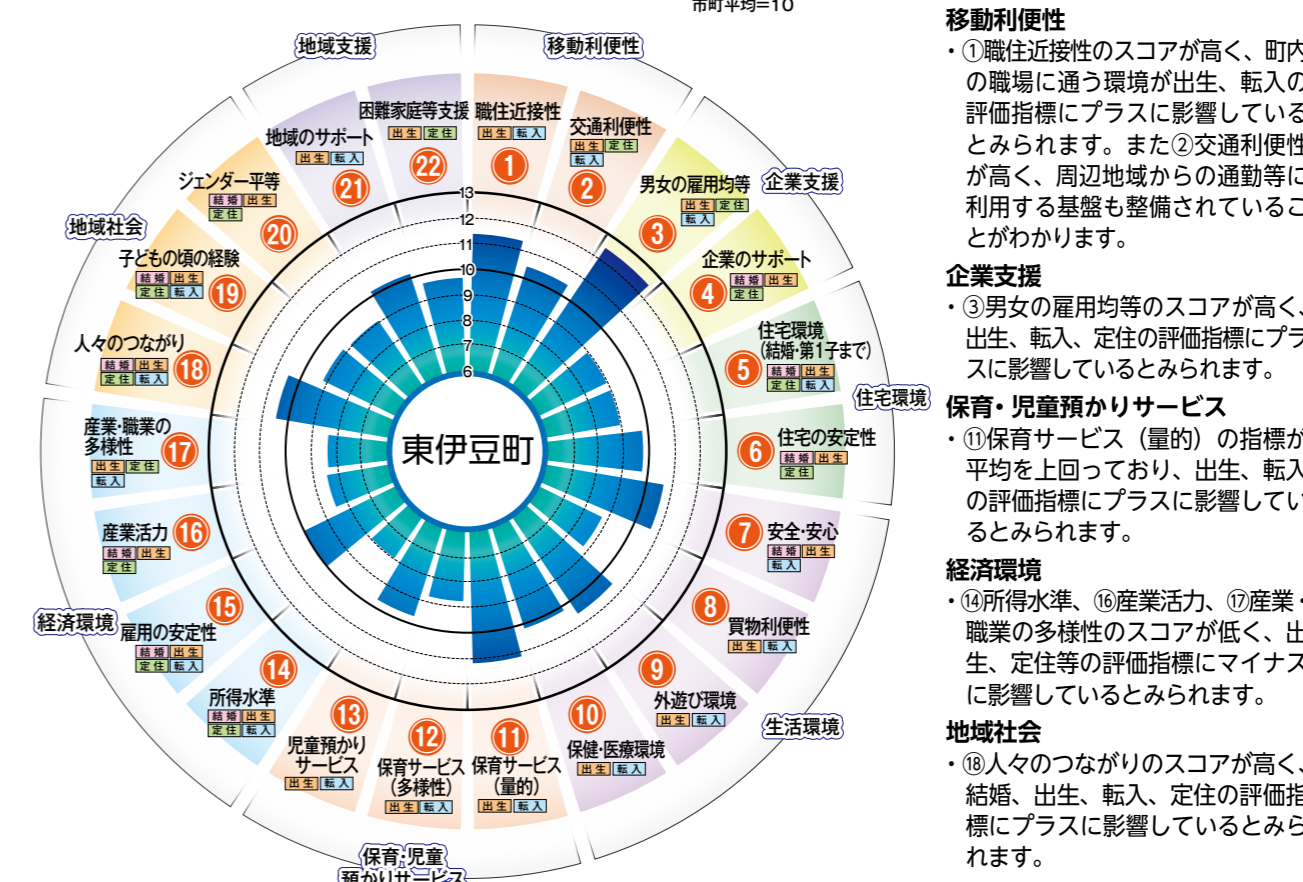
定住率と転入率(15-34歳、男女・年齢階層別、2018-2022年の年平均)



・東伊豆町の転入超過率は2021年を除きマイナスで推移していました。これを定住率と転入率で表し、15-34歳でみると、2018-2022年の年平均は、男女とも定住率と転入率の合計が100%ラインを下回っています。
・2018-2022年は、男女とも定住率は市町平均を下回りますが、転入率は平均を上回ります。特に、女性の転入率は高い水準

にあります。このため、男女で比較すると、男性の方が定住率が高く、転入率は女性の方が高いという特徴が表れます。
・年齢階層別にみると、男女ともに20-24歳、25-29歳の社会増減率が100%を大きく下回り、高い転入率でも、低い定住率をカバーできていない状況がわかります。特に、女性の20-24歳はこの傾向が顕著です。

4 次世代を育む地域環境バーチャート



移動利便性
・①職住近接性のスコアが高く、町内の職場に通う環境が出生、転入の評価指標にプラスに影響しているとみられます。また②交通利便性が高く、周辺地域からの通勤等に利用する基盤も整備されていることがわかります。

企業支援
・③男女の雇用均等のスコアが高く、出生、転入、定住の評価指標にプラスに影響しているとみられます。

保育・児童預かりサービス
・⑪保育サービス(量的)の指標が平均を上回っており、出生、転入の評価指標にプラスに影響しているとみられます。

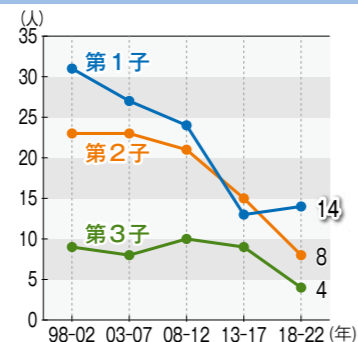
経済環境
・⑭所得水準、⑮産業活力、⑯産業・職業の多様性のスコアが低く、出生、定住等の評価指標にマイナスに影響しているとみられます。

地域社会
・⑱人々のつながりのスコアが高く、結婚、出生、転入、定住の評価指標にプラスに影響しているとみられます。

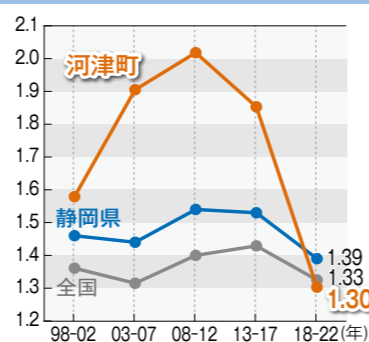
1 人口動態の概要

自然動態(出生)の状況

出生順位別出生数(年平均)の推移

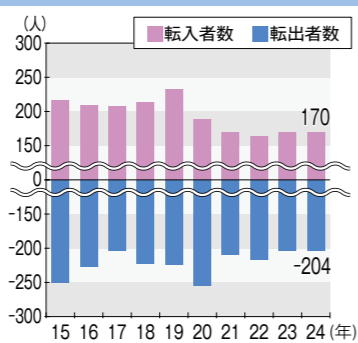


合計特殊出生率の推移

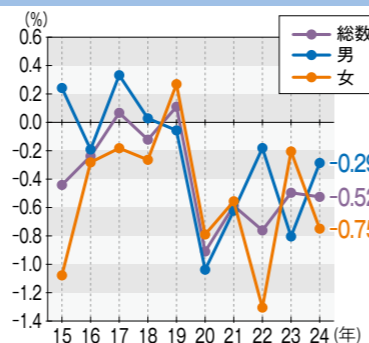


社会動態(全年齢)の状況

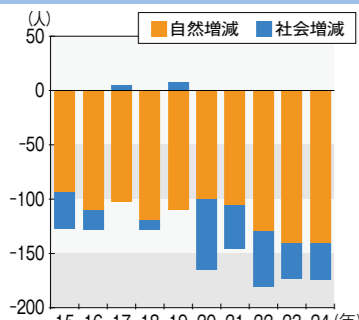
転入者数と転出者数の推移



転入超過率の推移



人口動態(全年齢)の推移



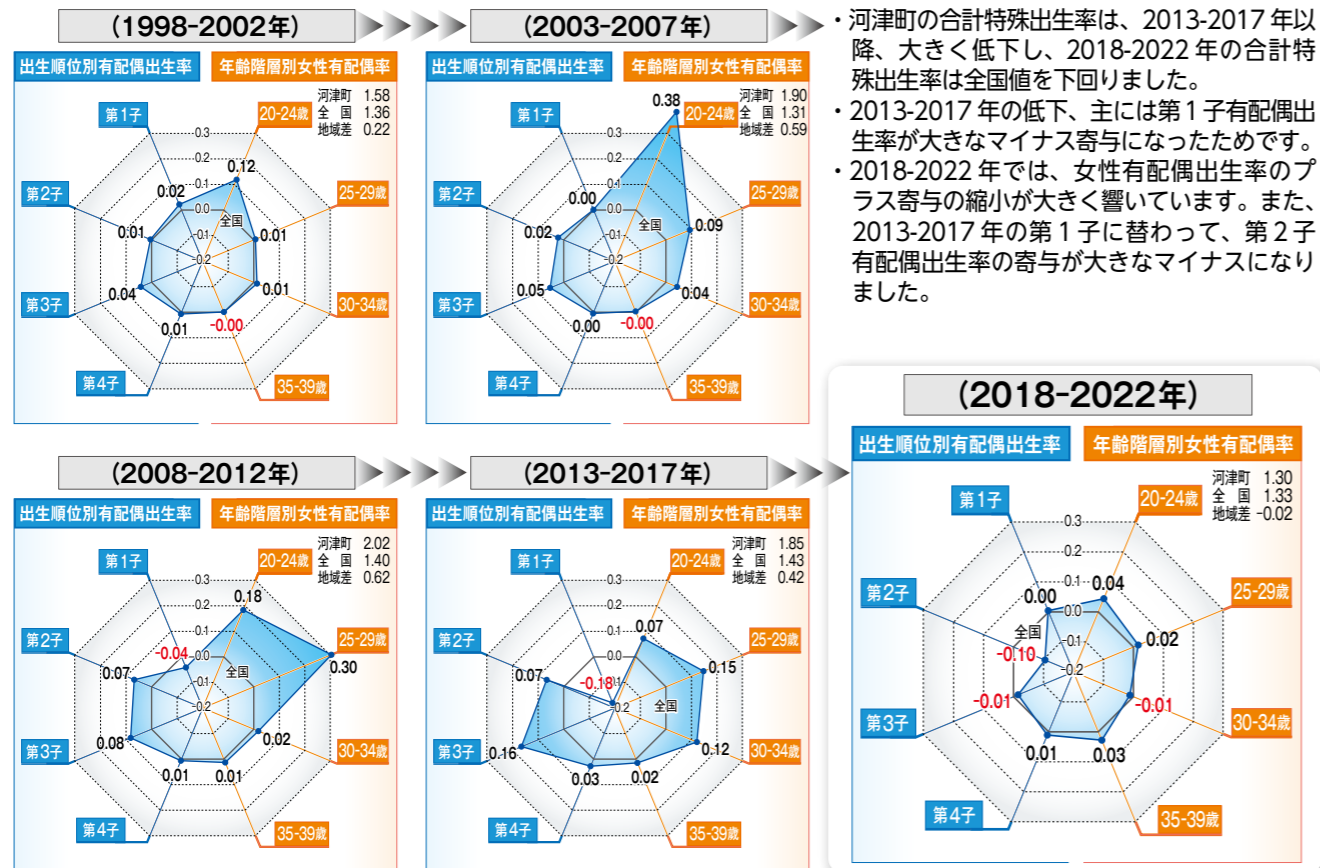
自然動態(出生)

・2013-2017年の期間から2018-2022年にかけて、第2子出生数の減少率が第1子を上回っています。

社会動態(全年齢)

・転出者が転入者を上回る傾向が続いていますが、年によって変動があります。
・転入超過率は男女で違いがみられ、その差は年によって変動しています。

2 出生構造レーダーチャート

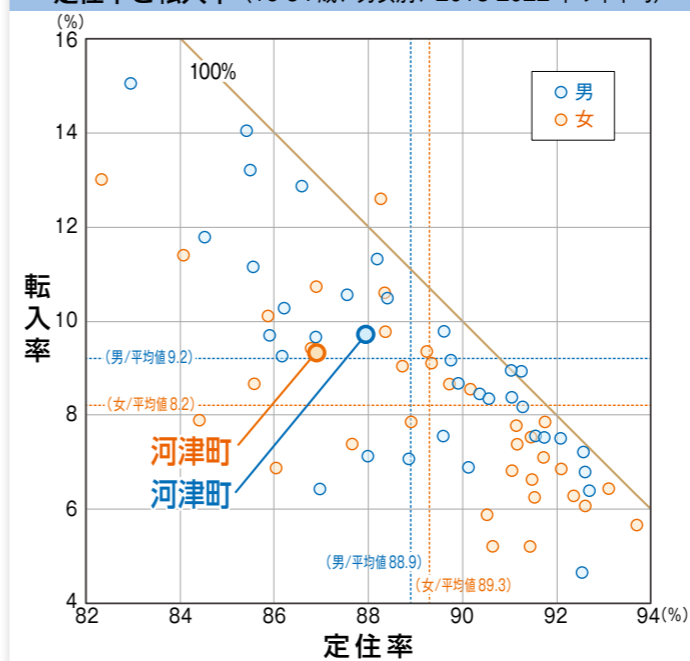


・河津町の合計特殊出生率は、2013-2017年以降、大きく低下し、2018-2022年の合計特殊出生率は全国値を下回りました。
・2013-2017年の低下、主には第1子有配偶出生率が大きなマイナス寄与になったためです。
・2018-2022年では、女性有配偶出生率のプラス寄与の縮小が大きく響いています。また、2013-2017年の第1子に替わって、第2子有配偶出生率の寄与が大きなマイナスになりました。

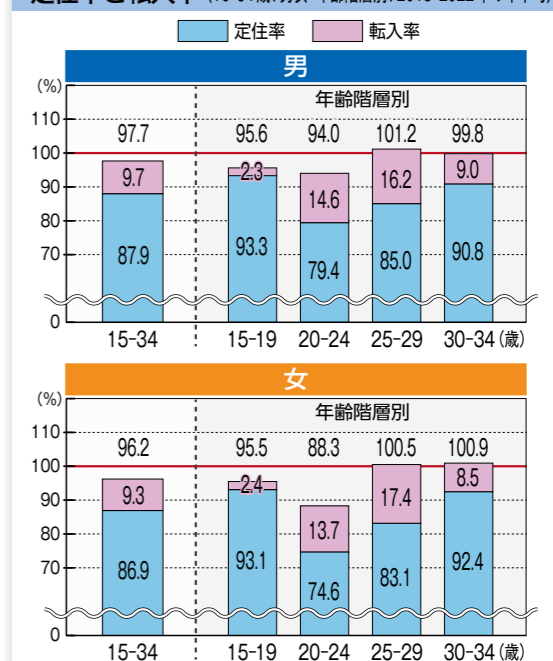
※出生構造レーダーチャートは、年齢階層別女性有配偶出生率及び出生順位別有配偶出生率の全国との差が、合計特殊出生率の全国との差に対する寄与として表されている。

3 若年層の男女別・年齢階層別の社会動態

定住率と転入率(15-34歳、男女別、2018-2022年の年平均)



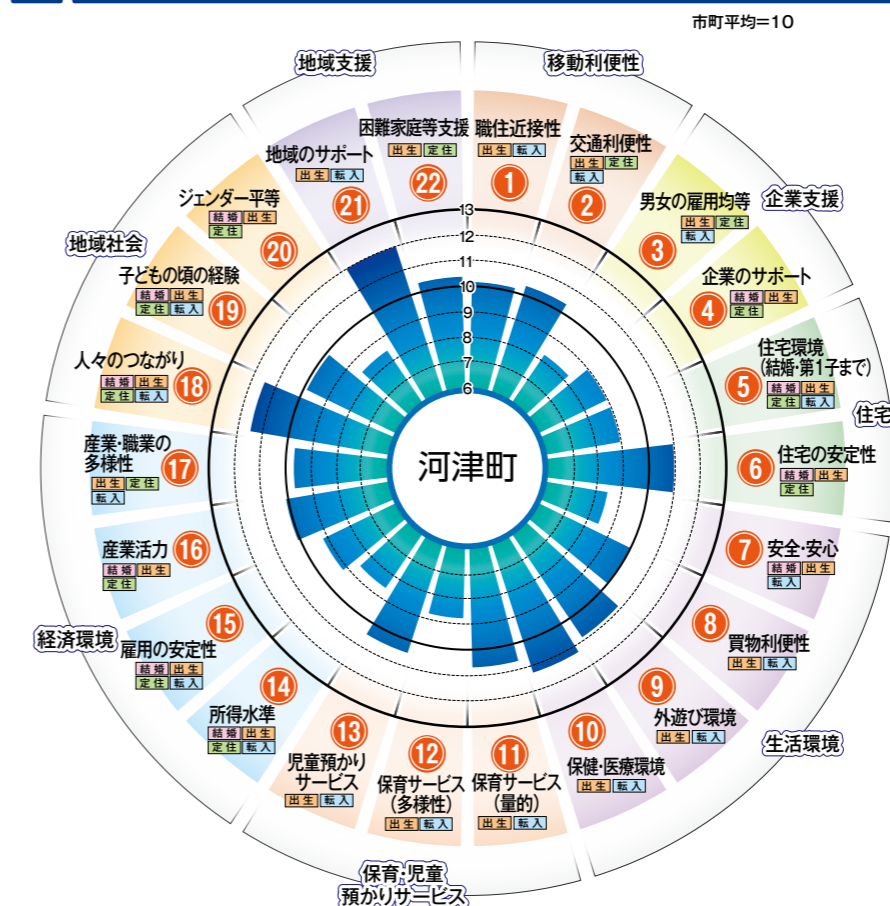
定住率と転入率(15-34歳、男女・年齢階層別、2018-2022年の年平均)



・河津町の転入超過率は2017年と2019年を除きマイナスで推移していました。これを定住率と転入率で表し、15-34歳でみると、2018-2022年の年平均は、男女とも定住率と転入率の合計が100%ラインを下回っています。
・2018-2022年は、男女とも定住率が市町平均を下回り、転入率が平均を上回っています。男女で比較すると、定住率、

転入率とも女性の方がやや低い値になっています。
・年齢階層別にみると、男女ともに15-19歳と20-24歳の社会増減率が低くなっています。特に、20-24歳の定住率が低く、高い転入率でも、定住率の低さをカバーできていない状況です。20-24歳は、定住率、転入率とも、女性が男性を下回ります。

4 次世代を育む地域環境バーチャート



住宅環境
・⑥住宅の安定性のスコアが平均を上回り、子育て世帯の定住要因にプラスに影響しているとみられます。

生活環境
・⑨外遊び環境、⑩保健・医療環境のスコアが平均を上回っており、出生、転入の評価指標にプラスに影響しているとみられます。

保育・児童預かりサービス
・⑫保育サービス(量的)の指標が平均を上回っており、出生、転入の評価指標にプラスの影響しているとみられます。

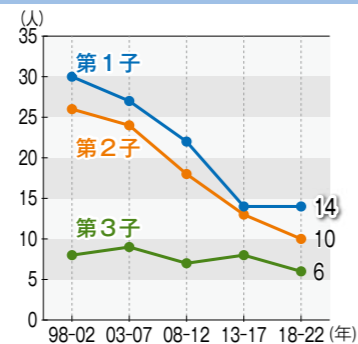
地域社会
・⑮人々のつながりのスコアが高く、これは結婚、出生、転入、定住の評価指標にプラスの影響を及ぼしているとみられます。

地域支援
・⑪地域のサポートのスコアが高く、出生、転入にプラスの影響をもたらしているとみられます。

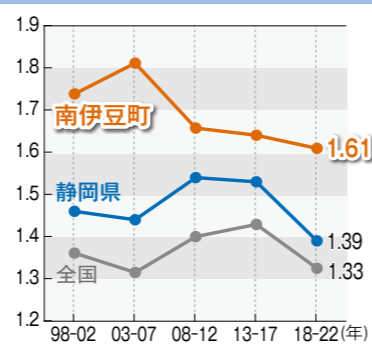
1 人口動態の概要

自然動態(出生)の状況

出生順位別出生数(年平均)の推移

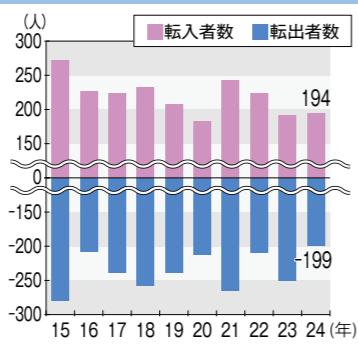


合計特殊出生率の推移

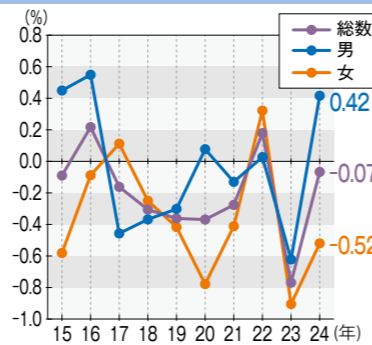


社会動態(全年齢)の状況

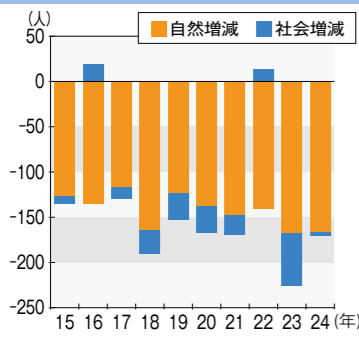
転入者数と転出者数の推移



転入超過率の推移



人口動態(全年齢)の推移



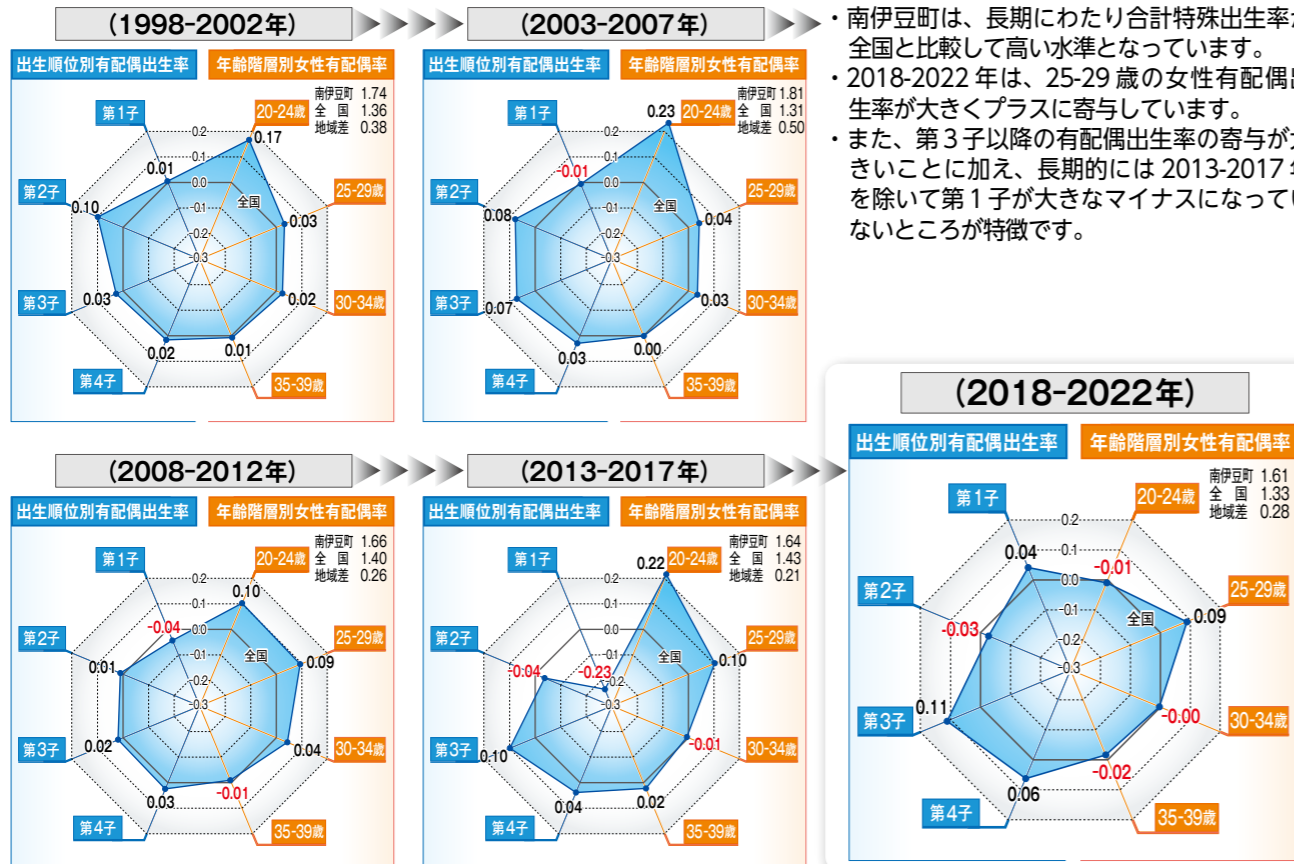
自然動態(出生)

・1998-2002年以降について、第1子と第2子の出生数がほぼ同数となっています。

社会動態(全年齢)

・転出者が転入者を上回る傾向が続いていますが、年によって変動があります。
・近年の転入超過率は男女の動きに連動性がみられます。

2 出生構造レーダーチャート

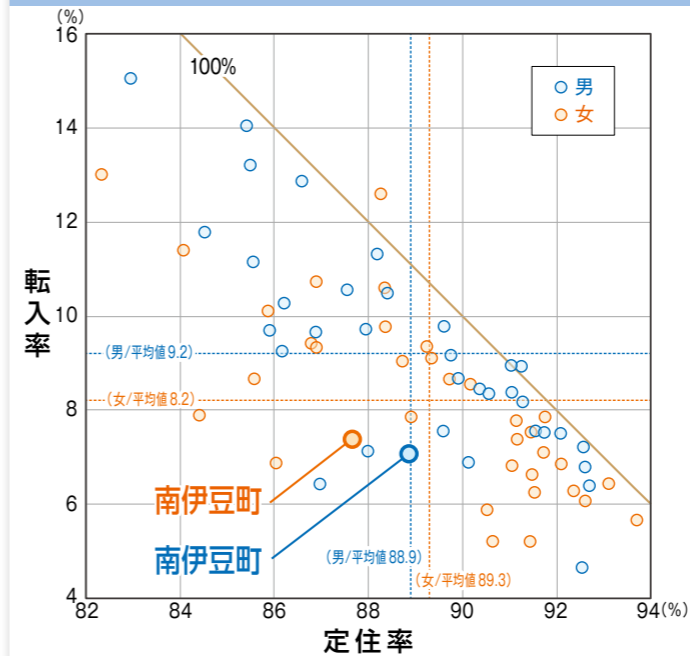


・南伊豆町は、長期にわたり合計特殊出生率が全国と比較して高い水準となっています。
・2018-2022年は、25-29歳の女性有配偶出生率が大きくプラスに寄与しています。
・また、第3子以降の有配偶出生率の寄与が大きいことに加え、長期的には2013-2017年を除いて第1子が大きなマイナスになっていないところが特徴です。

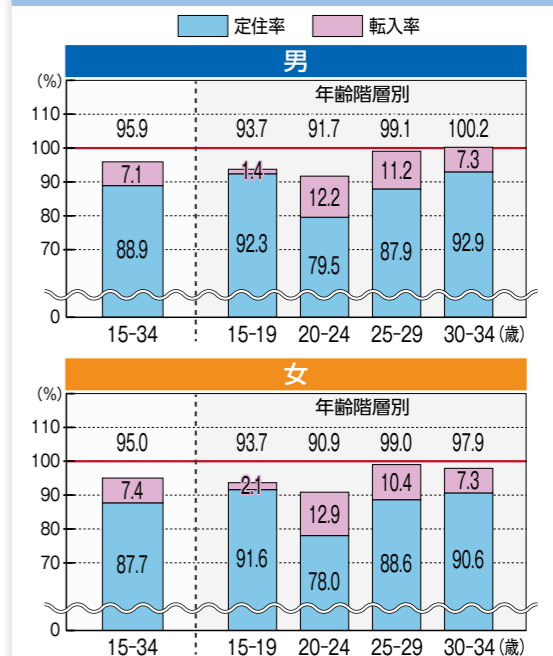
※出生構造レーダーチャートは、年齢階層別女性有配偶出生率及び出生順位別有配偶出生率の全国との差、合計特殊出生率の全国との差に対する寄与として表されている。

3 若年層の男女別・年齢階層別の社会動態

定住率と転入率(15-34歳、男女別、2018-2022年の年平均)



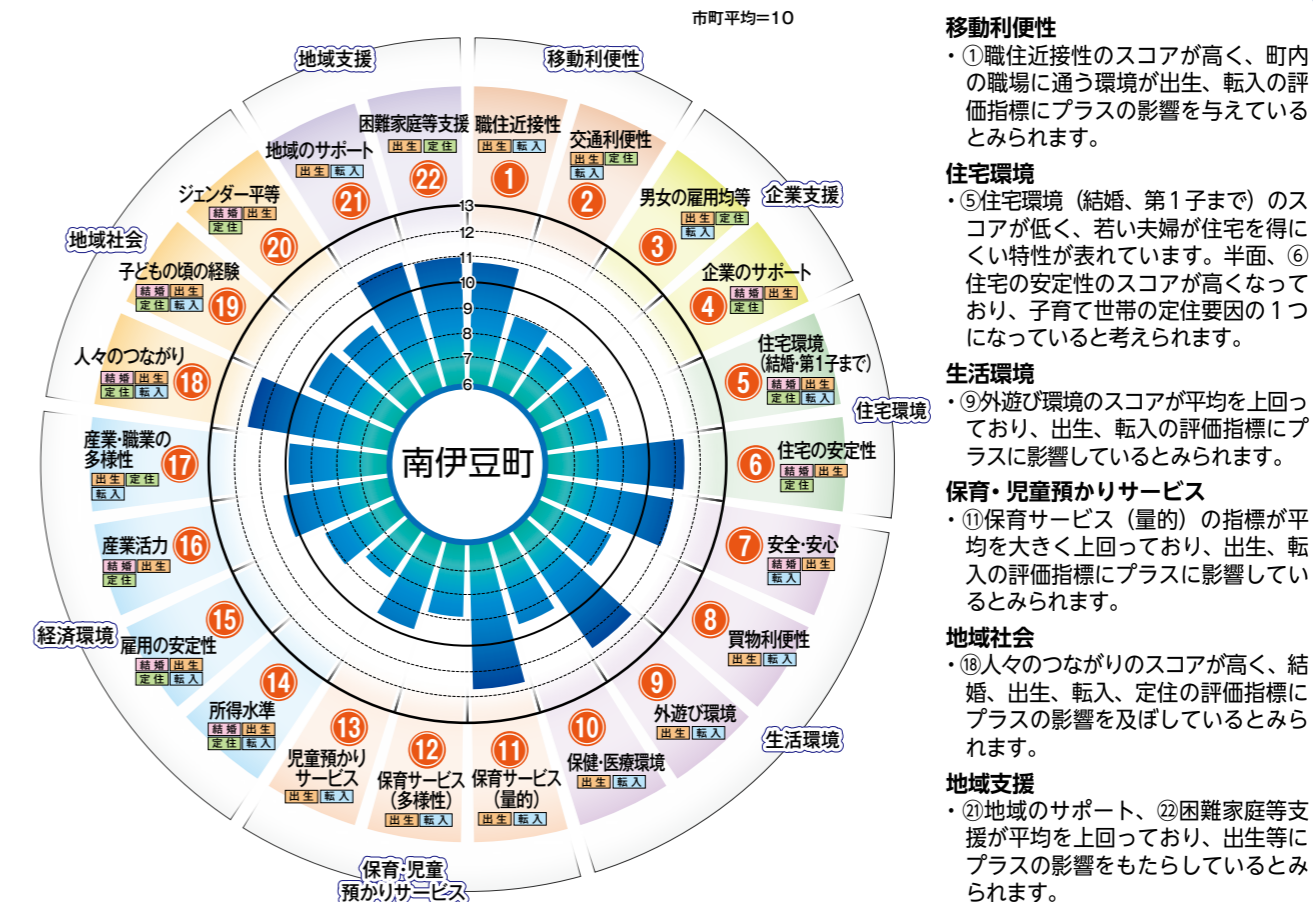
定住率と転入率(15-34歳、男女・年齢階層別、2018-2022年の年平均)



・南伊豆町の転入超過率は2016年と2022年を除きマイナスで推移していました。これを定住率と転入率で表し、15-34歳でみると、2018-2022年の年平均は、男女とも定住率と転入率の合計が100%ラインを下回っています。
・2018-2022年は、男女とも定住率、転入率の両方が市町平均を下回っています。

均を下回っています。男女で比較すると、男性に比べて女性は特に定住率が低いという特徴が表れます。
・年齢階層別にみると、男女ともに15-19歳と20-24歳の社会増減率が100%を大きく下回り、これらの年齢階層で女性の方が定住率が低くなっています。

4 次世代を育む地域環境バーチャート



移動利便性
・①職住近接性のスコアが高く、町内の職場に通う環境が出生、転入の評価指標にプラスの影響を与えているとみられます。

住宅環境
・⑤住宅環境(結婚、第1子まで)のスコアが低く、若い夫婦が住宅を得にくい特性が表れています。半面、⑥住宅の安定性のスコアが高くなっており、子育て世帯の定住要因の1つになっていると考えられます。

生活環境
・⑨外遊び環境のスコアが平均を上回っており、出生、転入の評価指標にプラスに影響しているとみられます。

保育・児童預かりサービス
・⑪保育サービス(量的)の指標が平均を大きく上回っており、出生、転入の評価指標にプラスに影響しているとみられます。

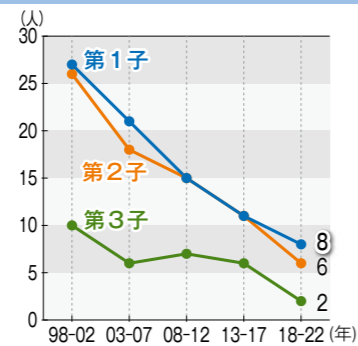
地域社会
・⑩人々のつながりのスコアが高く、結婚、出生、転入、定住の評価指標にプラスの影響を及ぼしていると考えられます。

地域支援
・⑫地域のサポート、⑬困難家庭等支援が平均を上回っており、出生等にプラスの影響をもたらしていると考えられます。

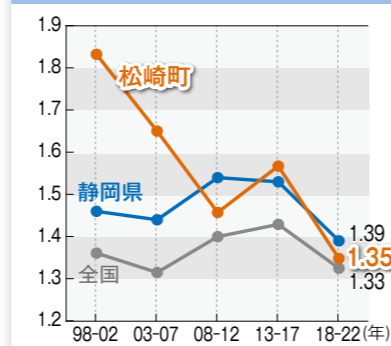
1 人口動態の概要

自然動態(出生)の状況

出生順位別出生数(年平均)の推移

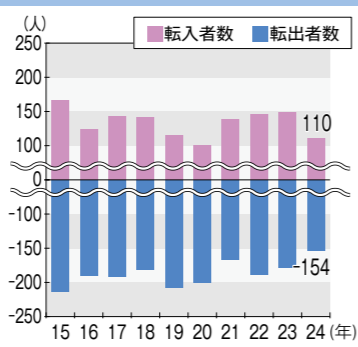


合計特殊出生率の推移

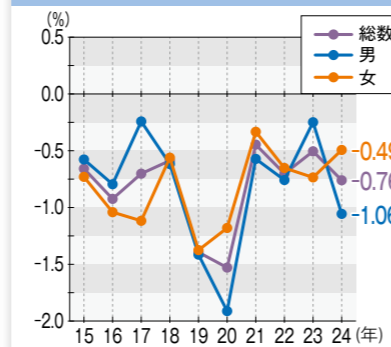


社会動態(全年齢)の状況

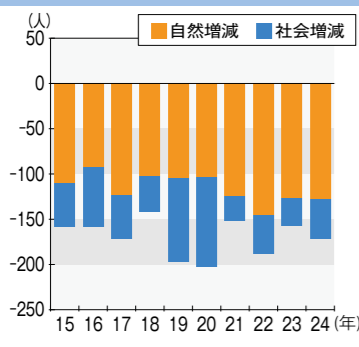
転入者数と転出者数の推移



転入超過率の推移



人口動態(全年齢)の推移



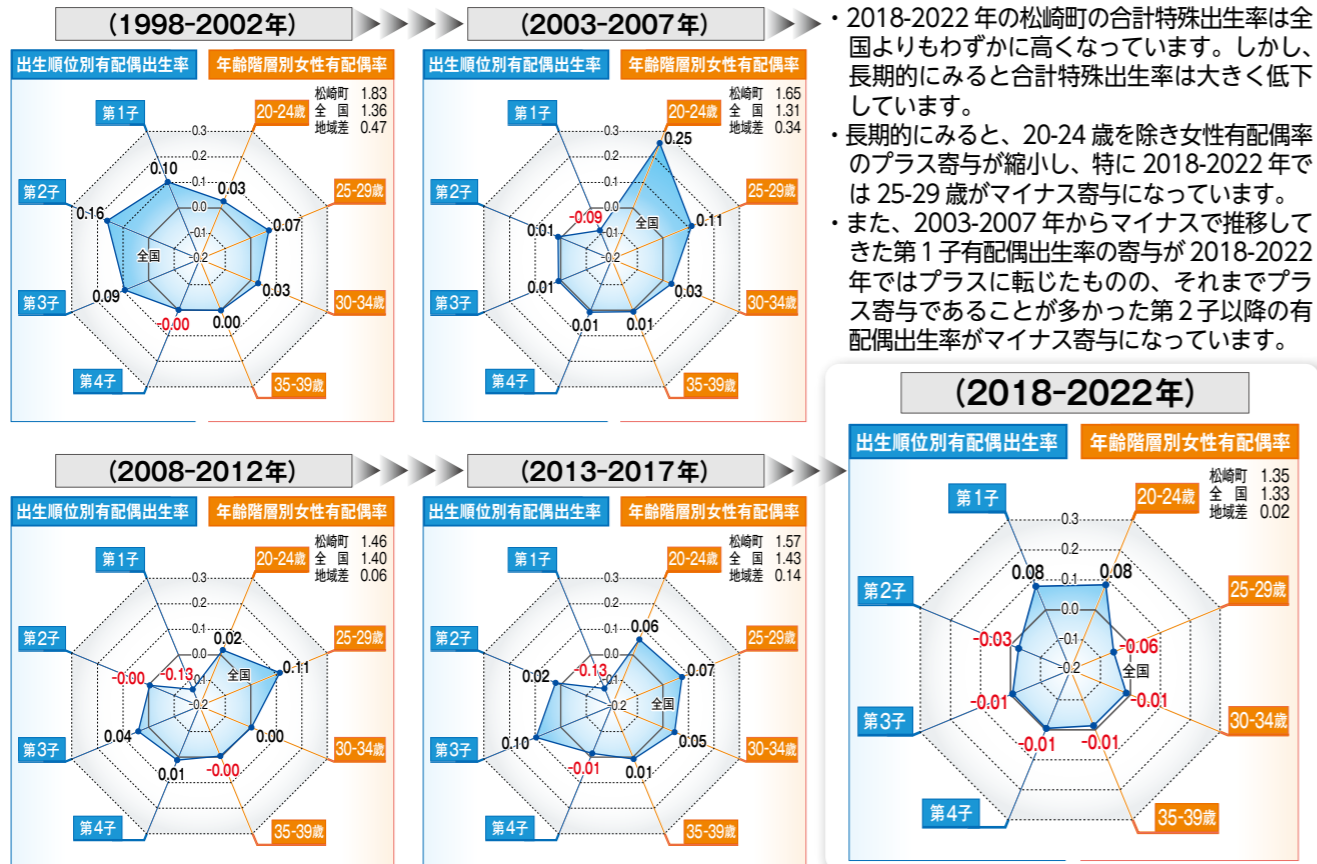
自然動態(出生)

・1998-2002年以降について、第1子と第2子の出生数がほぼ同数となっています。

社会動態(全年齢)

・長期にわたり転出者が転入者を上回っていますが、その差は年によって変動があります。
・転入超過率は男女で違いがみられ、その差は年によって変動しています。

2 出生構造レーダーチャート

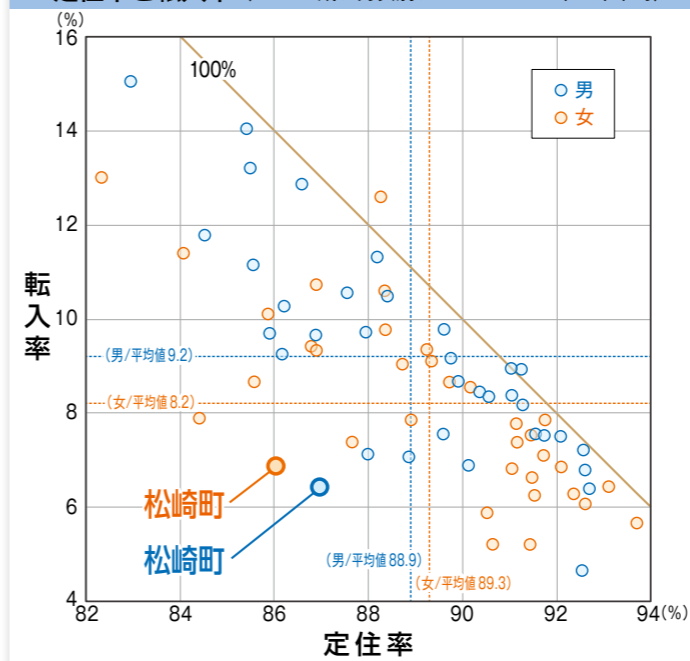


・2018-2022年の松崎町の合計特殊出生率は全国よりもわずかに高くなっています。しかし、長期的にみると合計特殊出生率は大きく低下しています。
・長期的にみると、20-24歳を除き女性有配偶率のプラス寄与が縮小し、特に2018-2022年では25-29歳がマイナス寄与になっています。
・また、2003-2007年からマイナスで推移してきた第1子有配偶出生率の寄与が2018-2022年ではプラスに転じたものの、それまでプラス寄与であることが多かった第2子以降の有配偶出生率がマイナス寄与になっています。

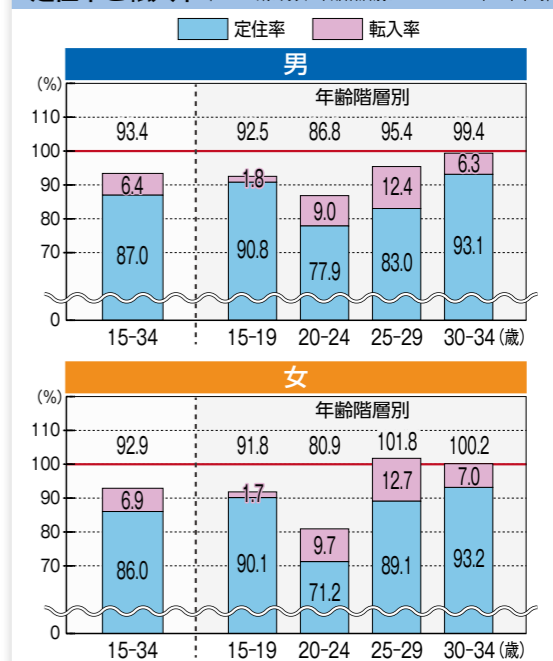
※出生構造レーダーチャートは、年齢階層別女性有配偶出生率及び出生順位別有配偶出生率の全国との差が、合計特殊出生率の全国との差に対する寄与として表されている。

3 若年層の男女別・年齢階層別の社会動態

定住率と転入率(15-34歳、男女別、2018-2022年の年平均)



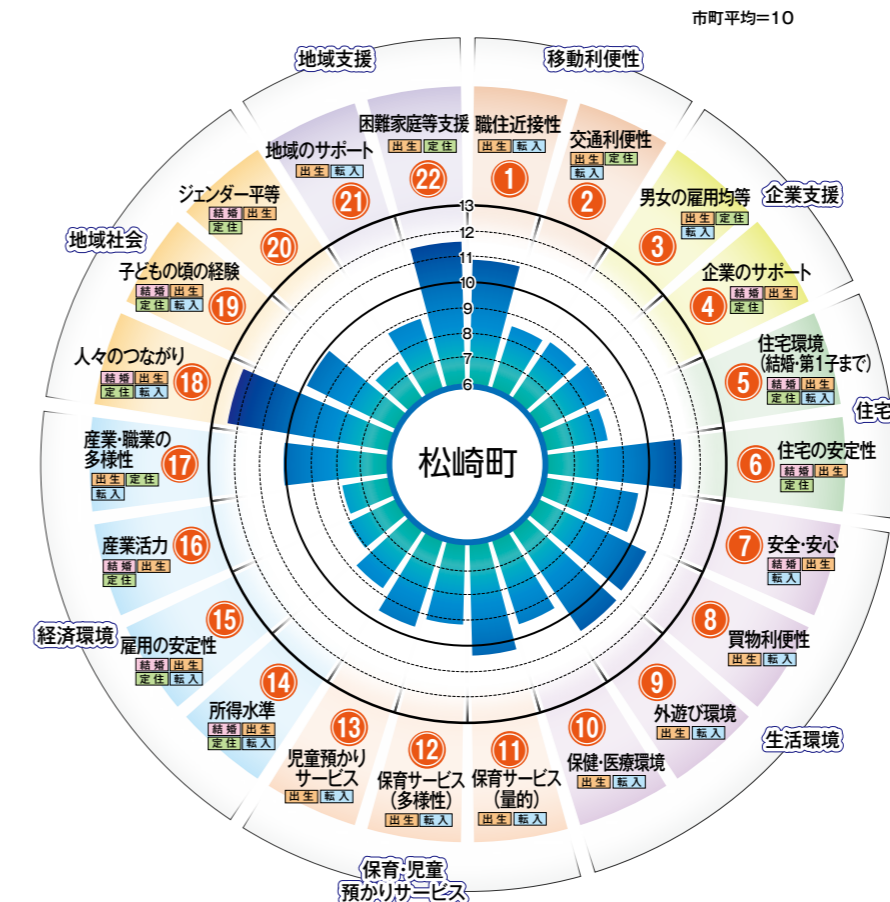
定住率と転入率(15-34歳、男女・年齢階層別、2018-2022年の年平均)



・松崎町の転入超過率はマイナスで推移していました。これを定住率と転入率で表し、15-34歳で見ると、2018-2022年の年平均は、男女とも定住率と転入率の合計が100%ラインを大きく下回っています。
・2018-2022年は、男女とも、定住率、転入率の両方が市町平均を下回っています。男女で比較すると、男性に比べて女

性は定住率が低いという特徴が表れます。
・年齢階層別にみると、男女とも20-24歳の社会増減率が100%を大きく下回っています。20-24歳では特に女性の定住率が低く、男性に比べて社会増減率が低い状況になっています。

4 次世代を育む地域環境バーチャート



移動利便性
・①職住近接性のスコアが平均を上回っているため、出生、転入の評価指標にプラスに影響しているとみられます。

住宅環境
・⑥住宅の安定性のスコアが平均を上回っているため、結婚、出生、定住の評価指標にプラスに影響しているとみられます。

生活環境
・⑧買物利便性、⑨外遊び環境のスコアが平均を上回っているため、出生、転入の評価指標にプラスに影響しているとみられます。

経済環境
・⑭所得水準、⑮雇用の安定性、⑯産業活力のスコアが平均を下回っており、結婚、出生、定住等の評価指標にマイナスに影響しているとみられます。

地域社会
・⑱人々のつながりのスコアが平均を上回っており、結婚、出生、転入、定住の評価指標にプラスに影響しているとみられます。

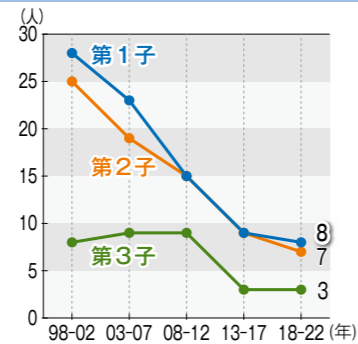
地域支援
・⑳困窮家庭等支援が平均を上回っており、出生、定住にプラスの影響をもたらしているとみられます。



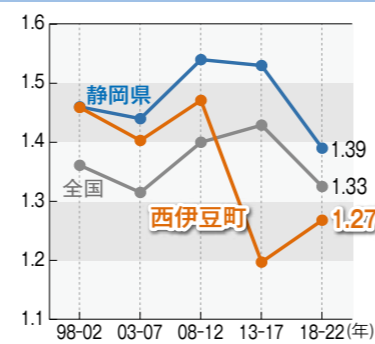
1 人口動態の概要

自然動態(出生)の状況

出生順位別出生数(年平均)の推移

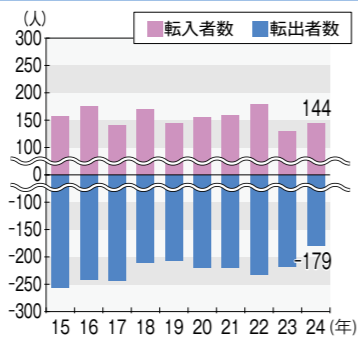


合計特殊出生率の推移

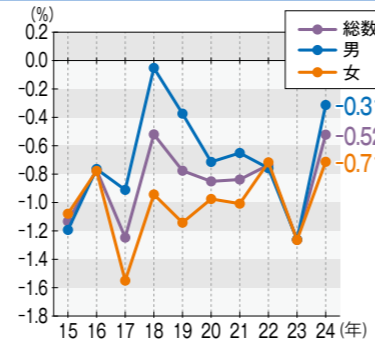


社会動態(全年齢)の状況

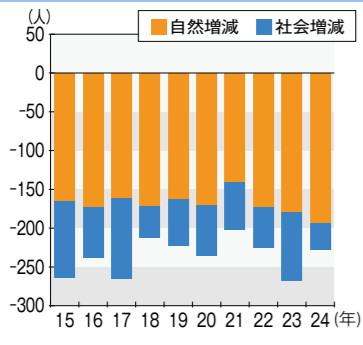
転入者数と転出者数の推移



転入超過率の推移



人口動態(全年齢)の推移



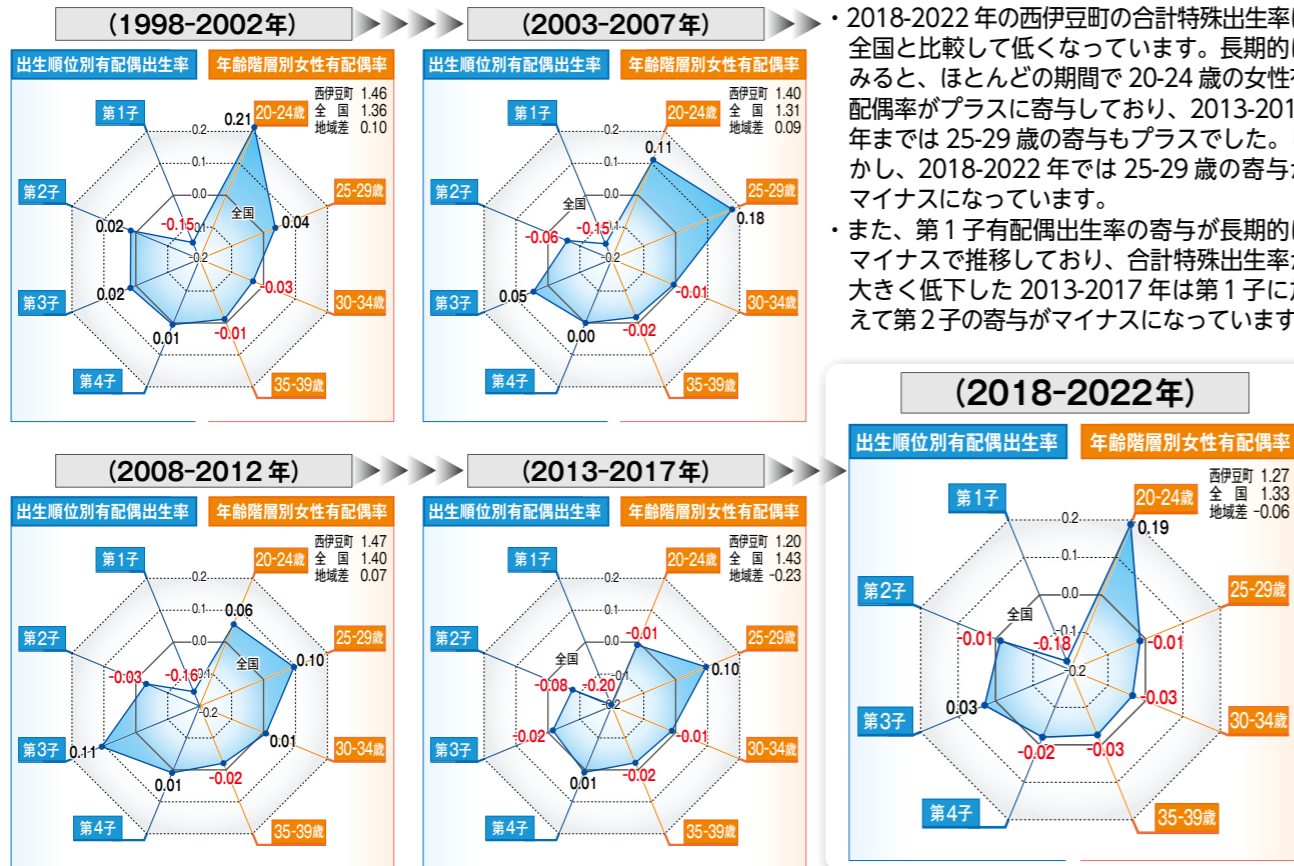
自然動態(出生)

・1998-2002年以降について、第1子と第2子の出生数がほぼ同数となっています。

社会動態(全年齢)

・長期にわたり転出者が転入者を上回っていますが、その差は年によって変動があります。
・2021年以降の転入超過率は、男女が同程度の変化率で推移しています。

2 出生構造レーダーチャート

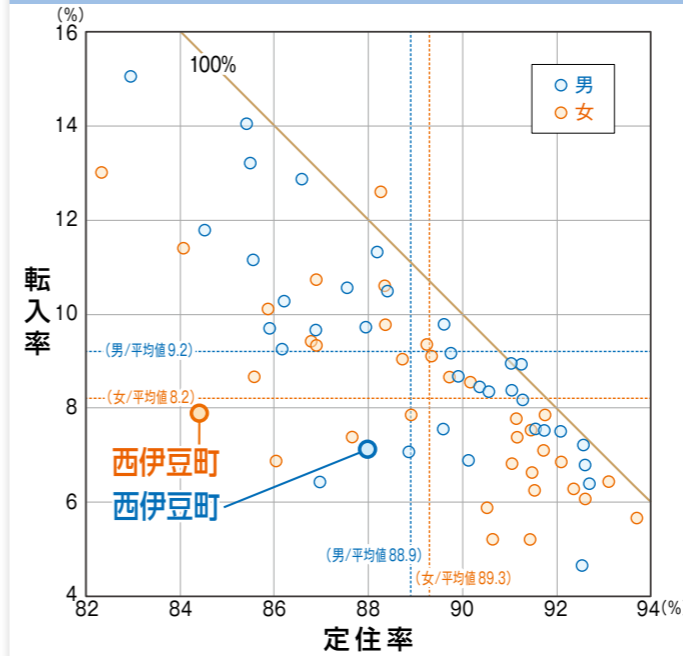


・2018-2022年の西伊豆町の合計特殊出生率は全国と比較して低くなっています。長期的にみると、ほとんどの期間で20-24歳の女性有配偶率がプラスに寄与しており、2013-2017年までは25-29歳の寄与もプラスでした。しかし、2018-2022年には25-29歳の寄与がマイナスになっています。
・また、第1子有配偶率の寄与が長期的にマイナスで推移しており、合計特殊出生率が大きく低下した2013-2017年は第1子に加えて第2子の寄与がマイナスになっています。

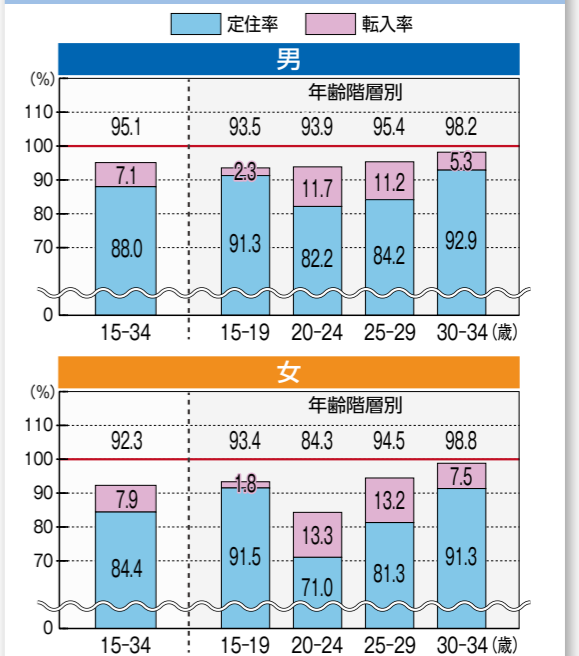
※出生構造レーダーチャートは、年齢階層別女性有配偶率及び出生順位別有配偶率の全国との差、合計特殊出生率の全国との差に対する寄与として表されている。

3 若年層の男女別・年齢階層別の社会動態

定住率と転入率(15-34歳、男女別、2018-2022年の年平均)



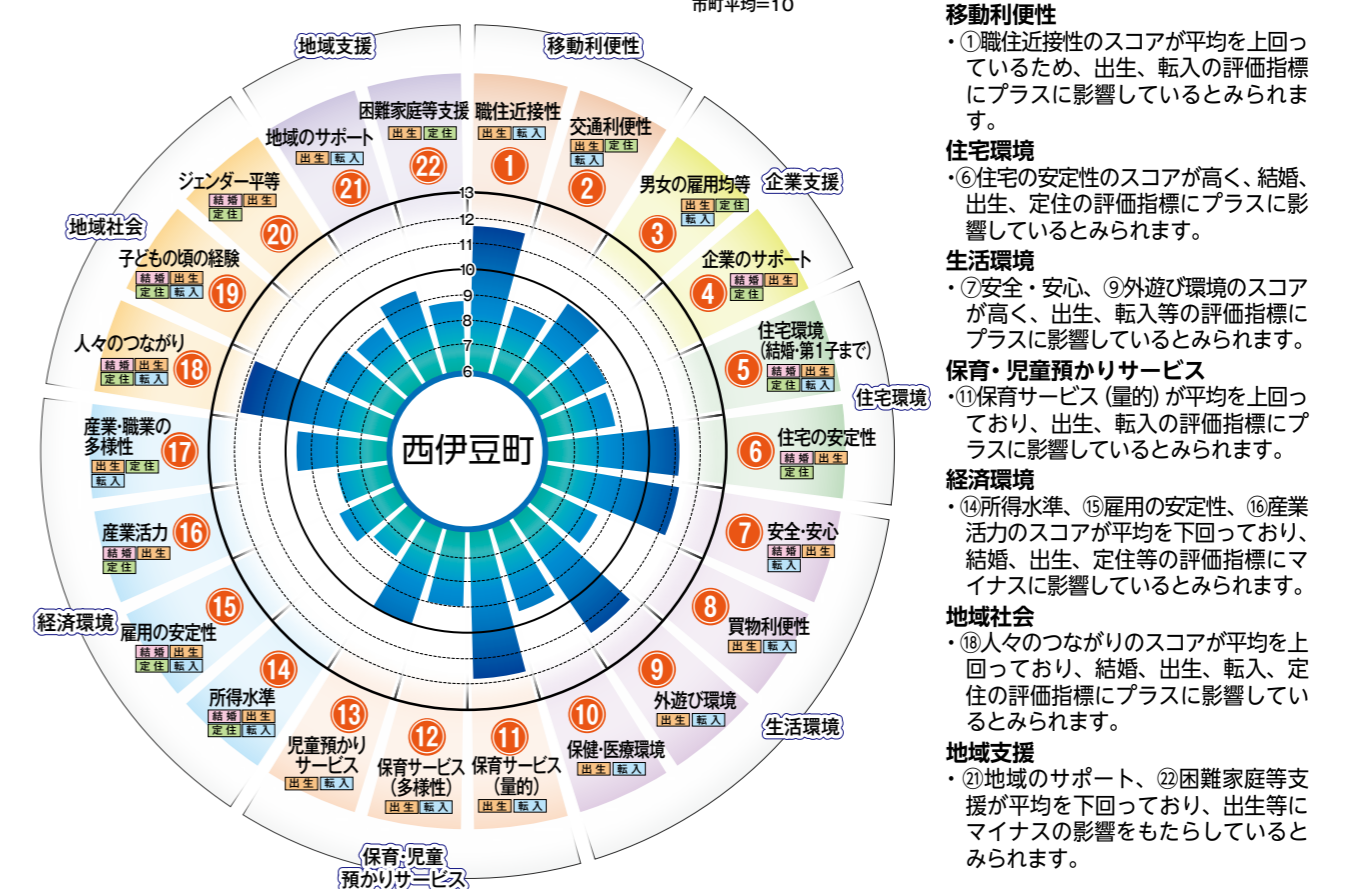
定住率と転入率(15-34歳、男女・年齢階層別、2018-2022年の年平均)



・西伊豆町の転入超過率はマイナスで推移していました。これを定住率と転入率で表し、15-34歳で見ると、2018-2022年の年平均は、男女とも定住率と転入率の合計が100%ラインを大きく下回っています。
・2018-2022年は、男女とも、定住率、転入率の両方が市町平均を下回っています。男女で比較すると、男性に比べて女

性は定住率が低くなっているという特徴が表れます。
・年齢階層別にみると、男女とも、15-19歳から25-29歳まで社会増減率は100%を大きく下回っています。特に、女性の20-24歳の定住率が他の年齢階層、また男性に比べて低くなっています。

4 次世代を育む地域環境バーチャート



移動利便性
・①職住近接性のスコアが平均を上回っているため、出生、転入の評価指標にプラスに影響しているとみられます。

住宅環境
・⑥住宅の安定性のスコアが高く、結婚、出生、定住の評価指標にプラスに影響しているとみられます。

生活環境
・⑦安全・安心、⑨外遊び環境のスコアが高く、出生、転入等の評価指標にプラスに影響しているとみられます。

保育・児童預かりサービス
・⑪保育サービス(量的)が平均を上回っており、出生、転入の評価指標にプラスに影響しているとみられます。

経済環境
・⑭所得水準、⑮雇用の安定性、⑯産業活力のスコアが平均を下回っており、結婚、出生、定住等の評価指標にマイナスに影響しているとみられます。

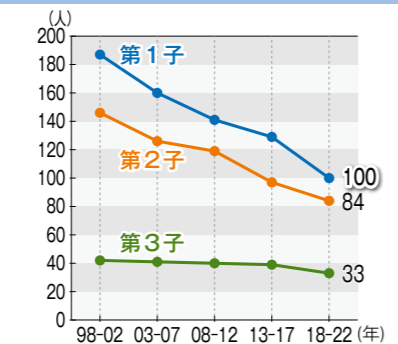
地域社会
・⑱人々のつながりのスコアが平均を上回っており、結婚、出生、転入、定住の評価指標にプラスに影響しているとみられます。

地域支援
・⑳地域のサポート、㉑困難家庭等支援が平均を下回っており、出生等にマイナスの影響をもたらしているとみられます。

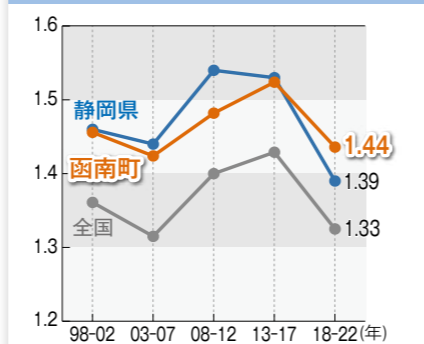
1 人口動態の概要

自然動態(出生)の状況

出生順位別出生数(年平均)の推移

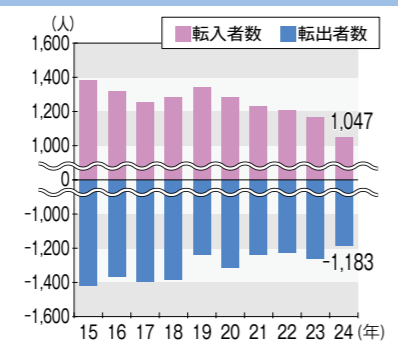


合計特殊出生率の推移

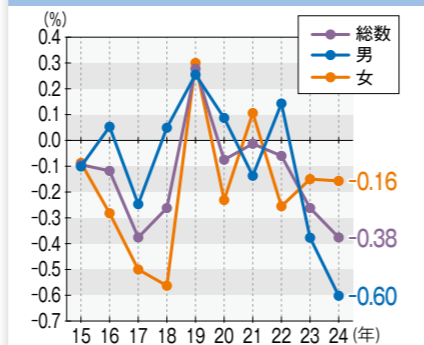


社会動態(全年齢)の状況

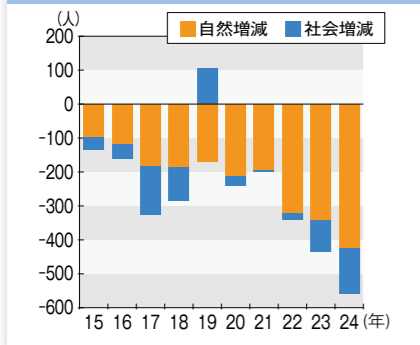
転入者数と転出者数の推移



転入超過率の推移



人口動態(全年齢)の推移



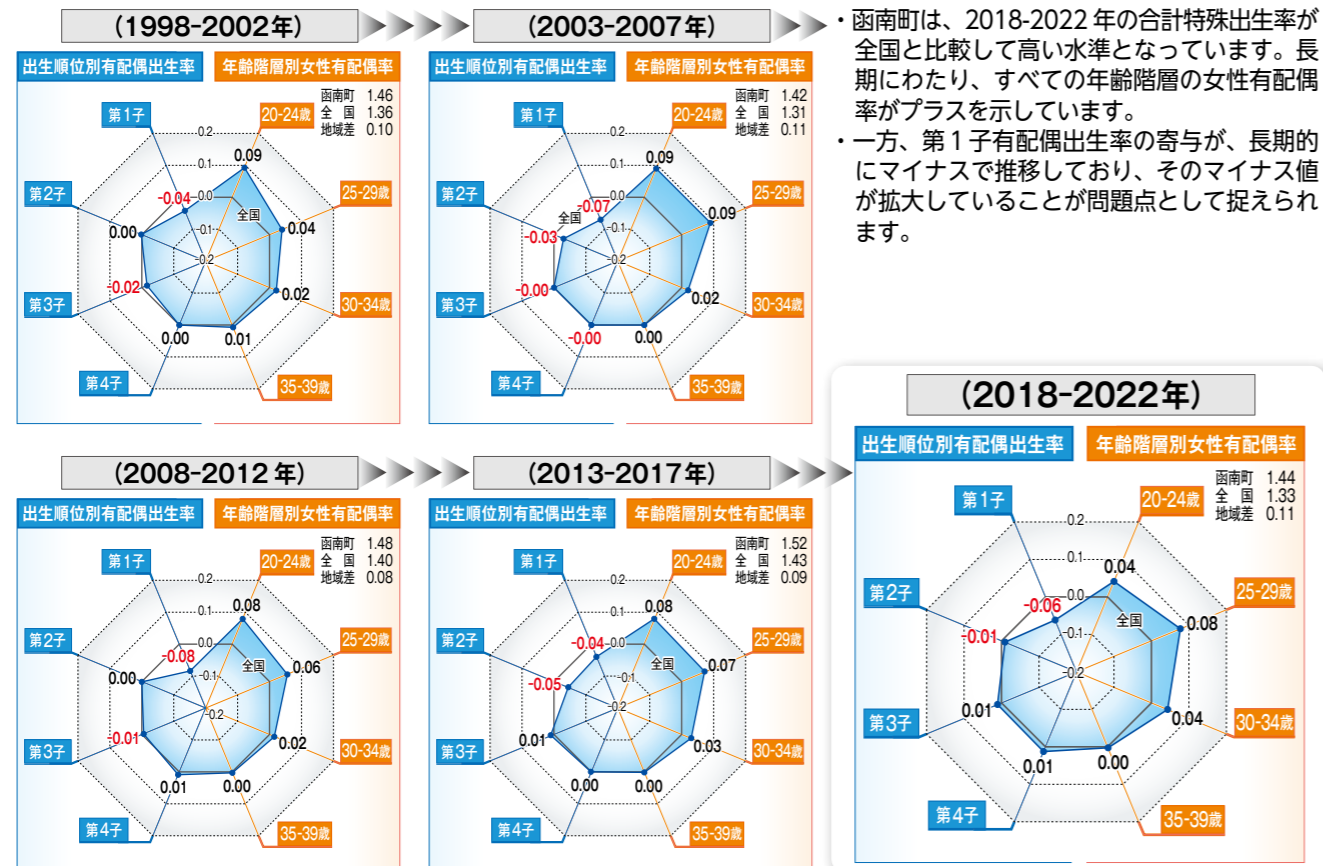
自然動態(出生)

・直近期間で、第1子出生数の減少率が大きくなっています。長期でも第1子の落ち込みが大きく、出生数全体の下押し要因になっています。

社会動態(全年齢)

・2019年を除き転出者が転入者を上回っており、直近ではその差が大きくなっています。
・転入超過率は男女で違いがみられ、その差は年によって変動しています。

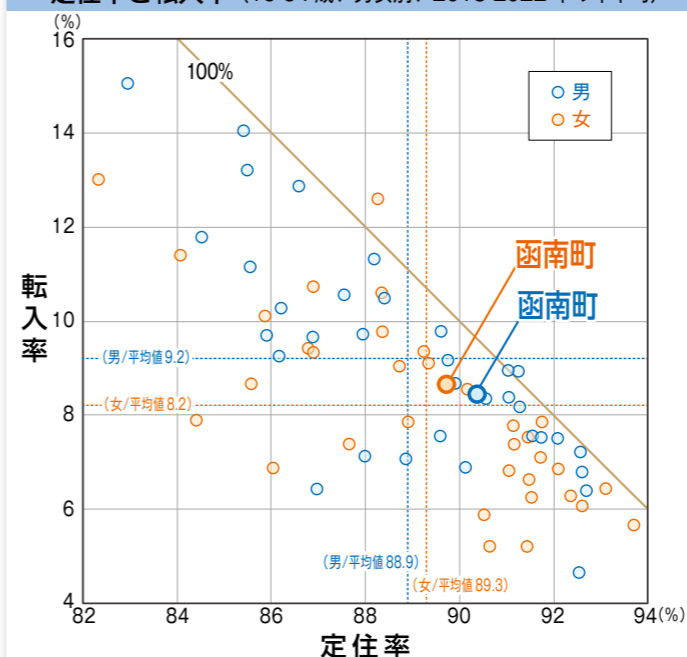
2 出生構造レーダーチャート



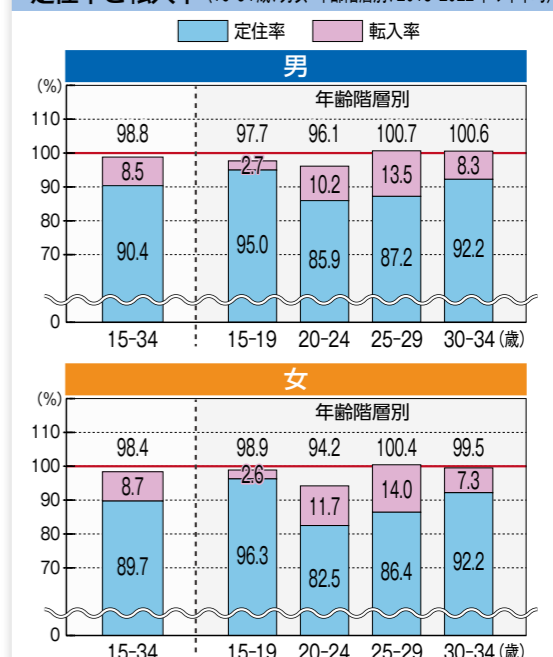
※出生構造レーダーチャートは、年齢層別女性有配偶出生率及び出生順位別有配偶出生率の全国との差が、合計特殊出生率の全国との差に対する寄与として表されている。

3 若年層の男女別・年齢階層別の社会動態

定住率と転入率(15-34歳、男女別、2018-2022年の年平均)



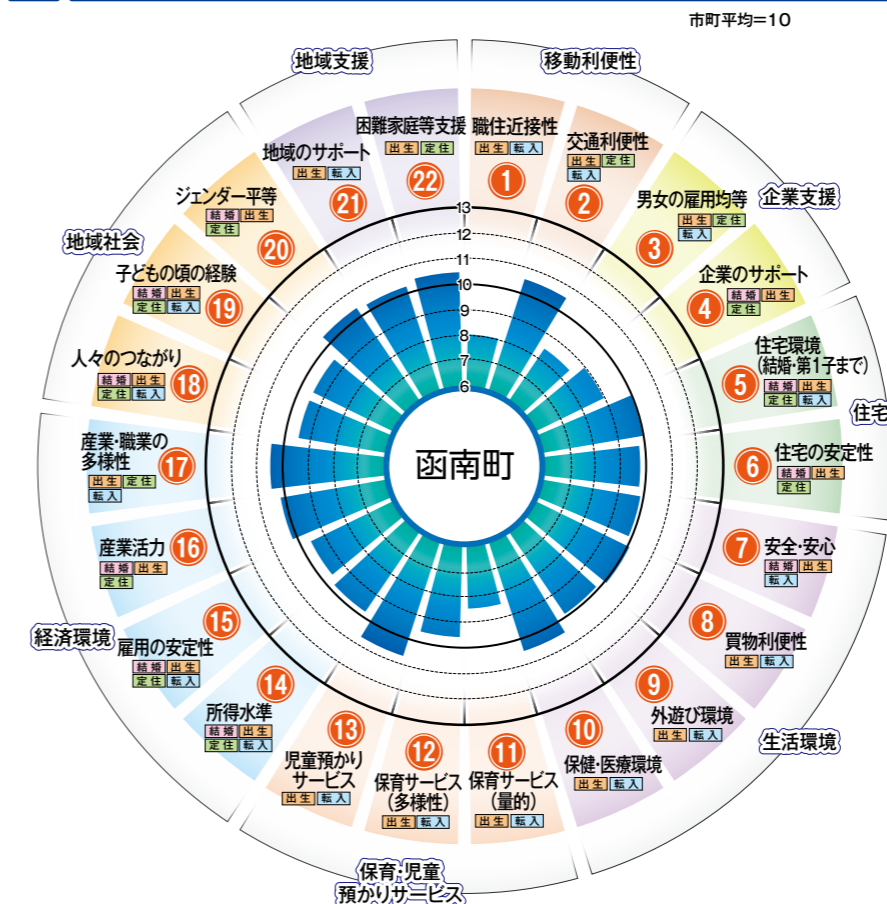
定住率と転入率(15-34歳、男女・年齢階層別、2018-2022年の年平均)



・函南町の転入超過率は2019年を除きマイナスで推移していました。これを定住率と転入率で表し、15-34歳でみると、2018-2022年の年平均は、男女の25-29歳、男性の30-34歳を除いて、定住率と転入率の計が100%ラインを下回っています。
・2018-2022年は、男性の定住率が市町平均をやや上回る程度

度であり、男性の転入率、女性の定住率と転入率は平均に近い値になっています。このため、男女の差は、男性の方が定住率がやや高くなっていますが、大きな差はありません。
・年齢階層別にみると、男女とも15-19歳の社会増減率は100%に比較的近いものの、20-24歳は100%を下回ります。特に、女性の20-24歳の定住率が低くなっています。

4 次世代を育む地域環境バーチャート



移動利便性

・①職住近接性のスコアが低いため、出生、転入の評価指標にマイナスに影響しているとみられます。

生活環境

・⑩保健・医療環境のスコアが高く、出生、転入の評価指標にプラスに影響しているとみられます。

保育・児童預かりサービス

・⑪保育サービス(量的)、⑫保育サービス(多様性)が平均を下回っており、出生、転入の評価指標にマイナスに影響しているとみられます。

経済環境

・⑦産業・職業の多様性のスコアが平均を上回っており、出生、転入、定住の評価指標にプラスに影響しているとみられます。

地域支援

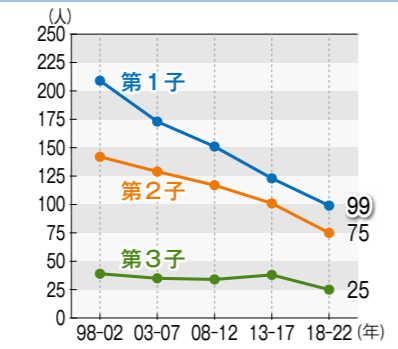
・②困難家庭等支援が平均を上回っており、出生、定住にプラスの影響をもたらしているとみられます。



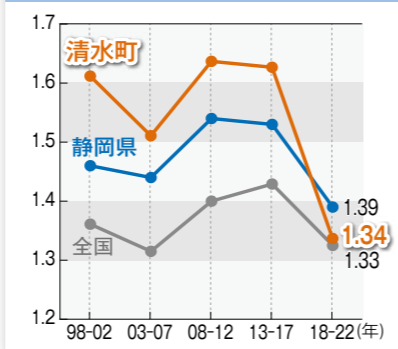
1 人口動態の概要

自然動態(出生)の状況

出生順位別出生数(年平均)の推移

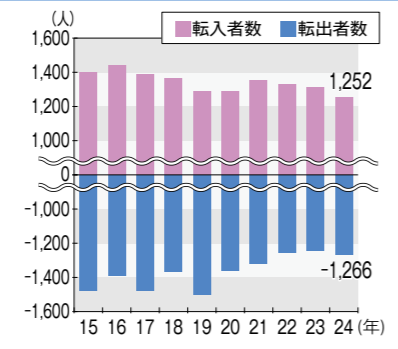


合計特殊出生率の推移

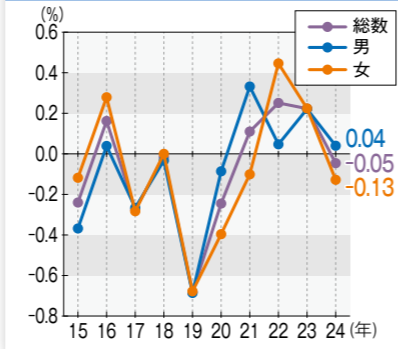


社会動態(全年齢)の状況

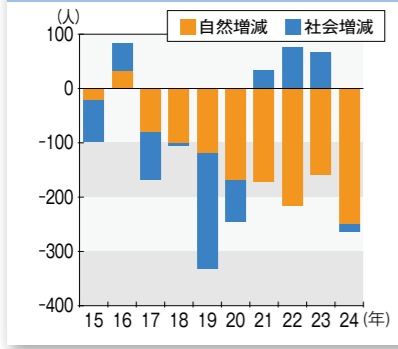
転入者数と転出者数の推移



転入超過率の推移



人口動態(全年齢)の推移



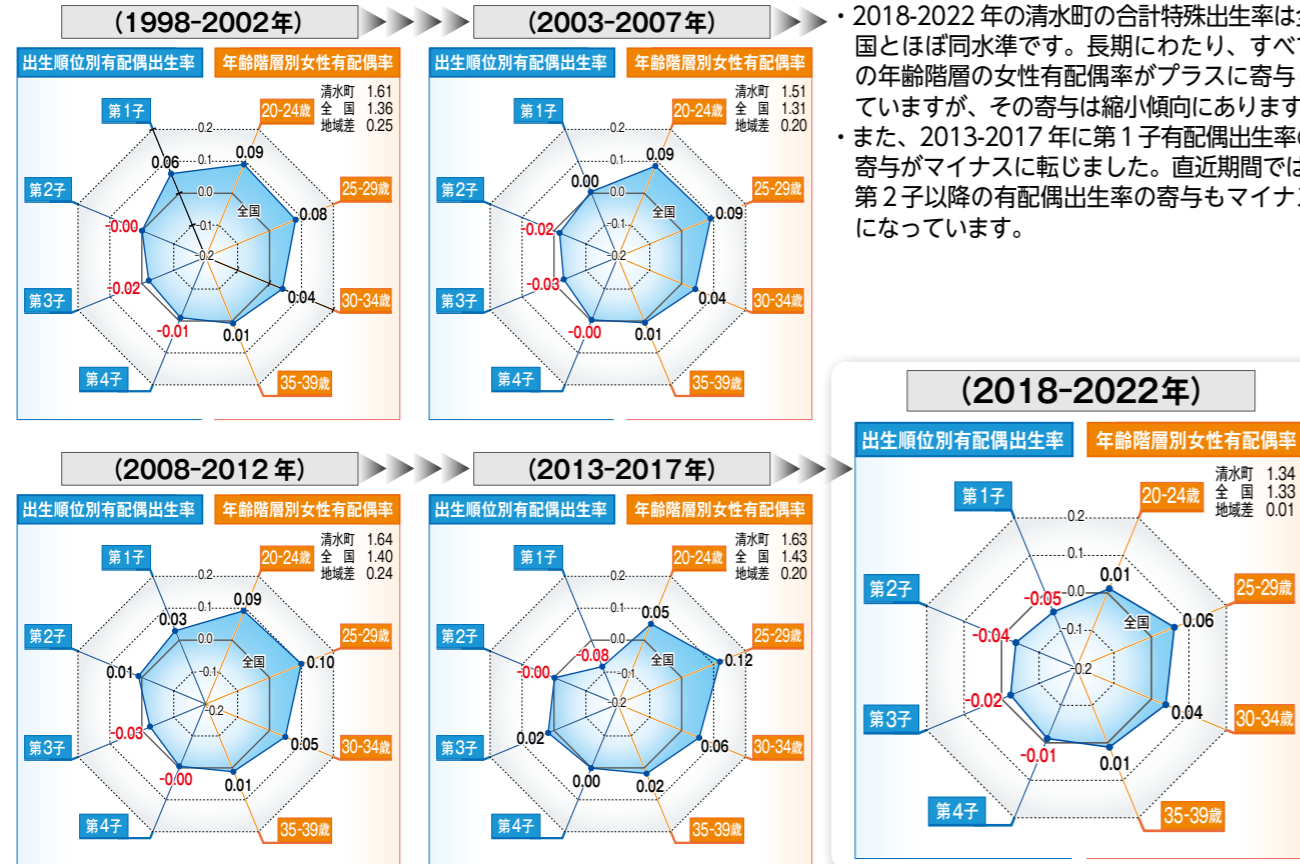
自然動態(出生)

・2013-2017年から2018-2022年にかけて第2子出生数の減少率が第1子を上回りました。第1子の落ち込みが大きく、出生数全体の下押し要因になっています。

社会動態(全年齢)

・2021年から転入者が転出者を上回っていましたが、2024年に再びマイナスとなりました。
・長期的にみると、男女の転入超過率の推移はおおよそ連動しています。

2 出生構造レーダーチャート

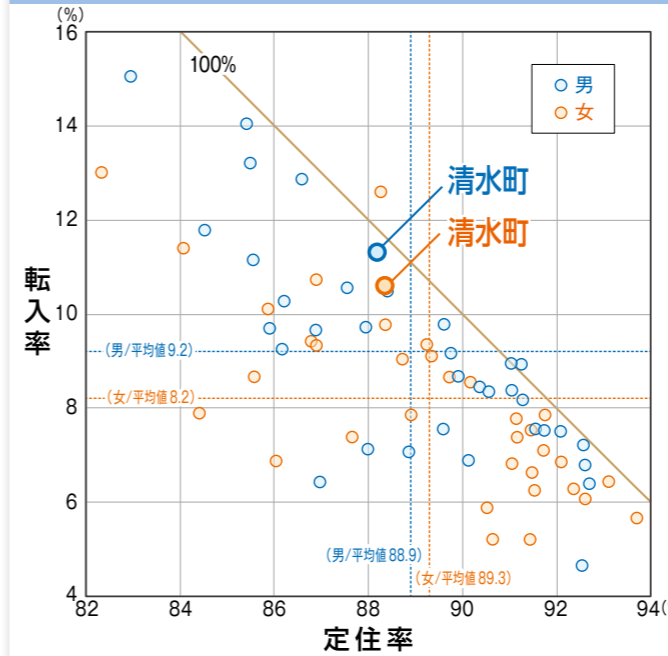


・2018-2022年の清水町の合計特殊出生率は全国とほぼ同水準です。長期にわたり、すべての年齢層の女性有配偶率がプラスに寄与していますが、その寄与は縮小傾向にあります。
・また、2013-2017年に第1子有配偶出生率の寄与がマイナスに転じました。直近期間では、第2子以降の有配偶出生率の寄与もマイナスになっています。

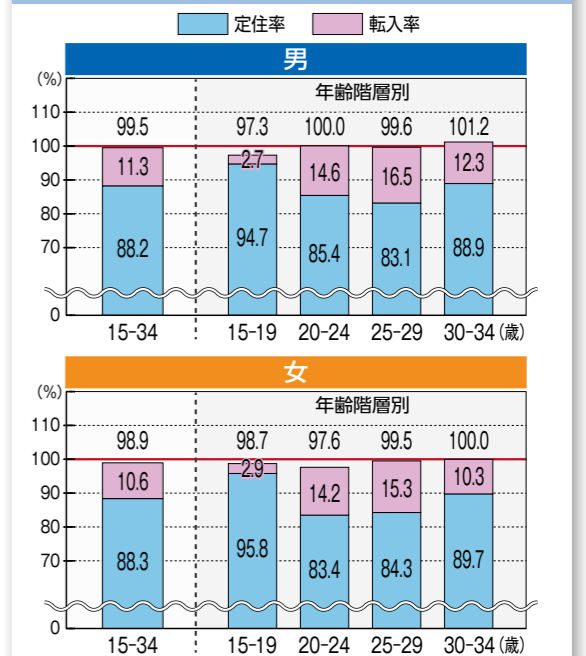
※出生構造レーダーチャートは、年齢層別女性有配偶出生率及び出生順位別有配偶出生率の全国との差、合計特殊出生率の全国との差に対する寄与として表されている。

3 若年層の男女別・年齢階層別の社会動態

定住率と転入率(15-34歳、男女別、2018-2022年の年平均)



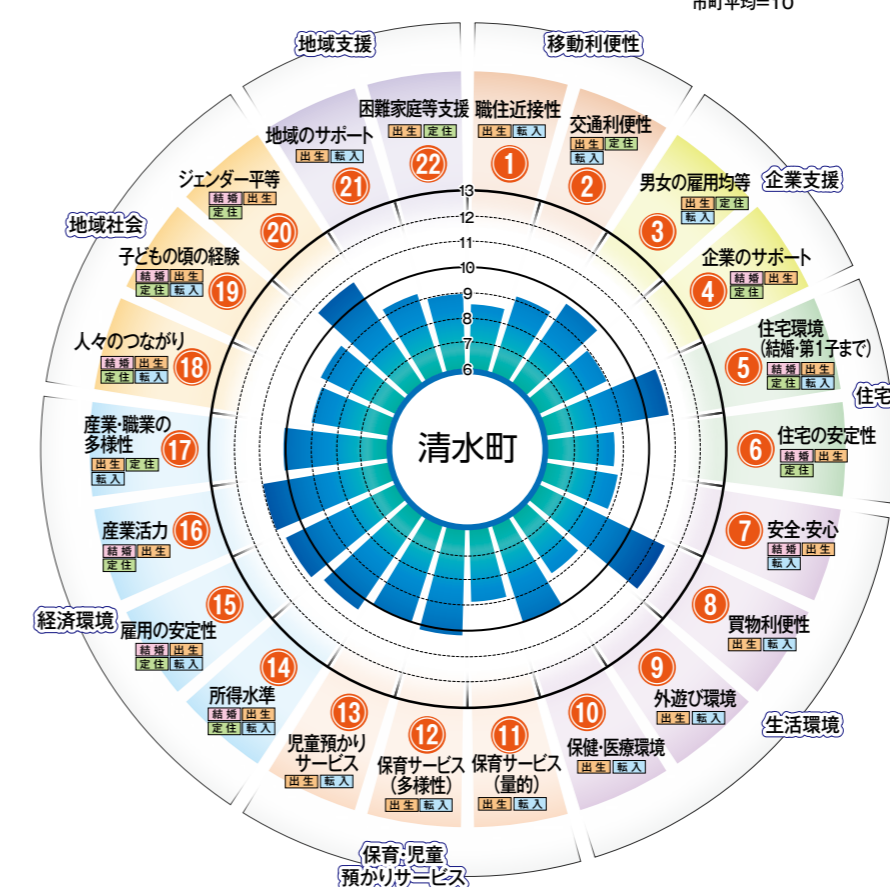
定住率と転入率(15-34歳、男女・年齢階層別、2018-2022年の年平均)



・清水町の転入超過率は2017年から2020年までマイナスで推移し、2021年からの3年間はプラスとなりました。これを定住率と転入率で表し、15-34歳に限ると、2018-2022年の年平均は、定住率と転入率の合計が100%ラインを下回ります。しかし、その程度は小さく、特に男性は100%ラインに近い位置にあります。
・2018-2022年は、男女ともに定住率は市町平均をやや下回るも

の、転入率は平均よりも高くなっています。男女で比較すると、男性の転入率がやや高くなります。
・年齢階層別にみると、社会増減率が100%を下回るのは男女の15-19歳と25-29歳、女性の20-24歳であり、その他は100%に届いています。なかでも女性の20-24歳の社会増減率が低くなっていますが、定住率が男性よりも低くなっています。

4 次世代を育む地域環境バーチャート



移動利便性
・①職住近接性、②交通利便性のスコアが低いと、出生、転入等の評価指標にマイナスに影響しているとみられます。

住宅環境
・⑤住宅環境(結婚、第1子まで)のスコアが平均を上回っており、結婚、出生、定住、転入の評価指標にプラスに影響しているとみられます。

生活環境
・⑧買物利便性のスコアが高く、出生、転入の評価指標にプラスに影響しているとみられます。

保育・児童預かりサービス
・⑪保育サービス(量的)が平均を下回っており、出生、転入の評価指標にマイナスに影響しているとみられます。

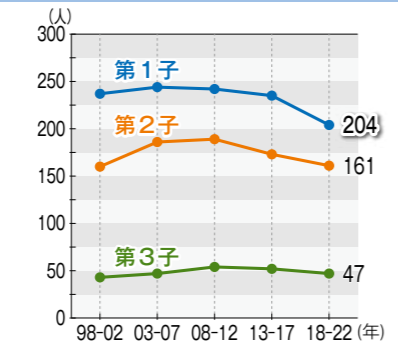
経済環境
・⑭から⑯のスコアが平均を上回っており、結婚、出生、定住等の評価指標にプラスに影響しているとみられます。

地域支援
・⑫地域のサポート、⑬困難家庭等支援が平均を下回っており、出生等にマイナスの影響をもたらしているとみられます。

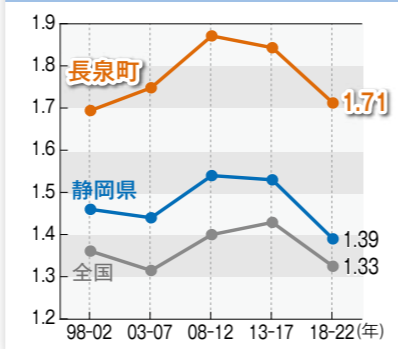
1 人口動態の概要

自然動態(出生)の状況

出生順位別出生数(年平均)の推移

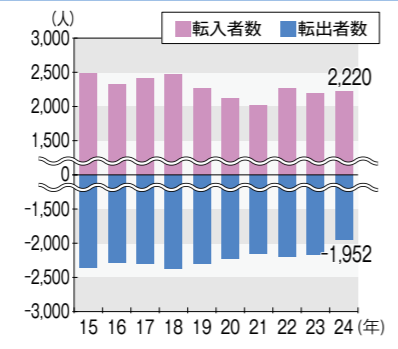


合計特殊出生率の推移

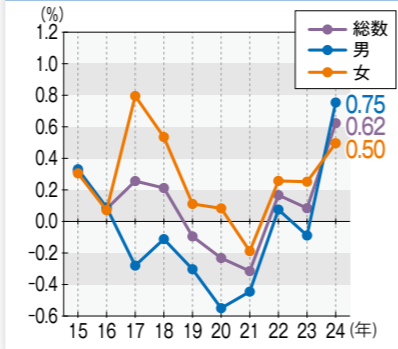


社会動態(全年齢)の状況

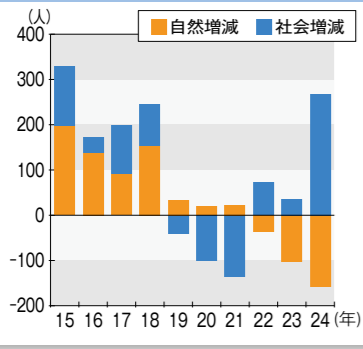
転入者数と転出者数の推移



転入超過率の推移



人口動態(全年齢)の推移



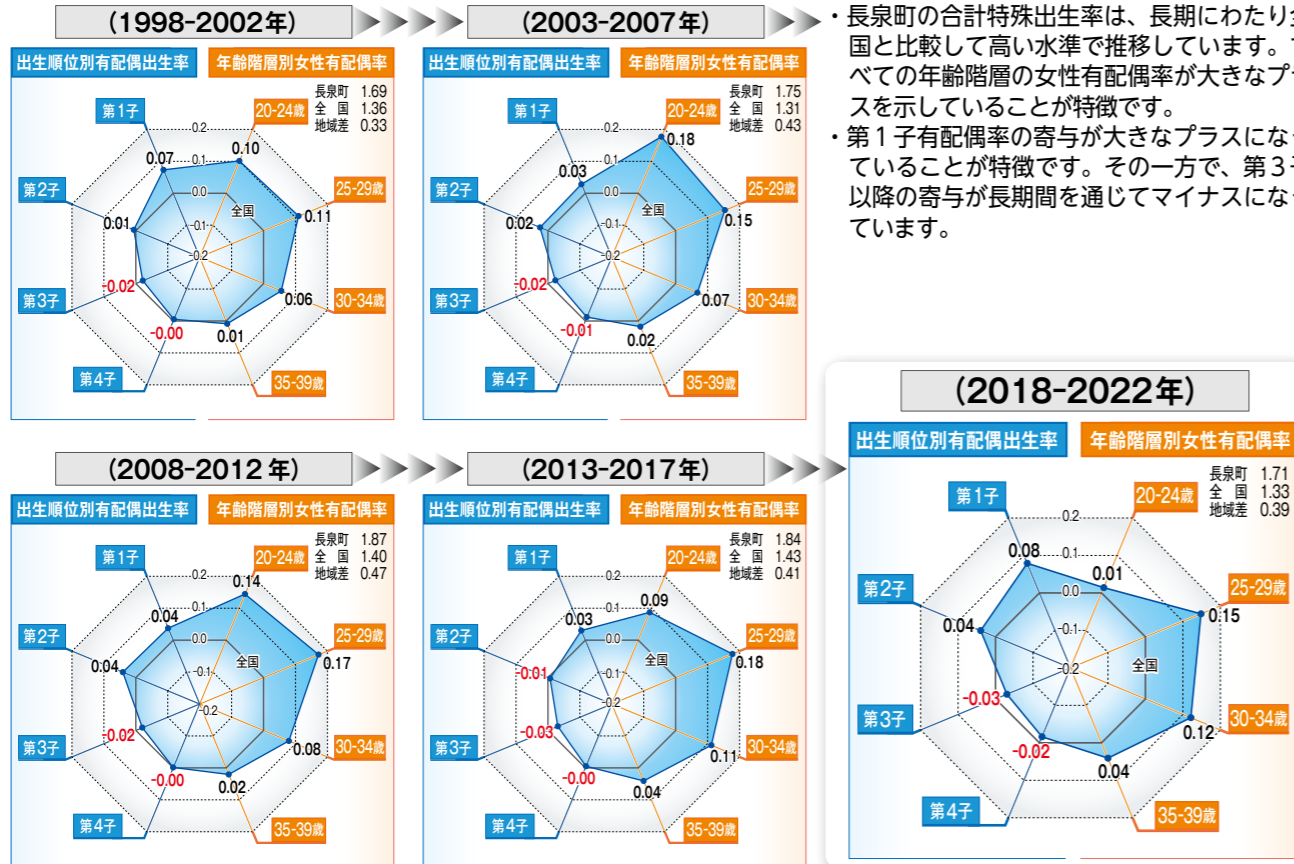
自然動態(出生)

・2018-2022年について、第1子出生数の減少率が第2子を上回っています。長期では、第1子の落ち込みが大きく、出生数全体の下押し要因になっています。

社会動態(全年齢)

・転入者が転出者を上回っており、その差は年によって変動しています。
・転入超過率は男女で違いがみられ、その差は年によって変動しています。

2 出生構造レーダーチャート

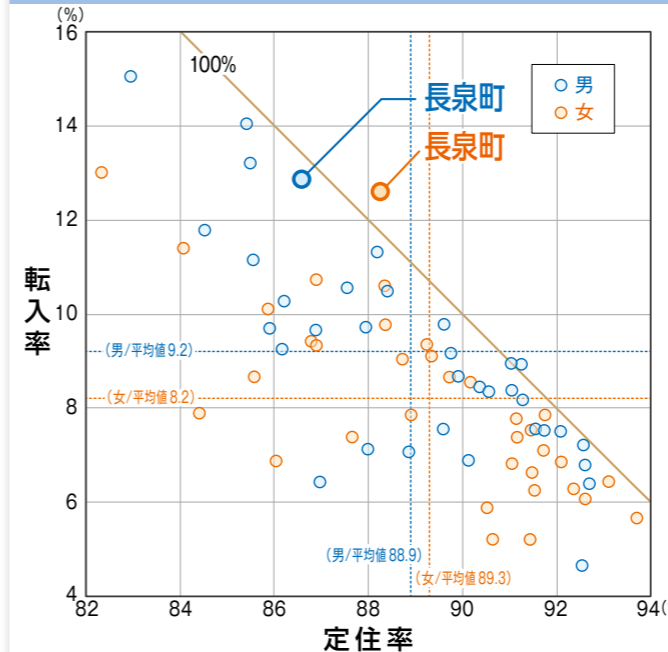


・長泉町の合計特殊出生率は、長期にわたり全国と比較して高い水準で推移しています。すべての年齢層の女性有配偶率が大きなプラスを示していることが特徴です。
・第1子有配偶率の寄与が大きなプラスになっていることが特徴です。その一方で、第3子以降の寄与が長期間を通じてマイナスになっています。

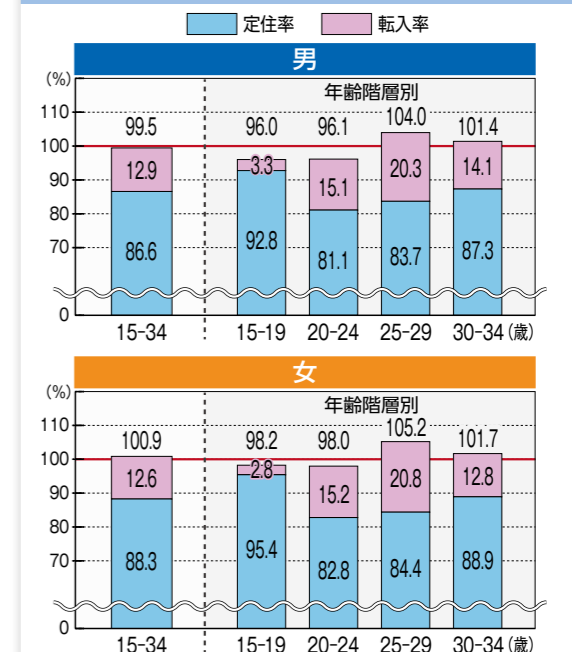
※出生構造レーダーチャートは、年齢層別女性有配偶率及び出生順位別有配偶率の全国との差、合計特殊出生率の全国との差に対する寄与として表されている。

3 若年層の男女別・年齢階層別の社会動態

定住率と転入率(15-34歳、男女別、2018-2022年の年平均)



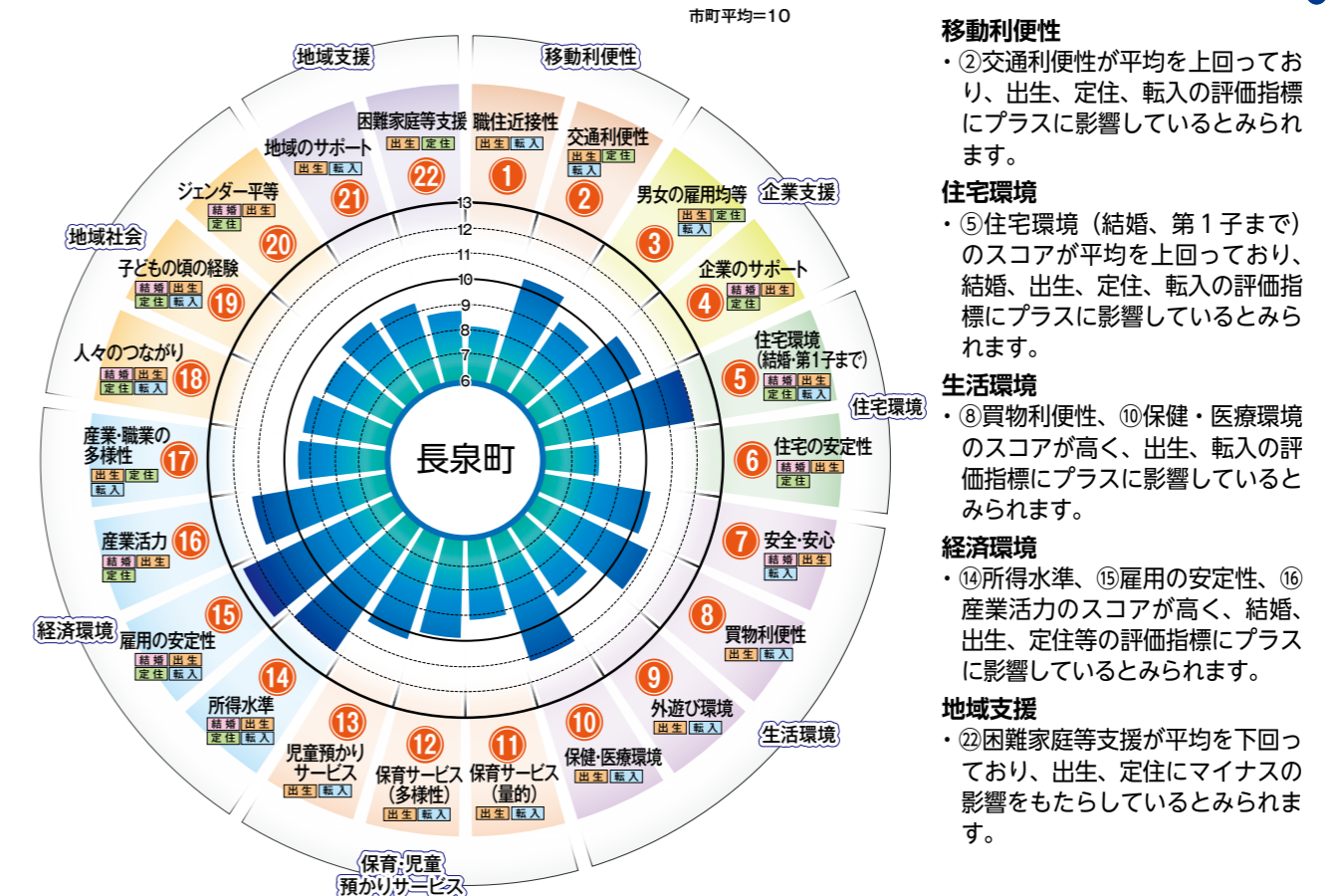
定住率と転入率(15-34歳、男女・年齢階層別、2018-2022年の年平均)



・長泉町の転入超過率は2019年から2021年の3年間を除き、プラスで推移していました。これを定住率と転入率で表し、15-34歳で見ると、2018-2022年の年平均では、男性は定住率と転入率の計は100%ラインをわずかに下回っていますが、女性は100%ラインを上回っています。
・2018-2022年は、男女ともに定住率が市町平均を下回り、転入率が平

均を大きく上回っています。定住率の平均からの乖離が男性の方が大きいため、男女で比較すると、男性の定住率が低いという特徴が表れます。
・年齢階層別にみると、男女ともに、15-19歳と20-24歳の社会増減率が100%を下回り、25-29歳と30-34歳は100%を超えています。20-24歳以降の転入率の高さが際立っていますが、すべての年齢階層で男性の定住率が女性をわずかに下回っています。

4 次世代を育む地域環境バーチャート



移動利便性
・②交通利便性が平均を上回っており、出生、定住、転入の評価指標にプラスに影響しているとみられます。

住宅環境
・⑤住宅環境(結婚、第1子まで)のスコアが平均を上回っており、結婚、出生、定住、転入の評価指標にプラスに影響しているとみられます。

生活環境
・⑧買物利便性、⑩保健・医療環境のスコアが高く、出生、転入の評価指標にプラスに影響しているとみられます。

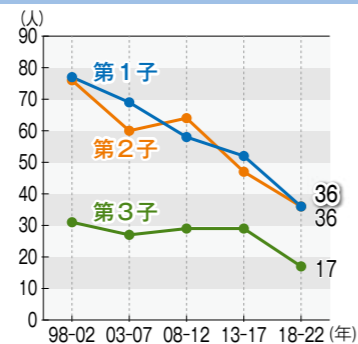
経済環境
・⑭所得水準、⑮雇用の安定性、⑯産業活力のスコアが高く、結婚、出生、定住等の評価指標にプラスに影響しているとみられます。

地域支援
・⑫困難家庭等支援が平均を下回っており、出生、定住にマイナスの影響をもたらしているとみられます。

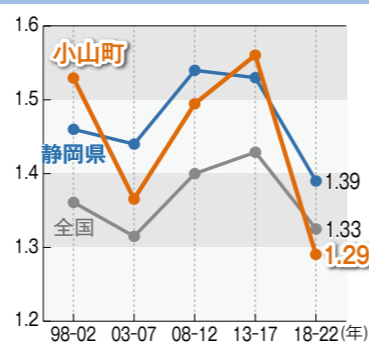
1 人口動態の概要

自然動態(出生)の状況

出生順位別出生数(年平均)の推移

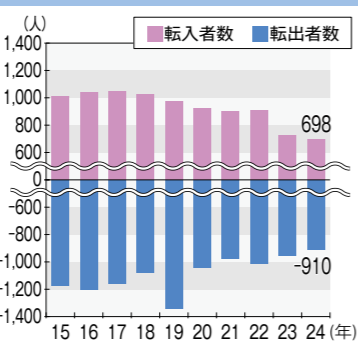


合計特殊出生率の推移

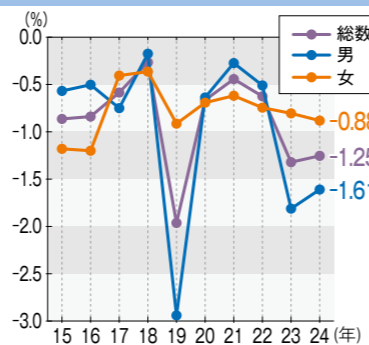


社会動態(全年齢)の状況

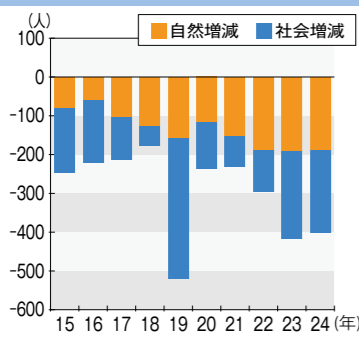
転入者数と転出者数の推移



転入超過率の推移



人口動態(全年齢)の推移



自然動態(出生)

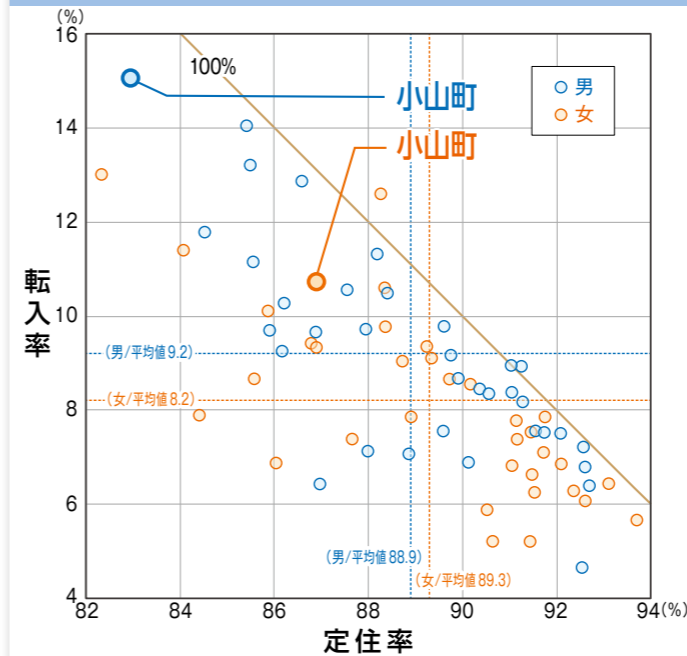
・1998-2002年以降について、第1子と第2子の出生数がほぼ同数となっています。

社会動態(全年齢)

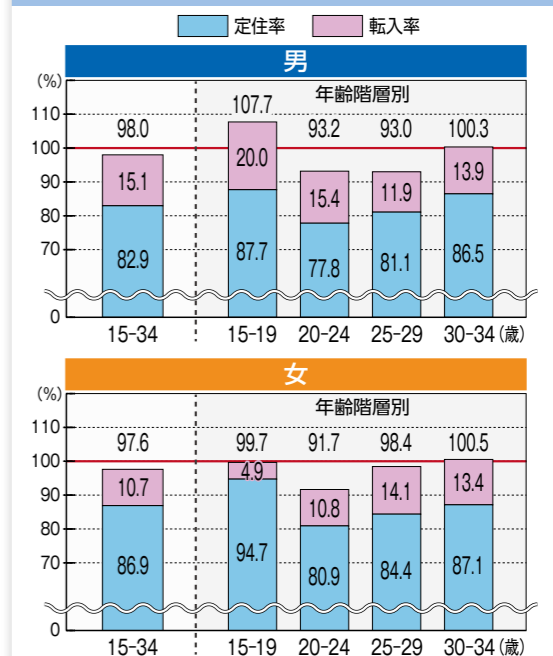
・長期にわたり転出者が転入者を上回り、その差は年によって変動しています。
・転入超過率は男女で違いがみられ、その差は年によって変動しています。

3 若年層の男女別・年齢階層別の社会動態

定住率と転入率(15-34歳、男女別、2018-2022年の年平均)



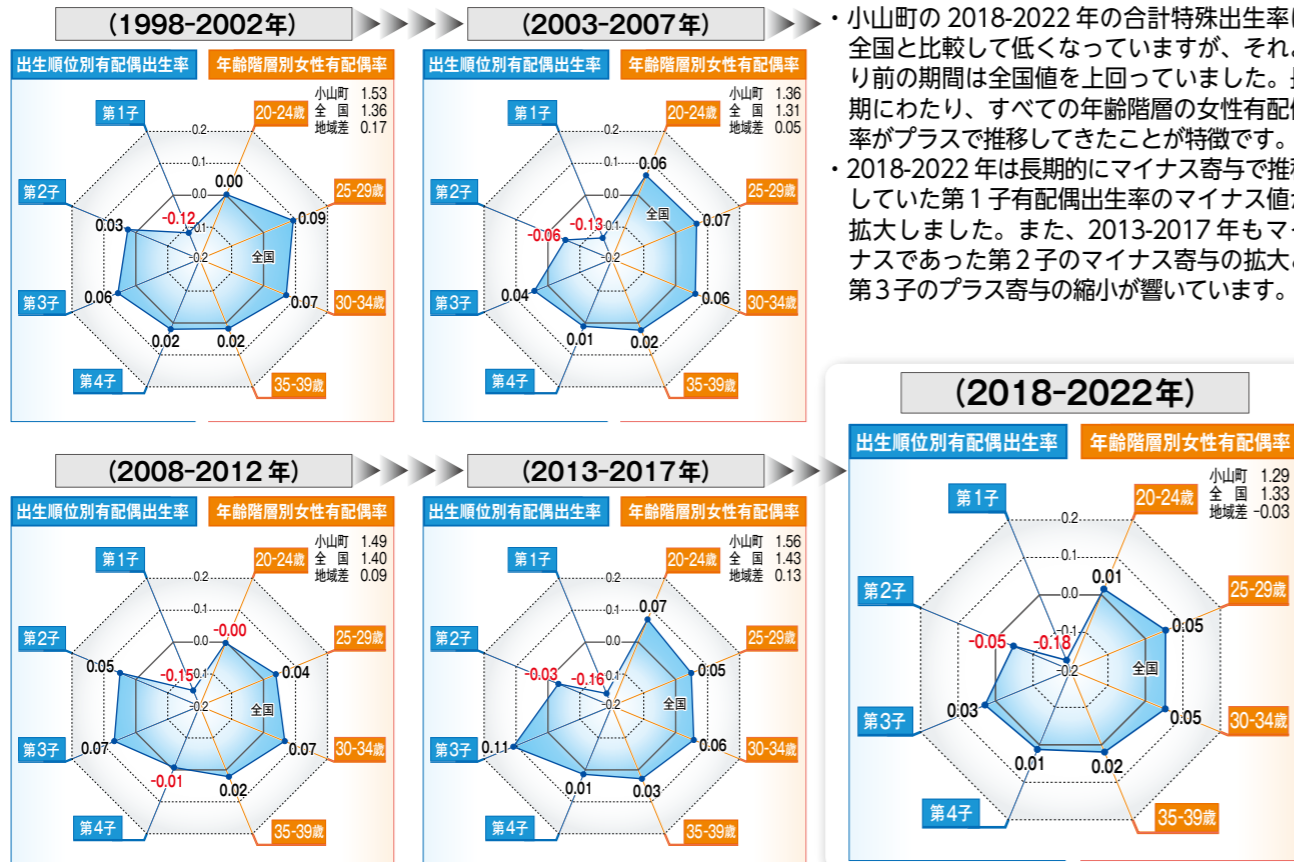
定住率と転入率(15-34歳、男女・年齢階層別、2018-2022年の年平均)



・小山町の転入超過率はマイナスで推移していました。これを定住率と転入率で表し、15-34歳で見ると、2018-2022年の年平均は、男女とも定住率と転入率の計が100%ラインを下回っています。
・2018-2022年は、男女ともに、定住率が市町平均よりも低く、転入率が平均よりも高くなっていますが、男性の平均からの乖離は大きく、低い定住率と高い転入率という特徴が表れています。こ

のため、定住率と転入率の両方に男女で大きな差が生じています。
・年齢階層別にみると、男性の低い定住率と高い転入率という特徴は、主に15-19歳によるものであることがわかります。男性の15-19歳の社会増減率は100%を上回っています。しかし、男性は20-24歳に加えて25-29歳も社会増減率が100%を下回り、15-19歳の社会増を打ち消しています。女性は20-24歳の社会増減率が100%を大きく下回っています。

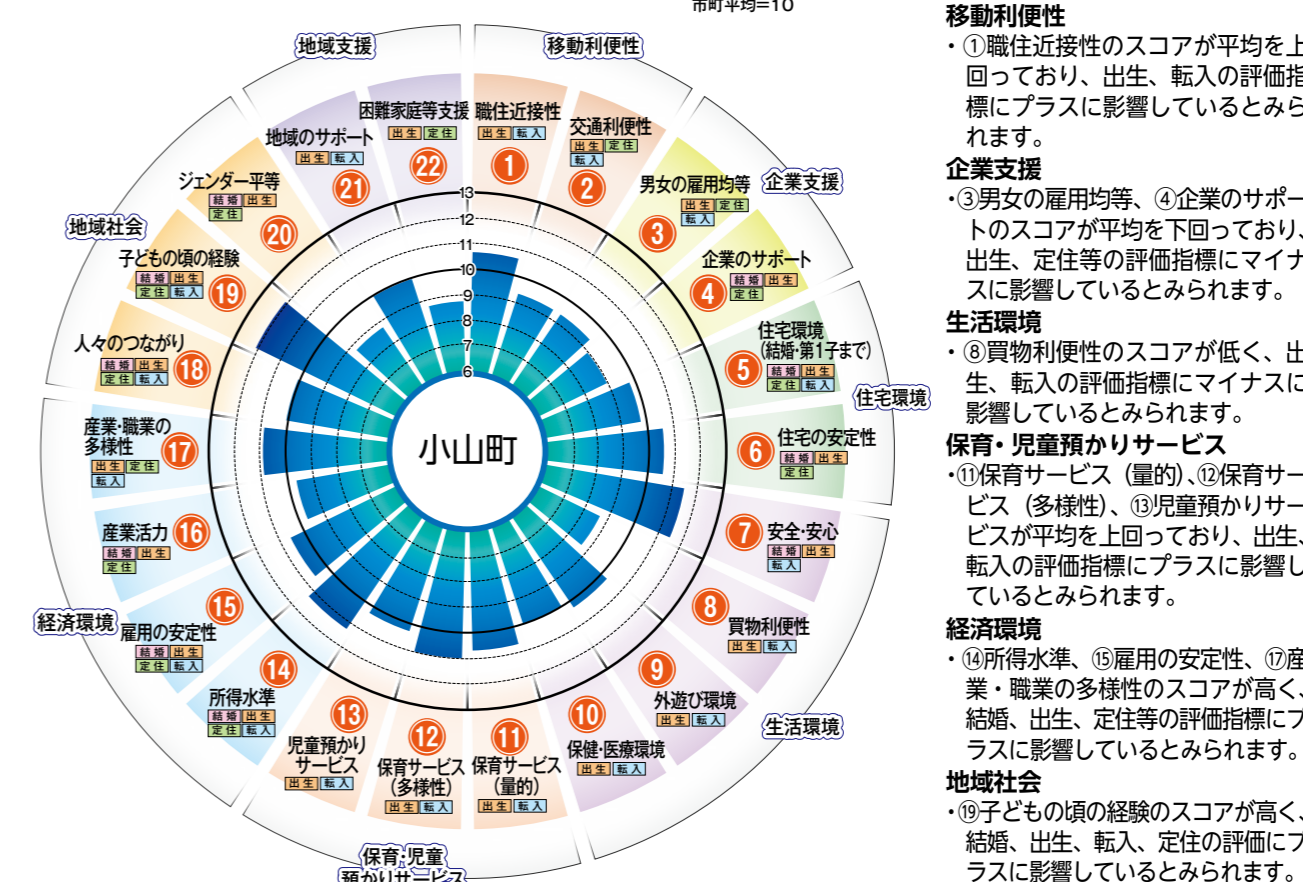
2 出生構造レーダーチャート



・小山町の2018-2022年の合計特殊出生率は全国と比較して低くなっていますが、それより前の期間は全国値を上回っていました。長期にわたり、すべての年齢階層の女性有配偶率がプラスで推移してきたことが特徴です。
・2018-2022年は長期的にマイナス寄りで推移していた第1子有配偶出生率のマイナス値が拡大しました。また、2013-2017年もマイナスであった第2子のマイナス寄りの拡大と第3子のプラス寄りの縮小が響いています。

※出生構造レーダーチャートは、年齢階層別女性有配偶出生率及び出生順位別有配偶出生率の全国との差が、合計特殊出生率の全国との差に対する寄与として表されている。

4 次世代を育む地域環境バーチャート



移動利便性
・①職住近接性のスコアが平均を上回っており、出生、転入の評価指標にプラスに影響しているとみられます。

企業支援
・③男女の雇用均等、④企業のサポートのスコアが平均を下回っており、出生、定住等の評価指標にマイナスに影響しているとみられます。

生活環境
・⑧買物利便性のスコアが低く、出生、転入の評価指標にマイナスに影響しているとみられます。

保育・児童預かりサービス
・⑩保育サービス(量的)、⑫保育サービス(多様性)、⑬児童預かりサービスが平均を上回っており、出生、転入の評価指標にプラスに影響しているとみられます。

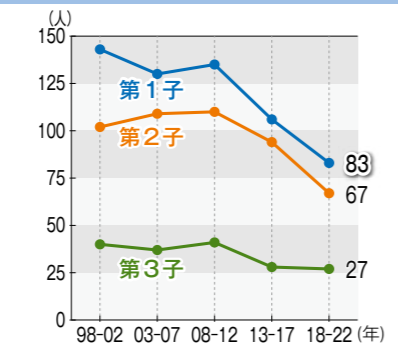
経済環境
・⑭所得水準、⑮雇用の安定性、⑰産業・職業の多様性のスコアが高く、結婚、出生、定住等の評価指標にプラスに影響しているとみられます。

地域社会
・⑲子どもの頃の経験のスコアが高く、結婚、出生、転入、定住の評価にプラスに影響しているとみられます。

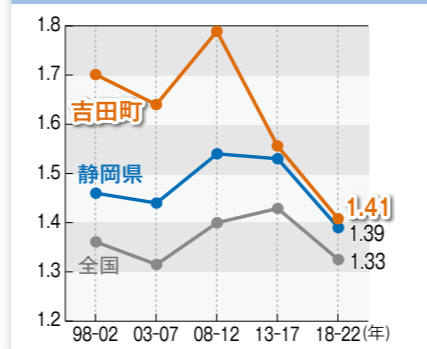
1 人口動態の概要

自然動態(出生)の状況

出生順位別出生数(年平均)の推移

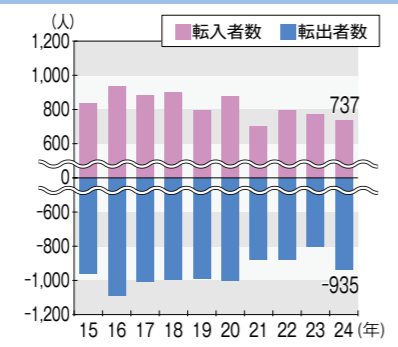


合計特殊出生率の推移

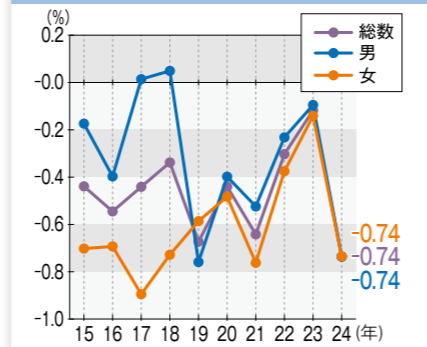


社会動態(全年齢)の状況

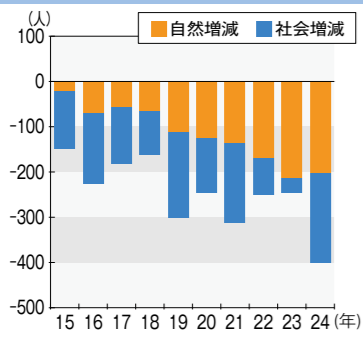
転入者数と転出者数の推移



転入超過率の推移



人口動態(全年齢)の推移



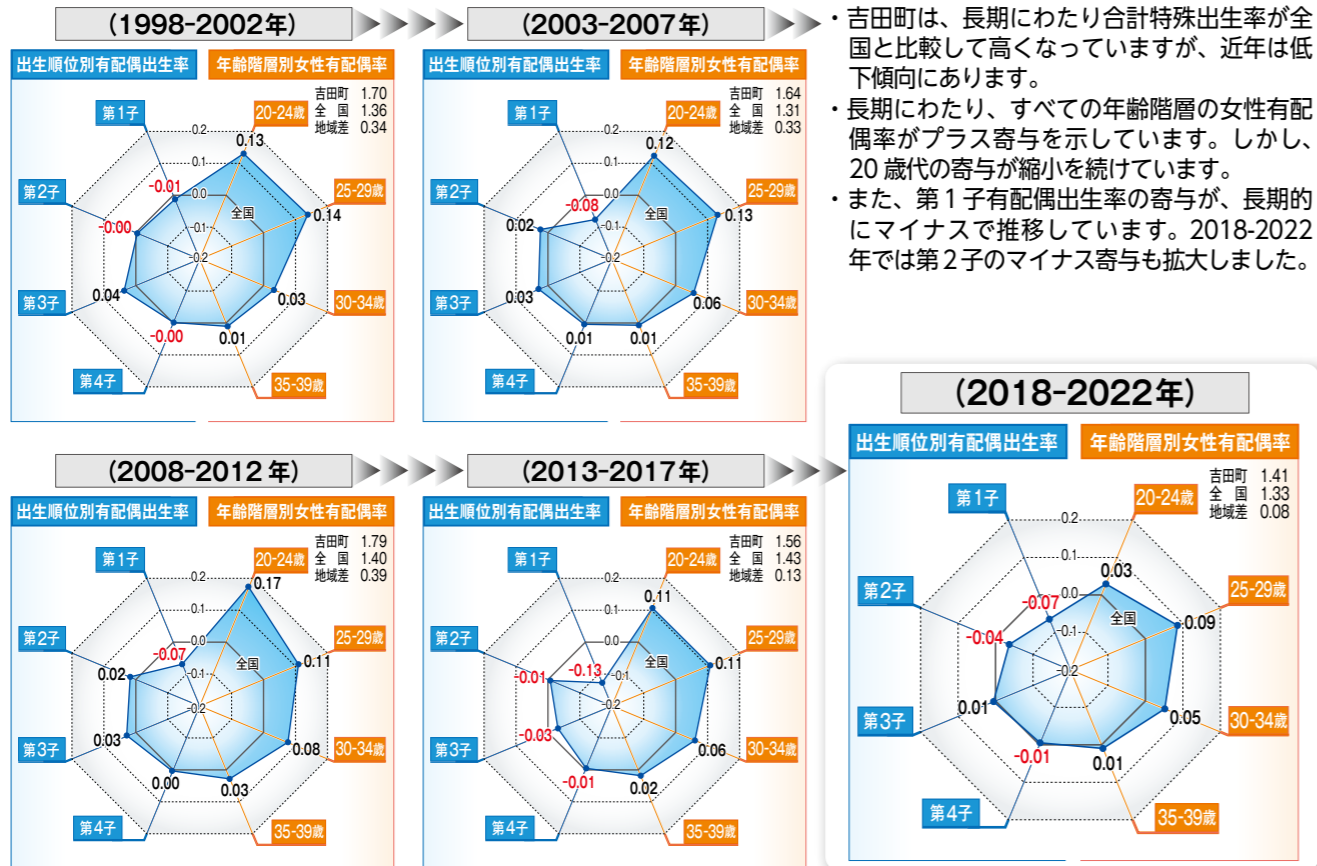
自然動態(出生)

・2018-2022年から、第2子出生数の減少率が第1子を上回っています。

社会動態(全年齢)

・長期にわたり転出者が転入者を上回り、その差は年によって変動しています。
・近年の転入超過率は男女が同水準のマイナスとなっています。

2 出生構造レーダーチャート

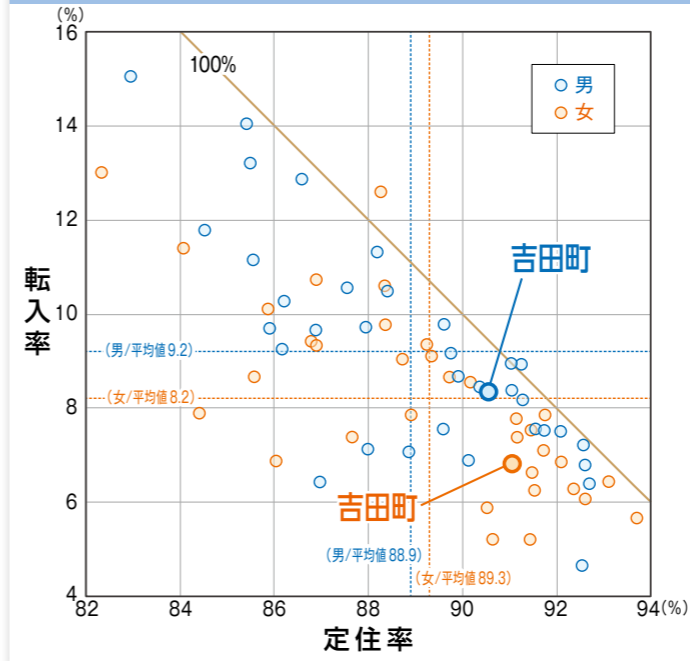


・吉田町は、長期にわたり合計特殊出生率が全国と比較して高くなっていますが、近年は低下傾向にあります。
・長期にわたり、すべての年齢層の女性有配偶率がプラス寄与を示しています。しかし、20歳代の寄与が縮小を続けています。
・また、第1子有配偶出生率の寄与が、長期的にマイナスで推移しています。2018-2022年では第2子のマイナス寄与も拡大しました。

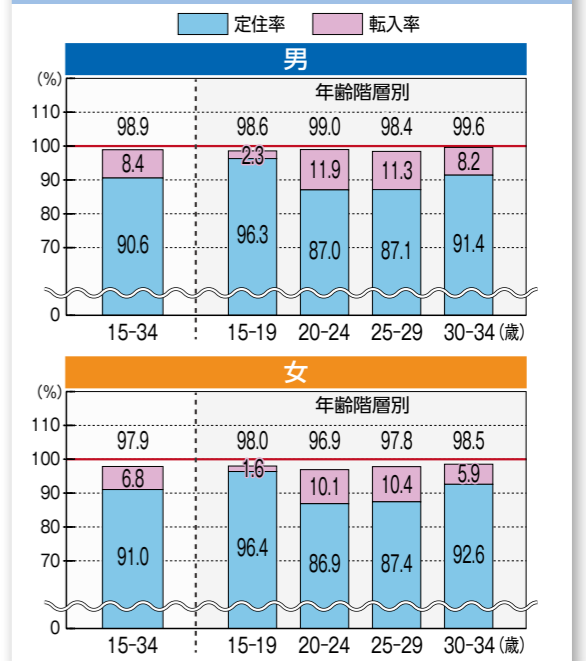
※出生構造レーダーチャートは、年齢層別女性有配偶出生率及び出生順位別有配偶出生率の全国との差が、合計特殊出生率の全国との差に対する寄与として表されている。

3 若年層の男女別・年齢階層別の社会動態

定住率と転入率(15-34歳、男女別、2018-2022年の年平均)



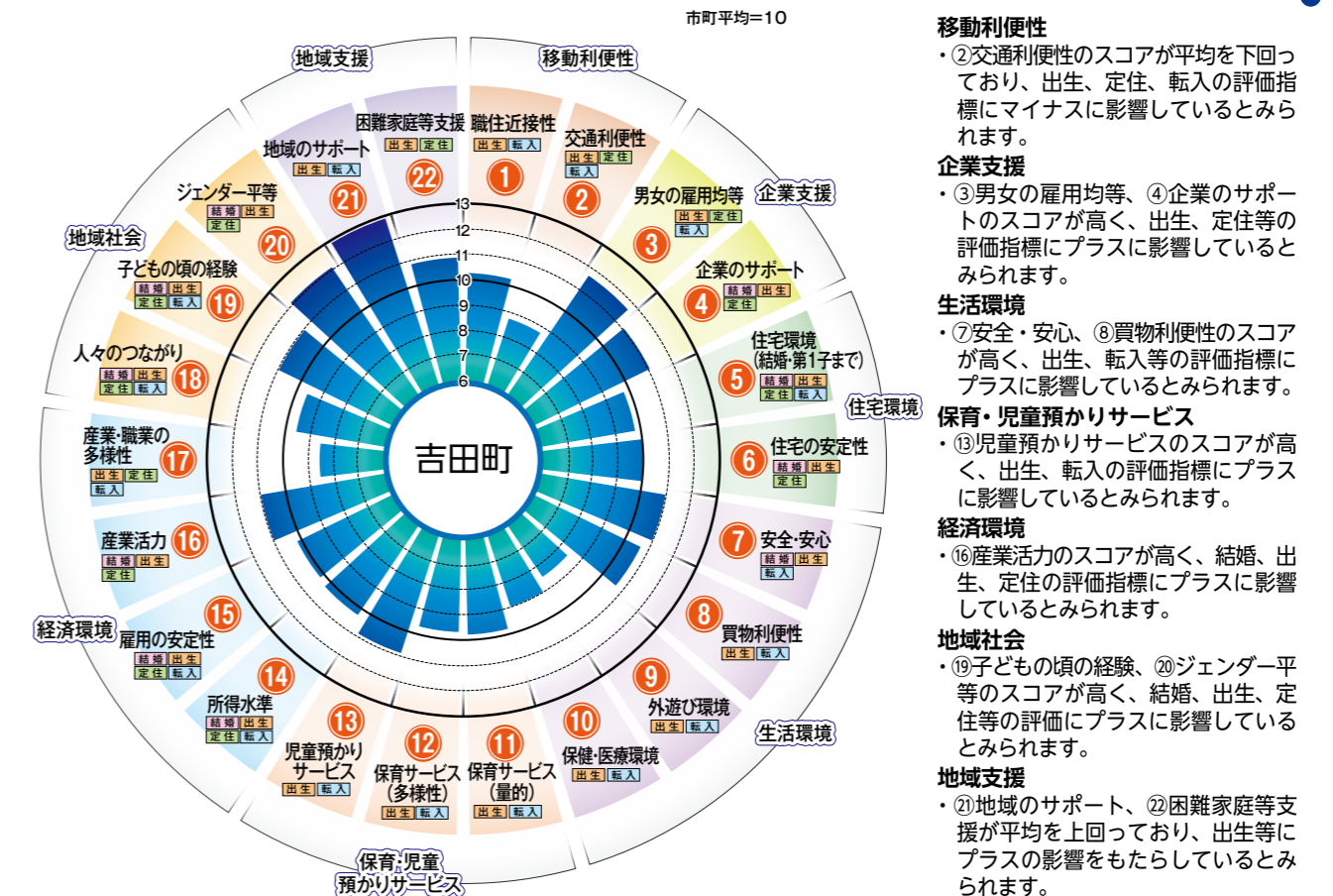
定住率と転入率(15-34歳、男女・年齢階層別、2018-2022年の年平均)



・吉田町の転入超過率はマイナスで推移していました。これを定住率と転入率で表し、15-34歳で見ると、2018-2022年の年平均では、男女とも定住率と転入率の計が100%ラインを下回っています。
・2018-2022年は、男女ともに定住率が市町平均を上回り、転入率が平均を下回るという特徴を持ちます。特に、女性の

転入率が低くなっており、男女で比較すると、男性に比べて女性の転入率が低いという特徴が表れます。
・年齢階層別にみると、男性の社会増減率はどの年齢層も100%をやや下回る程度です。一方、女性は20-24歳と25-29歳の社会増減率が男性に比べて低くなっています。これは主に転入率の差によるものです。

4 次世代を育む地域環境バーチャート



移動利便性
・②交通利便性のスコアが平均を下回っており、出生、定住、転入の評価指標にマイナスに影響しているとみられます。

企業支援
・③男女の雇用均等、④企業のサポートのスコアが高く、出生、定住等の評価指標にプラスに影響しているとみられます。

生活環境
・⑦安全・安心、⑧買物利便性のスコアが高く、出生、転入等の評価指標にプラスに影響しているとみられます。

保育・児童預かりサービス
・⑩児童預かりサービスのスコアが高く、出生、転入の評価指標にプラスに影響しているとみられます。

経済環境
・⑯産業活力のスコアが高く、結婚、出生、定住の評価指標にプラスに影響しているとみられます。

地域社会
・⑲子どもの頃の経験、⑳ジェンダー平等のスコアが高く、結婚、出生、定住等の評価指標にプラスに影響しているとみられます。

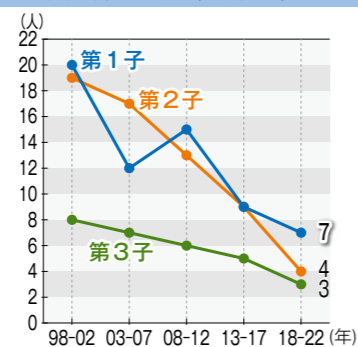
地域支援
・㉑地域のサポート、㉒困難家庭等支援が平均を上回っており、出生等にプラスの影響をもたらしているとみられます。



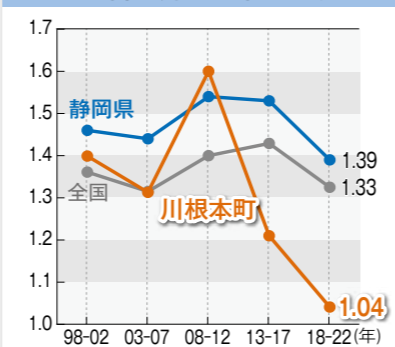
1 人口動態の概要

自然動態(出生)の状況

出生順位別出生数(年平均)の推移

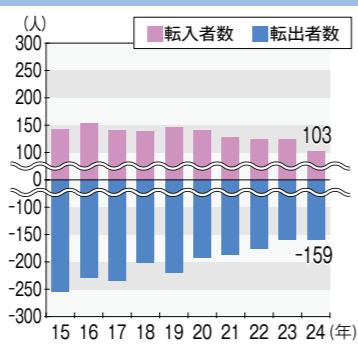


合計特殊出生率の推移

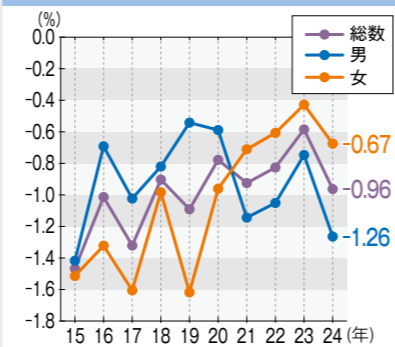


社会動態(全年齢)の状況

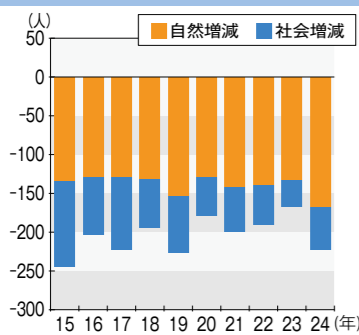
転入者数と転出者数の推移



転入超過率の推移



人口動態(全年齢)の推移



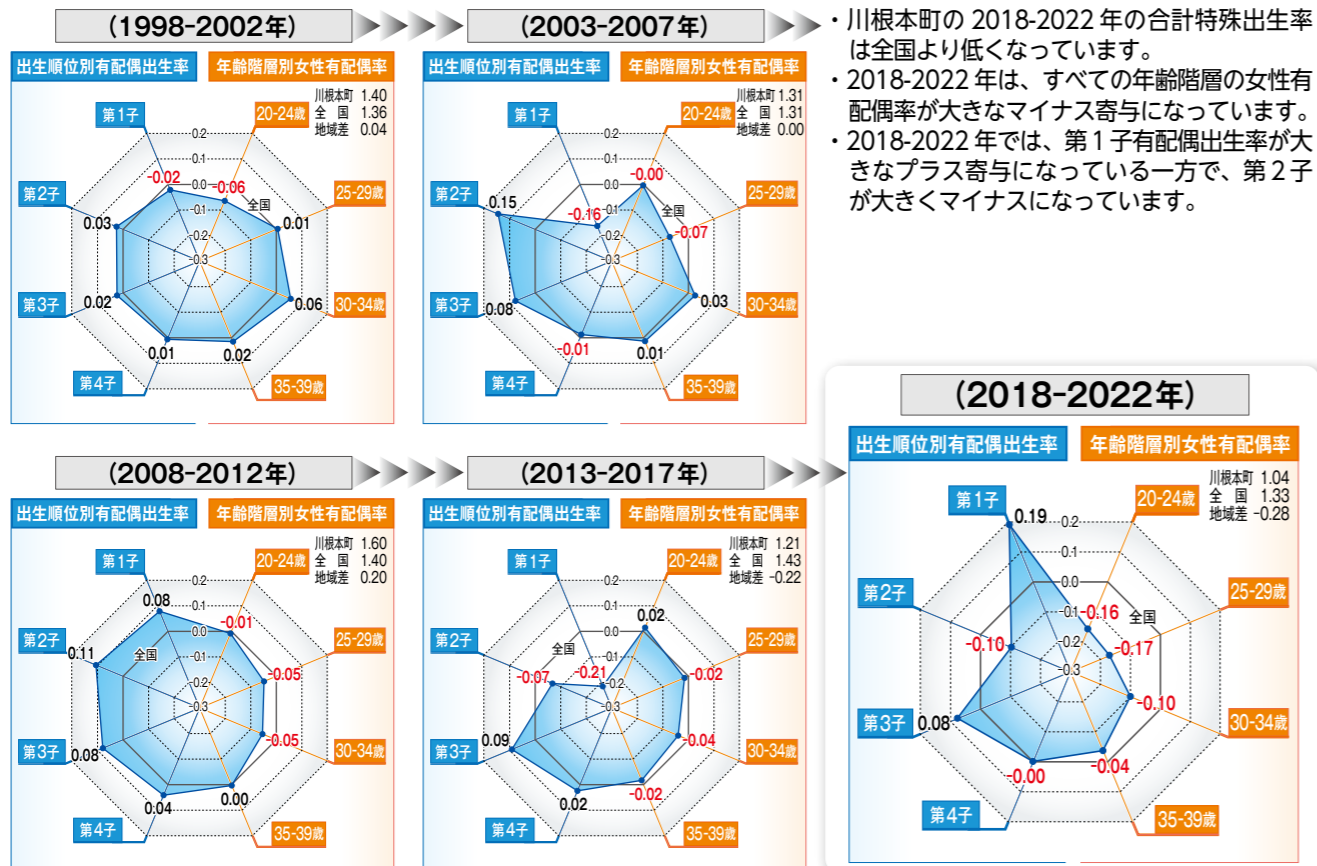
自然動態(出生)

・1998-2002年以降について、第1子と第2子の出生数がほぼ同数となっています。

社会動態(全年齢)

・長期にわたり転出者が転入者を上回っていますが、その差は縮小傾向にあります。
・転入超過率は男女で違いがみられ、その差は年によって変動しています。

2 出生構造レーダーチャート

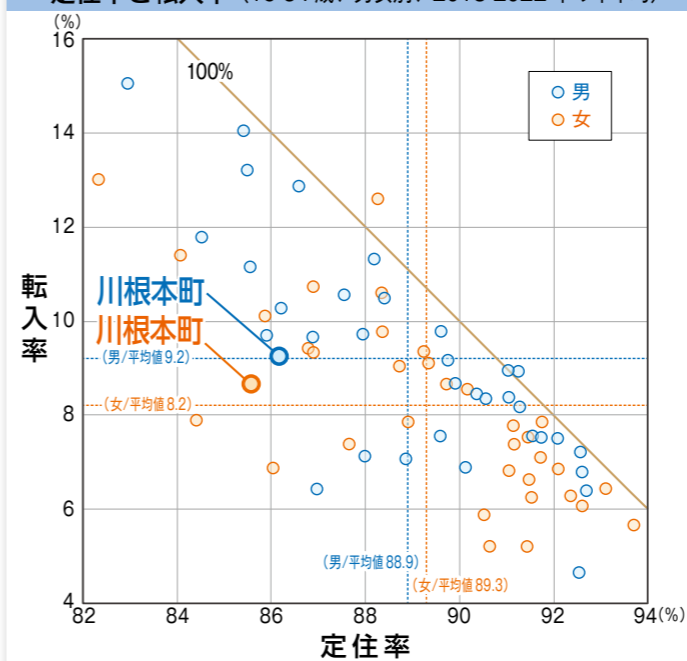


・川根本町の2018-2022年の合計特殊出生率は全国より低くなっています。
・2018-2022年は、すべての年齢層の女性有配偶率が大きなマイナス寄与になっています。
・2018-2022年では、第1子有配偶出生率が大きなプラス寄与になっている一方で、第2子が大きくマイナスになっています。

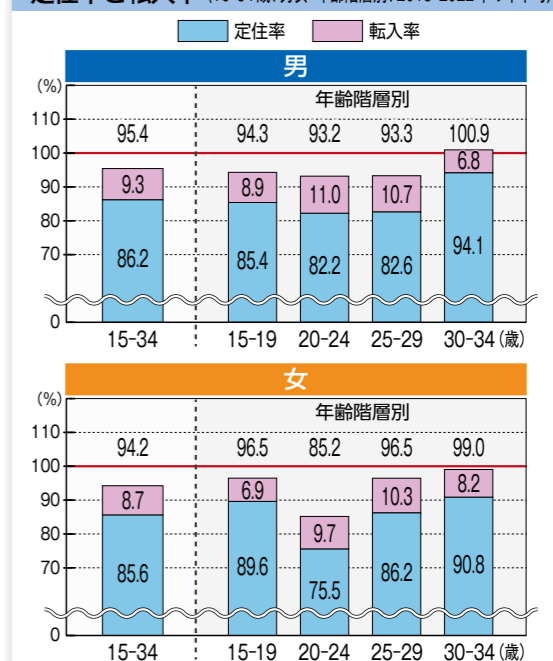
※出生構造レーダーチャートは、年齢層別女性有配偶出生率及び出生順位別有配偶出生率の全国との差が、合計特殊出生率の全国との差に対する寄与として表されている。

3 若年層の男女別・年齢階層別の社会動態

定住率と転入率(15-34歳、男女別、2018-2022年の年平均)



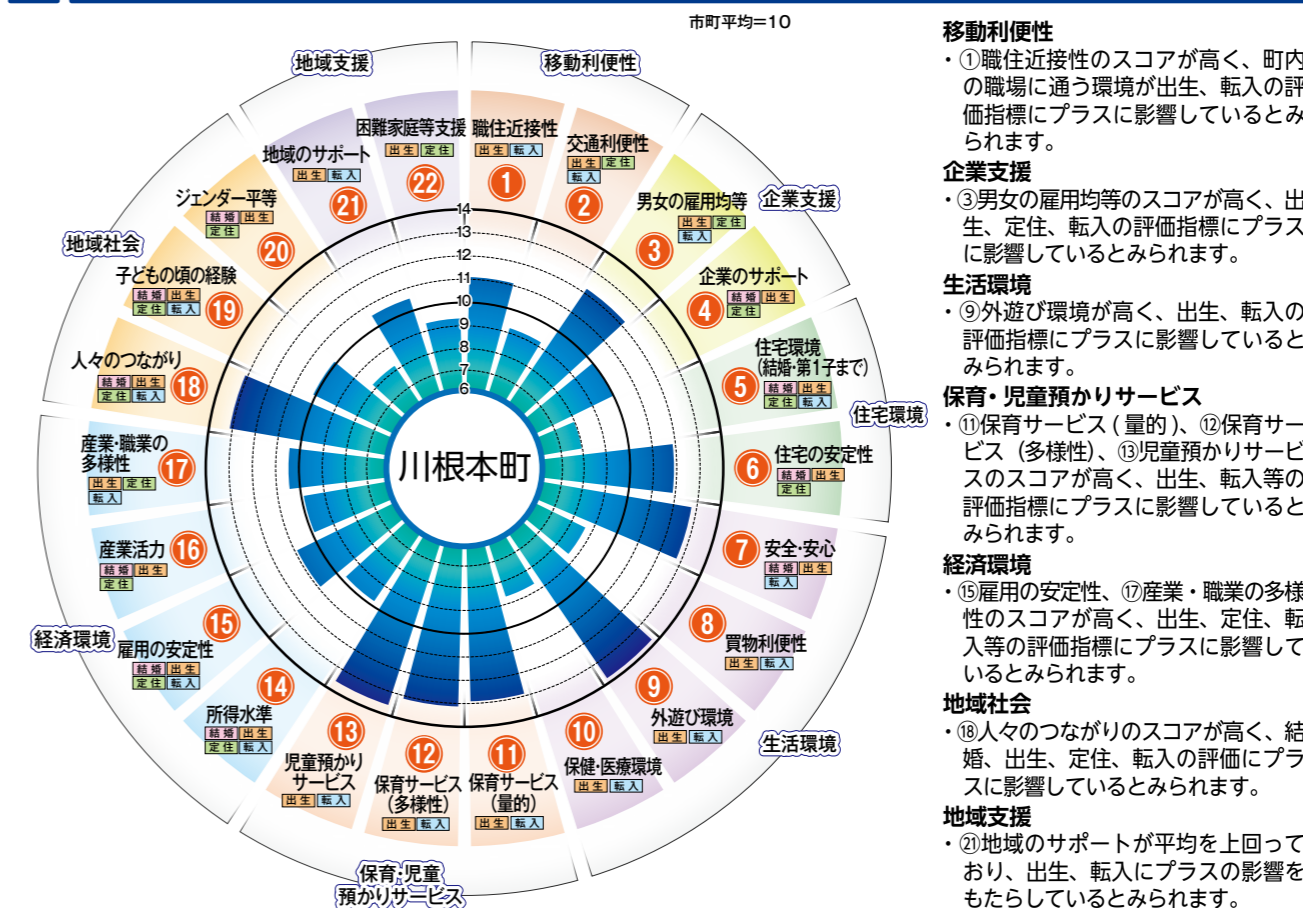
定住率と転入率(15-34歳、男女・年齢階層別、2018-2022年の年平均)



・川根本町の転入超過率はマイナスで推移していました。これを定住率と転入率で表し、15-34歳で見ると、2018-2022年の年平均では、男女とも定住率と転入率の合計が100%ラインを下回っています。
・2018-2022年は、男女とも、転入率はわずかに市町平均を上回っているものの、定住率は平均を下回っています。男女

で比較すると、定住率、転入率の両方が、男性よりも女性の方が低くなっています。
・年齢階層別にみると、男女とも、15-19歳から25-29歳まで、社会増減率が100%を大きく下回っています。この中で、特に女性の20-24歳の定住率が他の年齢階層に比べ低く、転入率も男性を下回ります。

4 次世代を育む地域環境バーチャート



移動利便性
・①職住近接性のスコアが高く、町内の職場に通う環境が出生、転入の評価指標にプラスに影響しているとみられます。

企業支援
・③男女の雇用均等のスコアが高く、出生、定住、転入の評価指標にプラスに影響しているとみられます。

生活環境
・⑨外遊び環境が高く、出生、転入の評価指標にプラスに影響しているとみられます。

保育・児童預かりサービス
・⑪保育サービス(量的)、⑫保育サービス(多様性)、⑬児童預かりサービスのスコアが高く、出生、転入等の評価指標にプラスに影響しているとみられます。

経済環境
・⑤雇用の安定性、⑦産業・職業の多様性のスコアが高く、出生、定住、転入等の評価指標にプラスに影響しているとみられます。

地域社会
・⑮人々のつながりのスコアが高く、結婚、出生、定住、転入の評価にプラスに影響しているとみられます。

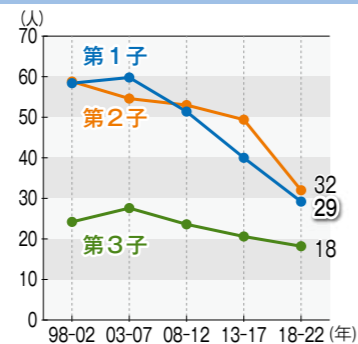
・⑲地域のサポートが平均を上回っており、出生、転入にプラスの影響をもたらしているとみられます。



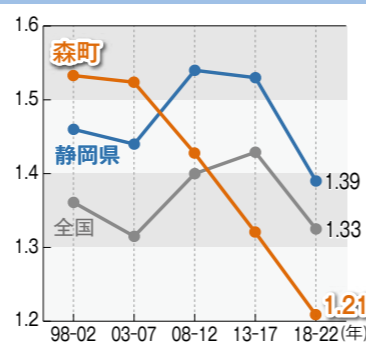
1 人口動態の概要

自然動態(出生)の状況

出生順位別出生数(年平均)の推移

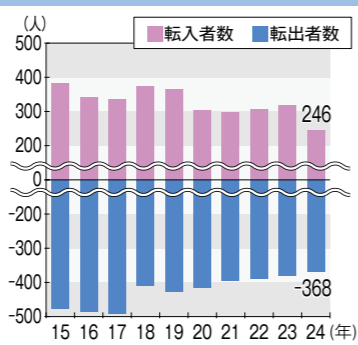


合計特殊出生率の推移

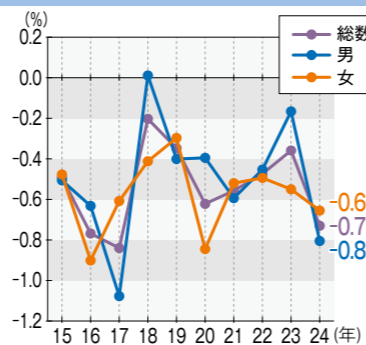


社会動態(全年齢)の状況

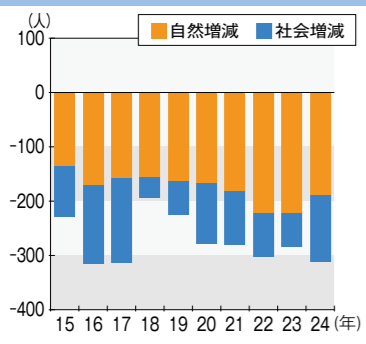
転入者数と転出者数の推移



転入超過率の推移



人口動態(全年齢)の推移



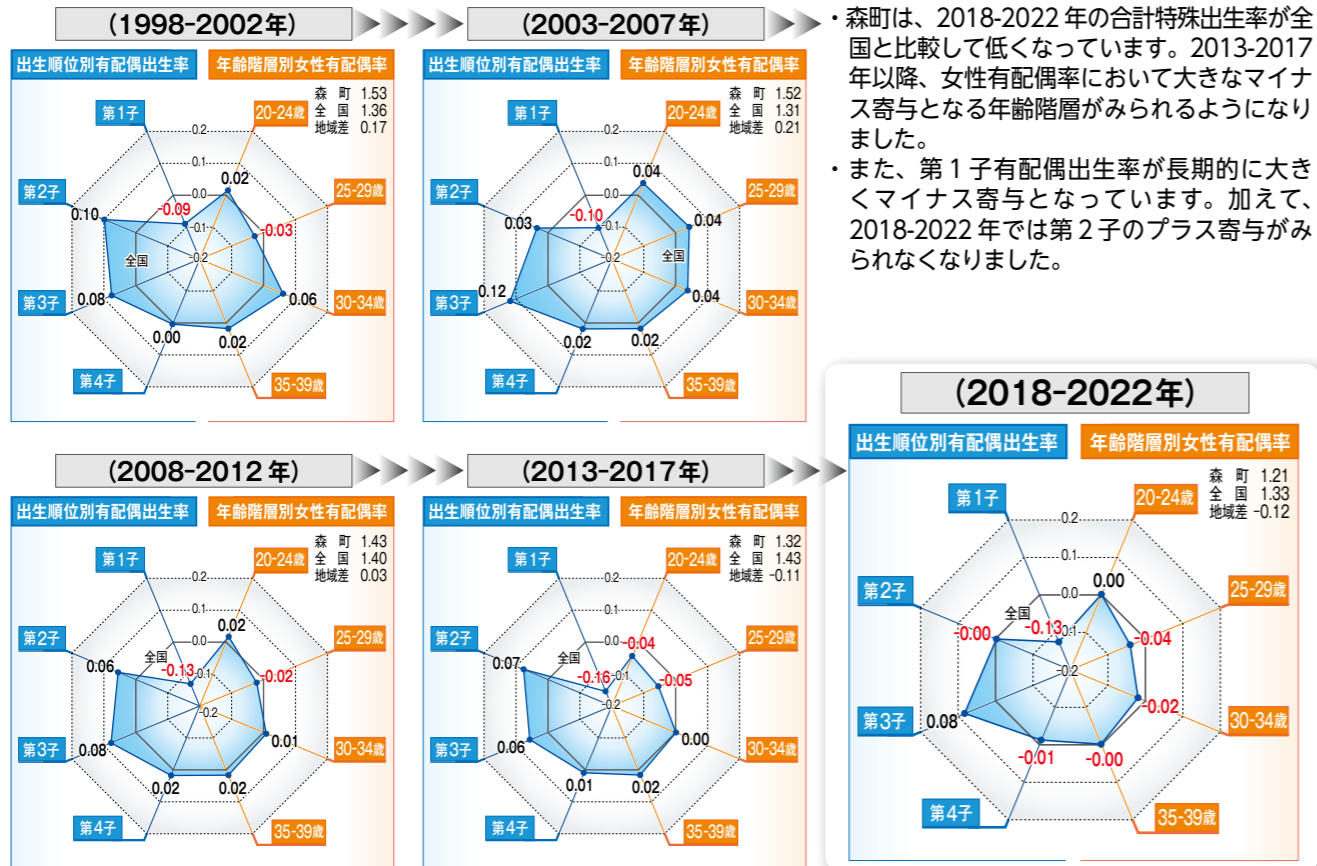
自然動態(出生)

・1998-2002年以降について、第1子と第2子の出生数がほぼ同数となっています。

社会動態(全年齢)

・長期にわたり転出者が転入者を上回り、その差は年によって変動しています。
・転入超過率は男女で違いがみられ、その差は年によって変動しています。

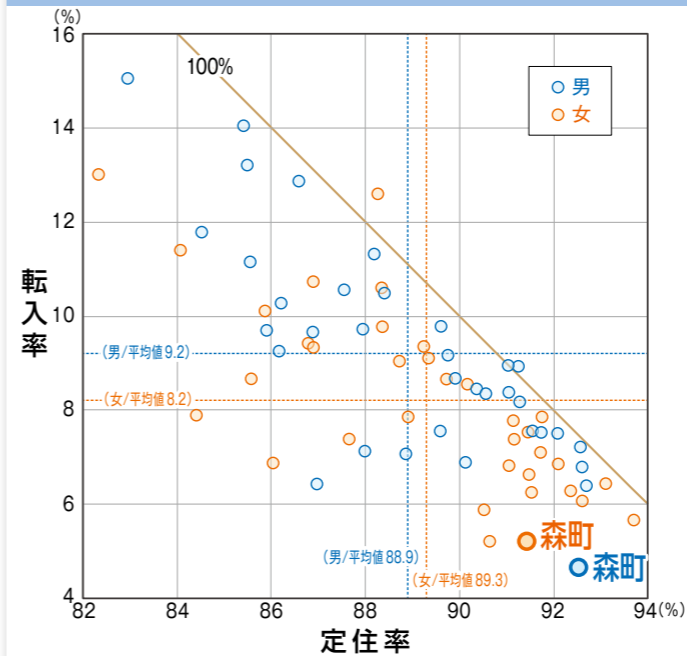
2 出生構造レーダーチャート



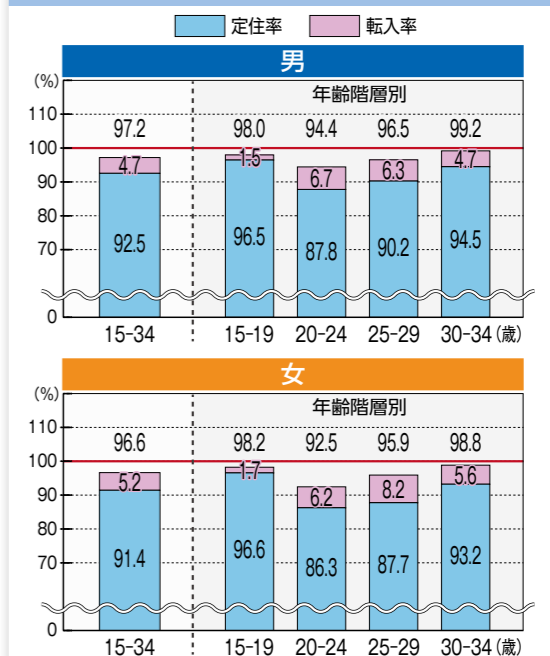
※出生構造レーダーチャートは、年齢階層別女性有配偶出生率及び出生順位別有配偶出生率の全国との差が、合計特殊出生率の全国との差に対する寄与として表されている。

3 若年層の男女別・年齢階層別の社会動態

定住率と転入率(15-34歳、男女別、2018-2022年の年平均)



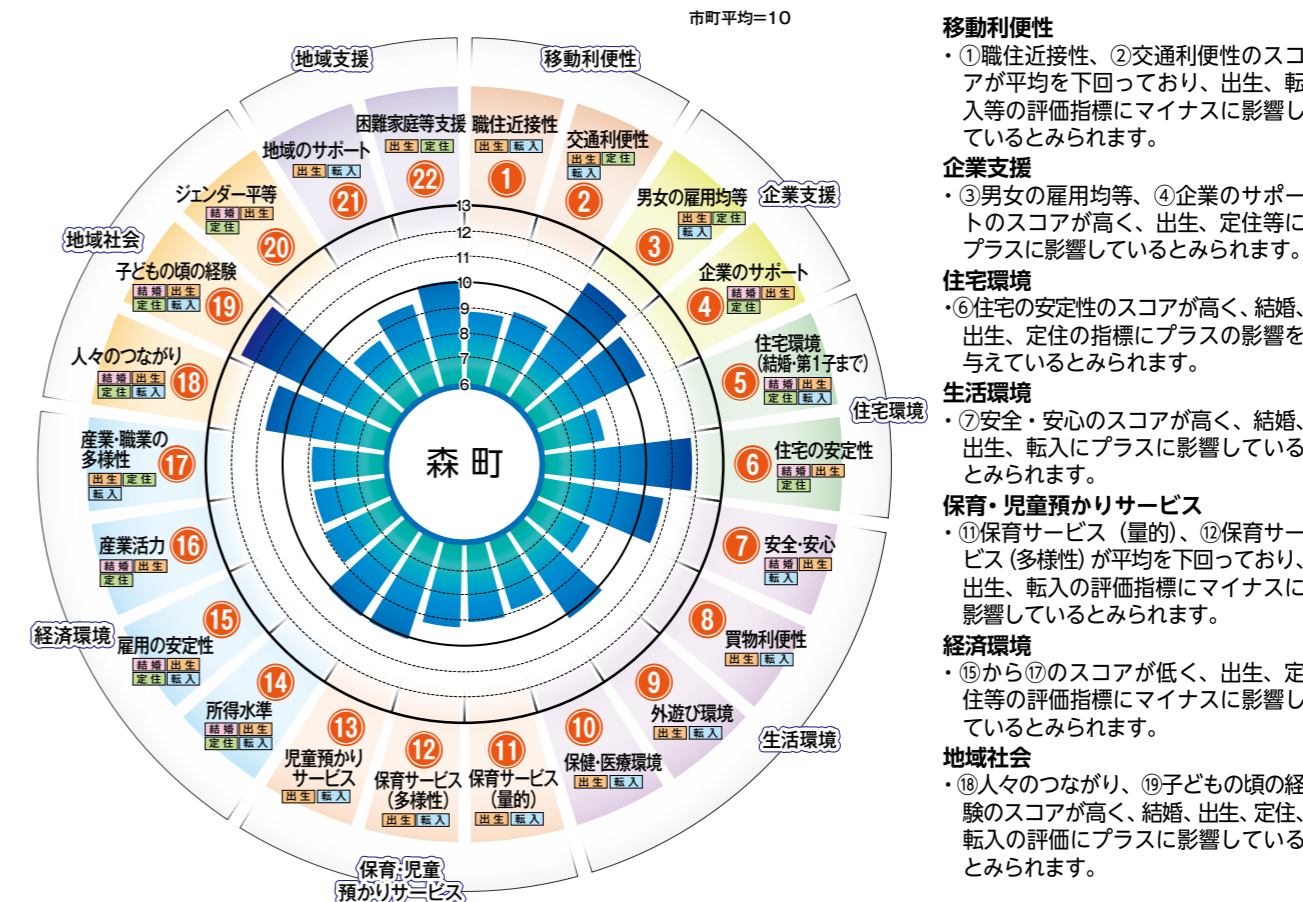
定住率と転入率(15-34歳、男女・年齢階層別、2018-2022年の年平均)



・森町の転入超過率はマイナスで推移していました。これを定住率と転入率で表し、15-34歳で見ると、2018-2022年の年平均は、男女とも定住率と転入率の計が100%ラインを大きく下回っています。
・2018-2022年は、男女ともに定住率が市町平均よりも高く、転入率が平均よりも低くなっています。特に転入率の平均からの乖離が大きく、転入率は市町の中で低いグループに分類されま

す。転入率の平均からの乖離は男性の方が大きく、男女で比較すると、定住率は男性の方が女性よりも高いものの、男女ともに転入率が低いという特徴が表れます。
・年齢階層別にみると、男女ともに、20-24歳と25-29歳の社会増減率が100%を大きく下回っています。両方の年齢階層で、定住率は高いものの、転入率が低いという特徴が表れています。

4 次世代を育む地域環境バーチャート



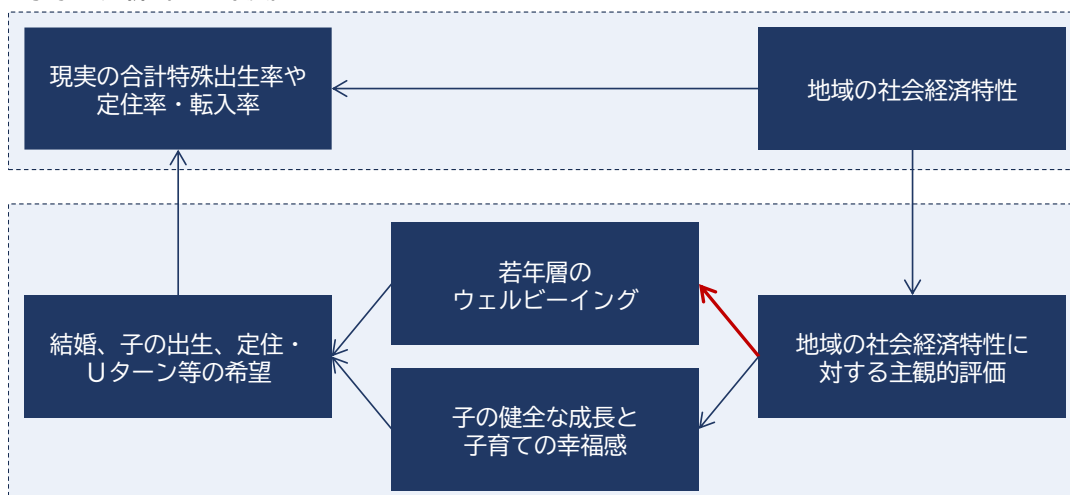
IV 市町別の主観分析の実施に向けて

1. 地域特性と幸福度に関する県民意識調査を利用した事前検証

- 今回の取組の目標は「次世代を育む」をコンセプトにして、結婚、子の出生、子どもの健全な成長、若年層のウェルビーイング、定住等をその要素として捉え、少子化対策に取り組みつつ、少子化に適応した地域環境を整備することです。本羅針盤は、その目標を目指した市町独自の施策形成を支援することが目的です。
- この目的を達成するため、下の全体像に描かれているとおり、2026年度に市町住民を対象とした意識調査（結婚・出産・子育てに関するウェルビーイング調査（仮称））を実施し、「主観の分析」を行います。この調査は、市町ごとに有意な回答が得られるよう、市町ごとに十分な標本サイズを確保する大規模調査になります。
- 意識調査から得られた主観分析の結果と、事象を取り扱った 2025 年度分析を併せることによって「しずおか・地域こども未来羅針盤」が完成します。そこで、大規模調査を実施する前に、地域特性に対する住民の主観的評価が住民のウェルビーイングに影響を及ぼすかどうか、既存調査を利用して、事前にテストをしました。具体的には、下図の赤い矢印に該当する因果関係の検証です。
- 利用するデータは、静岡県が実施した「令和6年度幸福度に関する県民意識調査」（以下、県民意識調査と言う）を用います。この調査は、18歳以上の静岡県在住の県民からランダムに調査対象を抽出しているため、市町ごとでは十分な標本サイズが得られません。しかし、県全体の傾向としてならば、住民の地域特性に対する主観的評価が、住民のウェルビーイングに対して影響を及ぼしているか検証が可能です。

しずおか・地域こども未来羅針盤の全体像（再掲）

事象の分析（2025年度）



※矢印は始点が原因、終点が結果を示す因果関係を表わす

2. 分析結果

(1) 地域特性に対する因子分析の実施

■ 県民意識調査では、43 個の間によって自分が暮らしている地域特性について評価を尋ねています。これらの 43 問を対象に因子分析を実施し、住民の主観的な評価の対象となる地域特性の概念（評価軸）を抽出しました。

■ 下表が分析結果であり、住民の評価軸となる 7 つの因子が得られました。

住民の地域特性に対する評価軸の抽出（因子分析の結果）

変数（質問項目）	因子負荷量						
	因子 1	因子 2	因子 3	因子 4	因子 5	因子 6	因子 7
私の暮らしている地域では、飲食を楽しめる場所が充実している	0.849	-0.005	-0.048	0.005	0.005	0.032	-0.019
暮らしている地域は、日常の買い物にまったく不便がない	0.736	0.062	0.159	-0.098	-0.038	-0.059	-0.014
私の暮らしている地域では、公共交通機関で、好きなときに好きなところへ移動ができる	0.616	-0.045	0.069	0.078	-0.015	-0.022	0.010
私の暮らしている地域には、楽しい時間を過ごせる娯楽施設がある	0.615	-0.107	-0.009	0.138	0.152	0.048	-0.009
暮らしている地域は、医療機関が充実している	0.566	0.033	0.217	-0.009	0.004	-0.113	0.009
私は、この町内（集落）に対して愛着を持っている	0.027	0.741	-0.075	0.239	-0.018	-0.031	-0.032
私は、同じ町内（集落）に住む人たちを信頼している	-0.038	0.588	0.052	0.326	-0.065	-0.018	-0.054
暮らしている地域の雰囲気は、自分にとって心地よい	0.139	0.587	0.071	-0.122	0.052	0.094	0.132
私は、町内（集落）の人が困っていたら手助けをする	-0.025	0.522	-0.085	0.269	-0.040	0.038	0.021
暮らしている地域には、困ったときに相談できる人が身近にいる	-0.052	0.459	-0.001	0.304	0.034	0.001	-0.001
自宅には、心地のいい居場所がある	0.146	0.449	0.099	-0.308	0.068	0.111	0.000
私の暮らしている地域では、教育環境（小中高校）が整っている	0.201	0.019	0.759	-0.122	0.014	-0.030	-0.100
私の暮らしている地域では、通学しやすい場所に学校がある	0.257	0.013	0.664	-0.075	-0.041	-0.105	-0.067
私の暮らしている地域では、子どもたちがいきいきと暮らせる	-0.006	0.096	0.606	-0.007	0.065	0.090	-0.010
私の暮らしている地域では、子育て支援・補助が手厚い	0.065	-0.041	0.482	0.063	0.082	0.022	0.097
私の暮らしている地域では、防災対策がしっかりしている	-0.007	-0.033	0.398	0.321	-0.017	0.046	0.072
暮らしている地域の行政は、地域のことを真剣に考えていると思う	0.078	-0.003	0.390	0.248	0.011	-0.008	0.152
私の暮らしている地域は、防犯対策（交番・街灯・防犯カメラ・住民の見守り等）が整っており、治安が良い	0.078	-0.012	0.375	0.247	0.011	0.056	0.056
私の暮らしている地域では、歩道や信号が整備されていて安心である	0.185	0.046	0.368	0.091	0.040	0.041	0.038
私の暮らしている地域では、介護・福祉施設のサービスが受けやすい	0.272	0.071	0.324	0.055	0.009	0.000	-0.015

(つづき)

変数(質問項目)	因子負荷量						
	因子1	因子2	因子3	因子4	因子5	因子6	因子7
暮らしている地域の公共施設は使い勝手がよく便利である	0.265	-0.014	0.270	0.118	0.022	-0.010	0.246
私は、見知らぬ他者であっても信頼する	0.028	0.106	-0.038	0.567	0.012	-0.047	-0.076
私の暮らしている地域には、女性が活躍しやすい雰囲気がある	0.043	-0.033	0.058	0.528	0.083	0.019	0.093
この町内(集落)には、どんな人の意見でも受け入れる雰囲気がある	0.054	0.404	-0.007	0.484	0.017	-0.100	-0.002
私の暮らしている地域には、若者が活躍しやすい雰囲気がある	0.055	-0.038	0.086	0.466	0.220	-0.025	0.042
私の暮らしている地域では、地域活動(自治会・地域行事・防災活動等)への市民参加が盛んである	-0.096	0.215	0.269	0.380	-0.019	0.007	-0.049
暮らしている地域は、文化・芸術・芸能が盛んで誇らしい	0.077	0.053	0.040	0.377	0.242	0.107	-0.001
私の暮らしている地域では、リサイクルや再生可能エネルギー活用等、環境への取組みが盛んである	-0.066	-0.084	0.263	0.291	-0.007	0.205	0.139
私の暮らしている地域では、適切な収入を得るための機会がある	0.036	0.041	0.023	-0.085	0.904	-0.007	-0.032
私の暮らしている地域では、やりたい仕事を見つけやすい	0.086	0.014	0.004	0.045	0.790	-0.087	0.001
暮らしている地域には、新たな事に挑戦・成長するための機会がある	0.003	0.025	0.002	0.085	0.789	0.017	0.024
私の暮らしている地域では、学びたいことを学べる機会がある	0.069	0.012	0.148	0.220	0.437	0.009	0.013
私の暮らしている地域では、適度な費用で住居を確保できる	-0.012	0.099	0.130	0.004	0.184	0.163	-0.009
私の暮らしている地域には、自慢できる自然景観がある	0.101	0.005	-0.059	0.032	-0.007	0.833	-0.048
暮らしている地域では、身近に自然を感じる事ができる	-0.171	0.087	0.066	-0.068	-0.009	0.817	-0.037
暮らしている地域の空気や水は澄んでいてきれいだと感じる	-0.144	0.143	0.040	0.037	-0.045	0.617	-0.021
私の暮らしている地域には、自慢できる都市景観がある	0.369	-0.049	-0.133	0.187	0.002	0.482	0.048
私の暮らしている地域には、まちなか、公園、川沿い等で、心地よく歩ける場所がある	0.237	0.166	0.148	-0.063	-0.003	0.366	0.055
私の暮らしている地域では、行政サービスのデジタル化が進んでいる	-0.014	0.035	0.015	-0.032	-0.020	-0.049	0.864
私の暮らしている地域では、仕事や日常生活の場でデジタルサービスを利用しやすい	0.040	0.056	0.007	-0.083	0.031	-0.026	0.837
因子	A	B	C	D	E	F	G

■ 因子分析の設定

共通性の初期値：SMC、因子の推定方法：最尤法、因子の回転：プロマックス法

■ 43問のうち、3つの問が因子分析において有効ではなかった

■ 適合度の検定

P値=0.001

■ AからGまでの因子について解釈し、下のおり名称を付けました。すなわち、住民は、自分が暮らしている地域の地域特性について、下の7つの評価軸を持っていると考えられます。

住民の地域特性に対する評価軸（因子の名前付け）

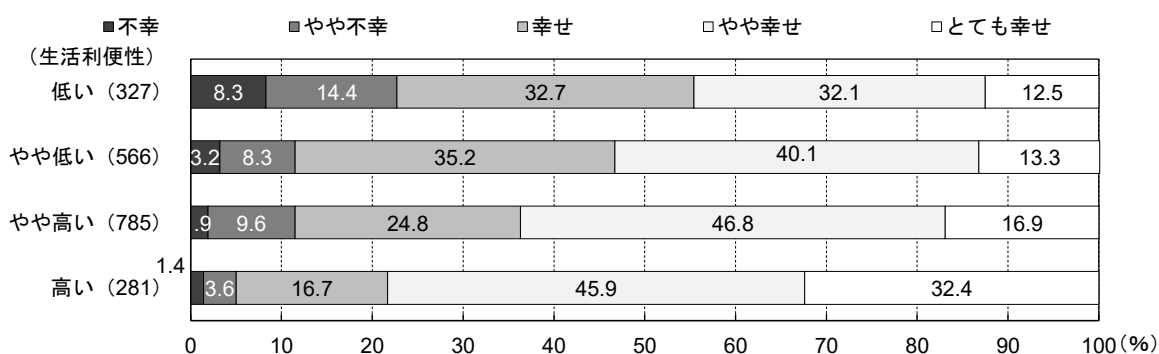
因子	地域特性の名称
A	生活利便性
B	人々のつながり
C	教育・安全
D	活動の多様性・寛容性
E	経済環境と就業機会
F	自然やまちの美しさ
G	デジタル環境

（2）地域特性の評価軸と幸福感の関係

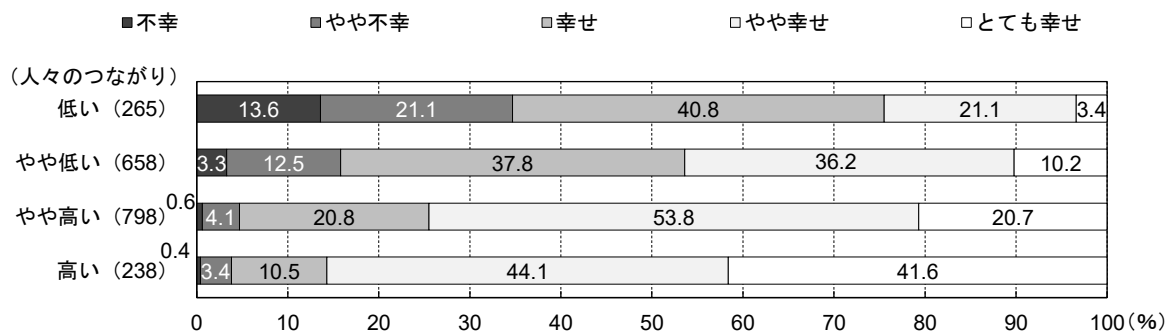
■ 県民意識調査では、「現在の幸福度」を11段階で把握しています。「現在の幸福度」をウェルビーイングの代理変数と考え、特徴が表れやすいように5段階にまとめました。一方、地域特性は、当該の地域特性を住民がどの程度高く評価しているかを示す「因子得点」を用いて4段階で表しました。そして、この2つの変数の関係を調べました。

■ 分析方法は、地域特性の評価を表側（原因）、現在の幸福度を表頭（結果）に設定したクロス集計分析です。クロス集計の結果を以下のグラフに示しました。（括弧の中の数値は標本サイズ）

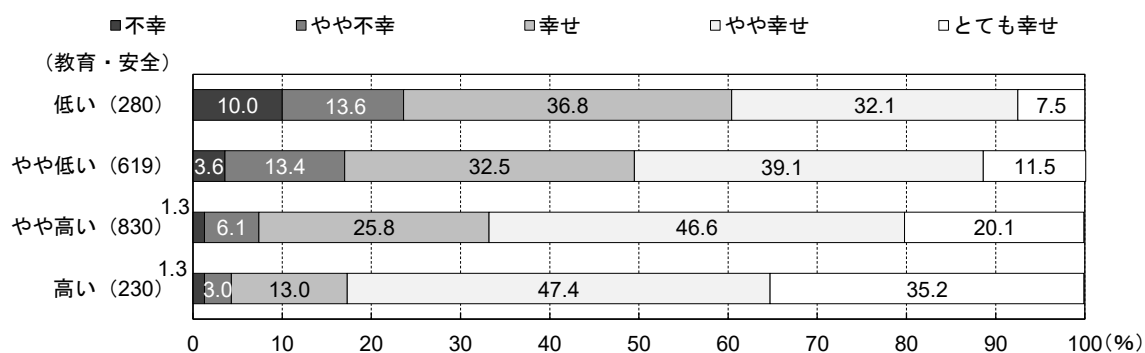
生活利便性の評価と幸福度との関係



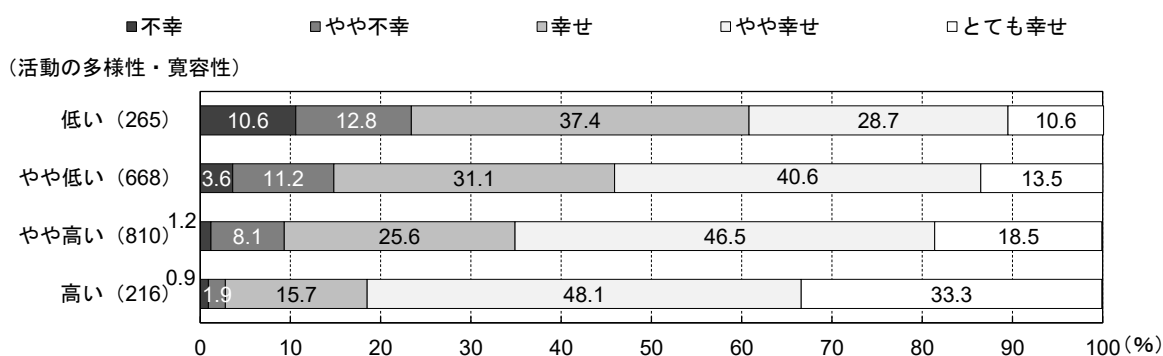
人々のつながりの評価と幸福度との関係



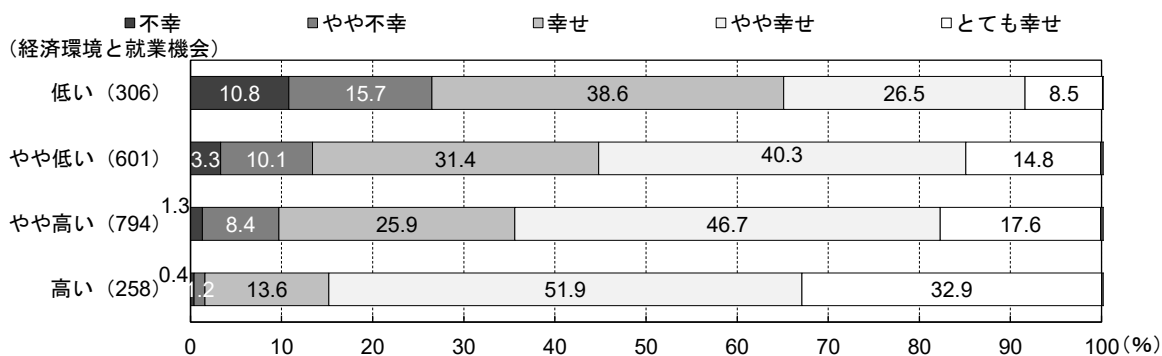
教育・安全の評価と幸福度との関係



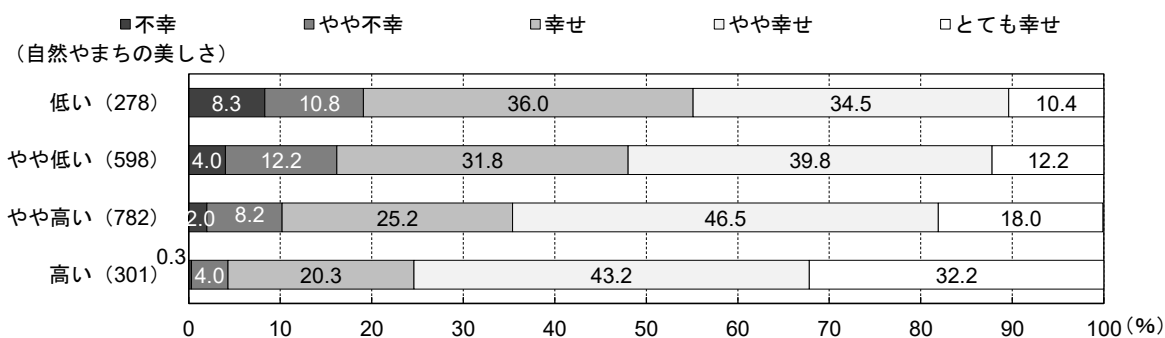
活動の多様性・寛容性の評価と幸福度との関係



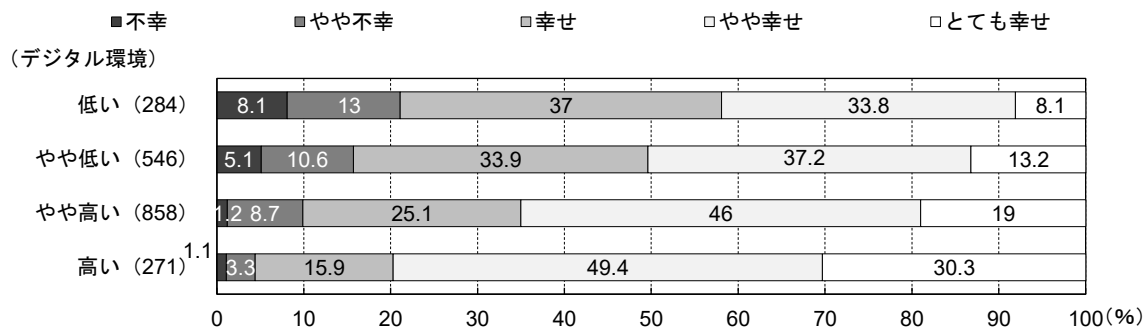
経済環境と就業機会の評価と幸福度との関係



自然やまちの美しさの評価と幸福度との関係



デジタル環境の評価と幸福度との関係



- クロス集計の結果をみると、すべての地域特性の評価と幸福度との間に、地域特性の評価が高いほど幸福度が増すという明確な関係がみられます。
- こうしたことから、2026年度に実施予定の「結婚・出産・子育てに関するウェルビーイング調査（仮称）」において、住民の主観的評価を測定すべき地域特性と、幸福度等のウェルビーイングに関わる質問を注意深く検討して調査を実施すれば、全県分析では、それらの間に明確な因果関係が表れると期待されます。
- その上で、住民のウェルビーイング等に影響を及ぼしていると考えられた地域特性について、市町ごとに主観的評価の大きさを測定し、バーチャート等によって可視化することができると考えられます。2025年度の事象の分析と併せることによって、事象と主観の両面から地域特性に対する強みや問題点を探索することが可能になり、実効ある施策につながる問題意識の形成や施策の着眼点の発見につながると考えられます。

資料編

1. 人口動態関連データ

(1) 人口増減数（日本人、全年齢）

(人)

年	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024
静岡県	-17,372	-18,033	-20,059	-23,434	-26,131	-25,274	-26,272	-32,797	-35,717	-39,356
静岡市	-3,816	-3,450	-3,385	-4,616	-5,110	-4,687	-4,776	-6,063	-6,645	-6,954
浜松市	-1,449	-1,900	-2,199	-3,855	-3,679	-3,322	-3,893	-4,740	-5,484	-6,601
沼津市	-1,923	-1,859	-1,912	-1,732	-1,385	-1,629	-1,903	-2,147	-2,278	-2,632
熱海市	-406	-373	-237	-540	-593	-608	-823	-883	-725	-875
三島市	-433	-229	-510	-698	-959	-409	-785	-1,164	-1,169	-1,308
富士宮市	-583	-520	-702	-875	-873	-1,089	-980	-1,303	-1,367	-1,601
伊東市	-740	-824	-744	-829	-837	-845	-626	-874	-985	-1,190
島田市	-539	-580	-800	-585	-643	-653	-699	-802	-977	-1,043
富士市	-1,064	-1,151	-1,241	-1,142	-1,220	-1,262	-1,358	-1,988	-1,846	-2,251
磐田市	-342	-483	-897	-795	-767	-913	-1,093	-1,277	-1,414	-1,434
焼津市	-1,089	-997	-1,116	-930	-853	-812	-1,219	-911	-1,195	-1,411
掛川市	-352	-16	-229	-250	-541	-754	-408	-837	-800	-724
藤枝市	-148	-237	-498	-706	-1,027	-621	-539	-1,290	-1,523	-1,331
御殿場市	25	-354	-308	-411	-786	-640	-765	-1,625	-1,316	-1,118
袋井市	30	-118	-7	-65	-317	-198	-145	-224	-505	-678
下田市	-471	-446	-534	-446	-541	-375	-430	-456	-410	-479
裾野市	-197	-374	-365	-406	-512	-518	-604	-684	-589	-627
湖西市	-294	-421	-519	-556	-516	-670	-471	-579	-731	-849
伊豆市	-598	-556	-440	-475	-631	-596	-480	-492	-680	-593
御前崎市	-404	-233	-310	-495	-512	-593	-526	-537	-492	-598
菊川市	-90	-135	-125	-85	-70	-246	-373	-317	-430	-440
伊豆の国市	-102	-357	-359	-417	-416	-482	-417	-393	-623	-685
牧之原市	-670	-614	-485	-711	-737	-797	-673	-704	-750	-831
東伊豆町	-263	-296	-247	-272	-251	-280	-141	-300	-253	-313
河津町	-127	-128	-98	-128	-102	-165	-146	-181	-173	-174
南伊豆町	-135	-116	-130	-190	-153	-167	-170	-127	-226	-171
松崎町	-158	-158	-172	-142	-197	-202	-152	-188	-157	-172
西伊豆町	-264	-238	-265	-213	-223	-235	-202	-225	-267	-228
函南町	-133	-160	-325	-284	-66	-240	-199	-341	-436	-558
清水町	-97	83	-167	-105	-332	-245	-139	-140	-92	-263
長泉町	330	172	199	244	-7	-81	-113	35	-66	110
小山町	-247	-220	-214	-176	-521	-236	-231	-296	-418	-400
吉田町	-149	-226	-182	-161	-302	-247	-313	-251	-245	-400
川根本町	-245	-203	-223	-194	-227	-179	-200	-190	-167	-223
森町	-229	-316	-313	-193	-225	-278	-280	-303	-283	-311

資料：厚生労働省「人口動態統計」、総務省「住民基本台帳人口移動報告」

(2) 自然増減数 (日本人、全年齢)

(人)

年	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024
静岡県	-11,166	-11,643	-14,817	-16,780	-18,733	-19,694	-21,623	-26,759	-28,957	-31,661
静岡市	-2,648	-2,639	-3,114	-3,509	-3,932	-3,985	-4,191	-5,327	-5,693	-5,986
浜松市	-1,145	-1,294	-1,894	-2,564	-2,825	-3,089	-3,701	-4,441	-4,986	-5,756
沼津市	-1,017	-990	-1,233	-1,345	-1,447	-1,408	-1,601	-1,948	-1,992	-2,133
熱海市	-557	-539	-594	-572	-613	-638	-714	-753	-762	-762
三島市	-256	-295	-423	-489	-543	-549	-572	-749	-835	-905
富士宮市	-321	-431	-508	-596	-665	-769	-731	-971	-1,093	-1,203
伊東市	-753	-700	-764	-876	-830	-843	-905	-1,064	-1,083	-1,219
島田市	-409	-463	-548	-509	-564	-588	-608	-771	-835	-857
富士市	-503	-534	-761	-979	-1,042	-1,109	-1,250	-1,435	-1,762	-1,924
磐田市	-280	-276	-487	-549	-658	-738	-856	-1,034	-1,068	-1,237
焼津市	-516	-566	-696	-754	-736	-757	-876	-896	-1,049	-1,043
掛川市	-201	-144	-265	-275	-349	-394	-429	-700	-691	-790
藤枝市	-399	-302	-489	-558	-677	-732	-680	-990	-993	-1,120
御殿場市	128	76	-74	-101	-202	-200	-298	-472	-483	-509
袋井市	35	47	56	12	-63	-120	-183	-277	-338	-414
下田市	-260	-276	-305	-279	-284	-285	-287	-327	-355	-366
裾野市	105	-2	-35	-59	-94	-94	-134	-254	-244	-287
湖西市	-102	-175	-157	-218	-285	-248	-284	-361	-427	-562
伊豆市	-353	-350	-356	-369	-394	-359	-389	-481	-524	-493
御前崎市	-149	-113	-148	-178	-194	-233	-236	-279	-257	-331
菊川市	-91	-54	-106	-46	-99	-147	-188	-210	-284	-292
伊豆の国市	-210	-284	-299	-288	-355	-366	-433	-463	-539	-481
牧之原市	-296	-270	-299	-321	-370	-395	-397	-443	-461	-523
東伊豆町	-183	-188	-199	-192	-176	-241	-209	-239	-232	-266
河津町	-93	-110	-103	-119	-110	-100	-105	-129	-140	-140
南伊豆町	-127	-135	-116	-164	-123	-137	-148	-141	-167	-166
松崎町	-110	-92	-123	-102	-104	-103	-124	-145	-127	-128
西伊豆町	-164	-172	-161	-171	-162	-170	-140	-172	-179	-193
函南町	-97	-115	-182	-185	-170	-212	-194	-319	-340	-422
清水町	-21	32	-80	-100	-118	-169	-173	-217	-160	-249
長泉町	196	138	90	153	34	19	23	-37	-102	-158
小山町	-79	-59	-103	-126	-156	-116	-152	-186	-189	-188
吉田町	-22	-69	-56	-65	-112	-124	-135	-168	-213	-202
川根本町	-133	-128	-128	-131	-153	-128	-141	-139	-132	-167
森町	-135	-171	-157	-156	-162	-167	-182	-221	-222	-189

資料：厚生労働省「人口動態統計」

(3) 出生数 (日本人、母の年齢 15-49 歳、年平均)

(人)

年	1998-2002	2003-2007	2008-2012	2013-2017	2018-2022
全国	1,179,126	1,095,808	1,064,028	992,410	841,286
静岡県	35,501	33,154	31,694	28,241	22,656
静岡市	6,594	5,956	5,701	5,194	4,260
浜松市	7,726	7,433	7,182	6,637	5,403
沼津市	1,953	1,750	1,544	1,244	1,014
熱海市	245	203	174	141	92
三島市	983	956	909	814	644
富士宮市	1,246	1,197	1,141	990	749
伊東市	602	508	427	350	241
島田市	864	846	812	725	611
富士市	2,645	2,357	2,200	1,929	1,561
磐田市	1,509	1,490	1,454	1,312	1,034
焼津市	1,348	1,282	1,246	975	821
掛川市	1,028	1,048	1,067	973	827
藤枝市	1,318	1,200	1,136	1,092	864
御殿場市	897	915	900	811	619
袋井市	866	880	933	862	686
下田市	209	168	147	118	78
裾野市	625	566	607	510	380
湖西市	607	521	488	427	319
伊豆市	256	209	169	142	107
御前崎市	378	326	307	255	176
菊川市	424	416	417	401	347
伊豆の国市	433	416	354	319	251
牧之原市	458	409	381	313	211
東伊豆町	120	85	64	49	28
河津町	64	60	56	39	27
南伊豆町	67	63	51	37	33
松崎町	64	47	39	29	17
西伊豆町	64	52	41	22	18
函南町	384	336	313	277	229
清水町	396	345	311	274	207
長泉町	448	483	501	474	423
小山町	193	163	157	134	95
吉田町	291	284	295	235	184
川根本町	49	36	36	24	16
森町	146	147	134	114	82

資料：厚生労働省「人口動態統計」

(4) 出生順位別出生数（日本人、母の年齢15-49歳、年平均）

（全国：千人、静岡県：人）

区分	第1子					第2子					第3子				
	1998-2002	2003-2007	2008-2012	2013-2017	2018-2022	1998-2002	2003-2007	2008-2012	2013-2017	2018-2022	1998-2002	2003-2007	2008-2012	2013-2017	2018-2022
全国	578.2	528.3	503.9	466.5	389.5	430.2	409.6	389.7	362.4	306.7	139.9	128.2	135.9	128.4	111.3
静岡県	17,345	15,859	14,772	13,009	10,324	13,109	12,718	11,979	10,690	8,498	4,239	3,820	4,057	3,706	3,040
静岡市	3,268	2,911	2,758	2,479	2,037	2,462	2,278	2,110	1,944	1,587	732	639	681	627	499
浜松市	3,806	3,617	3,416	3,126	2,510	2,855	2,842	2,722	2,527	2,036	901	822	878	817	695
沼津市	973	866	738	600	489	717	659	570	454	364	222	186	191	147	123
熱海市	118	91	80	64	41	84	78	59	47	31	35	27	25	25	14
三島市	478	462	429	377	291	370	360	345	305	237	114	109	110	105	93
富士宮市	590	563	519	434	327	465	457	431	384	276	159	147	153	137	114
伊東市	304	236	188	155	99	210	197	163	126	88	67	62	60	55	41
島田市	410	387	355	323	259	317	332	321	279	238	116	109	117	103	90
富士市	1,315	1,109	1,022	896	713	973	924	817	722	585	298	268	286	250	206
磐田市	727	699	664	589	450	559	589	555	505	403	191	169	194	181	147
焼津市	645	610	571	435	379	495	485	471	371	296	173	153	169	139	113
掛川市	487	500	476	433	352	375	399	411	369	322	140	127	152	142	126
藤枝市	633	559	510	478	372	492	463	443	440	330	164	149	149	144	128
御殿場市	441	430	392	367	274	326	351	351	295	231	104	110	130	119	91
袋井市	444	433	445	404	313	305	326	357	319	265	99	102	109	113	86
下田市	97	77	67	53	35	77	65	51	44	28	28	21	23	18	10
裾野市	312	279	295	237	175	232	215	223	194	144	72	63	74	66	49
湖西市	285	238	220	181	146	235	208	194	171	116	74	63	62	61	47
伊豆市	108	91	75	57	42	98	81	58	57	43	41	29	27	23	19
御前崎市	174	149	137	110	69	142	126	119	101	68	50	42	40	36	30
菊川市	203	187	187	185	154	152	162	168	154	133	59	56	53	52	50
伊豆の国市	214	196	161	135	102	155	160	133	125	97	53	49	50	49	40
牧之原市	209	188	174	129	82	167	161	146	125	79	68	50	53	51	40
東伊豆町	59	35	25	20	11	43	33	25	16	10	15	13	11	9	5
河津町	31	27	24	13	14	23	23	21	15	8	9	8	10	9	4
南伊豆町	30	27	22	14	14	26	24	18	13	10	8	9	7	8	6
松崎町	27	21	15	11	8	26	18	15	11	6	10	6	7	6	2
西伊豆町	28	23	15	9	8	25	19	15	9	7	8	9	9	3	3
函南町	187	160	141	129	100	146	126	119	97	84	42	41	40	39	33
清水町	209	173	151	123	99	142	129	117	101	75	39	35	34	38	25
長泉町	237	244	242	235	204	160	186	189	173	161	43	47	54	52	47
小山町	77	69	58	52	36	76	60	64	47	36	31	27	29	29	17
吉田町	143	130	135	106	83	102	109	110	94	67	40	37	41	28	27
川根本町	20	12	15	9	7	19	17	13	9	4	8	7	6	5	3
森町	58	60	51	40	29	59	55	53	49	32	24	28	24	21	18

資料：厚生労働省「人口動態統計」

(5) 女性有配偶率

(%)

区分 年	15-49歳					20-24歳					25-29歳					30-34歳					35-39歳				
	2000	2005	2010	2015	2020	2000	2005	2010	2015	2020	2000	2005	2010	2015	2020	2000	2005	2010	2015	2020	2000	2005	2010	2015	2020
全国	53.8	51.8	50.9	49.1	47.9	11.1	10.1	9.3	7.4	6.4	43.3	37.8	36.5	34.3	32.4	68.8	62.6	60.6	58.7	57.4	79.8	73.6	69.7	68.0	67.6
静岡県	57.1	55.1	54.1	52.7	51.2	13.0	12.4	11.4	9.0	7.6	45.7	42.3	41.1	39.2	36.9	71.6	66.2	64.5	63.9	61.7	82.0	75.4	72.5	71.7	71.2
静岡市	53.2	51.6	51.0	49.9	48.3	9.5	8.7	8.9	6.9	5.8	40.9	36.9	36.3	35.3	34.0	66.9	61.7	60.3	60.5	58.7	78.4	71.9	69.3	68.9	68.6
浜松市	57.7	55.9	55.5	53.6	52.4	13.1	11.7	11.4	8.2	7.0	47.4	43.4	42.3	39.7	38.1	73.8	68.1	66.7	65.7	63.4	83.0	77.2	74.1	73.6	73.2
沼津市	56.9	54.9	53.0	50.6	48.8	14.0	13.3	10.5	9.5	8.3	44.8	41.7	38.3	35.8	34.9	70.6	64.3	62.2	58.9	58.4	79.2	73.6	69.8	67.4	65.4
熱海市	45.2	43.7	41.1	39.2	36.0	9.6	9.0	8.0	6.6	5.8	35.8	28.8	28.8	26.3	19.8	54.1	50.5	45.9	47.5	41.2	67.1	60.0	57.2	53.7	52.0
三島市	55.8	54.7	53.5	52.6	51.0	9.9	10.6	9.8	7.9	5.4	44.5	41.6	39.1	37.9	36.2	71.2	66.4	63.8	62.9	59.9	81.5	76.7	72.9	72.4	70.6
富士宮市	58.4	56.3	55.1	53.3	51.4	16.6	15.0	14.3	10.6	9.6	47.1	44.8	43.2	41.1	35.5	72.4	67.2	65.9	61.9	61.6	81.8	76.8	72.9	71.7	69.9
伊東市	54.7	53.1	51.5	49.4	45.4	16.0	16.9	14.5	11.5	9.5	44.6	42.1	42.1	36.9	32.7	65.1	60.6	56.8	60.2	52.7	74.3	68.2	65.6	62.0	61.8
島田市	56.5	54.3	53.2	52.7	52.6	11.9	11.4	10.3	8.7	6.6	40.6	40.4	38.5	37.7	37.6	70.2	64.8	63.7	64.5	62.1	83.0	76.0	72.7	72.9	72.9
富士市	59.8	57.7	55.8	53.7	51.8	16.1	15.9	13.4	11.5	9.1	50.2	45.4	44.7	40.9	38.6	72.8	69.7	66.5	65.3	61.7	82.8	75.6	74.1	73.2	71.7
磐田市	58.9	56.3	55.4	54.3	53.6	13.3	13.6	11.4	9.4	9.0	45.4	43.0	41.7	40.7	38.6	73.8	67.0	64.9	65.8	63.9	86.6	77.9	75.3	73.6	73.6
焼津市	55.6	54.1	53.5	51.5	50.0	12.7	12.4	12.3	8.8	9.1	42.1	41.1	41.6	36.6	35.3	70.3	64.5	64.1	62.4	59.2	80.8	75.5	70.5	70.3	68.9
掛川市	60.0	57.0	55.7	55.0	55.3	13.0	14.4	11.9	9.5	8.6	47.6	45.1	42.1	40.7	39.5	76.0	70.3	67.4	66.0	66.6	87.1	80.0	76.3	74.8	75.4
藤枝市	57.1	54.6	53.6	53.6	52.7	11.8	10.4	9.0	8.1	7.0	43.8	39.0	37.0	40.0	36.2	70.7	64.6	61.8	65.6	62.3	83.6	75.0	72.2	71.7	73.9
御殿場市	60.3	59.0	58.2	57.5	54.7	14.8	17.2	14.1	12.4	10.5	51.4	47.8	47.4	45.0	42.9	77.0	72.3	69.3	70.2	66.2	85.1	79.0	76.8	75.4	73.6
袋井市	59.9	57.6	58.5	56.2	55.6	16.8	16.6	16.6	12.0	10.9	53.7	45.5	49.6	45.6	44.5	75.4	71.6	70.2	68.8	67.5	85.7	78.2	77.6	74.9	75.3
下田市	57.4	54.3	52.2	51.0	47.7	18.9	15.7	15.1	10.2	12.0	42.6	39.6	43.0	39.4	34.2	69.1	60.5	59.1	56.4	53.2	76.6	71.2	65.2	66.1	64.4
裾野市	62.4	59.1	59.0	57.2	54.5	18.6	16.3	16.2	13.1	12.9	53.8	50.0	51.2	47.6	41.4	79.6	70.4	72.1	70.9	65.9	88.8	79.6	76.2	74.5	75.1
湖西市	59.4	56.7	56.6	54.3	52.0	14.7	12.2	12.7	9.7	8.7	48.5	45.8	41.6	41.7	39.7	76.7	68.2	67.0	64.2	61.6	85.5	79.0	75.3	73.7	71.9
伊豆市	57.5	54.0	49.2	46.6	43.9	11.9	11.2	6.0	5.8	5.9	37.2	33.9	30.9	25.9	24.5	68.3	58.4	54.9	53.6	46.2	80.1	72.8	64.8	64.3	63.7
御前崎市	64.4	60.8	57.8	55.6	53.5	20.5	16.4	17.9	12.1	11.6	58.2	51.2	46.1	44.8	38.7	81.7	74.4	69.9	66.3	65.2	89.5	83.6	78.1	75.1	73.1
菊川市	59.6	56.8	55.9	55.9	56.0	14.6	12.6	11.6	14.2	12.1	48.1	47.0	44.7	47.1	44.7	78.2	69.5	68.9	68.2	68.5	88.1	81.7	76.8	75.2	74.6
伊豆の国市	55.4	53.8	50.3	49.9	49.1	12.0	14.7	9.4	9.7	7.7	41.8	39.7	35.5	36.1	31.1	69.1	62.3	58.2	61.1	60.0	80.2	71.8	68.0	68.3	68.6
牧之原市	61.6	57.5	54.2	52.3	50.3	17.0	15.8	13.1	11.4	6.1	51.7	47.0	44.4	39.6	30.8	76.5	69.1	66.6	63.0	59.6	87.2	78.4	74.5	73.0	69.6
東伊豆町	54.2	51.1	48.4	47.2	43.6	13.3	11.3	14.4	10.7	7.1	43.0	39.4	32.4	33.5	25.2	63.2	60.6	57.4	49.3	47.3	71.6	63.7	64.6	59.3	62.2
河津町	60.4	59.5	59.1	56.7	51.7	17.1	29.6	19.5	10.3	9.0	43.7	45.0	58.0	45.5	33.7	70.6	69.2	62.9	72.6	55.8	79.2	72.3	73.9	72.0	75.6
南伊豆町	62.1	58.7	56.9	55.2	51.8	19.4	20.6	14.3	20.8	6.0	45.9	41.2	44.2	43.0	39.5	72.3	67.4	66.3	58.1	56.9	83.3	73.7	67.1	73.9	64.3
松崎町	63.0	60.7	57.1	54.7	52.4	12.1	22.8	10.5	10.0	9.8	49.2	47.6	45.5	40.6	27.9	72.9	68.0	61.0	64.1	55.7	80.5	76.0	68.4	69.7	63.6
西伊豆町	59.0	57.3	53.5	49.7	47.4	23.9	16.0	11.9	7.0	17.5	46.6	53.9	44.0	42.4	31.1	63.7	61.4	61.6	57.1	53.2	73.1	66.8	62.8	61.5	60.4
函南町	58.2	56.3	53.4	52.0	51.1	16.2	14.9	13.7	11.2	8.6	46.7	45.1	41.2	40.3	39.2	72.1	66.1	62.5	62.4	62.4	83.8	74.3	70.5	68.8	68.2
清水町	58.6	57.3	55.7	52.5	49.9	15.8	14.8	13.9	9.9	6.9	50.6	45.6	44.8	44.1	37.8	74.8	68.9	67.1	65.2	62.2	83.5	76.0	73.9	72.4	70.9
長泉町	60.7	60.9	59.7	59.3	57.1	16.9	20.5	16.9	11.9	7.1	52.9	50.8	51.2	49.2	44.9	76.5	72.1	70.1	71.6	71.5	84.4	80.5	76.0	77.7	77.4
小山町	59.9	57.9	56.0	54.6	53.3	11.3	13.4	9.2	11.7	7.3	51.6	44.0	39.6	38.0	37.5	79.4	72.3	69.2	65.5	63.9	88.6	82.7	76.8	75.4	73.0
吉田町	61.6	57.8	57.4	54.3	52.1	18.6	16.5	18.3	12.7	7.9	54.9	49.2	45.2	43.1	39.6	73.5	71.0	70.5	66.2	64.1	85.0	76.7	79.3	73.3	70.2
川根本町	63.7	58.9	54.4	50.5	42.0	8.2	9.8	9.0	8.3	2.3	43.7	32.6	33.3	33.0	19.7	77.0	66.4	54.7	53.6	45.2	88.5	79.8	70.6	63.7	58.2
森町	60.7	55.6	52.2	50.4	49.4	11.9	11.9	10.2	5.6	6.5	41.1	41.4	34.9	30.2	29.2	77.7	67.9	61.6	59.0	55.0	89.7	81.0	75.6	72.5	67.4

資料：総務省「国勢調査」

(6) 出生順位別有配偶出生率

(人/千人)

区分	第1子					第2子					第3子					第4子				
	1998 - 2002	2003 - 2007	2008 - 2012	2013 - 2017	2018 - 2022	1998 - 2002	2003 - 2007	2008 - 2012	2013 - 2017	2018 - 2022	1998 - 2002	2003 - 2007	2008 - 2012	2013 - 2017	2018 - 2022	1998 - 2002	2003 - 2007	2008 - 2012	2013 - 2017	2018 - 2022
全国	37.3	37.4	37.7	37.3	33.8	27.8	29.0	29.2	29.0	26.6	9.0	9.1	10.2	10.3	9.7	1.6	1.6	2.0	2.1	2.2
静岡県	37.0	37.4	37.6	35.8	31.6	27.9	30.0	30.5	29.4	26.0	9.0	9.0	10.3	10.2	9.3	1.4	1.4	1.8	1.8	1.8
静岡市	37.5	37.2	37.8	36.6	33.4	28.3	29.1	28.9	28.7	26.0	8.4	8.2	9.3	9.3	8.2	1.2	1.3	1.6	1.6	1.7
浜松市	38.3	39.3	39.4	38.3	33.5	28.7	30.9	31.4	30.9	27.1	9.1	8.9	10.1	10.0	9.3	1.3	1.3	1.5	1.6	1.7
沼津市	37.4	37.8	36.0	33.7	32.0	27.5	28.7	27.9	25.4	23.8	8.5	8.1	9.3	8.3	8.0	1.2	1.3	1.8	1.9	1.8
熱海市	33.5	31.2	32.5	30.5	26.9	23.9	26.6	23.8	22.3	20.0	9.8	9.1	10.2	12.0	8.9	2.0	2.1	2.9	2.0	3.0
三島市	34.0	35.3	35.2	33.3	28.9	26.3	27.5	28.3	26.9	23.5	8.1	8.4	9.0	9.3	9.3	1.1	1.4	1.6	1.7	1.7
富士宮市	34.8	37.0	36.7	33.2	28.2	27.4	30.0	30.5	29.4	23.8	9.4	9.7	10.8	10.5	9.8	1.4	1.5	2.1	2.1	2.0
伊東市	39.7	35.4	31.6	29.8	24.4	27.4	29.6	27.3	24.2	21.7	8.8	9.4	10.0	10.6	10.1	2.2	1.3	2.2	2.3	2.0
島田市	33.4	34.8	35.1	34.5	29.9	25.8	29.8	31.7	29.8	27.5	9.4	9.8	11.6	11.0	10.4	1.5	1.3	1.4	1.9	2.2
富士市	39.1	36.2	36.1	34.9	31.2	28.9	30.2	28.8	28.1	25.7	8.9	8.8	10.1	9.8	9.0	1.3	1.3	2.0	1.8	2.0
磐田市	34.4	37.1	38.3	35.9	29.4	26.4	31.3	32.1	30.8	26.4	9.0	9.0	11.2	11.0	9.6	1.3	1.4	1.9	1.7	1.8
焼津市	37.0	38.2	37.7	32.2	31.5	28.4	30.4	31.1	27.4	24.6	9.9	9.6	11.2	10.3	9.4	1.6	1.7	1.8	1.8	2.0
掛川市	32.9	36.8	38.4	37.8	31.9	25.3	29.4	33.2	32.2	29.2	9.5	9.3	12.3	12.4	11.4	1.4	1.2	1.8	1.9	2.0
藤枝市	34.4	34.7	34.4	32.6	27.6	26.7	28.7	29.9	30.1	24.5	8.9	9.3	10.0	9.8	9.5	1.3	1.5	1.9	1.6	1.8
御殿場市	40.4	41.0	37.5	37.6	31.9	29.9	33.4	33.6	30.2	26.9	9.5	10.5	12.4	12.2	10.6	1.9	1.6	2.0	2.6	2.0
袋井市	41.5	42.7	44.9	42.7	34.4	28.5	32.1	36.0	33.7	29.2	9.2	10.1	11.0	11.9	9.4	1.4	1.5	1.7	2.1	1.8
下田市	33.2	32.6	33.3	31.6	27.5	26.2	27.5	25.3	26.2	22.4	9.6	8.7	11.5	10.6	7.8	2.2	1.9	2.1	2.4	3.2
裾野市	41.2	42.0	46.1	40.5	34.0	30.6	32.4	34.9	33.1	28.1	9.5	9.5	11.5	11.2	9.5	1.1	1.1	1.9	1.4	1.9
湖西市	37.6	35.0	34.8	30.8	28.7	31.0	30.6	30.7	29.0	22.7	9.8	9.3	9.9	10.3	9.2	1.4	1.5	1.6	1.9	1.5
伊豆市	25.0	26.1	27.0	26.1	25.3	22.8	23.1	21.0	26.1	26.0	9.5	8.4	9.8	10.6	11.2	1.7	1.8	2.1	1.8	1.7
御前崎市	36.9	36.4	38.2	35.7	25.8	30.0	30.8	33.0	32.7	25.4	10.5	10.3	11.1	11.6	11.1	2.1	1.6	2.2	2.3	2.8
菊川市	34.6	36.2	39.6	40.0	34.4	25.9	31.4	35.7	33.3	29.5	10.0	10.9	11.3	11.2	11.2	1.6	1.6	1.5	1.8	1.8
伊豆の国市	35.5	36.7	33.6	30.2	25.7	25.7	30.0	27.9	27.9	24.4	8.8	9.1	10.4	11.0	10.0	1.4	1.6	1.3	1.9	2.3
牧之原市	32.1	33.5	36.0	31.7	24.2	25.7	28.8	30.2	30.8	23.2	10.5	8.9	11.0	12.7	11.7	1.7	1.3	1.6	1.8	2.4
東伊豆町	35.9	27.6	23.6	24.5	20.0	25.9	25.9	23.8	19.5	17.5	9.1	10.4	10.1	11.1	8.4	1.7	2.0	2.7	2.6	2.8
河津町	33.4	36.4	34.4	23.2	27.7	24.5	30.6	30.3	27.1	17.1	10.2	10.9	14.2	15.8	7.7	1.7	1.9	2.0	2.8	2.4
南伊豆町	30.1	33.1	31.8	24.0	29.9	26.7	29.4	26.6	23.0	20.8	8.5	11.7	10.4	13.2	13.0	2.0	3.2	3.2	3.5	5.2
松崎町	29.8	29.5	25.6	23.0	23.8	28.9	25.1	26.0	23.5	16.8	11.1	8.4	11.1	13.6	7.0	1.3	1.9	2.4	1.3	1.7
西伊豆町	26.8	28.7	24.3	20.3	23.2	23.6	23.9	24.3	18.6	18.6	7.8	10.8	15.1	6.9	7.9	1.5	1.5	2.3	2.6	0.6
函南町	37.0	36.1	34.6	35.2	30.5	29.0	28.4	29.2	26.4	25.8	8.3	9.3	9.8	10.6	10.1	1.5	1.4	2.5	2.2	2.9
清水町	48.3	42.0	38.9	34.7	32.3	32.8	31.4	30.1	28.5	24.6	9.1	8.4	8.6	10.8	8.2	1.2	1.6	1.8	2.1	1.6
長泉町	47.4	47.0	45.6	43.0	39.0	31.9	35.9	35.7	31.7	30.8	8.7	9.0	10.2	9.5	8.9	1.4	1.0	2.1	2.0	1.4
小山町	28.8	29.2	28.3	29.6	24.1	28.2	25.6	31.6	26.8	24.2	11.7	11.4	14.4	16.5	11.1	2.5	2.2	1.7	2.8	2.9
吉田町	38.3	37.8	40.9	35.4	31.6	27.5	31.7	33.2	31.1	25.5	10.6	10.8	12.4	9.2	10.3	1.4	1.9	2.3	1.9	1.9
川根本町	21.6	16.8	28.6	23.6	30.8	20.5	23.8	24.7	23.1	16.7	8.6	9.2	10.8	14.5	14.2	1.7	0.6	3.5	3.2	2.5
森町	23.5	27.9	29.5	26.4	21.9	23.6	25.5	30.4	32.6	24.0	9.7	12.9	13.5	13.6	13.6	1.4	2.2	2.8	2.6	1.5

(注) 出生順位別有配偶出生率は15-49歳有配偶女性千人当たり出生数である
資料：厚生労働省「人口動態統計」、総務省「国勢調査」

(7) 合計特殊出生率

年	1998-2002	2003-2007	2008-2012	2013-2017	2018-2022
全国	1.36	1.31	1.40	1.43	1.33
静岡県	1.46	1.44	1.54	1.53	1.39
静岡市	1.33	1.29	1.40	1.44	1.31
浜松市	1.49	1.49	1.59	1.59	1.45
沼津市	1.42	1.43	1.47	1.40	1.32
熱海市	1.06	1.06	1.14	1.12	0.92
三島市	1.32	1.35	1.47	1.48	1.33
富士宮市	1.52	1.53	1.60	1.53	1.32
伊東市	1.46	1.46	1.49	1.45	1.20
島田市	1.42	1.43	1.51	1.49	1.41
富士市	1.57	1.54	1.60	1.58	1.41
磐田市	1.49	1.48	1.58	1.57	1.42
焼津市	1.46	1.44	1.54	1.39	1.34
掛川市	1.55	1.53	1.64	1.65	1.55
藤枝市	1.43	1.36	1.43	1.48	1.35
御殿場市	1.63	1.63	1.69	1.76	1.56
袋井市	1.65	1.62	1.79	1.77	1.57
下田市	1.47	1.41	1.53	1.56	1.30
裾野市	1.70	1.65	1.87	1.75	1.54
湖西市	1.58	1.43	1.54	1.51	1.36
伊豆市	1.25	1.20	1.17	1.26	1.22
御前崎市	1.83	1.69	1.75	1.75	1.44
菊川市	1.60	1.56	1.68	1.69	1.61
伊豆の国市	1.31	1.40	1.34	1.40	1.26
牧之原市	1.64	1.53	1.52	1.50	1.23
東伊豆町	1.43	1.24	1.23	1.27	0.98
河津町	1.58	1.90	2.02	1.85	1.30
南伊豆町	1.74	1.81	1.66	1.64	1.61
松崎町	1.83	1.65	1.46	1.57	1.35
西伊豆町	1.46	1.40	1.47	1.20	1.27
函南町	1.46	1.42	1.48	1.52	1.44
清水町	1.61	1.51	1.64	1.63	1.34
長泉町	1.69	1.75	1.87	1.84	1.71
小山町	1.53	1.36	1.49	1.56	1.29
吉田町	1.70	1.64	1.79	1.56	1.41
川根本町	1.40	1.31	1.60	1.21	1.04
森町	1.53	1.52	1.43	1.32	1.21

- (注)1. 各期間の合計特殊出生率の算出に当たっては、母の年齢階層別（5歳階級）出生数は当該機関の年平均、年齢階層別女性数は各期間中央値を用いた
2. 合計特殊出生率は、本羅針盤を含め、算出対象とする出生数の期間や女性数の年次の取り方、利用する統計資料によって、国、市町等で公表している数値と異なる場合がある
- 資料：厚生労働省「人口動態統計」、総務省「国勢調査」

(8) 社会増減数 (日本人、全年齢)

(人)

年	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024
静岡県	-6,206	-6,390	-5,242	-6,654	-7,398	-5,580	-4,649	-6,038	-6,760	-7,695
静岡市	-1,168	-811	-271	-1,107	-1,178	-702	-585	-736	-952	-968
浜松市	-304	-606	-305	-1,291	-854	-233	-192	-299	-498	-845
沼津市	-906	-869	-679	-387	62	-221	-302	-199	-286	-499
熱海市	151	166	357	32	20	30	-109	-130	37	-113
三島市	-177	66	-87	-209	-416	140	-213	-415	-334	-403
富士宮市	-262	-89	-194	-279	-208	-320	-249	-332	-274	-398
伊東市	13	-124	20	47	-7	-2	279	190	98	29
島田市	-130	-117	-252	-76	-79	-65	-91	-31	-142	-186
富士市	-561	-617	-480	-163	-178	-153	-108	-553	-84	-327
磐田市	-62	-207	-410	-246	-109	-175	-237	-243	-346	-197
焼津市	-573	-431	-420	-176	-117	-55	-343	-15	-146	-368
掛川市	-151	128	36	25	-192	-360	21	-137	-109	66
藤枝市	251	65	-9	-148	-350	111	141	-300	-530	-211
御殿場市	-103	-430	-234	-310	-584	-440	-467	-1,153	-833	-609
袋井市	-5	-165	-63	-77	-254	-78	38	53	-167	-264
下田市	-211	-170	-229	-167	-257	-90	-143	-129	-55	-113
裾野市	-302	-372	-330	-347	-418	-424	-470	-430	-345	-340
湖西市	-192	-246	-362	-338	-231	-422	-187	-218	-304	-287
伊豆市	-245	-206	-84	-106	-237	-237	-91	-11	-156	-100
御前崎市	-255	-120	-162	-317	-318	-360	-290	-258	-235	-267
菊川市	1	-81	-19	-39	29	-99	-185	-107	-146	-148
伊豆の国市	108	-73	-60	-129	-61	-116	16	70	-84	-204
牧之原市	-374	-344	-186	-390	-367	-402	-276	-261	-289	-308
東伊豆町	-80	-108	-48	-80	-75	-39	68	-61	-21	-47
河津町	-34	-18	5	-9	8	-65	-41	-52	-33	-34
南伊豆町	-8	19	-14	-26	-30	-30	-22	14	-59	-5
松崎町	-48	-66	-49	-40	-93	-99	-28	-43	-30	-44
西伊豆町	-100	-66	-104	-42	-61	-65	-62	-53	-88	-35
函南町	-36	-45	-143	-99	104	-28	-5	-22	-96	-136
清水町	-76	51	-87	-5	-214	-76	34	77	68	-14
長泉町	134	34	109	91	-41	-100	-136	72	36	268
小山町	-168	-161	-111	-50	-365	-120	-79	-110	-229	-212
吉田町	-127	-157	-126	-96	-190	-123	-178	-83	-32	-198
川根本町	-112	-75	-95	-63	-74	-51	-59	-51	-35	-56
森町	-94	-145	-156	-37	-63	-111	-98	-82	-61	-122

資料：総務省「住民基本台帳人口移動報告」

(9) 転入者数 (日本人、全年齢)

(人)

年	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024
静岡県	50,639	49,211	50,088	49,616	49,294	48,690	48,863	48,811	48,516	45,930
静岡市	16,231	15,722	15,953	15,525	15,307	15,161	15,113	15,177	15,350	14,728
浜松市	16,722	15,915	16,118	16,112	15,979	16,193	16,174	16,529	16,368	15,874
沼津市	6,073	5,802	5,995	5,902	6,126	5,793	5,734	5,857	5,563	5,197
熱海市	1,869	1,858	2,015	1,826	1,790	1,761	1,558	1,438	1,606	1,498
三島市	4,098	4,160	3,983	3,789	3,677	3,993	3,689	3,460	3,584	3,346
富士宮市	3,133	3,180	3,315	3,209	3,233	3,062	3,028	2,928	3,038	2,856
伊東市	2,173	2,043	2,145	2,075	2,089	1,963	2,137	2,119	2,119	1,932
島田市	2,277	2,158	2,041	2,152	2,100	2,064	1,995	2,021	1,916	1,938
富士市	5,610	5,368	5,548	5,684	5,807	5,601	5,678	5,352	5,690	5,265
磐田市	4,411	4,227	4,213	4,068	4,178	4,137	3,852	4,078	3,830	3,902
焼津市	3,235	3,209	3,057	3,299	3,291	3,383	3,120	3,221	3,200	2,932
掛川市	3,340	3,502	3,429	3,389	3,165	2,956	3,032	3,071	2,959	3,160
藤枝市	4,336	4,116	3,932	4,058	3,819	3,964	4,109	3,641	3,413	3,611
御殿場市	4,208	3,882	3,960	3,911	3,824	3,684	3,691	3,447	3,405	3,128
袋井市	2,726	2,701	2,590	2,585	2,436	2,468	2,463	2,544	2,374	2,327
下田市	729	657	699	657	621	653	597	619	690	565
裾野市	2,188	2,078	2,094	2,023	1,953	1,877	1,828	1,763	1,639	1,627
湖西市	1,987	1,911	1,667	1,816	1,872	1,636	1,537	1,559	1,541	1,503
伊豆市	903	895	936	929	857	837	871	930	881	810
御前崎市	825	856	808	747	701	678	681	688	617	609
菊川市	1,415	1,396	1,320	1,327	1,321	1,264	1,149	1,242	1,196	1,178
伊豆の国市	1,690	1,500	1,569	1,466	1,517	1,456	1,475	1,491	1,427	1,275
牧之原市	1,055	1,279	1,254	1,112	982	1,113	1,027	1,014	907	840
東伊豆町	456	410	396	391	387	405	485	404	404	398
河津町	216	209	208	213	232	189	169	164	170	170
南伊豆町	272	227	224	232	208	183	243	223	192	194
松崎町	166	124	143	142	115	101	139	146	148	110
西伊豆町	157	175	140	169	145	155	158	179	130	144
函南町	1,384	1,320	1,253	1,283	1,344	1,284	1,231	1,205	1,164	1,047
清水町	1,400	1,441	1,388	1,363	1,286	1,286	1,351	1,330	1,314	1,252
長泉町	2,487	2,320	2,410	2,464	2,261	2,124	2,012	2,272	2,198	2,220
小山町	1,008	1,040	1,048	1,028	976	921	898	906	728	698
吉田町	836	934	880	900	797	879	703	797	769	737
川根本町	142	154	140	138	146	141	127	124	124	103
森町	382	340	335	373	364	304	298	306	319	246

資料：総務省「住民基本台帳人口移動報告」

(10) 転出者数 (日本人、全年齢)

(人)

年	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024
静岡県	56,845	55,601	55,330	56,270	56,692	54,270	53,512	54,849	55,276	53,625
静岡市	17,399	16,533	16,224	16,632	16,485	15,863	15,698	15,913	16,302	15,696
浜松市	17,026	16,521	16,423	17,403	16,833	16,426	16,366	16,828	16,866	16,719
沼津市	6,979	6,671	6,674	6,289	6,064	6,014	6,036	6,056	5,849	5,696
熱海市	1,718	1,692	1,658	1,794	1,770	1,731	1,667	1,568	1,569	1,611
三島市	4,275	4,094	4,070	3,998	4,093	3,853	3,902	3,875	3,918	3,749
富士宮市	3,395	3,269	3,509	3,488	3,441	3,382	3,277	3,260	3,312	3,254
伊東市	2,160	2,167	2,125	2,028	2,096	1,965	1,858	1,929	2,021	1,903
島田市	2,407	2,275	2,293	2,228	2,179	2,129	2,086	2,052	2,058	2,124
富士市	6,171	5,985	6,028	5,847	5,985	5,754	5,786	5,905	5,774	5,592
磐田市	4,473	4,434	4,623	4,314	4,287	4,312	4,089	4,321	4,176	4,099
焼津市	3,808	3,640	3,477	3,475	3,408	3,438	3,463	3,236	3,346	3,300
掛川市	3,491	3,374	3,393	3,364	3,357	3,316	3,011	3,208	3,068	3,094
藤枝市	4,085	4,051	3,941	4,206	4,169	3,853	3,968	3,941	3,943	3,822
御殿場市	4,311	4,312	4,194	4,221	4,408	4,124	4,158	4,600	4,238	3,737
袋井市	2,731	2,866	2,653	2,662	2,690	2,546	2,425	2,491	2,541	2,591
下田市	940	827	928	824	878	743	740	748	745	678
裾野市	2,490	2,450	2,424	2,370	2,371	2,301	2,298	2,193	1,984	1,967
湖西市	2,179	2,157	2,029	2,154	2,103	2,058	1,724	1,777	1,845	1,790
伊豆市	1,148	1,101	1,020	1,035	1,094	1,074	962	941	1,037	910
御前崎市	1,080	976	970	1,064	1,019	1,038	971	946	852	876
菊川市	1,414	1,477	1,339	1,366	1,292	1,363	1,334	1,349	1,342	1,326
伊豆の国市	1,582	1,573	1,629	1,595	1,578	1,572	1,459	1,421	1,511	1,479
牧之原市	1,429	1,623	1,440	1,502	1,349	1,515	1,303	1,275	1,196	1,148
東伊豆町	536	518	444	471	462	444	417	465	425	445
河津町	250	227	203	222	224	254	210	216	203	204
南伊豆町	280	208	238	258	238	213	265	209	251	199
松崎町	214	190	192	182	208	200	167	189	178	154
西伊豆町	257	241	244	211	206	220	220	232	218	179
函南町	1,420	1,365	1,396	1,382	1,240	1,312	1,236	1,227	1,260	1,183
清水町	1,476	1,390	1,475	1,368	1,500	1,362	1,317	1,253	1,246	1,266
長泉町	2,353	2,286	2,301	2,373	2,302	2,224	2,148	2,200	2,162	1,952
小山町	1,176	1,201	1,159	1,078	1,341	1,041	977	1,016	957	910
吉田町	963	1,091	1,006	996	987	1,002	881	880	801	935
川根本町	254	229	235	201	220	192	186	175	159	159
森町	476	485	491	410	427	415	396	388	380	368

資料：総務省「住民基本台帳人口移動報告」

(11) 転入率 (日本人、全年齢)

(%)

年	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024
静岡県	1.36	1.33	1.36	1.36	1.36	1.35	1.36	1.37	1.37	1.31
静岡市	2.29	2.23	2.28	2.23	2.21	2.21	2.21	2.24	2.28	2.21
浜松市	2.12	2.02	2.05	2.05	2.05	2.08	2.09	2.14	2.14	2.09
沼津市	3.05	2.94	3.07	3.05	3.20	3.04	3.04	3.13	3.01	2.85
熱海市	4.91	4.93	5.40	4.93	4.90	4.90	4.40	4.17	4.77	4.55
三島市	3.70	3.77	3.61	3.45	3.37	3.70	3.43	3.23	3.39	3.20
富士宮市	2.35	2.39	2.50	2.44	2.47	2.36	2.35	2.29	2.40	2.28
伊東市	3.03	2.88	3.06	2.99	3.04	2.89	3.19	3.19	3.23	2.99
島田市	2.28	2.17	2.06	2.19	2.15	2.13	2.07	2.11	2.02	2.07
富士市	2.21	2.13	2.21	2.28	2.34	2.26	2.30	2.18	2.34	2.18
磐田市	2.68	2.57	2.57	2.49	2.57	2.56	2.39	2.55	2.42	2.48
焼津市	2.31	2.31	2.22	2.41	2.42	2.51	2.32	2.42	2.42	2.24
掛川市	2.92	3.07	3.01	2.98	2.79	2.61	2.70	2.74	2.66	2.86
藤枝市	2.98	2.83	2.71	2.81	2.65	2.77	2.89	2.57	2.43	2.60
御殿場市	4.81	4.43	4.54	4.49	4.41	4.29	4.33	4.08	4.11	3.83
袋井市	3.24	3.21	3.08	3.08	2.90	2.95	2.95	3.05	2.85	2.81
下田市	3.11	2.86	3.10	2.99	2.88	3.11	2.89	3.06	3.49	2.92
裾野市	4.16	3.97	4.03	3.92	3.81	3.69	3.63	3.54	3.34	3.36
湖西市	3.40	3.28	2.88	3.17	3.30	2.91	2.76	2.82	2.82	2.79
伊豆市	2.75	2.78	2.96	2.98	2.79	2.78	2.95	3.20	3.09	2.91
御前崎市	2.49	2.61	2.48	2.32	2.21	2.17	2.22	2.28	2.09	2.09
菊川市	3.12	3.08	2.92	2.95	2.94	2.82	2.57	2.80	2.72	2.70
伊豆の国市	3.42	3.04	3.20	3.01	3.14	3.04	3.11	3.17	3.06	2.77
牧之原市	2.26	2.79	2.77	2.48	2.23	2.57	2.41	2.42	2.20	2.07
東伊豆町	3.46	3.17	3.13	3.15	3.19	3.41	4.17	3.52	3.61	3.64
河津町	2.80	2.76	2.79	2.89	3.20	2.65	2.42	2.40	2.56	2.62
南伊豆町	3.06	2.60	2.59	2.73	2.51	2.25	3.05	2.86	2.50	2.61
松崎町	2.27	1.74	2.05	2.09	1.72	1.56	2.22	2.38	2.49	1.90
西伊豆町	1.78	2.04	1.68	2.09	1.85	2.03	2.13	2.49	1.86	2.15
函南町	3.61	3.46	3.29	3.40	3.59	3.43	3.31	3.26	3.18	2.89
清水町	4.43	4.57	4.39	4.33	4.10	4.14	4.38	4.33	4.30	4.11
長泉町	5.90	5.46	5.65	5.75	5.24	4.92	4.66	5.28	5.10	5.16
小山町	5.18	5.42	5.52	5.48	5.25	5.10	5.03	5.14	4.20	4.13
吉田町	2.89	3.24	3.08	3.17	2.82	3.15	2.54	2.91	2.83	2.74
川根本町	1.86	2.08	1.95	1.98	2.15	2.15	1.99	2.01	2.07	1.77
森町	2.00	1.80	1.80	2.04	2.01	1.70	1.69	1.77	1.88	1.47

資料：総務省「住民基本台帳人口移動報告」「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数」

(12) 転出率（日本人、全年齢）

（％）

年	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024
静岡県	1.53	1.50	1.50	1.54	1.56	1.50	1.49	1.54	1.57	1.53
静岡市	2.46	2.35	2.32	2.39	2.38	2.31	2.30	2.35	2.42	2.36
浜松市	2.16	2.10	2.09	2.22	2.16	2.11	2.11	2.18	2.20	2.20
沼津市	3.50	3.38	3.42	3.25	3.16	3.16	3.20	3.24	3.16	3.12
熱海市	4.51	4.49	4.44	4.84	4.84	4.81	4.71	4.54	4.66	4.89
三島市	3.86	3.71	3.69	3.64	3.75	3.57	3.62	3.62	3.70	3.58
富士宮市	2.54	2.46	2.65	2.65	2.63	2.60	2.54	2.55	2.62	2.60
伊東市	3.01	3.05	3.03	2.92	3.05	2.90	2.77	2.90	3.08	2.95
島田市	2.41	2.29	2.32	2.27	2.23	2.20	2.17	2.15	2.17	2.26
富士市	2.44	2.37	2.40	2.34	2.41	2.33	2.35	2.41	2.38	2.32
磐田市	2.72	2.70	2.82	2.65	2.64	2.67	2.54	2.70	2.63	2.61
焼津市	2.72	2.62	2.52	2.54	2.51	2.55	2.58	2.43	2.53	2.52
掛川市	3.05	2.96	2.97	2.95	2.95	2.93	2.68	2.86	2.76	2.80
藤枝市	2.81	2.79	2.72	2.91	2.90	2.70	2.79	2.78	2.81	2.75
御殿場市	4.92	4.92	4.80	4.85	5.09	4.80	4.87	5.44	5.11	4.58
袋井市	3.25	3.41	3.16	3.17	3.20	3.04	2.90	2.98	3.05	3.13
下田市	4.00	3.60	4.12	3.74	4.08	3.54	3.58	3.70	3.77	3.50
裾野市	4.74	4.68	4.66	4.59	4.62	4.53	4.57	4.41	4.05	4.06
湖西市	3.72	3.70	3.51	3.76	3.71	3.66	3.10	3.22	3.38	3.32
伊豆市	3.50	3.42	3.23	3.32	3.56	3.57	3.26	3.24	3.63	3.27
御前崎市	3.26	2.98	2.98	3.30	3.21	3.33	3.17	3.14	2.88	3.01
菊川市	3.12	3.26	2.97	3.03	2.87	3.04	2.99	3.04	3.05	3.04
伊豆の国市	3.20	3.18	3.32	3.28	3.27	3.29	3.08	3.03	3.24	3.22
牧之原市	3.07	3.54	3.18	3.35	3.06	3.49	3.06	3.04	2.90	2.84
東伊豆町	4.06	4.00	3.51	3.80	3.80	3.73	3.59	4.05	3.80	4.07
河津町	3.25	3.00	2.72	3.01	3.09	3.56	3.01	3.16	3.05	3.15
南伊豆町	3.15	2.38	2.76	3.04	2.87	2.62	3.32	2.68	3.27	2.67
松崎町	2.93	2.66	2.75	2.67	3.12	3.09	2.66	3.09	3.00	2.66
西伊豆町	2.91	2.81	2.93	2.61	2.62	2.88	2.97	3.22	3.13	2.67
函南町	3.70	3.57	3.67	3.66	3.31	3.51	3.33	3.32	3.44	3.27
清水町	4.67	4.41	4.66	4.35	4.78	4.39	4.27	4.08	4.08	4.16
長泉町	5.58	5.38	5.39	5.53	5.33	5.15	4.98	5.11	5.02	4.54
小山町	6.05	6.26	6.10	5.74	7.21	5.76	5.47	5.77	5.52	5.38
吉田町	3.33	3.79	3.52	3.51	3.50	3.59	3.18	3.21	2.95	3.47
川根本町	3.33	3.10	3.27	2.88	3.24	2.93	2.92	2.83	2.66	2.74
森町	2.49	2.57	2.64	2.25	2.36	2.32	2.25	2.24	2.24	2.20

資料：総務省「住民基本台帳人口移動報告」「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数」

(13) 転入超過率（日本人、全年齢）

（％）

年	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024
静岡県	-0.17	-0.17	-0.14	-0.18	-0.20	-0.15	-0.13	-0.17	-0.19	-0.22
静岡市	-0.17	-0.12	-0.04	-0.16	-0.17	-0.10	-0.09	-0.11	-0.14	-0.15
浜松市	-0.04	-0.08	-0.04	-0.16	-0.11	-0.03	-0.02	-0.04	-0.07	-0.11
沼津市	-0.45	-0.44	-0.35	-0.20	0.03	-0.12	-0.16	-0.11	-0.15	-0.27
熱海市	0.40	0.44	0.96	0.09	0.05	0.08	-0.31	-0.38	0.11	-0.34
三島市	-0.16	0.06	-0.08	-0.19	-0.38	0.13	-0.20	-0.39	-0.32	-0.38
富士宮市	-0.20	-0.07	-0.15	-0.21	-0.16	-0.25	-0.19	-0.26	-0.22	-0.32
伊東市	0.02	-0.17	0.03	0.07	-0.01	0.00	0.42	0.29	0.15	0.04
島田市	-0.13	-0.12	-0.25	-0.08	-0.08	-0.07	-0.09	-0.03	-0.15	-0.20
富士市	-0.22	-0.24	-0.19	-0.07	-0.07	-0.06	-0.04	-0.23	-0.03	-0.14
磐田市	-0.04	-0.13	-0.25	-0.15	-0.07	-0.11	-0.15	-0.15	-0.22	-0.13
焼津市	-0.41	-0.31	-0.30	-0.13	-0.09	-0.04	-0.26	-0.01	-0.11	-0.28
掛川市	-0.13	0.11	0.03	0.02	-0.17	-0.32	0.02	-0.12	-0.10	0.06
藤枝市	0.17	0.04	-0.01	-0.10	-0.24	0.08	0.10	-0.21	-0.38	-0.15
御殿場市	-0.12	-0.49	-0.27	-0.36	-0.67	-0.51	-0.55	-1.36	-1.00	-0.75
袋井市	-0.01	-0.20	-0.08	-0.09	-0.30	-0.09	0.05	0.06	-0.20	-0.32
下田市	-0.90	-0.74	-1.02	-0.76	-1.19	-0.43	-0.69	-0.64	-0.28	-0.58
裾野市	-0.57	-0.71	-0.63	-0.67	-0.82	-0.83	-0.93	-0.86	-0.70	-0.70
湖西市	-0.33	-0.42	-0.63	-0.59	-0.41	-0.75	-0.34	-0.39	-0.56	-0.53
伊豆市	-0.75	-0.64	-0.27	-0.34	-0.77	-0.79	-0.31	-0.04	-0.55	-0.36
御前崎市	-0.77	-0.37	-0.50	-0.98	-1.00	-1.15	-0.95	-0.86	-0.79	-0.92
菊川市	0.00	-0.18	-0.04	-0.09	0.06	-0.22	-0.41	-0.24	-0.33	-0.34
伊豆の国市	0.22	-0.15	-0.12	-0.27	-0.13	-0.24	0.03	0.15	-0.18	-0.44
牧之原市	-0.80	-0.75	-0.41	-0.87	-0.83	-0.93	-0.65	-0.62	-0.70	-0.76
東伊豆町	-0.61	-0.83	-0.38	-0.64	-0.62	-0.33	0.59	-0.53	-0.19	-0.43
河津町	-0.44	-0.24	0.07	-0.12	0.11	-0.91	-0.59	-0.76	-0.50	-0.52
南伊豆町	-0.09	0.22	-0.16	-0.31	-0.36	-0.37	-0.28	0.18	-0.77	-0.07
松崎町	-0.66	-0.92	-0.70	-0.59	-1.39	-1.53	-0.45	-0.70	-0.50	-0.76
西伊豆町	-1.13	-0.77	-1.25	-0.52	-0.78	-0.85	-0.84	-0.74	-1.26	-0.52
函南町	-0.09	-0.12	-0.38	-0.26	0.28	-0.07	-0.01	-0.06	-0.26	-0.38
清水町	-0.24	0.16	-0.27	-0.02	-0.68	-0.24	0.11	0.25	0.22	-0.05
長泉町	0.32	0.08	0.26	0.21	-0.09	-0.23	-0.32	0.17	0.08	0.62
小山町	-0.86	-0.84	-0.58	-0.27	-1.96	-0.66	-0.44	-0.62	-1.32	-1.25
吉田町	-0.44	-0.55	-0.44	-0.34	-0.67	-0.44	-0.64	-0.30	-0.12	-0.74
川根本町	-1.47	-1.01	-1.32	-0.90	-1.09	-0.78	-0.92	-0.83	-0.58	-0.96
森町	-0.49	-0.77	-0.84	-0.20	-0.35	-0.62	-0.56	-0.47	-0.36	-0.73

資料：総務省「住民基本台帳人口移動報告」「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数」

(14) 15-34 歳転入率 (日本人、2018-2022 年の年平均)

(%)

区分	男					女				
	15-34 歳	15-19 歳	20-24 歳	25-29 歳	30-34 歳	15-34 歳	15-19 歳	20-24 歳	25-29 歳	30-34 歳
静岡県	4.6	1.9	7.9	5.7	3.3	3.4	0.9	5.4	4.8	2.8
静岡市	7.5	3.2	11.2	9.7	6.0	6.4	2.1	9.4	9.0	5.4
浜松市	7.2	2.5	12.0	9.7	5.2	5.7	1.6	8.8	8.2	4.5
沼津市	9.8	4.3	14.0	13.0	8.0	8.6	2.5	12.0	12.7	7.6
熱海市	11.8	6.4	17.5	13.1	9.1	13.0	7.9	21.2	12.0	8.4
三島市	10.5	3.9	14.3	15.4	9.3	9.4	3.3	12.3	13.8	8.8
富士宮市	7.6	2.0	12.1	10.6	6.3	6.6	2.0	10.3	10.0	5.1
伊東市	7.6	2.5	12.1	10.7	6.2	7.9	2.0	15.1	9.9	5.9
島田市	6.4	1.9	8.0	9.9	6.2	6.3	1.4	8.2	10.0	6.1
富士市	6.8	1.8	9.6	9.9	6.2	6.1	1.1	8.3	9.6	5.8
磐田市	8.4	2.4	14.3	11.0	6.2	7.1	1.7	10.3	11.1	6.2
焼津市	7.5	2.1	10.6	10.8	7.3	6.9	1.6	9.0	10.8	6.6
掛川市	8.2	1.7	11.4	12.2	7.8	7.5	1.5	10.3	12.2	6.9
藤枝市	9.2	5.0	12.4	12.1	8.0	7.4	2.1	9.3	12.0	7.0
御殿場市	14.0	15.2	17.8	13.4	9.9	9.1	3.2	12.8	12.8	8.6
袋井市	8.9	2.4	13.0	12.8	7.9	7.9	1.8	11.2	12.9	6.4
下田市	11.2	2.3	16.8	17.1	9.9	10.1	2.6	15.3	15.7	9.2
裾野市	10.6	6.0	12.5	14.8	8.8	9.8	2.6	13.8	15.3	8.5
湖西市	13.2	3.0	30.2	13.7	7.1	6.3	1.5	8.6	10.2	5.9
伊豆市	10.3	5.2	16.7	11.4	8.0	9.4	4.8	13.7	11.9	7.7
御前崎市	6.9	2.7	10.7	8.4	5.9	5.2	1.3	7.3	8.7	4.6
菊川市	9.0	2.2	12.6	13.7	7.7	7.8	1.6	10.8	12.9	6.5
伊豆の国市	8.7	3.0	10.9	13.2	8.5	9.0	2.5	14.8	11.5	7.6
牧之原市	9.7	1.3	20.0	12.7	5.5	5.9	1.5	9.3	8.5	5.0
東伊豆町	9.7	4.0	15.5	10.7	9.1	11.4	3.7	21.0	11.5	8.2
河津町	9.7	2.3	14.6	16.2	9.0	9.3	2.4	13.7	17.4	8.5
南伊豆町	7.1	1.4	12.2	11.2	7.3	7.4	2.1	12.9	10.4	7.3
松崎町	6.4	1.8	9.0	12.4	6.3	6.9	1.7	9.7	12.7	7.0
西伊豆町	7.1	2.3	11.7	11.2	5.3	7.9	1.8	13.3	13.2	7.5
函南町	8.5	2.7	10.2	13.5	8.3	8.7	2.6	11.7	14.0	7.3
清水町	11.3	2.7	14.6	16.5	12.3	10.6	2.9	14.2	15.3	10.3
長泉町	12.9	3.3	15.1	20.3	14.1	12.6	2.8	15.2	20.8	12.8
小山町	15.1	20.0	15.4	11.9	13.9	10.7	4.9	10.8	14.1	13.4
吉田町	8.4	2.3	11.9	11.3	8.2	6.8	1.6	10.1	10.4	5.9
川根本町	9.3	8.9	11.0	10.7	6.8	8.7	6.9	9.7	10.3	8.2
森町	4.7	1.5	6.7	6.3	4.7	5.2	1.7	6.2	8.2	5.6

資料：総務省「住民基本台帳人口移動報告」「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数」

(15) 15-34 歳定住率（日本人、2018-2022 年の年平均）

（%）

区分	男					女				
	15-34 歳	15-19 歳	20-24 歳	25-29 歳	30-34 歳	15-34 歳	15-19 歳	20-24 歳	25-29 歳	30-34 歳
静岡県	94.6	96.9	91.2	93.7	96.5	95.4	97.7	91.9	94.6	97.1
静岡市	92.1	96.5	88.3	89.7	93.9	93.1	97.6	89.6	90.5	94.6
浜松市	92.6	96.1	88.5	90.3	94.8	93.7	97.2	90.0	91.7	95.6
沼津市	89.6	94.7	85.8	86.4	91.4	90.2	96.0	84.8	86.6	92.5
熱海市	84.5	92.3	78.3	80.3	88.1	82.3	92.7	72.6	78.8	88.5
三島市	88.4	95.2	82.8	84.2	90.5	89.2	96.0	83.2	85.1	91.6
富士宮市	91.5	95.8	87.2	89.4	93.2	91.5	96.4	86.0	88.6	93.9
伊東市	89.6	93.9	83.1	88.1	92.4	88.9	94.4	80.3	86.3	93.2
島田市	92.7	96.3	89.2	90.2	94.4	92.4	96.8	88.1	89.3	94.2
富士市	92.6	96.5	88.8	90.4	94.3	92.6	97.3	87.4	90.1	95.0
磐田市	91.0	96.6	87.0	87.8	92.7	91.7	96.9	86.6	88.6	93.8
焼津市	91.7	96.4	87.7	89.0	93.2	92.1	96.8	88.0	88.9	94.1
掛川市	91.3	96.7	88.0	87.3	92.5	91.5	96.8	86.4	87.9	93.6
藤枝市	89.8	93.3	85.2	87.3	92.4	91.2	96.4	86.7	87.5	93.2
御殿場市	85.4	88.5	80.4	84.7	88.2	89.3	95.5	83.5	87.2	90.2
袋井市	91.2	96.5	87.8	88.2	92.2	91.8	96.7	87.8	88.5	93.2
下田市	85.5	92.7	79.2	81.5	87.6	85.9	92.0	76.8	82.4	90.1
裾野市	87.5	95.6	85.6	81.7	88.1	88.4	94.3	83.8	84.9	89.5
湖西市	85.5	96.0	70.7	82.9	91.2	91.5	96.9	86.9	87.7	93.2
伊豆市	86.2	91.9	76.1	84.6	92.2	86.8	93.2	79.0	83.4	91.7
御前崎市	90.1	96.0	86.8	86.9	90.8	90.6	96.2	84.3	87.8	92.9
菊川市	91.0	96.7	88.3	87.2	91.7	91.1	96.8	85.8	88.1	92.7
伊豆の国市	89.9	94.7	85.7	85.9	92.5	88.7	95.4	83.3	83.7	92.3
牧之原市	86.9	96.3	76.1	81.4	92.6	90.5	96.3	84.0	87.0	93.6
東伊豆町	85.9	93.2	78.0	81.4	90.5	84.1	92.6	72.8	80.1	91.9
河津町	87.9	93.3	79.4	85.0	90.8	86.9	93.1	74.6	83.1	92.4
南伊豆町	88.9	92.3	79.5	87.9	92.9	87.7	91.6	78.0	88.6	90.6
松崎町	87.0	90.8	77.9	83.0	93.1	86.0	90.1	71.2	89.1	93.2
西伊豆町	88.0	91.3	82.2	84.2	92.9	84.4	91.5	71.0	81.3	91.3
函南町	90.4	95.0	85.9	87.2	92.2	89.7	96.3	82.5	86.4	92.2
清水町	88.2	94.7	85.4	83.1	88.9	88.3	95.8	83.4	84.3	89.7
長泉町	86.6	92.8	81.1	83.7	87.3	88.3	95.4	82.8	84.4	88.9
小山町	82.9	87.7	77.8	81.1	86.5	86.9	94.7	80.9	84.4	87.1
吉田町	90.6	96.3	87.0	87.1	91.4	91.0	96.4	86.9	87.4	92.6
川根本町	86.2	85.4	82.2	82.6	94.1	85.6	89.6	75.5	86.2	90.8
森町	92.5	96.5	87.8	90.2	94.5	91.4	96.6	86.3	87.7	93.2

資料：総務省「住民基本台帳人口移動報告」「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数」

2. 社会経済特性の分析に用いた指標

社会経済特性	①		②		③		④		⑤	
	職住近接性		交通利便性		男女の雇用均等		企業のサポート		住宅環境(結婚・第1子まで)	
指標	1	2	1	2	1	2	1	2	1	2
	通勤時間(逆相関)	市町内通勤率	公共交通利用率	鉄道利用率	未婚女性就業率	有配偶女性就業率	次世代育成支援事業	くるみん企業とプラチナくるみん企業	一般世帯の借家居住割合	新設住宅着工戸数(貸家)
年・年度	2018, 2023	2020	2020	2020	2020	2020	2019, 2020, 2022	2019, 2020, 2022	2020	2018-22
単位	分	%	%	人	%	%	%	%	%	戸
静岡県	23.2	62.9	9.41	125.5	88.2	68.5	0.85	0.61	26.6	1.68
静岡市	23.2	70.3	13.37	203.0	88.6	69.8	1.89	1.86	30.3	2.39
浜松市	24.6	55.4	7.73	90.9	88.4	68.2	0.74	0.74	29.5	1.82
沼津市	23.0	71.0	10.41	165.0	86.0	66.5	0.83	1.04	29.5	1.77
熱海市	21.9	76.7	24.93	273.5	85.7	73.0	0.00	0.00	19.9	0.38
三島市	26.2	49.0	15.20	407.8	83.3	66.9	0.29	0.00	29.2	1.43
富士宮市	21.8	72.9	5.07	40.0	88.2	68.8	0.00	0.55	20.5	1.87
伊東市	19.6	83.7	13.72	224.7	87.7	69.9	0.00	0.00	21.0	0.27
島田市	24.6	59.8	9.13	128.4	87.8	72.6	1.75	0.70	18.2	0.70
富士市	23.0	78.0	7.92	97.3	86.8	65.4	0.35	1.06	25.4	1.87
磐田市	22.8	65.0	5.97	67.7	90.3	68.6	1.14	0.17	24.4	1.83
焼津市	23.1	59.6	9.93	113.2	89.6	67.7	1.52	0.38	22.8	1.07
掛川市	23.0	63.3	6.70	95.0	89.4	69.7	1.01	0.00	24.1	1.39
藤枝市	25.6	54.4	10.00	83.6	89.1	68.9	0.98	0.32	19.6	1.08
御殿場市	20.2	72.0	7.41	70.7	90.0	64.8	0.78	0.00	30.3	3.01
袋井市	22.7	53.5	6.28	86.0	89.8	69.9	1.59	0.00	30.7	1.69
下田市	15.4	82.2	4.96	116.2	83.8	73.3	0.48	0.00	19.5	0.58
裾野市	23.1	53.1	9.81	96.7	88.7	63.0	1.88	0.00	26.3	0.90
湖西市	19.4	69.9	10.38	182.1	88.1	66.1	0.00	1.11	23.2	1.85
伊豆市	22.4	65.5	9.00	118.8	86.6	72.4	0.00	0.00	10.3	0.48
御前崎市	17.4	63.0	3.18	0.0	88.1	67.6	2.22	0.00	20.6	0.62
菊川市	22.2	51.8	6.84	103.2	88.8	74.8	0.00	0.00	23.8	2.05
伊豆の国市	24.2	53.2	12.54	204.5	86.2	67.4	0.00	0.00	27.4	1.04
牧之原市	19.8	64.8	2.98	0.0	89.9	75.2	0.90	0.00	18.6	0.33
東伊豆町	16.4	73.4	9.62	165.3	90.3	82.1	0.00	0.00	17.8	0.00
河津町	21.3	66.2	9.46	150.9	83.5	63.9	0.00	0.00	13.2	0.50
南伊豆町	18.7	69.1	5.63	0.0	81.3	69.8	0.00	0.00	9.3	0.00
松崎町	17.3	64.6	2.44	0.0	82.1	70.0	0.00	0.00	10.0	0.00
西伊豆町	15.2	75.4	4.41	0.0	86.9	70.4	0.00	0.00	10.7	0.36
函南町	25.6	36.1	13.48	105.9	84.5	64.8	0.00	0.00	25.6	0.61
清水町	23.1	38.1	7.14	0.0	88.9	65.9	0.00	0.00	35.6	0.90
長泉町	25.8	37.9	14.01	56.5	88.8	64.6	0.00	1.15	35.1	2.58
小山町	17.2	60.2	6.62	43.4	85.8	69.0	0.00	0.00	11.2	1.85
吉田町	17.6	52.5	3.35	0.0	90.4	76.7	0.00	1.53	24.4	0.51
川根本町	19.2	78.5	2.88	90.1	91.0	78.9	1.01	0.00	3.5	0.03
森町	23.5	48.1	4.61	49.0	91.3	73.9	1.90	0.00	7.9	0.32
市町平均	21.4	62.5	8.49	103.7	87.6	69.7	0.61	0.30	21.4	1.09
データ加工	国勢調査の通勤者利用交通手段別の構成比等により一部推計	15歳以上就業者に占める自市区町で従業者の割合	自宅外で従業・通学する者に占める各公共交通機関の利用者の割合	自宅外で従業・通学する者に占める鉄道駅1日平均乗車人員(千人当たり)	25-34歳女性未婚者に占める就業者の割合	25-34歳有配偶女性に占める就業者の割合	単独・本所に占める認証企業数の割合	単独・本所に占める宣言企業数の割合	一般世帯のうち、民間借家に居住している世帯の割合	人口千人当たり新設住宅着工戸数(貸家)
資料	国土交通省「住宅・土地統計調査」及び総務省「国勢調査」	総務省「国勢調査」	総務省「国勢調査」	静岡県統計年報(県資料)及び国道数値情報ダウンロードサイト	総務省「国勢調査」	総務省「国勢調査」	静岡県資料、総務省「経済センサス-基礎調査」	静岡県資料、総務省「経済センサス-基礎調査」	総務省「国勢調査」	静岡県資料

社会経済 特性	⑥			⑦			⑧		⑨	
	住宅の安定性			安全・安心			買物利便性		外遊び環境	
	1	2	3	1	2	3	1	2	1	2
指標	一戸建て 比率	持ち家比率	住宅延べ床 面積	子どもの 交通事故 死傷者数 (逆相関)	刑法犯認 知件数 (逆相関)	交通ボラン ティア数	小売・生活 関連サービ ス業集積度	大型小売 店数	自然公園 面積	林野面積 割合
年・年度	2020	2020	2018	2018-22	2018-22	2018-22	2021	2021	2024	2020
単位	%	%	m ²	件	件	人	人	店	ha	%
静岡県	66.0	67.2	103.2	3.91	45.0	2.39	110.8	1.61	21.9	63.4
静岡市	59.5	62.5	93.9	3.34	49.1	1.23	116.5	1.84	14.1	75.7
浜松市	63.2	64.8	101.0	5.00	45.1	1.27	112.3	1.58	17.3	65.1
沼津市	57.8	62.8	96.6	4.45	65.7	1.45	125.2	1.71	13.1	50.0
熱海市	45.9	68.0	81.4	6.24	59.8	9.12	146.0	0.60	20.7	61.6
三島市	60.3	63.8	94.3	2.56	43.5	1.65	111.1	0.93	1.0	37.5
富士宮市	76.7	73.1	111.7	3.60	36.3	2.90	104.6	1.18	143.8	63.5
伊東市	72.4	73.3	103.0	5.30	45.4	1.45	140.2	1.85	89.0	55.4
島田市	79.8	77.8	118.9	3.57	30.6	2.90	93.9	1.26	0.0	66.1
富士市	68.9	68.9	104.9	3.62	48.7	2.89	104.9	1.64	10.4	49.4
磐田市	71.8	71.2	109.8	5.05	46.1	0.00	97.3	1.63	1.7	16.3
焼津市	73.1	72.3	109.3	4.22	39.5	2.00	100.1	1.55	0.0	5.5
掛川市	71.7	70.5	115.2	3.40	35.3	3.44	109.8	1.84	4.2	42.2
藤枝市	75.0	75.7	110.4	3.76	34.9	2.92	101.5	1.92	0.0	47.5
御殿場市	61.3	61.4	103.1	2.80	53.9	3.30	156.0	2.34	21.7	56.3
袋井市	64.6	63.0	105.1	3.69	46.2	1.17	98.3	1.25	1.5	20.0
下田市	79.3	72.9	102.7	1.96	51.8	5.68	159.5	2.02	53.4	75.8
裾野市	66.1	64.7	101.0	2.47	35.0	4.31	89.4	1.00	18.0	68.1
湖西市	72.0	70.5	111.8	2.41	45.3	4.19	83.7	1.22	26.1	21.5
伊豆市	85.6	84.1	119.4	3.90	37.6	9.02	120.9	1.08	185.8	81.2
御前崎市	78.0	74.0	125.2	3.00	26.4	11.10	118.4	1.97	12.2	24.7
菊川市	69.9	68.8	118.7	4.05	26.7	5.84	86.9	1.26	3.3	23.7
伊豆の国市	72.7	68.8	106.7	3.50	51.4	5.21	97.6	1.08	12.3	54.9
牧之原市	78.1	75.4	126.0	2.45	33.6	7.04	105.3	1.64	4.5	29.1
東伊豆町	70.6	72.8	103.6	3.27	49.1	13.85	89.4	0.88	110.5	73.2
河津町	87.7	82.5	108.6	7.76	46.8	5.58	107.8	1.49	139.6	80.7
南伊豆町	92.7	87.9	110.8	1.88	27.3	4.73	89.2	1.30	330.0	77.6
松崎町	91.5	85.5	110.5	1.47	61.2	3.93	121.1	1.71	101.7	83.5
西伊豆町	91.7	86.2	105.9	1.89	30.7	7.76	110.7	0.00	237.0	88.1
函南町	72.1	71.1	104.6	2.90	45.2	3.72	98.1	1.91	27.6	54.8
清水町	58.3	59.2	100.3	5.24	52.1	4.91	138.7	1.90	0.0	10.3
長泉町	50.1	57.7	92.5	2.78	42.4	6.11	96.9	2.78	0.0	39.0
小山町	77.3	74.6	118.1	1.82	29.7	9.16	112.6	0.00	69.1	67.3
吉田町	70.4	68.2	117.6	2.51	31.9	7.02	88.9	2.79	1.9	1.2
川根本町	93.9	90.9	118.4	0.46	15.7	11.09	110.8	0.00	822.9	90.3
森町	88.9	87.5	127.2	1.78	23.5	0.00	82.4	0.58	0.0	71.3
市町平均	72.8	72.4	108.2	3.38	41.3	4.80	109.3	1.42	71.3	52.2
データ加工	住宅に住む 一般世帯に 占める一戸 建ての割合	住宅に住む 一般世帯に 占める持ち 家の割合	1 住宅当た り延べ面積 (総数)	0-14 歳人口 千人当たり (年平均)	人口1万人当 たり (年平均)	0-18 歳人口 千人当たり (年平均)	人口千人当 たりサービス 業従業者 数	人口1万人当 たり	人口千人当 たり	総土地面積 に占める林 野面積の割 合
資料	総務省「国 勢調査」	総務省「国 勢調査」	国土交通省 「住宅・土地 統計調査」	静岡県警察 資料	静岡県警察 資料	静岡県資料	総務省「経 済センサス 活動調査」	総務省「経 済センサス 活動調査」	静岡県資料	農林水産省 「農林業セ ンサス-農山 村地域調 査」

⑩				⑪					⑫	
保健・医療環境				保育サービス (量的)					保育サービス (多様性)	
1	2	3	4	1	2	3	4	5	1	2
産科・産 婦人科医 師数 (市 町)	小児科医 師数 (市 町)	産科・産 婦人科医 師数 (2 次 医療圏)	小児科 医師数 (2 次医療 圏)	保育所待 機児童数 (逆相関)	保育所潜 在的待機 児童数 (逆 相関)	保育所数 (地域型保 育事業所 を含む)	保育所定 員数 (地域 型保育事 業所を含 む)	保育所等利 用児童割合	延長保育 (保育所 数)	休日保育 (保育所 数)
2018, 2020	2018, 2020	2018, 2020	2018, 2020	2018-22	2018-22	2018-22	2018-22	2018-22	2018-22	2018-22
人	人	人	人	人	人	所	人	%	所	所
7.74	15.7	7.74	15.7	9.2	9.3	6.05	477	43.1	3.99	0.28
9.09	20.7	9.09	20.7	0.0	4.7	7.32	547	48.4	4.71	0.00
10.49	20.0	9.89	19.5	7.2	9.4	4.90	446	38.1	4.73	0.05
8.01	19.4	8.37	15.2	8.0	9.3	5.85	462	41.3	6.50	0.15
4.80	15.7	9.01	15.0	0.0	9.5	11.05	743	58.7	9.46	6.32
6.70	10.1	8.37	15.2	5.7	20.5	5.79	454	45.3	4.56	0.22
4.10	10.5	6.04	11.5	0.0	3.1	5.90	546	46.2	5.64	0.19
11.22	14.7	9.01	15.0	57.7	6.6	7.40	585	49.9	4.96	7.02
1.28	7.1	4.04	12.8	8.2	6.9	6.60	484	49.2	6.28	0.00
7.04	12.0	6.04	11.5	0.4	6.3	6.15	436	42.7	4.14	0.09
6.65	10.1	5.55	9.0	3.0	13.0	4.96	445	41.6	2.43	0.50
6.23	16.7	4.04	12.8	9.2	12.2	5.17	342	34.2	2.30	0.00
5.98	10.7	5.55	9.0	23.9	10.6	5.22	449	44.3	4.27	0.00
4.75	15.3	4.04	12.8	0.0	3.3	8.75	410	37.5	3.39	0.00
2.62	9.3	8.37	15.2	0.0	16.2	5.49	534	47.1	5.18	1.02
4.05	7.2	5.55	9.0	50.1	18.7	6.36	379	37.0	4.05	0.22
11.42	27.7	8.52	13.8	0.0	0.0	7.59	856	66.4	0.00	0.00
7.49	12.0	8.37	15.2	4.2	17.3	4.96	441	42.0	4.24	1.62
1.38	12.2	9.89	19.5	26.8	19.3	4.77	462	40.3	4.31	0.43
0.00	17.4	8.37	15.2	2.7	1.9	9.03	818	68.6	9.03	2.58
2.82	4.2	5.55	9.0	67.0	12.2	4.86	459	45.5	1.31	0.00
7.00	5.7	5.55	9.0	19.1	20.1	5.18	490	52.0	2.72	0.00
22.39	55.7	8.37	15.2	1.1	9.1	4.73	521	50.3	2.37	0.00
3.89	6.2	4.04	12.8	0.0	0.5	9.58	760	58.7	1.85	0.00
11.09	0.0	8.52	13.8	0.0	0.0	29.67	530	50.7	0.00	0.00
16.97	25.5	8.52	13.8	0.0	0.0	27.81	445	41.2	0.00	0.00
0.00	0.0	8.52	13.8	0.0	0.0	9.03	1,057	67.1	0.00	0.93
0.00	0.0	8.52	13.8	13.7	0.0	7.32	586	49.5	1.23	0.00
0.00	0.0	8.52	13.8	0.0	3.6	23.17	959	61.5	0.00	1.61
6.89	14.4	8.37	15.2	104.0	18.3	3.67	405	39.8	1.84	0.00
4.35	2.0	8.37	15.2	32.5	22.8	5.69	421	41.9	5.27	0.71
20.31	8.6	8.37	15.2	9.4	9.7	5.10	371	35.4	3.79	0.00
4.92	0.0	8.37	15.2	0.0	1.8	7.16	724	54.9	7.69	2.07
0.00	12.9	4.04	12.8	0.0	3.9	3.98	481	41.0	3.33	0.00
0.00	0.0	4.04	12.8	0.0	0.0	26.94	1,257	78.1	19.40	26.94
0.00	15.8	5.55	9.0	94.8	6.0	5.55	408	42.6	2.43	0.00
6.11	12.0	7.18	13.7	15.7	8.5	8.65	563	48.2	4.10	1.51
20-44歳の女 性人口1万 人当たり	0-9歳児人口 1万人当た り	20-44歳の女 性人口1万 人当たり	0-9歳児人口 1万人当た り	0-5歳人口1 万人当たり (年平均)	0-5歳人口1 万人当たり (年平均)	0-5歳人口千 人当たり	0-5歳人口千 人当たり	0-5歳人口に 占める保育 所利用の割 合 (年平均)	0-5歳人口 千人当たり (年平均)	0-5歳人口 千人当たり (年平均)
厚生労働省 「医師・歯 科医師・薬 剤師統計」	厚生労働省 「医師・歯 科医師・薬 剤師統計」	厚生労働省 「医師・歯 科医師・薬 剤師統計」	厚生労働省 「医師・歯 科医師・薬 剤師統計」	静岡県資料	静岡県資料	厚生労働省 「社会福祉 施設等調 査」	厚生労働省 「社会福祉 施設等調 査」	静岡県資料	市町調査	市町調査

社会経済特性	⑫			⑬		⑭			⑮	
	保育サービス (多様性)	保育サービス (多様性) 利用者数		児童預かりサービス		所得水準			雇用の安定性	
	3	1	2	1	2	1	2	3	1	2
指標	病児保育 (保育所数)	延長保育 (利用者数)	休日保育 (利用者数)	放課後児童 クラブ登録 児童割合	放課後児童 クラブ待機 児童割合 (逆相関)	課税対象 所得額	雇業者 所得額	世帯所得	男性正規 雇用割合	女性正規 雇用割合
年・年度	2018-22	2018-22	2018-22	2022	2022	2018-22	2020	2018-22	2020	2020
単位	所	人	回	%	%	百万円	百万円	百万円	%	%
静岡県	0.66	0.13	0.07	16.74	2.29	3,126	4.86	3.60	81.56	45.50
静岡市	0.11	0.17	0.00	15.93	0.50	3,235	4.88	3.53	81.16	45.47
浜松市	0.16	0.12	0.02	14.65	3.56	3,258	4.82	3.81	82.27	46.49
沼津市	0.64	0.20	0.13	15.33	0.00	3,140	4.95	3.29	80.72	44.04
熱海市	5.95	0.15	1.66	25.45	0.00	2,963	4.42	2.61	72.36	44.67
三島市	0.67	0.14	0.11	19.44	0.57	3,393	4.96	3.75	82.12	44.88
富士宮市	0.19	0.15	0.00	19.27	0.21	2,981	4.89	3.43	81.86	46.49
伊東市	4.85	0.12	3.18	19.68	0.00	2,580	4.11	2.28	74.28	41.97
島田市	1.09	0.25	0.00	18.11	5.04	2,927	4.91	3.68	82.27	45.66
富士市	0.60	0.14	0.02	18.41	0.00	3,172	4.94	3.79	83.28	46.26
磐田市	1.11	0.07	0.04	15.78	8.09	3,025	4.90	3.77	80.57	45.57
焼津市	0.53	0.11	0.00	14.29	0.00	2,962	4.81	3.53	81.24	45.25
掛川市	0.67	0.13	0.00	19.41	0.00	3,062	4.82	4.00	81.96	45.31
藤枝市	0.58	0.10	0.00	15.00	7.66	3,109	4.83	3.69	82.23	45.60
御殿場市	0.93	0.25	0.14	23.48	1.94	3,143	5.07	3.93	83.73	43.05
袋井市	0.39	0.09	0.01	16.85	3.43	3,016	4.83	3.82	80.51	44.09
下田市	1.90	0.00	0.00	18.83	0.00	2,604	4.81	2.30	79.49	42.89
裾野市	0.81	0.10	0.03	14.76	7.00	3,232	5.00	3.92	84.74	44.12
湖西市	2.27	0.13	0.28	17.08	11.95	3,115	4.81	3.92	79.68	45.74
伊豆市	5.97	0.38	0.27	17.94	4.46	2,574	4.65	2.70	77.05	45.41
御前崎市	6.12	0.04	0.00	19.93	0.00	2,871	5.15	3.95	82.52	45.75
菊川市	0.40	0.10	0.00	17.79	0.00	2,876	5.06	3.85	80.16	44.46
伊豆の国市	0.56	0.08	0.00	18.75	0.20	2,906	4.67	3.19	80.53	46.36
牧之原市	0.60	0.05	0.00	18.80	0.00	2,780	4.96	3.62	77.31	44.94
東伊豆町	0.00	0.00	0.00	12.89	0.00	2,389	4.17	2.04	76.12	44.95
河津町	0.00	0.00	0.00	19.87	0.00	2,576	4.52	2.31	77.41	43.70
南伊豆町	0.00	0.00	0.01	13.13	0.00	2,337	4.61	1.93	75.22	43.82
松崎町	0.00	0.07	0.00	12.14	0.00	2,447	4.95	2.05	77.69	41.98
西伊豆町	0.00	0.00	0.01	15.74	0.00	2,403	4.13	1.94	75.62	43.35
函南町	1.30	0.11	0.00	21.97	0.00	2,907	4.69	3.22	80.78	44.41
清水町	2.13	0.14	0.00	15.41	0.00	3,229	4.71	3.76	83.02	46.66
長泉町	2.69	0.11	0.00	17.88	0.00	3,776	4.95	4.52	87.11	48.48
小山町	1.27	0.28	0.37	21.77	1.75	3,013	5.62	3.83	85.59	42.09
吉田町	0.80	0.12	0.00	23.45	0.00	2,879	4.92	3.82	79.60	45.04
川根本町	0.00	0.13	0.10	47.00	0.00	2,508	5.52	2.53	78.24	47.51
森町	0.00	0.06	0.00	16.30	0.00	2,790	4.85	3.65	78.07	42.02
市町平均	1.29	0.12	0.18	18.64	1.61	2,919	4.83	3.31	80.19	44.81
データ加工	0-5歳人口千人当たり(年平均) ※伊豆の国市は函南町、南伊豆町は下田市、森町は袋井市とそれぞれ広域連携施設利用	0-5歳人口1人当たり実利用者数(年平均)	0-5歳人口1人当たり延べ利用回数(年平均)	小学校児童に対する登録児童数割合(年平均)	登録児童数に対する待機児童数割合(年平均)	所得割の納税義務者1人当たり総所得金額等(年平均)	雇業者1人当たり	一般世帯当たり	15歳以上男性雇用者に占める正規雇用割合	15歳以上女性雇用者に占める正規雇用割合
資料	市町調査	市町調査	市町調査	静岡県資料	静岡県資料	総務省「市町村課税状況等調査」	静岡県資料「国勢調査」	(株)ゼンリンマーケティングソリューションズ「個人所得指標」	総務省「国勢調査」	総務省「国勢調査」

雇用の安定性	⑯			⑰		⑱				⑲ 子どもの 頃の経験
	産業活力			産業・職業の多様性		人々のつながり				
	1	2	3	1	2	1	2	3	4	
完全失業率 (逆相関)	新設事業 所割合	新設事業 所従業者 割合	GDP 成長率	産業 多様性 指数	職業 多様性 指数	消防団員 数	刑法犯 認知件数 (逆相関) (再掲)	民生委員 数	少年 スポーツ クラブ数	多子世帯 割合
2020	2021	2021	2018-22	2021	2020	2018-22	2018-22	2018-22	2018-22	2015
%	%	%	%	-	-	人	件	%	%	%
4.70	20.91	19.16	0.13	35.07	7.57	5.14	45.0	0.18	4.27	11.5
4.50	23.94	21.01	0.56	34.72	7.78	3.64	49.1	0.17	2.46	10.3
4.68	22.00	18.74	0.45	29.16	7.32	3.30	45.1	0.13	3.45	11.7
5.19	21.85	18.67	-1.88	36.24	7.53	4.24	65.7	0.19	2.44	9.6
7.05	16.60	10.90	-2.67	12.82	6.54	10.46	59.8	0.37	9.81	10.5
6.90	21.24	19.57	2.19	28.95	7.02	3.58	43.5	0.18	4.18	10.6
4.75	17.57	18.01	-5.68	32.00	6.68	5.14	36.3	0.20	5.09	11.7
5.34	19.65	15.63	-1.01	16.51	7.03	7.34	45.4	0.24	2.77	10.9
4.93	16.26	14.60	-2.03	31.17	7.22	8.23	30.6	0.20	6.14	12.5
5.28	20.95	17.36	-0.83	29.47	6.94	3.20	48.7	0.17	3.78	10.9
4.12	23.12	26.48	4.06	15.07	6.76	6.41	46.1	0.20	3.66	12.2
4.61	19.68	16.26	-0.10	25.00	7.35	3.51	39.5	0.18	5.67	12.5
4.80	19.59	19.22	-0.07	31.76	6.78	6.78	35.3	0.17	5.37	13.3
4.49	18.13	15.19	-0.04	32.12	7.61	4.00	34.9	0.17	6.32	11.0
3.80	22.91	25.58	2.44	28.97	8.24	4.22	53.9	0.18	3.09	13.5
3.92	21.22	18.83	2.99	30.24	6.68	6.41	46.2	0.17	4.22	12.9
5.32	14.02	16.79	-1.38	17.81	7.81	16.38	51.8	0.25	5.64	9.7
3.74	16.37	14.05	0.50	18.55	6.82	4.19	35.0	0.19	4.24	11.7
5.17	18.03	30.78	-2.98	6.26	5.54	6.27	45.3	0.18	7.84	12.2
5.51	11.83	11.69	-1.90	16.05	8.15	14.49	37.6	0.38	6.18	10.2
4.22	15.99	13.84	1.31	31.75	7.41	9.41	26.4	0.20	8.76	13.1
4.10	16.30	17.55	1.22	20.70	6.53	6.53	26.7	0.17	7.39	13.1
5.39	16.07	13.58	1.67	21.85	8.05	7.16	51.4	0.26	11.70	11.2
4.17	16.29	16.31	1.81	19.33	6.93	10.88	33.6	0.23	10.81	12.5
2.54	12.45	9.66	0.52	7.65	6.74	23.73	49.1	0.35	0.61	11.0
4.60	16.81	18.84	1.06	11.90	7.73	39.13	46.8	0.41	3.39	12.4
3.55	19.04	18.22	0.08	12.84	7.78	35.56	27.3	0.35	5.74	11.9
6.88	9.84	7.25	-0.33	14.88	7.87	35.21	61.2	0.51	18.39	12.0
5.52	11.16	7.73	-0.81	14.09	7.45	33.12	30.7	0.51	2.78	10.8
5.97	19.02	19.71	-1.26	20.53	7.82	4.18	45.2	0.20	7.86	11.7
5.71	21.97	20.94	0.50	24.10	7.13	3.42	52.1	0.20	2.81	11.0
4.14	26.00	20.77	-0.10	31.14	6.01	2.87	42.4	0.20	5.21	11.2
2.96	18.73	14.09	-0.55	25.91	7.75	9.04	29.7	0.24	8.13	15.0
3.86	22.66	21.17	-0.01	19.13	6.12	4.82	31.9	0.18	7.13	13.4
3.56	20.00	19.74	-5.19	16.94	8.01	46.68	15.7	0.57	5.01	10.7
3.59	13.97	13.57	-1.71	11.58	6.94	21.17	23.5	0.26	7.61	15.4
4.71	18.32	17.21	-0.26	22.20	7.20	11.85	41.3	0.25	5.88	11.8
20-34歳労働力人口に占める完全失業者の割合	事業所総数に占める新設事業所の割合	事業所従業者に占める新設事業所従業者の割合	市町内総生産(産業)の対前年度増加率の期間平均(年率)	産業大分類のHHIの逆数	職業大分類のHHIの逆数	人口千人当たり(年平均)	人口1万人当たり(年平均)	総人口に占める民生委員数の割合(年平均)	3-18歳人口に占める団員数の割合(年平均)	夫婦のいる一般世帯(子どもあり)のうち子どもが3人以上の世帯割合
総務省「国勢調査」	総務省「経済センサス活動調査」	総務省「経済センサス活動調査」	静岡県資料	総務省「経済センサス活動調査」	総務省「国勢調査」	静岡県資料	静岡県警察資料	静岡県資料	静岡県資料	総務省「国勢調査」

社会経済特性	⑱	⑳				㉑				㉒
	子どもの頃の経験	ジェンダー平等				地域のサポート				困難家庭等支援
	2	1	2	3	4	1	2	3	4	1
指標	三世帯世帯割合	女性の行政職員割合	行政における女性の役職(部長)割合	市町議会に占める女性の割合	審議会委員に占める女性の割合	児童福祉費(決算額)	子育て世帯に対する経済的支援額	結婚支援額	ファミリーサポートセンター数	ひとり親家庭への支援額
年・年度	2020	2018-22	2018-22	2018-22	2018-22	2018-22	2022	2022	2018-22	2022
単位	%	%	%	%	%	百万円	千円	千円	拠点	千円
静岡県	11.4	30.7	8.7	14.6	28.0	33.1	10.81	0.10	0.83	9.37
静岡市	9.4	32.0	8.0	7.3	30.6	44.1	25.32	0.02	0.15	24.38
浜松市	10.7	31.8	8.6	24.9	30.8	41.6	17.81	0.00	0.12	0.00
沼津市	9.2	30.4	9.8	12.2	30.6	43.5	0.05	0.00	0.62	10.50
熱海市	6.9	29.9	6.9	9.3	20.2	64.1	33.22	0.00	5.96	0.00
三島市	8.1	32.7	14.5	25.5	33.5	39.9	1.48	0.00	0.91	19.18
富士宮市	11.6	30.4	7.9	12.9	24.3	40.9	0.68	0.14	0.76	17.71
伊東市	6.8	31.6	11.2	23.7	21.1	47.5	17.05	0.00	2.20	31.92
島田市	15.7	33.3	7.2	22.9	26.8	48.5	0.16	0.00	0.98	0.00
富士市	12.5	24.6	8.7	18.1	32.7	42.7	0.07	0.00	0.39	1.24
磐田市	12.9	31.1	15.1	7.8	22.6	44.4	1.79	0.02	0.55	19.87
焼津市	13.5	27.2	8.4	14.8	28.6	37.4	6.42	0.00	0.72	0.00
掛川市	13.9	29.4	11.6	23.7	42.4	43.5	7.40	0.00	0.75	24.24
藤枝市	12.6	34.7	7.5	9.2	29.1	42.6	0.24	0.00	0.65	2.02
御殿場市	13.0	28.7	8.6	14.6	29.0	39.9	2.51	0.10	1.04	0.02
袋井市	13.8	31.9	9.3	12.5	38.7	36.6	0.26	0.54	0.92	0.00
下田市	7.8	30.1	15.9	0.0	18.0	45.6	34.98	1.77	6.99	0.95
裾野市	11.3	23.8	6.2	25.3	22.8	39.1	0.00	0.00	1.73	12.90
湖西市	12.2	33.0	4.5	22.5	27.4	36.7	2.98	0.00	1.71	0.21
伊豆市	12.6	31.4	6.6	13.8	21.2	60.8	1.08	1.02	5.06	0.00
御前崎市	20.3	33.8	5.7	4.0	21.6	38.0	3.33	0.00	3.25	0.00
菊川市	16.7	29.7	11.5	16.5	23.1	36.6	2.36	0.00	1.76	0.00
伊豆の国市	12.1	34.3	12.7	30.0	32.0	37.9	3.95	0.00	2.24	0.00
牧之原市	20.3	32.1	10.1	12.5	21.5	40.9	14.96	0.00	2.35	19.94
東伊豆町	9.0	27.9	0.0	16.7	20.0	33.8	2.79	0.00	16.07	0.00
河津町	9.9	23.2	9.9	0.0	18.4	43.2	3.10	2.60	19.29	14.77
南伊豆町	10.6	36.4	9.1	0.0	17.4	48.6	9.24	2.83	0.00	21.68
松崎町	11.1	21.6	0.0	0.0	20.2	28.2	6.23	0.00	0.00	23.23
西伊豆町	8.9	21.0	10.0	4.0	24.5	33.1	15.45	0.00	0.00	0.00
函南町	9.2	37.5	4.1	9.1	29.1	38.4	22.83	0.00	2.75	16.20
清水町	9.8	30.7	7.1	14.3	38.9	35.8	2.40	0.00	2.92	3.00
長泉町	7.8	31.2	1.0	5.0	31.5	40.0	3.91	0.00	1.69	0.00
小山町	17.7	24.6	1.8	14.1	20.0	50.4	0.00	0.00	5.40	0.00
吉田町	15.1	34.5	29.7	25.1	21.0	38.3	25.05	5.73	3.26	14.02
川根本町	15.9	20.7	1.3	11.7	17.2	55.8	5.84	0.83	0.00	8.85
森町	19.8	28.1	2.5	8.3	18.1	32.6	4.63	0.00	6.01	14.69
市町平均	12.2	29.9	8.4	13.5	25.9	42.0	7.99	0.45	2.83	8.61
データ加工	夫婦と子どもがいる一般世帯に占める3世代世帯の割合	一般行政職員数に占める女性職員数の割合(年平均)	一般行政職員数に占める女性管理職員数の割合(年平均)	市町議員に占める女性議員の割合(年平均)	市町の審議会等委員に占める女性の割合(年平均)	0-17歳人口1人当たり(年平均)	0-18歳人口1人当たり	20-44歳の女性人口1人当たりの助成額	0-12歳人口1万人当たり(年平均)	ひとり親家庭の子ども1人当たりの助成額
資料	総務省「国勢調査」	静岡県資料	静岡県資料	静岡県資料	静岡県資料	総務省「市町村別決算状況調査」	静岡県資料	静岡県資料	静岡県資料	静岡県資料

㉓	コントロール変数			
困難家庭等支援	1	2	3	4
2	1	2	3	4
不妊治療支援額	15-24歳の女子学生比率	15-34歳若年層人口転入率	15-34歳の若年層人口定住率	女性平均初婚年齢
2022	2020	2018-22	2018-22	2018-22
千円	%	%	%	歳
0.54	50.1	4.03	95.0	29.2
0.08	47.6	6.99	92.6	29.5
0.00	51.0	6.48	93.1	29.2
1.44	45.7	9.21	89.9	29.3
0.62	35.4	12.39	83.4	31.8
1.44	55.1	9.94	88.8	29.6
1.59	50.1	7.12	91.5	29.2
2.04	48.5	7.70	89.3	30.0
0.00	51.1	6.34	92.5	29.0
1.69	50.1	6.45	92.6	29.1
0.90	50.7	7.79	91.4	28.9
1.37	49.8	7.21	91.9	29.0
0.00	52.6	7.87	91.4	29.2
0.00	52.2	8.30	90.4	29.3
1.69	48.7	11.91	87.1	28.7
0.65	51.4	8.42	91.5	28.6
0.98	56.0	10.68	85.7	29.2
0.81	55.2	10.21	87.9	28.7
0.41	53.6	9.99	88.3	29.0
0.80	55.3	9.86	86.5	29.7
0.00	50.2	6.13	90.4	28.4
0.00	53.7	8.40	91.1	28.7
0.62	47.6	8.86	89.3	29.7
0.32	47.7	7.89	88.6	28.9
0.87	47.2	10.50	85.0	29.8
0.69	59.2	9.52	87.4	30.2
0.81	55.5	7.22	88.3	30.9
1.35	62.5	6.63	86.5	27.1
0.00	56.3	7.46	86.4	32.2
0.70	53.5	8.55	90.0	29.7
0.00	52.1	10.96	88.3	28.7
0.00	55.2	12.73	87.4	29.1
0.00	46.3	13.28	84.5	28.9
1.18	44.6	7.63	90.8	29.0
0.00	58.6	8.98	85.9	30.0
0.41	51.9	4.92	92.0	29.1
0.67	51.5	8.70	89.1	29.3
20-44歳の女性人口1人当たりの助成額	15-24歳女性人口に占める学生の割合	15-34歳人口に占める転入者の割合	15-34歳人口に占める定住者の割合	
静岡県資料	総務省「国勢調査」	総務省「住民基本台帳人口移動報告」	総務省「住民基本台帳人口移動報告」	厚生労働省「人口動態統計」

3. 社会経済特性の統計分析の方法と結果

(1) 総当たりの重回帰分析の実施

約 400 万通りの組み合わせを検証

■ 要因と想定した指標数は 22 個に達するため、評価指標との因果関係を 1 つの重回帰式で表すことはできません。このため、いくつかの指標を説明変数として組み合わせ、複数の重回帰式を作成し、それらに表れる分析結果を調べていくこととしました。

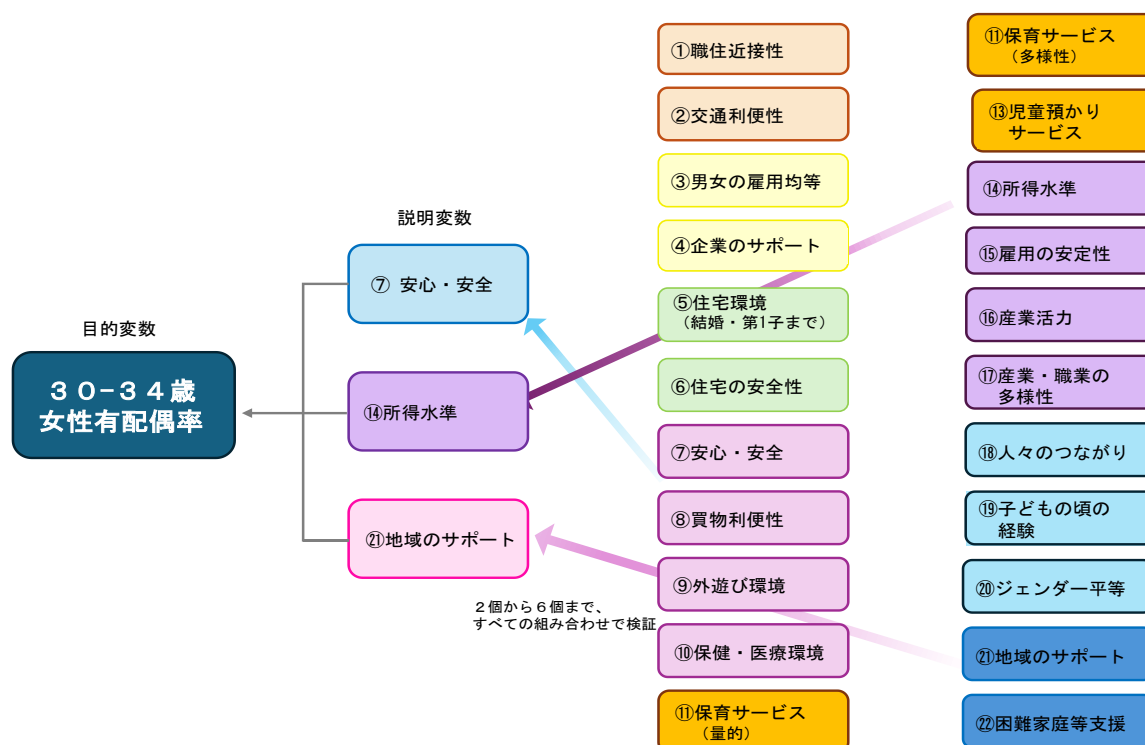
■ 説明変数を組み合わせる方法はいくつかありますが、本羅針盤では 22 個の指標を総当たりしました。つまり、22 個の指標から、2 つから 6 つまでの指標を説明変数として抽出し、すべての組み合わせを試しました。試した組み合わせは約 400 万通りに上ります。

総当たりのメリット

■ 地域データを使った回帰分析では、様々な交絡（説明変数と目的変数の両方に影響を及ぼす回帰式の中になく変数が存在したり、複数の説明変数が相互に影響を及ぼし合ったりする結果、見かけ上、因果関係が表れること）が生じやすいと考えられます。このため、あらゆる変数の組み合わせによって、評価指標に対する指標の影響を分析すると、総合的に分析結果の信頼性が高まるというメリットが生じます。

■ また、交絡が存在することが認められる場合も、あえて指標と想定することで、施策形成の着眼点が得られることがあります。

総当たりの重回帰分析の方法（イメージ）



- 22 個の指標を先行する学術論文等に基づき設定したため、今回の重回帰分析は、本来、社会経済特性の 1 つ 1 つが評価指標に影響を及ぼすかを調べる仮説検証型の演繹的アプローチです。これを基本としつつ、総当たりの重回帰分析を実施することによって、データから因果関係を探索するという帰納的アプローチに取り組むことにもなり、指標の要因としての妥当性を頑強化できると考えられます。

(2) 重回帰分析の実施結果

22 個の指標がすべて有効になった

- 総当たりの重回帰分析を行った結果、2 つ以上の指標が有効となる組み合わせは、女性有配偶率に対して 196 通り、有配偶出生率に対して 1,197 通り、定住率に対して 383 通り、転入率に対して 157 通りでした。
- 分析結果を示す次ページからの表では、女性有配偶率は年齢階層ごと、有配偶出生率は母の年齢階層・出生順位ごと、定住率及び転入率は男女・年齢階層ごとに有効であった指標が漏れなく表れるようにしつつ、主な結果を例示しました。
- 「出現回数」は有効であった重回帰式に現れた指標の合計です。回数が多いと、組み合わせを変えても有効な説明変数として出現するという点で、その社会経済特性が合計特殊出生率や若年層の社会動態に影響を及ぼす可能性が高いと期待されます。表を縦方向にみた●印は有効であった主な組み合わせであり、横方向の●印の合計数は出現回数に一致しません。
- 4 つの表を合わせてみると、22 個の指標がすべて、年齢階層別女性有配偶率、母の年齢階層別出生順位別有配偶出生率、15-34 歳の男女別年齢階層別定住率及び転入率のいずれかに対して有効な説明変数になることがわかりました。
- このため、本羅針盤で設定した 22 の指標が表す地域環境の改善に取り組めば、地域の合計特殊出生率や若年層の社会動態が改善する可能性が高いと判断できます。

主な重回帰分析の結果と社会経済特性の出現回数（年齢階層別女性有配偶率）

変数	女性有配偶率（目的変数）														出現回数	
	25-29歳				30-34歳				35-39歳							
①職住近接性																0
②交通利便性											●					1
③男女の雇用均等																0
④企業のサポート								●						●		5
⑤住宅環境（結婚・第1子まで）	●	●	●		●					●						92
⑥住宅の安定性			●		●					●						36
⑦安全・安心			●		●			●							●	62
⑧買物利便性											●					1
⑨外遊び環境																0
⑩保健・医療環境																0
⑪保育サービス（量的）																0
⑫保育サービス（多様性）																0
⑬児童預かりサービス																0
⑭所得水準		●				●			●							33
⑮雇用の安定性				●		●	●		●	●	●	●				73
⑯産業活力			●			●		●	●						●	81
⑰産業・職業の多様性																0
⑱人々のつながり						●			●							12
⑲子どもの頃の経験	●						●				●	●	●			65
⑳ジェンダー平等				●			●					●				14
㉑地域のサポート																0
㉒困難家庭等支援																0
15-24歳の女子学生比率																0
15-34歳の若年層人口転入率															●	15
15-34歳の若年層人口定住率					●	●									●	50
静岡市ダミー	●	●	●		●				●							32
熱海市ダミー	●	●							●		●	●	●			59
東伊豆町ダミー																20
南伊豆町ダミー	●	●														23
松崎町ダミー							●	●								24
小山町ダミー																0
川根本町ダミー	●	●	●		●	●	●	●	●	●				●	●	137
自由度修正済み決定係数	0.77	0.75	0.74	0.32	0.76	0.73	0.70	0.62	0.79	0.74	0.62	0.59	0.57	0.49		

- (注) 1. ●は、P値が0.05未滿かつ標準偏回帰係数の符号がロジックと合致する社会経済特性である
 2. すべての重回帰式のVIFは10未滿である
 3. ●の組み合わせは、実施した重回帰分析の中から一部を例示した
 4. 出現回数は有効であったすべての重回帰分析結果において現れた社会経済特性の合計である

主な重回帰分析の結果と社会経済特性の出現回数（15-34 歳男女別年齢階層別定住率）

変数	定住率(男) (目的変数)								定住率(女) (目的変数)								出現回数													
	15-19歳		20-24歳		25-29歳		30-34歳		15-19歳		20-24歳		25-29歳		30-34歳															
①職住近接性																		0												
②交通利便性									●	●	●							41												
③男女の雇用均等									●		●	●		●				74												
④企業のサポート	●		●	●	●		●	●			●	●		●	●	●	●	157												
⑤住宅環境（結婚・第1子まで）	●				●		●				●			●	●		●	91												
⑥住宅の安定性				●	●	●	●		●		●			●	●	●	●	104												
⑦安全・安心																		0												
⑧買物利便性										●								1												
⑨外遊び環境																		0												
⑩保健・医療環境																		0												
⑪保育サービス（量的）																		0												
⑫保育サービス（多様性）									●				●					2												
⑬児童預かりサービス																		0												
⑭所得水準			●						●		●	●		●				84												
⑮雇用の安定性		●							●	●		●	●		●			74												
⑯産業活力					●				●			●			●		●	101												
⑰産業・職業の多様性			●	●	●				●			●				●		11												
⑱人々のつながり								●										3												
⑲子どもの頃の経験	●	●	●				●		●	●	●	●		●	●		●	138												
⑳ジェンダー平等	●		●	●			●	●	●	●			●				●	146												
㉑地域のサポート																		0												
㉒困難家庭等支援									●			●		●	●			20												
静岡市ダミー								●		●			●					30												
熱海市ダミー										●	●				●			56												
東伊豆町ダミー											●	●		●	●			61												
南伊豆町ダミー									●					●	●		●	51												
松崎町ダミー									●	●	●		●		●	●	●	80												
小山町ダミー	●	●	●	●	●	●	●			●			●			●	●	42												
川根本町ダミー	●	●	●		●			●	●	●	●		●	●	●			176												
自由度修正済み決定係数	0.68	0.32	0.56	0.29	0.26	0.37	0.32	0.31	0.24	0.51	0.28	0.82	0.79	0.66	0.66	0.58	0.38	0.87	0.73	0.68	0.59	0.58	0.73	0.52	0.51	0.51	0.49	0.49	0.46	0.38

- (注) 1. ●は、P値が0.05 未満かつ標準偏回帰係数の符号がロジックと合致する社会経済特性である
 2. すべての重回帰式の VIF は 10 未満である
 3. ●の組み合わせは、実施した重回帰分析の中から一部を例示した
 4. 出現回数は有効であったすべての重回帰分析結果において現れた社会経済特性の合計である

4. アドバイザリー

■本羅針盤の作成に当たり、以下の有識者の方に大変有益な御意見をいただきました。また、市町の皆様には、各分野の様々なデータを御提供いただくとともに、ダッシュボードのコメント等を点検していただきました。本羅針盤の作成に御協力いただいた方々に心よりお礼申し上げます。

有識者一覧

(五十音順、敬称略)

所 属	役職	氏 名
静岡大学人文社会科学部経済学科	教授	上藤 一郎
明治大学政治経済学部経済学科	准教授	鎌田 健司
国立社会保障・人口問題研究所人口構造研究部	部長	小池 司朗
静岡県立大学経営情報学部経営情報学科	准教授	国保 祥子
静岡大学人文社会科学部社会学科	教授	白井 千晶
一般財団法人静岡経済研究所	専務理事	恒友 仁

(注) 所属は2026年3月末時点

しずおか・地域子ども未来羅針盤【客観指標編】

地域の社会経済特性による分析

2026年3月

発行：静岡県健康福祉部子ども若者局子ども政策課

〒420-8601 静岡市葵区追手町 9-6

電話番号：054-221-2608

ファクス番号：054-221-3521

編集・分析：公益財団法人中国地域創造研究センター